

平成 2 3 年度
独立行政法人国立女性教育会館
自己点検・評価及び外部評価報告書

平成 24 年 7 月

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会
独立行政法人国立女性教育会館

目 次

1. はじめに	1
2. 外部評価について	2
(1) 外部評価の目的	2
(2) 外部評価の対象	2
(3) 外部評価の方法	2
(4) 審議過程	2
3. 評価	3
4. 今後のNWE Cの在り方について	6
5. 事業別評価	
1. 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための 男女共同参画推進研修	7
2. 大学職員のための男女共同参画推進研修	9
3. 女性関連施設に関する調査研究	11
4. 地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発	13
5. 男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発	15
6. 男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育推進研修	17
7. 大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った 複合的キャリア教育の推進	19
8. 女性関連施設相談員研修	21
9. 家庭教育・次世代育成指導者研修	23
10-1. 配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ 管理職ワークショップ（主管課長）（内閣府委託事業）	25
10-2. 配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ 管理職ワークショップ（支援センター長）（内閣府委託事業）	27
11. 配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ 相談員ワークショップ（内閣府委託事業）	29
12. 男女共同参画統計に関する調査研究	31

13. 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の 収集・整理・提供と館外貸出 -----	33
14. 女性情報ポータル及びデータベースの整備充実 -----	36
15. 女性アーカイブ機能の充実 -----	38
16. 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施 -----	41
17. 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム (NWE Cフォーラム) -----	43
18. 交流学习会議 -----	46
19. 男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク） -----	48
20. NWE Cボランティアの活動支援 -----	50
21. アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー -----	52
22. 国際協力機構との連携による研修（国別研修タイ） -----	54
23. NWE C国際シンポジウム -----	56
24. 外国人女性の困難等への支援に関する調査研究 -----	58
25. 国際的なネットワークの構築 -----	60
26. 利用者への学習支援と利用の拡大 -----	62
27. ガバナンス・内部統制の充実 -----	65
28. 人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し -----	67
29. 業務運営の改善及び効率化 -----	69
30. 業務運営の点検・評価 -----	71
31. 契約の点検・見直し -----	73
32. 外部資金の導入 -----	75
33. 自己収入の拡大 -----	77
34. 情報セキュリティ体制の充実 -----	79
 6. 外部評価の観点 -----	 81
 7. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画 (平成23年度) -----	 82
 8. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会委員一覧 -----	 90
 9. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程 -----	 91
 10. 自己点検評価調書の記載について -----	 92

参考資料編

(括弧)内は、事業シートのNO

1. (1) 「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」		
実施要項	-----	95
2. (1) " 参加者概況	-----	99
3. (1) " アンケート集計結果	-----	100
4. (1) " フォローアップアンケート集計結果	-----	106
5. (2) 「大学職員のための男女共同参画推進研修」実施要項	-----	107
6. (2) " 参加者概況	-----	110
7. (2) " アンケート集計結果	-----	111
8. (6) 「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」実施要項	-----	117
9. (6) " 参加者概況	-----	121
10. (6) " アンケート集計結果	----	122
11. (8) 「女性関連施設相談員研修」実施要項	-----	131
12. (8) " 参加者概況	-----	135
13. (8) " アンケート集計結果	-----	136
14. (9) 「家庭教育・次世代育成指導者研修」実施要項	-----	142
15. (9) " 参加者概況	-----	147
16. (9) " アンケート集計結果	-----	148
17. (10-1) 「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」		
(主幹課長) 実施要項	-----	155
18. (10-1) " 参加者概況	-----	158
19. (10-1) " アンケート集計結果	-----	159
20. (10-2) 「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」		
(支援センター長) 実施要項	-----	163
21. (10-2) " 参加者概況	-----	166
22. (10-2) " アンケート集計結果	-----	167
23. (11) 「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」(相談員)		
(北海道・東北・関東甲信越ブロック) 実施要項	-----	171
24. (11) 「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」(相談員)		
(中部・近畿・四国ブロック) 実施要項	-----	174
25. (11) 「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」(相談員)		
(中国・九州・沖縄ブロック) 実施要項	-----	176
26. (11) 「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」(相談員)		
相談員の概況(北海道・東北・関東甲信越ブロック)(中部・近畿・四国ブロック)		
(中国・九州・沖縄ブロック)	-----	181
27. (13) 女性教育情報センターの運営	-----	181
28. (14) 女性情報ポータルの整備充実	-----	182
29. (15) 女性アーカイブの充実	-----	183
30. (15) 「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」実施要項	-----	184

31. (15) 「女性情報アーキビスト養成研修（入門）」アンケート結果	-----	187
32. (16) 埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携		
「キャリア教育」プログラム実施要項	-----	189
33. (16) 「埼玉大学との連携事業」について	-----	191
34. (17) 「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム（NWE Cフォーラム）」		
実施要項	-----	192
35. (17) " 参加者概況	-----	196
36. (17) " アンケート集計結果（参加者）	-----	199
37. (17) " アンケート集計結果（ワークショップ運営者）	-----	203
38. (18) 「交流学习会議」実施要項	-----	205
39. (18) " 参加者概況	-----	210
40. (18) " アンケート集計結果	-----	211
41. (19) 「男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）」開催要項	-----	216
42. (19) " アンケート集計結果	-----	217
43. (20) ボランティア活動回数・活動人数集計（H 1 9 ～ 2 3 年度）	-----	221
44. (21) 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」開催要項	--	222
45. (21) " アンケート集計結果	-----	227
46. (22) 国別研修「人身取引被害者支援に関する日・タイ合同ワークショップ（2011）」		
開催要項	-----	228
47. (23) 「NWE C国際シンポジウム」開催要項	-----	231
48. (23) " アンケート集計結果	-----	233
49. (26) 国立女性教育会館利用状況（全体）	-----	237
50. (26) 施設別利用状況（平成 18 ～ 23 年度）	-----	238
51. (26) 利用回数別利用状況	-----	239
52. (26) 目的別利用状況	-----	240
53. (26) 会館利用者地域分布	-----	241
54. (26) 外国人来館状況	-----	242
55. (26) 職員等による館外活動	-----	243
56. (26) 利用拡大戦略	-----	246
57. (26) 広報実施計画	-----	248
58. (27) 独立行政法人国立女性教育会館運営会議規程	-----	250
59. (27) 独立行政法人国立女性教育会館役員会の開催について	-----	251
60. (27) 独立行政法人国立女性教育会館運営委員会規程	-----	252
61. (27) 独立行政法人国立女性教育会館運営委員会委員名簿（第 5 期）	-----	253
62. (28) 埼玉県から借り受けている土地面積の見直し	-----	254
63. (29) 人事交流、人事登用及び新規採用状況	-----	255
64. (29) 国立女性教育会館職員研修	-----	256
65. (29) 業務運営の効率化	-----	257
66. (29) 決算報告書経年比較	-----	258
67. (29) 貸借対照表経年比較	-----	259

68. (29) 損益計算書経年比較	260
69. (29) 平成23年度予算	261
70. (29) 運営費交付金債務	264
71. (31) 独立行政法人国立女性教育会館契約監視委員会規則	265
72. (31) 独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて	266
73. (31) 独立行政法人国立女性教育会館監事監査実施基準	268
74. (31) 独立行政法人国立女性教育会館監事監査規程	270
75. (31) 平成 23 年度監事監査計画	272

1. はじめに

独立行政法人国立女性教育会館（以下「NWE C」という。）は、我が国唯一の女性教育のナショナルセンターとして、昭和52年（1977年）の開館以来、35年間の長きにわたり、研修、交流、情報、調査研究の4つの機能を有機的に連携させた、質の高い実践的な取組みを推進してきた。

我が国における男女共同参画推進の歴史は、昭和50年（1975年）の国連国際婦人年に始まると言ってよく、NWE Cは、文部省の附属機関として「婦人教育の振興を図るため、婦人教育指導者その他の婦人教育関係者に対する実践的な研修及び婦人教育に関する専門的な調査研究を行う」ことを目的に、昭和52年（1977年）に創設されたが、それは、まさに我が国における男女共同参画推進のエポックであった。

その後国内においては、昭和60年（1985年）の国籍法の改正や男女雇用機会均等法の施行、女子差別撤廃条約の批准、続く平成3年（1991年）の育児休業法の公布、平成11年（1999年）の男女共同参画社会基本法の公布・施行とそれに伴う全国各地における男女共同参画社会基本条例制定の動き等、女性問題の解決や男女共同参画推進の歴史が重ねられてきた。NWE Cも平成13年（2001年）に独立行政法人化し、その目的も「女性教育の振興を図り、男女共同参画社会の形成の促進に資すること」とされた。

この間NWE Cは、全国の女性関連施設や女性団体の活動を支えリードする機関として、各地方公共団体や関連するセンター、NPO、大学等と連携しながら、男女共同参画の視点に基づき、意識の変革や社会的文化的環境の変容を促す学習活動を推進してきた。そこでの活動内容は、国民一人ひとりの啓発からリーダーの養成、女性の社会参加意識を高めガバナンス活動に参画するための環境整備、さらにはDV等困難を抱える女性への支援に至るまで幅広く、その時々の変化に対応して様々な研究や研修、実践を積み上げてきた。こうしたことが長期にわたり可能であったのは、NWE Cスタッフの強靱な意思と並々ならぬ実行力に加えて、そうした取組みに対する多くの国民の理解と支持があったからにほかならない。

平成22年度は、第2期中期目標・中期計画期間の最終年度として、平成18年度からの5か年間の事業の検証に加え、第3期中期目標・中期計画の策定に向け、事業面、運営面等の包括的検討が文部科学省や総務省において行われた。これらは、平成21年度に行われた内閣府行政刷新会議による事業仕分けのフォローアップとともに、事業・運営の効率性を求めるものであったが、NWE Cは、保有施設の見直しをしたり、利用料金の改訂をしたりする等、適切に対応してきている。

平成23年度からは、第3期中期目標・中期計画期間に入ったことを踏まえ、男女共同参画及び女性教育を推進する基幹的指導者や「新しい公共」を担う人材の育成とそれらの人たちの互恵的ネットワークの形成を目指し、研修・研究事業、情報の収集・提供事業、関係機関などとの連携協力、国際貢献活動等を積極的に進めているところである。

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下、「外部評価委員会」という。）では、第3期中期計画及び平成23年度計画に記載されている内容を踏まえ、平成23年度の運営実績について外部評価をまとめた。NWE Cにおいては、本報告書での評価意見や課題について、今後の事業実施の際に反映し、平成24年度からの事業活動の一層の充実に努めていただきたい。

2. 外部評価について

(1) 外部評価の目的

外部評価委員会では、NWE Cが実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うとともに、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行うことを役割としている。

(2) 外部評価の対象

NWE Cでは、平成23年度から27年度までの第3期中期目標期間において、中期目標・中期計画に「適時適切に外部評価を受け、業務に関する客観的意見も取り入れ、業務の改善を不断に行う」としており、23年度計画においては、「自己点検と連動した外部評価を実施する。」としている。

これを受け、第3期中期目標期間の初年度である平成23事業年度の評価においては、年度計画に記載される34項目の評価を実施した。

(3) 外部評価の方法

評価方法については、外部評価委員会においてNWE Cから各事業の内容、成果等のヒアリングを実施し、平成19年度に外部評価委員会で作成した外部評価の観点別に評価意見等を取りまとめた。

(4) 審議過程

平成24年度は計3回の委員会を以下のとおり開催した。

第1回では、外部評価の対象と進め方を確認し、第2回では、事業毎の評価について意見交換を行い、第3回では、総論及び全体的な意見交換を行い、外部評価報告書を取りまとめた。

平成24年5月 8日（火） 第1回外部評価委員会

- ・ 外部評価の進め方について
- ・ 各委員の評価分野について
- ・ 担当委員に対するNWE Cからの個別説明

平成24年5月30日（水） 第2回外部評価委員会

- ・ 事業別評価について討議

平成24年6月22日（金） 第3回外部評価委員会

- ・ 総論について討議
- ・ 全体として意見交換
- ・ 外部評価報告書のとりまとめ

3. 評価

(1) センター・オブ・センターとしての取組について

各地方公共団体が設置する男女共同参画センターは、国の最重要課題である男女共同参画推進の拠点施設として、第三次男女共同参画基本計画において位置付けられているものの、根拠となる法令がないために、業務の範囲や内容が流動的になったり、場合によっては設置者（首長）の意向でその存続さえも難しくなったりするケースが見られる。また、ほとんどの施設でスタッフの多くが非正規雇用者であることから、その専門性の向上や事業や運営に係る意思決定過程への参画という面で、多くの問題が生じている。

男女共同参画センターにとどまらず、一般に全国的女性関連施設における正規雇用の職員は極めて少なく、資質向上のための研修事業等が自前では実施できない状況が続いており、こうした現状を踏まえ、施設職員の専門性の向上と施設の組織基盤の強化を図ることが求められている。

他方、男女共同参画を推進するミッションを担っている中間支援組織や中核的な団体がその役割を適切に果たしていくためには、質の高い研修事業が不可欠であり、それらは、地方公共団体や民間の機関等で取り組まれているものの、個別的・部分的な段階にとどまっており、極めて不十分と言わざるを得ない。

このような状況の下で、NWE Cが実施した「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」は、研修対象者を基幹的な指導者に厳選するとともに、持続可能な組織の在り方やマネジメント等に焦点を当てた研修テーマを設定したものであり、適時・適切なものである。また、組織の基盤強化に焦点を当てつつ、プログラムの内容や事例がよく整理・工夫されており、その独創性は高く評価されてよい。

また、持続的で活力ある社会づくりの原動力として、男女共同参画の推進に大学が果たす役割への期待はこれまで以上に高まってきており、このような中で実施した「大学職員のための男女共同参画推進研修」は、研修対象者を組織の意志決定に直接関わる教職員に絞り、国内外の大学における先駆的な取組等を取り上げたものである。これは、時宜を得た、極めて前向きな取組みとして評価できる。

こうした取組みは、NWE Cがセンター・オブ・センターの役割を着実に果たしている典型的な事例であり、NWE Cが、男女共同参画及び女性教育のナショナルセンターとして、優れた社会的成果と参加者への高い満足感を与える事業を数多く展開していることを高く評価したい。

(2) 「喫緊の課題」に関わるナショナルセンターとしての取組について

男女共同参画に関わる「喫緊の課題」についての調査研究事業や学習プログラム開発あるいは研修事業の企画実施等においては、何を「喫緊の課題」として認識するかが極めて重要になる。この点に関し、NWE Cが、かねてから蓄積してきた事業の成果を踏まえつつ、社会状況の変化に機敏に対応し発展させてきた先進的な取組みを評価する。

とりわけ「地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発」は、国内の先進事例の調査による現状と課題を踏まえ、社会的企業育成法を制定した韓国の先進事例の収集や調査研究へと発展しており、行政と民間との協働や中間支援組織のあり方まで踏み込みながら、オルタナティブな「女性の活躍による経済社会の活性化」の方向へと鋭く切り込んでいる。

また、「男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育推進研修」についても、社会のキャリア変化や男女共同参画の視点に対応しつつ、NWE Cが長年にわたり蓄積してきた女性のキャリア形成支援を新たな問題意識のもとに発展させた独創的な試みとして

評価する。

（３）国際的なネットワークにおいて中核的機能を果たす施設としての取組について

この分野は、男女共同参画及び女性教育のナショナルセンターとしてのNWE Cの国際的な責務が最も明確に示されるべき領域であり、他にこうした責務が果たせる中核施設が国内に存在しない中で、今後ますますNWE Cの役割が期待される領域でもある。

例えば、「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」やそれと連動させて実施された「NWE C国際シンポジウム」などは、時宜を得たテーマ設定、事業の連動実施による効率性の向上、海外及び国内の関係機関とのグローバルな双方向的協力体制の実現などをもたらし、さらに参加者の有用度や満足度も極めて高いものになっている。

また、「国際協力機構（JICA）との連携による研修」に見られるように、研修参加国のみならず同様の課題を抱えている他の国々でも、発展的に研修の成果が活用できる工夫がなされている点は、国際貢献の拡充という観点からも重要である。今後そうした展開可能性を持った事業のさらなる実施が望まれる。

さらに、「外国人女性の困難等への支援に関する調査研究」といった、他の女性関連施設では十分に対応できない重要課題についての事業が着実に実施されていることも、国際的に中核機能をもつセンターとしての責務が果たされている証左と言える。

これらの取組みは、この分野すべての事業実施の前提ともいうべき「国際的なネットワークの構築」という対外的な事業の充実した展開と相まって、NWE Cの活動範囲と責務の重要性をますます高めていくものと考えられる。

（４）異なる活動主体（アクター）が目標を共有し協働する取組について

男女共同参画社会の形成を実現するためには、大学やN G Oなど活動目的を異にするアクターが、理念や方向性を共有し、その達成に向けて協働を重ねていくことが極めて重要である。一例として、学生の単位取得と結びつく「大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進」は、大学（講師や会場・設備の提供、参加者集めなど）とNWE C（プログラムの提供や研修のノウハウなど）が有する内部資源の強みを相互に効率的に生かした協働事業であり、大きな成果をもたらしている。こうした取組みのさらなる拡充が望まれよう。なお、異なるアクターによる協働を進める場合、そのためのコスト負担を誰がどのように担うのかといった課題を克服していく必要がある。

（５）情報収集・提供にかかる取組について

男女共同参画及び女性教育に関する情報の収集・提供については、データベースの完成度も高く、また着実に利用件数も伸ばしており、情報の収集・提供拠点としての役割を果たしている。

また、他に例を見ない貴重な取組みである、女性アーカイブの収集・デジタル化も進んでおり、唯一のナショナルセンターとしての機能をいかに発揮している。

（６）運営改善にかかる取組について

毎週開催される運営会議や四半期ごとの監事監査の実施等、丁寧な運営がうかがえる。業務運営に関する提言に際し非常勤職員にも意見を求める等、理事長のリーダーシップのもと小規模な組織を生かした、全員参加の運営を心掛けており、加えて、東日本大震災の被災者支援にも積極的に取り組んだことは評価できる。

さらに、全職員からの業務改善提案等を基盤に業務分担の見直しや業務の効率化、チーム制の導入などが行われ、人員が限られているなか業務の改善が着実かつ適切に進められ

ている。これらの改善に引き続き努力するとともに、女性教育のナショナルセンターであることを踏まえ、人材の確保及び研修等による職員の専門性の育成にも引き続き努力されたい。

平成23年度も22年度に続き、一般管理費や業務経費の削減に非常な努力をしており、また、23年度は敷地の一部を地元埼玉県に返却する等資産の見直しも行われており評価できる。一方、人件費等経費についてナショナルセンターとして限界にきていると思われ、適切な行政的対応が望まれる。

(7) 男女共同参画及び女性教育に関する理解／利用の促進にかかる取組について

利用者への学習支援を質・量ともに向上させ、NWE C利用者の拡大を図ることは、NWE Cの存在意義にも関わる重要な課題であることは言うまでもない。したがって、特に利用の拡大に向けた数値目標の達成度にまず注目が集まることになるが、この点において数値の上だけから見れば、確かに宿泊室利用率は期間目標を下回る結果となっている。しかしながら、これは、東日本大震災といういわば不可抗力の影響によるものであることは明らかであって、こうした事情を無視した、単純な事業評価のあり方には、むしろ十分注意が払われなければならない。

そうしたことよりも、ここでは、そうした困難な状況にも関わらず、災害発生直後からの多くの被災者の受け入れ、公共施設としての責任を真摯に担った対応に始まり、職員一丸となって取り組んだ団体訪問やホームページの見直し、大学・企業向けの利用モデルプランの作成など、利用者拡大に向けた積極的な取組を実施し続けてきたことこそ、総合的に見て高い評価に値すると言ってよい。研修参加者の地域バランスの改善など、これらの努力の成果が具体的に表れてきた側面も見逃せない。利用者の学習支援に対する複数のきめ細かな事業の実施とあいまって、この分野でのNWE Cの取組については、そうした諸事業の全体像を踏まえた包括的な視野からの評価が特に重要となる。その上で、NWE Cには、引き続き、利用者拡大に向けての努力を期待したい。

4. 今後のNWE Cの在り方について

(1) 男女共同参画の推進とNWE Cの役割

女性問題は、半世紀近い歴史の中で少しずつ改善にむかっているが、なお、労働環境の同等化やガバナンス機能への参画、DVをはじめとする人権侵害行為への対応等、多くの課題が山積している。世界経済フォーラムが毎年発表している『グローバル・ジェンダー格差レポート』では、日本は135カ国中98位（2011年）という有り様である。

こうした状況を少しでも改善するための努力を重ねることはもちろんであるが、他方、東日本大震災以降、安全で安心な生活が脅かされるようになっており、これからの日本社会の大きな課題となっている。持続可能な生活は、衣食住から人と人との結びつきや環境保全など、総合的な内容を含んでいる。

このような認識の下で、男女共同参画社会づくりは、女性のためにというだけではなく、すべての人が安全・安心な生活を持続させることができるように、男性も女性も共に社会参画し共に生活を支えることを目指して行われる必要があり、社会の各分野において、新しい時代にふさわしい取組みが求められている。

少子高齢化やグローバル化が進展する中で、「新しい公共」の重要性が叫ばれ、国民は生活者の視点から社会を創出する主人公であるとの認識が広まりつつある。このことは、NWE Cの活動において「男女共同参画を推進する役割」がより重要になっていることを意味している。男女が共に社会参画し責任と役割を分担する社会の実現には、男性や企業関係者も含め、社会の様々な場面でそれに対応する教育／学習が必要であり、NWE Cは、その牽引車たることが求められているのである。

(2) 職員のプロフェッショナル化と処遇

縮小される予算や人員配置の中、NWE Cの職員は、先行事例や先進事例についての収集、情報交換、研究環境の整備や研究教育活動支援を行ったり、関連施設や民間企業等との交流・交渉等を行ったりしている。厳しい予算制約の下で、限られた人員で、ここまで数多くの、意義深く、かつ参加者から極めて高い評価を受けている活動を続けているところは、唯一NWE Cだけといっても過言ではない。

NWE Cの将来は、職員の「質」によって左右されることは間違いなく、上記の状況を踏まえ、今後は、「職員のプロフェッショナル化」という視点から、職員の能力開発とそれに対応した処遇の改善に取り組むことが強く望まれている。

NWE Cには、これまでの時代を培ってきた貴重な知見が蓄積されている。今後は、これらの知見を有機的に結びつけるなどして活動の拡充を図るとともに、男女共同参画社会の形成という大きな目標の実現に向かって、それらの一層の社会的活用を心から期待したい。

(5) 事業別評価

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)①)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ①女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

事業名	女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修			
事業概要	目的：男女共同参画社会の形成に向けた、女性関連施設・地方公共団体・民間団体の役割を認識し、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとしてのエンパワーメントと連携・協働関係の構築を支援することを目的とし、必要な知識、マネジメント能力、ネットワーク力を身につけるために、高度で専門的な研修を行う。 開催日程：平成23年6月20日(月)～22日(水) 2泊3日 会場：NVEC			
担当課室	事業課			
スタッフ	事業課長(1)	専門職員(2)	係員(1)	計4名

年度実績概要	1. 研修内容の分析：本研修のテーマは、「女性関連施設・地方公共団体・女性団体の3者が連携・協働し、地域で男女共同参画を実現するために、持続可能な組織のあり方や、リーダーとしてのマネジメント、施策・事業のあり方を学ぶ」であった。そのため関係省庁からの施策説明に加え、参加者との質疑応答を重視した。また、参加者の多くがNPOや公益法人などの組織であることから、組織基盤強化に焦点をあて、「成果を見せるマネジメント」についてドラッカー理論と併せて学ぶプログラムを盛り込んだ。また、参加型学習を重視し、コース別ワークショップを2カ所に盛り込み、各地域での先進事例や好事例から自組織の実践のヒントを得た。 2. 研修対象者の厳選：地方公共団体職員コースについて、地域でのリーダー育成の観点から、参加対象を行政責任者に限定して募集した。また、全コースにおいて参加者の決定にあたっては実際の業務・活動内容の確認を行う等、基幹的な指導者を厳選した。 3. 課題の厳選：第3次男女共同参画基本計画より課題を抽出するとともに、組織・地域が抱えている課題の解決をめざした事例を選んだ。 4. 影響評価：フォローアップ調査では、「研修に役立っている」との回答が98.9%と平成22年度よりも4.6%増加している。具体的には「具体的な事業の企画・運営への指導・助言」等、参加者が研修で学び得た情報を各地域に持ち帰り、具体的な事業に役立っていることが伺える。 5. フォローアップ調査回収率向上のための取組：回答者が記入し易いようアンケートの様式を1枚に納めるなどの工夫を行ったほか、郵送に加えてFAX、E-mailなど複数の手法で回収する工夫をした。この結果、フォローアップ調査の回収率は79.4%と平成22年度より4.0%増加した。 6. 参加者の地域バランス：震災の影響が懸念されたが、北海道・東北地域の参加者の減少はほとんどなく、青森県・宮城県ではむしろ増加した。また、昨年度に比較し、福岡県・佐賀県・熊本県の増加により九州・沖縄地域が5.4%増加し、参加者全体の13.9%を占めた。			
実績を裏付けるデータ	(データ詳細は添付アンケート集計結果参照)【】内は22年度実績			
1. 応募倍率：	117.5% (定員120名 応募者141名 参加者130名)【126.7% (定員120名 応募者152名 参加者143名)】			
2. 地域バランス (参加地域)：	北海道・東北 15名 11.5% 関東・甲信越 61名 46.9% 北陸・東海 17名 13.1% 近畿 9名 6.9% 中国・四国 10名 7.7% 九州・沖縄 18名 13.9% 【北海道・東北 18名 12.6% 関東・甲信越 63名 44.1% 北陸・東海 26名 18.2% 近畿 12名 8.4% 中国・四国 12名 8.4% 九州・沖縄 12名 8.4%】			
3. 参加対象者：	館長・理事長等 42名 (32.3%) 副館長・理事等 14名 (10.8%) 部長・室長等 26名 (20.0%) 自治体担当官 30名 (23.1%) その他 18名 (13.8%)【館長・理事長等 45名 (31.5%) 副館長・理事等 29名 (20.3%) 部長・室長等 21名 (14.7%) 自治体担当官 27名 (18.9%) その他 21名 (14.7%)】			
4. 全体の満足度について：	90.6% (非常に満足 30.2% 満足 60.4%)【95.3% (非常に満足 34.6% 満足 60.7%)】			
5. プログラムの有用度について：	97.0% (非常に有用45.5% 有用51.5%)【92.9% (非常に有用42.2% 有用50.7%)】			
6. フォローアップ調査について：	アンケート集計結果(サンプル数126 回答100 回収率79.4%)【サンプル数118 回答89 回収率75.4%】 98.9% (大いに役立っている40.5% 役立っている58.4%)【94.3% (大いに役立っている38.0% 役立っている56.3%)】			
7. 目標達成度：	・男女共同参画についての視点、考え方を身につけることができた。95.2% ・男女共同参画施策に関わる国の施策・動向を理解することができた。92.9% ・実態把握・分析の方法について知識・情報を得ることができた。92.0%			

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点判定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
適時性：地域で男女共同参画を推進する主体である、女性関連施設、地方公共団体、民間団体の基幹的指導者を対象とし、第3次男女共同参画基本計画に対する理解を深めるとともに、自組織・機関の役割の再認識や、厳しい社会情勢の中での組織の基盤強化及び評価を内容とした研修を行った。また東日本大震災より約3ヶ月を経て、防災の観点から参加者の事例検討を行ったことは、時宜にかなった取組として評価できる。 独創性：参加者から蓄積した各組織・機関の課題から設定したプログラムの実施、NVECが行った調査研究についての情報提供などNVECの独創性を活かした取組として評価できる。 発展性：研修では、先進的であり、各組織・機関にとって有用と思われる事例を選び提供した。全国からの参加者との情報交換や交流を支援した。より実践的な研修を地域で男女共同参画を推進する基幹的指導者に実施したことに併せて、災害時の各地域での取り組みを事例発表に取り入れたことは、今後各地域での防災への取り組み等において、研修成果の全国的な普及へと発展するものとして評価できる。 効率性：女性関連施設管理職コースを特定非営利活動法人全国女性会館協議会との共催により行うことで、NVECと全国女性会館協議会双方の人的ネットワークを活用し、女性会館のニーズや先進事例を収集し、企画に役立てたことは効率性向上の取組として評価できる。					

2. 定量的評価

観点判定	応募倍率	プログラムの有用度			
	A	A			
○応募倍率：117.5% 【126.7%】 ○プログラムの有用度：97.0%（非常に有用45.5% 有用51.5%）【92.9%】 ○影響調査：98.9%（大いに役立っている40.5% 役立っている58.4%）【94.3%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	女性関連施設、地方公共団体、民間団体・女性グループを、地域で男女共同参画を推進する主体と位置づけ、その基幹的指導者に対し、専門的な研修、情報交換の機会を提供した。研修6ヶ月後に実施したフォローアップアンケート調査では、「研修に役立っている」との回答が98.9%と昨年度よりも4.6%増加しており、参加者が研修で学び得た内容を具体的な事業で役立っていることが伺える。このことから、適切なプログラムであり、ねらいを十分達成できていると考えられる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○東日本大震災を経た現在、各地域で男女共同参画の定着が試されている。特に被災した地域では女性の視点からの復興支援・防災計画が大切である。次年度は、第3次男女共同参画基本計画第14分野の「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」を中心に据え、今こそ男女共同参画を見直し、日常から各地域でどのような組織づくりや活動が必要かを講義や事例から学ぶ必要がある。また、第3次男女共同参画基本計画で新設された、「男性、子どもにとっての男女共同参画」への取り組みや「雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保」、「高齢者、障がい者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備」などにも事例の提供を求めたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	・研修対象者を基幹的な指導者に厳選し、持続可能な組織のあり方やマネジメント、施策・事業のあり方に研修内容のテーマを設定したことは適時性にかけている。 ・組織基盤強化に焦点をあて、プログラム内容や事例の取り上げ方は工夫されており、アンケート結果から参加者の満足度が高く、独創性が評価されている。
達成	・フォローアップ調査回収率向上のための工夫や、「研修に役立っている」との回答が伸びていることから、基幹的な指導者への研修が成果を挙げており、発展性及び効率性も評価できる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (1-1-(1))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (1-1-(1)②)	1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ②大学職員のための男女共同参画推進研修

事業名	大学職員のための男女共同参画推進研修		
事業概要	目的：男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに共通に課せられた責務であり、高等教育機関としての大学においても、その一翼を担わなければならない。そこで、社会・地域に大きな影響を与える大学において、男女共同参画が推進されるよう、大学・公的研究機関等の意思決定組織に所属する教職員等を対象とし、管理職として必要な知識、マネジメント能力、ネットワーク力を身につけるために、高度で専門的な研修を行う。 開催日程：平成23年12月8日（木）～9日（金） 会場：NVEC		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長（1）、専門職員（1）、係員（1）		計3名

実績概要	1. 研修内容の分析： 平成23年度は、国内外の大学等における男女共同参画の先駆的な取組や現状について、ワーク・ライフ・バランス、女性研究者支援の最先端の事例を紹介するなどしたほか、女性研究力・アップという新たな課題に対する分科会を設定するなど、専門性が高く、モデル的な研修となった。また、分科会では、参加型のグループワーク形式を取り入れることで、参加者は、自大学・自分自身の実態把握、課題分析等を行い、情報交換会で得た他大学における取組の状況把握を通じて、解決へのヒントを得るなど、実践的な内容を提供することができた。 2. 研修対象者の厳選： 平成22年度の募集は、「男女共同参画オフィスの管理職」としていたが、大学における男女共同参画を推進する観点から参加者をより厳選し、「大学・公的研究機関等の意思決定組織に所属する教職員等」として募集を行った。 3. 課題の厳選： 「大学における男女共同参画意識の浸透」という大きな土台となる課題に加え、参加者の関心の高いダイバーシティの観点を重視した「ワーク・ライフ・バランス」、新たな課題である「女性研究力・アップ」という大きく3つの課題を取り上げた。 4. 内容の評価： 国立・公立・私立大学、海外の大学の事例、女性研究者の事例、企業のベストプラクティスなど、男女共同参画推進の意識が高い様々なタイプの先進的な取組を取り上げた。参加者の満足度は、94.2%（非常に満足34.8%、満足59.4%）、プログラムの有用度は100%（非常に有用であった49.3%、少し有用であった50.7%）と高い評価を得た。 5. 参加者の地域バランス： 北海道・東北、中国・四国からの参加者が各14名など、関東・甲信越以外の参加が全体の59.1%を占め、全国の各地からバランスよく参加していることが伺える。 参加者のうち、国内の大学からの参加者は60名（68.2%）であった。国公立別の割合は、国立58.3%（35名）、公立8.3%（5名）、私立33.3%（20名）であった。		
実績を裏付けるデータ	（データ詳細は添付アンケート集計結果参照）【】内は22年度実績		
1. 参加対象者：	男女共同参画室事務系18名（20.5%）、総務・人事課等事務系41名（46.6%）、教員系25名（28.4%）、研究機関等4名（4.5%）		
2. プログラムの有用度について：	100%（非常に有用であった 49.3% 少し有用であった 50.7%）		
3. 全体の満足度について：	94.2%（非常に満足34.8% 満足59.4%）		
4. 地域バランス（参加地域）：	北海道・東北 14名（15.9%） 関東・甲信越 36名（40.9%） 北陸・東海 8名（9.1%） 近畿 9名（10.2%） 中国・四国 14名（15.9%） 九州・沖縄 6名（6.8%） 海外 1名（1.1%） 【北海道・東北 7名（10.0%） 関東・甲信越 31名（44.2%） 北陸・東海 11名（15.7%） 近畿6名（8.6%） 中国・四国 6名（8.6%） 九州・沖縄 9名（12.8%）】		

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：現在抱えている課題解決のため、組織として男女共同参画意識を学内に浸透させる方策、研究者のワーク・ライフ・バランスの効果的方策等を取り上げた内容を国の施策や大学の取組と連動して企画し提供した。また、米国やドイツ、韓国の政策、企業の取組を取り上げ、組織として男女共同参画に取り組むメリットの生かし方や、長期的な人材育成等の先進的な事例を紹介したことは、大学という組織における取り組みが課題となっている今、時宜を得た取組として評価できる。 独創性：平成22年度にNVECで実施した本研修や日米シンポジウムで得た情報等を活用し、女性の研究力を上げることが必要であるという視点から、分科会3に女性研究力・アップの分科会を取り入れた。これは国際的な視点から研究者支援も含めた大学の男女共同参画について、担当者が話し合う機会を提供したものであり、NVECの独創性を活かした取組として評価できる。 発展性：本研修では、分科会を設け講師も交えたディスカッションを積極的に取り入れることで、参加者に自大学の位置を意識させ、組織が抱える課題についても主体的に捉えるなど、研修終了後も各大学の業務における発展性が高い取組として評価できる。 効率性：講師については、省庁関係者・企業等から幅広く適切な講師を選出することでプログラムの特徴を十分踏まえた事業実施ができた。これらの講師選出においてはNVECが培ってきた人的ネットワークを活かすなどしており、効率性の面からも評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率:116.3% ○プログラムの有用度:100%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	大学において男女共同参画を推進する上で、他大学の推進状況や全体の動向についての多くの情報を得ることができる本研修の意義は大きい。研修内容は、男女共同参画意識を学内に浸透させるという基本的な大きなテーマをはじめとして、ダイバーシティに対応するワーク・ライフ・バランスや、女性研究力・アップなど新たな視点も導入できた。参加者も新規に行った昨年度より応募が増えた。アンケート等による参加者からの評価も高く、プログラム企画は適切なものであり、ねらいは十分達成できた。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
本年度の成果を基に研修内容をさらに充実、発展させ、社会・地域に大きな影響を与える大学において、より男女共同参画が推進されるよう意思決定組織に所属する教職員等を対象とした研修を実施していきたい。また、より多くの方に事業を知ってもらうための広報の在り方についても検討する必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	①活力ある社会づくりの原動力として、男女共同参画の推進に果たす大学の役割への期待はこれまで以上に高まっている。組織の意志決定に直接関わる教職員にしぼり、国内外の大学における男女共同参画の先駆的な取り組み、ライフイベントと研究活動の両立のための諸施策の紹介など、時宜を得た取り組みとして評価できる。 ②NVECが保有する海外の女性研究者の研究促進関連の情報の活用、女性研究者の裾野拡大にむけて議論中心のグループワーク方式の採用など、研修内容・方法ともに独創性・発展性のある取組みであり、それはプログラムの有用度に関する参加者の評価100%という数字からも確認できる。 ③参加者の設置機関別バランスという点が今後の課題である。特に大学総数のうち77% (599校) を占める私学の参加者が少なすぎる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成
年度計画の項目 (I-1-(2)①)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成 ①女性関連施設に関する調査研究

事業名	女性関連施設に関する調査研究
事業概要	調査研究目的：女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、指定管理、人材育成等新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の1年次として、女性関連施設の指定管理に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長（1） 情報課専門職員（1） 事業課専門職員（1） 計3名

年度実績概要	
1. 調査研究経過：	
(1) 女性関連施設の状況把握・分析	「女性関連施設データベース」更新のための調査を行い、結果から現況の把握と分析を行った。 対象施設：全国の女性関連施設のうちデータベースに登録している女性／男女共同参画センター387施設
(2) 質問紙調査	＜第1次調査＞「女性関連施設データベース」更新調査に「女性／男女共同参画センターの指定管理者制度に関する調査」を同封して、質問紙調査を行った。 対象施設：全国の女性関連施設のうち、公設公営、公設民営の女性／男女共同参画センター（データベースに登録していないところも含む）357施設に配布、有効回答数269票（有効回収率75.4%） ＜第2次調査＞対象施設：第1次調査と女性関連施設等から調査した、指定管理者制度導入済み施設93施設に配布、有効回答数73（有効回収率78.5%）
(3) ヒアリング調査及び事例収集	質問紙調査で得られた回答から、自治体の規模、指定管理者の類型によって、14施設を選定して、ヒアリング（7施設）、事例収集（7施設6件）を行った。
2. 得られた知見：	(1) 第1次質問紙調査では、女性関連施設の指定管理者制度を導入している施設は93施設（26%）と、平成18年度調査時の63から増加していた。 (2) 第2次質問紙調査では、現在までの導入時期、導入形態、選定手続き、指定管理料の状況、施設管理・事業について力を入れていること、指定管理者としての課題、その対策等について尋ねた。導入年は2006年が46施設と多く、現在2期目が48施設、指定期間は5年が5割以上であった。課題は「職員の専門性育成」がもっとも多く、対策としては研修が多くあがった。 (3) ヒアリング調査及び事例収集では、指定管理を担っている団体、実施している事業、指定管理者になった経緯、2期目以降の選定について、現在の指定管理期間における取組み・変化、課題と工夫、制度のメリット・デメリットと考えていることを詳しく聞いた。メリットとしては、柔軟な運営、市民力の活用等があがったが、一方、期間の細切れと管理料が頭打ちで、長期的な事業展開、人材の育成・確保が困難なことがあげられた。
3. 調査研究の活用	
(1) 参考資料の作成	調査研究の結果を踏まえて、『女性関連施設の指定管理者制度導入施設に関する調査報告・事例集』を作成し、全国の女性関連施設等に配布するとともにNWECのホームページに掲載し、成果の普及に努めた。
(2) 研修事業への反映	調査研究の成果および参考資料は、平成24年度にNWECの主催事業や外部事業への講師派遣等において活用し、さらに積極的に成果普及を行う。
実績を裏付けるデータ	
	平成23年度「女性関連施設相談員研修」における、21・22年度「男女共同参画拠点としての女性関連施設に関する調査研究」からの報告「女性関連施設の相談業務の現状と課題」の参加者からの評価は、有用度71.7%（非常に有用6.5%、有用65.2%）であった。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：平成15年の地方自治法の改正による、公の施設への指定管理者制度導入から8年が経過した。NVECでは平成18年度に導入状況を調査して5年が経過し、第2～4期となった女性関連施設の指定管理者の現状と課題を把握することができた。 独創性：NVECが女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、女性関連施設の管理運営者の4分の1を占めるようになった指定管理者の実態・課題を把握し、公表することはナショナルセンターとしての役割である。 発展性：本調査研究は指定管理者制度導入を検討している女性関連施設にとって、非常に役立つものであり、また導入していない施設にとっても、指定管理者が行っている施設管理・事業の工夫や、課題に対する対策は、非常に参考となる内容となっている。 効率性：本調査は情報課が毎年行っている「女性関連施設データベース」の更新依頼に同封し、効率的に行った。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度	プログラム・参考資料作成数			
判 定	B	A			
○女性関連施設相談員研修「調査研究報告「女性関連施設の相談業務の現状と課題」」（平成21・22年度「男女共同参画拠点としての女性関連施設に関する調査研究」からの報告）：有用度71.7%（非常に有用6.5%、有用65.2%）。【22年度実績 有用度85.7%、「非常に有用」26.8%、「少し有用」58.9%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	調査研究は計画通り実施されている。本年度の調査をもとに作成した報告書では、女性関連施設の機能の充実・強化に役立つ、指定管理者制度導入施設の実態と課題、施設管理・事業の工夫や、課題に対する対策を提示することができた。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ナショナルセンターとして、今後も引き続き、地域の男女共同参画拠点である女性関連施設についての調査研究を実施する。次年度は、東日本大震災から1年が過ぎ、災害時における女性関連施設の取組みについて調査研究を行う予定である。また調査研究の活用が課題であり、成果の普及の方途を検討する必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	・女性関連施設の指定管理に関する実態調査は、女性関連施設の機能の充実・強化を図るための基礎データとなり、平成15年の地方自治法改正以降の動向を探り、今後の施策へ反映させるために時宜にかなった調査である。 ・全国的な調査はナショナルセンターであるNVECとしての役割であり、1次調査、2次調査、ヒアリング調査・事例収集と、調査方法も丁寧である。 ・この調査は女性関連施設の施設管理や事業の工夫など、全国に影響を与える内容である。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(1))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(1)①)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ①地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発

事業名	地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発		
事業概要	調査研究目的：地域活動による経済的自立の促進をテーマに2年計画で行う調査研究の1年次として、コミュニティ・ビジネスの先進事例及び先駆的プログラムを実施している海外の研修事例についての調査を行い、研修資料を作成した。		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(1)		計 2 名

年度実績概要			
1. 調査研究経過：			
(1) 女性関連施設を対象としたアンケート調査の実施および分析	情報課が実施する女性関連施設を対象とした調査にアンケートを同封し、女性の経済的自立のための起業・NP0支援の事業の実施状況について調査した（配布数357、本テーマへの回答数223、回答率62.5%）		
(2) 海外の先進事例及び先駆的プログラムの研修事例として韓国調査の実施	2007年にアジア初の社会的企業育成法を制定した韓国を対象に、社会的企業やコミュニティ・ビジネスの先進事例と起業支援の先駆的プログラムを実施している女性の就労支援機関のヒアリング調査を実施した。社会的企業やコミュニティ・ビジネスでは、農業、教育、コミュニティ・レストラン、中間支援組織などの各分野にわたり調査を実施した。また、先駆的プログラムの研修機関としては、京畿道女性能力開発センターや各地の女性能力開発センターまで、中央から地方までの女性の再就労・起業支援機関を調査した。		
(3) 国内の先進事例のヒアリング調査の実施	海外の先進事例の調査と並行して、国内のNP0・起業組織の先進事例のヒアリング調査を実施した。調査対象団体は、環境、まちづくり、保育、高齢者、農山漁村、起業支援など7団体とした。		
2. 得られた知見：			
韓国調査から得られた知見は、以下の5点である。			
(1) 女性の起業支援は、再就労支援の一環となっている。			
(2) 女性の再就労・起業支援のための法整備や、それに特化した機関・組織が設置されている。			
(3) 韓国の女性再就労・起業支援は、単に職業教育（トレーニング）という概念だけではなく、福祉的意味合いも含めた支援（サポート）の概念で取り組んでいる。			
(4) 女性への支援だけでなく、労働時間の短縮など企業経営にまで立ち入ったサポートをしている。			
(5) 地域によっては、行政と民間団体との連携による官民協働の女性就労支援体制が整っている。			
3. 調査研究の活用：			
(1) 報告書の作成	韓国の調査結果を論文形式でまとめた報告書を作成した。さらに報告書内容の普及のために、和文・英文の要旨を作成した。		
(2) 学会発表	日本社会教育学会において、「地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究」として発表した。		
(3) 論文掲載	2012年2月刊行の『NVEC実践研究』第2号に「女性のNP0・起業活動と複合キャリア」として掲載した。		
(4) 研修事業への反映	調査研究の結果については、平成24年度の「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」等の研修にて報告を行い、成果の普及に努める。		
実績を裏付けるデータ	平成23年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」で、平成22年度のアンケート結果を報告した際のアンケート結果の有用度は92.3%（非常に有用であった15.4%、有用であった76.9%）であった。		

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：地域活動を通じた女性の経済的自立については、第3次男女共同参画基本計画の第4分野において「女性の活躍による経済社会の活性化」として、女性起業家に対する支援などがあげられている。本調査研究は、NPOや起業活動による女性の経済的自立を目的にしており、まさに経済社会の活性化を図るものである。 独創性：女性のNPOや起業支援を目的にした事業は、多くの女性関連施設で実施されているが、本調査研究では、単に起業のためのノウハウにとどまらず、女性がNPO・起業活動を行うことの意義についても明らかにしている。 発展性：先進的事例ならびに先駆的プログラム事例として実施した韓国調査からは、女性の再就労支援・起業支援に特化した機関の支援システム、研修プログラムなど、本調査研究の今後の取組であるプログラム開発に大いに役立てることができる。 効率性：本調査研究の実施にあたっては、検討委員会を組織し、外部人材を活用して効率的に進めた。また、女性関連施設へのアンケート調査は、情報課が実施するデータベース調査に同封して実施したので、経済的・時間的効率の向上を図れた。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度	プログラム・参考資料作成数			
判 定	A	A			
平成23年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」で、平成22年度のアンケート調査結果を報告した際のアンケート結果の有用度は92.3%（非常に有用であった15.4%、有用であった76.9%）であった。また計画通り、報告書も作成した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	韓国調査・国内調査ともに計画にしたがって実施されており、報告書も作成した。また、2年次のプログラム開発の際の資料となる国内調査のデータも順調に整理されている。
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
韓国調査でのプログラム事例などは、次年度のプログラム開発の参考にするとともに、韓国調査から得られた知見並びに国内調査の内容などは、次年度の実験プログラムの研修内容及び配布資料として活用する。また、プログラム開発に際してさらなる国内調査を実施する必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
S	①経済と雇用をめぐる環境が厳しさを増すなか、女性たちの課題解決型地域活動をいかに経済的自立につなげ、「女性の活躍による経済社会の活性化」をはかっていくかは、緊急かつ重要な課題である。現状と課題を明らかにするための女性関連施設を対象とした調査、アジア初、社会的企業育成法を制定した韓国の先進事例や先駆的プログラムに関わる調査、さらには国内の先進事例のヒアリング調査など、多面的・総合的な調査はNPECのナショナルセンターならではの取り組みといえる。 ②単に女性のNPOや起業活動を起こすためのノウハウにとどまらず、関連法の制定の意義、行政と民間の「協働」やパートナーシップのあり方、中間支援組織まで踏み込もうとしている点で、独創性・発展性・応用性の大きい調査研究として高く評価したい。 ③本調査研究の結果を、今後のキャリア形成支援研修やリーダー研修、女性関連施設の研修にフルに活用してほしい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(1))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(1)②)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ②男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発

事業名	男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発
事業概要	調査研究目的：男性の家庭・地域への参画の促進をテーマに2年計画で行う調査研究の1年次として、女性関連施設が行っている取組や工夫、地域参画活動を行っている男性の意識や活動についての調査を行い、調査結果について報告書を作成する。
担当課室	研究国際室
スタッフ	客員研究員(1) 研究員(1) 計2名

年度実績概要	
1. 調査研究経過：	(1) 女性関連施設を対象としたアンケート調査の実施および分析 情報課が実施する女性関連施設を対象とした調査にアンケートを同封し、男性を対象とした事業の実施状況について調査した(配布数 357、本テーマへの回答数 253、回答率 70.9%)。 (2) 女性関連施設との連携協力による地域活動を行う男性を対象としたアンケート調査の実施および分析 地域活動を行う男性を対象としたアンケート調査を実施した(配布数 679、有効回収数 577、有効回収率 85.0%、配布都道府県数 42)。男性への調査票の配布は、連携協力する 71 の女性関連施設を通して配布した。 (3) 「連携協力施設」を対象としたアンケート調査の実施および分析 (2) の「連携協力施設」を対象としてアンケート調査を実施した(配布数 71、回収数 71、回収率 100%)。 (4) インタビュー調査の実施 (2) のアンケート調査の回答者から、男性の地域参画を男女共同参画の視点に立って促進する上で参考になる事例を抽出し、インタビュー調査を実施した(インタビュー件数 7)。 (5) 「連携協力施設」担当者を対象とした情報交換会の実施 「連携協力施設」の事業担当者を対象とした情報交換会を実施し、今後の事業展開の具体的な方策等について検討を行った(出席者 42 施設 44 名)。 (6) 報告書の作成 (2)、(3) のアンケート調査結果の報告書を作成した。
2. 得られた知見：	(1) 連携協力した女性関連施設では、男性を対象としたさまざまな取組を行い、講座修了生のグループ形成とその後の活動等、取組の成果がでていることが示された。 (2) 各々の連携協力施設が、男性の調査票配布の際に地域の情報収集を行ったことにより、各地域における男性の活動に関する多くの新たな気づきが得られたことがわかった。 (3) 男性が地域活動を始める契機には、子育て期と退職期の2つの重要な時期があること、また約半数が既に地域活動をしている男性の知人に影響を受けていることがわかった。 (4) 地域活動の地域および自分自身への効果・成果を実感する割合は総じて高く、地域活動が地域への貢献と個人の新たなライフキャリアの両方につながっていることが示された。
3. 調査研究の活用：	1 の(5)に記載した情報交換会において、連携協力施設に対して調査結果の報告を行った。平成24年度の「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」「家庭教育・次世代育成指導者研修」等の研修においても報告を行い、成果の普及に努める。
実績を裏付けるデータ	「連携協力施設」事業担当者を対象とした「男性の家庭・地域参画促進に関する効果的な事業展開に向けた情報交換会」には、42施設から44名が出席し、有用度は100.0%(非常に有用であった45.2%、有用であった54.8%)であった。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：男性にとっての男女共同参画の推進は、第3次男女共同参画基本計画における重要な視点の1つとなっており、本調査研究では、男性の家庭・地域参画を男女共同参画の視点から推進していくための方策等について検討した。 独創性：本調査研究では、「連携協力施設」を通して男性を対象としたアンケート調査を実施し、これらの施設担当者を対象とした情報交換会を開催する等、地域における男女共同参画推進の核となる女性関連施設とNVECとが、協働で今後の事業展開の基盤づくりをめざした点は非常に特徴的である。また、男性を対象としたアンケート調査・インタビュー調査は、男性の地域活動のプロセスやライフキャリアに着目するものであり、NVECの調査研究の蓄積をもとに行う独創的なものである。 発展性：男性を対象とした事業は、多くの女性関連施設において実施されてきているが、男女共同参画の視点に立った地域づくりに向けて、事業実施の方向性等に多くの課題がある。調査研究の成果および連携協力施設同士の情報交換は、今後の各女性関連施設の事業展開に役立てることができると考える。 効率性：本調査研究の実施にあたっては、検討委員会を組織し、外部人材を活用して効率的に進めた。また、女性関連施設へのアンケート調査は、情報課が実施するデータベース調査に同封し、経済的・時間的効率の向上を図った。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度	プログラム・参考資料作成数			
判 定	A	A			
「連携協力施設」事業担当者を対象とした「男性の家庭・地域参画促進に関する効果的な事業展開に向けた情報交換会」には、42施設から44名が出席し、有用度は100.0%(非常に有用であった45.2%、有用であった54.8%)であった。また報告書を作成した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	調査研究は計画通り実施されており、報告書も作成した。また、2年次のプログラム開発の基礎となるアンケート調査の結果やインタビュー調査のデータについても、順調に蓄積されている。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
アンケート調査の結果やインタビュー調査のデータについては、2年次のプログラム開発や参考資料の作成に活用していくとともに、研修事業等で普及に努めたい。また、「連携協力施設」とは、今後の事業展開の基盤づくりに向けて、情報共有・交換の方法・内容を工夫しながら、引き続き連携協力を行う。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	男女共同参画推進のために、男性への効果的なアプローチを見出すことを目的として実施された本調査研究は、アンケートとインタビューから構成されており、量的・質的分析が緻密に行われている。
達成	
	また、本調査の対象者は女性関連施設との連携により得られたものであり、男女共同参画をリードする対象者に焦点を合わせており、この結果の活用をより実践的なものとしている。NVECでなくては、実現が困難な調査研究であると評価する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)①)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ①男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育推進研修

事業名	男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修		
事業概要	目的：一人一人が置かれた状況に応じて柔軟にキャリアを設計できるよう、多様化する個人のキャリアを男女共同参画の視点から社会と結び付け、長期的なキャリア形成支援に資するため、女性関連施設、団体、大学等のキャリア形成支援担当者を対象にNVECのこれまでの調査研究や実践で明らかになりつつある「複合キャリア」の概念や長期的な視野に立ったキャリア形成支援プログラムの立案やサポートシステムの構築等について専門的・実践的に学ぶ。 開催日程：平成23年11月16日（水）～18日（金）2泊3日 会場：NVEC		
担当課室	事業課		
スタッフ	専門職員（1）	係員（1）	計 2名

年度実績概要	1. 研修内容の分析：今年度は「個人の課題を社会と結び付けること」と「長期的な視点をもった支援」を中心課題として取り上げた。全体の講義、調査報告、事例報告で多様なキャリア形成支援の必要性和今後の方向性を学び、「複合キャリア」などの先駆的な概念を取り入れたキャリア概念の捉え直しと支援のあり方を考えた。NVECが開発したキャリア形成支援プログラムを題材としてプログラム開発から実施までのポイントを学んだ後、「社会活動キャリア支援」、「ワーク・ライフ・バランス」、「若年層に対する支援」の3コースに分かれ、ディスカッション及びワークショップ形式の参加型学習を行った。また学習成果として、地域に戻った参加者が地域・組織で実践することを想定した事業（学習）計画案づくりを行った。 2. 研修対象者の厳選：研修対象者は、目的・ねらいを考慮し、地域で多様なキャリア形成支援を推進する拠点となる女性関連施設・社会教育施設等の職員、活動そのものが社会活動キャリアである団体・グループ・NPO等のメンバー、高等教育における推進を目指し大学等のキャリア教育担当教職員等とした。 3. 内容評価：これまでの調査研究等を通じてNVECが概念として整理した「社会活動キャリア」「複合キャリア」を取り上げるなど、NVECの特色を出した。事業（学習）計画案づくりを行った「コース別ワークショップ」の有用度が、他のプログラムよりも非常に高い(100.0%)評価を得るなど、より実践的な内容の研修となった。参加者アンケートからは現状と課題の把握、男女共同参画の視点、地域での実践へのヒントなどを学ぶことができたとの回答が得られた。 4. 影響評価・地域の女性関連施設と共同したプログラム開発（3年計画の1年次）：今年度は学習プログラムの開発にあたり、事業（学習）計画案の内容分析に着手した。フォローアップ調査が研修実施6ヶ月後の平成24年5月に実施予定であることから、これを踏まえ、調査の充実を目指す。		
実績を裏付けるデータ	データ詳細は添付アンケート集計結果参照【】は平成22年度実績		
1. 応募倍率	101.3%（定員80名 応募者81名 参加者75名）【108.8%（定員80名 応募者87名 参加者78名）】		
2. 地域バランス（参加地域）	北海道・東北 13名(17.3%) 関東・甲信越 29名(38.7%) 北陸・東海 6名(8.0%) 近畿 5名(6.7%) 中国・四国 18名(24.0%) 九州・沖縄 4名(5.3%) 【北海道・東北 8名(10.3%) 関東・甲信越48名(61.5%) 北陸・東海 6名(7.7%) 近畿10名(12.8%) 中国・四国 4名(5.1%) 九州・沖縄 2名(2.6%)】		
3. 参加対象者	女性関連施設職員・社会教育施設等の職員 33名(44.0%) 大学等のキャリア教育支援者 12名(16.0%) 団体・グループ・NPO法人等のメンバー 30名(40.0%)		
4. 全体の満足度	93.9%（非常に満足 36.7%、満足 57.2%）【90.2%（非常に満足 23.5% 満足 66.7%）】		
5. 全体の有用度	100.0%（非常に有用 50.0%、有用 50.0%）【95.5%（非常に有用 43.6% 有用 51.9%）】		
6. 目標達成度	多様なキャリア形成支援の現状と課題を把握することができた。 95.3% 多様なキャリア形成支援の必要性和その役割、今後の支援の方向性について知ることができた。95.0% 男女共同参画の視点を学ぶことができた。94.9% 地域・組織で多様なキャリア形成を支援するための事業(学習)計画のヒントを得ることができた。94.9%		

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：本研修のテーマは「第3次男女共同参画基本計画」および平成23年1月に出された中央教育審議会による「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）に示されている施策を参考に設定した。多様な領域、幅広い年代からの参加があり、関心の高さが伺えることから、時宜を得た取組として評価できる。

独創性：NWECの調査研究で明らかになりつつある「複合キャリア」「社会活動キャリア」を取り上げ、個人の課題を社会につなげるためにNWECのこれまでの蓄積を生かしプログラム開発から実施までのポイントを学ぶなど、独創性のある取組として評価できる。

発展性：参加者自身が研修の成果をそれぞれの地域・組織で実践できるよう、課題を生かした事業（学習）計画案づくりを行うなど、発展性のある取組として評価できる。

効率性：事例報告ではNWECが行った調査報告の事例を取り上げた。講師の選定にあたっては調査研究・事業・交流の成果である人的資源を十分に活用するなど、従来より培ってきたネットワークを効率的に活用した取組として評価できる。

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			

応募倍率101.3%【108.8%】
プログラムの有用度100%【95.5%】

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	NWECの調査研究、プログラムを踏まえた内容の研修となっており、先駆的・モデル的研修となった。昨年度の課題であった高等教育機関におけるキャリア形成支援も事例に取り入れるなど、より多様な内容を提供できた。研修内容も講義だけでなく、ディスカッション及びワークショップ形式など参加型学習を多く取り入れたことにより、参加者が自らの課題に主体的に取り組むことができた。これによりプログラムは適切なものであり、ねらいは十分達成できたと考える。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
地域の女性関連施設と協同によるプログラム開発を行うにあたり、今後はフォローアップ調査と事業（学習）計画案の内容分析により、地域課題を把握する必要がある。 今年度は「多様なキャリア形成支援」をテーマとしたが、次年度は参加対象・テーマをより焦点化して実施することも検討したい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	①多様化する個人のキャリアを男女共同参画の視点から社会へとつなげ、生涯を見通した総合的なキャリア形成への支援は、第3期中期目標の喫緊の課題である。これまでのキャリア形成を、NWECが独自に鍛えあげた「複合キャリア」という先駆的な概念でとらえ直し、多様なキャリア形成支援のあり方を学ぶという研修内容や、議論中心のワークショップ形式の参加型学習は、研修の独自性・モデル性・発展性という点で評価したい。それは、全体の有用度100%という参加者の評価からも分かる。
達成	②今年度の主題は「多様なキャリア形成支援」であるが、今後、地域の女性関連施設との協働によるプログラム開発のためには、キャリア教育をめぐる地域課題を十分に踏まえる必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)②)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ②大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進

事業名	大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進
事業概要	目的：大学等におけるキャリア教育の充実に資するよう、大学等とNWECCの協力のもと、NWECCが所属する「社会活動キャリア形成事例」や女性アーカイブセンター資料等を活用した学生を対象とするキャリア教育を実施するもの。23年度は、①埼玉大学、②埼玉県私立短期大学協会、③青森中央学院大学の3機関と連携した授業を実施した。
担当課室	総務課とりまとめ（全課室によるプロジェクトチームによる）
スタッフ	理事1名、総務課1名（専門官）、事業課1名（専門職員）、研究国際室2名（研究国際室長、研究員）、情報課2名（情報課長、専門職員） 計7名

年度実績概要	1. 埼玉大学との連携事業（2年目） 平成22年度に開始した埼玉大学連携プログラムの2年目。さらに学生の学習に役立つ実践的な講義内容を目指し、「男女共同参画社会を考える」（平成23年4月13日～7月27日、全15回：前期授業）のうち3回をNWECCが担当した。うち2回は埼玉大学において理事による「男女共同参画の国際的・国内的動向」、情報課長らによる「専門情報の使い方」「男女共同参画統計データベースを使う」の講義を実施、その他1回は、教員、学生らが来館しNWECC女性教育情報センター、女性アーカイブセンターを見学の他、文献データベースを使い、レポート作成に必要な資料・情報収集を行った。 また、授業のテーマにあわせて、NWECC女性教育情報センターに所蔵する専門図書のパッケージ貸出を埼玉大学教養学部資料センターに行い、履修学生の学習支援の他、多くの学生に利用された。 2. 埼玉県私立短期大学協会との連携事業（2年目） 平成23年9月1日から2泊3日で、「女子学生のためのキャリア形成講座（夏期集中講座）」をNWECCにおいて実施。協会に加盟する3大学の学長と課室横断的なメンバーで構成されたNWECC職員が、事前に4回のプログラム開発のための打ち合わせを行い、子ども学科を中心とする短期大学生（24名が参加）を対象とした、キャリア形成を支援するための講座内容を作成した。 プログラムは、女性が生涯にわたるキャリアを構築していくことの重要性を学ぶ講義に始まり、情報収集の手段を学ぶためのNWECC女性教育情報センターの見学、社会活動キャリアと地域活動キャリアの双方が大切であるという複合キャリアの概念の学習、ワークライフ・バランスを実現させている先輩らの体験談、さらに、事例として挙げたキャリアを形成してきた女性らのキャリアパスを複合キャリアの視点から分析するグループワークなど、さまざまな手法、内容を取り入れた。夜間も、卒業生が卒業後の人生を語る機会が設けられ、打ち解けた雰囲気の中、学生らは身近なキャリアパスを通じてキャリア形成についての理解を深めた。 最初に全学生に対し、キャリア形成に関する意識調査（事前アンケート）を実施し、全プログラム終了後に実施する同内容のアンケートとの比較を通じ、研修の成果の把握に努めた。結果として、研修終了後には、ほとんどの学生に「働くことの重要性を認識した」「キャリア・プランニングについてしっかり考えてみたい」といったキャリア形成に積極的になるという変容が見られた。 3. 青森中央学院大学との連携事業 平成23年6月8日～29日に当該大学で開催された「ワークライフ・バランス」をテーマとした公開ワークショップを大学とNWECCで共催実施した。会場は当該大学であり、対象者は、経営法学を学ぶ学生および市民。全4回のうち、後半の2回の講師をNWECC研究国際室長がつとめた。 また、公開講座のテーマにあわせて、NWECC女性教育情報センターに所蔵する専門図書のパッケージ貸し出しを行い、ワークショップ参加者の理解をより深めるための支援も平行して実施した。 4. 研修内容の特徴 全ての事業において、「事例研究」や「ワークショップ」などの参加型プログラムが積極的に盛り込まれている。また、「情報収集」「キャリア・プランニング」「ワークライフ・バランス」といった具体的なテーマをもとに実践に結びついたプログラム構成となっている。
実績を裏付けるデータ	○連携先と定員（または参加者数） ①埼玉大学 30名 ②埼玉県私立短期大学協会 ・埼玉純真短期大学（子ども学科）11名 ・埼玉女子短期大学（商学科）2名 ・山村学園短期大学（コミュニケーション学科）9名 ・秋草学園短期大学（文化表現学科）2名 ③青森中央学院大学：学生60名、市民90名 ○NWECC女性教育情報センターに所蔵する専門図書のパッケージ貸出冊数 ①埼玉大学440冊（1年間） ②青森中央学院大学200件（1ヵ月間）

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	

適時性：男女共同参画社会を推進する上で、今後の社会を支える人材となる若年層への働きかけ、特に女性の社会参画を進める上での「女子学生を対象とするキャリア教育」は必須である。

独創性：埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会との連携事業において当該事業が学生の単位取得に結びついていることは画期的であり、今後の事業のあり方の可能性を示すものである。

発展性：大学側の企画とNWECCの人的資源やノウハウの蓄積を組み合わせの相乗効果により、発展的なプログラム構成が可能となった。また、埼玉県私立短期大学協会との連携事業では、参加校が昨年より1校増えており、協会における当該事業の評価が高かったことから、次年度は協会に加盟する他の短期大学の参加も期待される。

効率性：埼玉大学、青森中央学院大学との連携事業は、大学の企画の一部にNWECCの提供するプログラムが盛り込まれる形で実現しており、会場の手配や参加者集めなどは大学側が担当したため、こうした事業負担をすることなく男女共同参画に関する学習の場を提供できた。

また、埼玉県私立短期大学協会との連携においては、課室横断的なチームが編成されたが、各部署の知見やノウハウが有機的に結びつき、時間的投資及び人的投資の観点から極めて効率的に事業が遂行された。

2. 定量的評価

観 点 判 定	連携機関数				
	A				

年度計画で定めた連携目標数、「年間2機関以上」をクリアしている。

①埼玉大学
②埼玉県私立短期大学協会
③青森中央学院大学

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	本年から開始された第3期中期目標期間において、NWECCは大学や企業との連携を深めていくという目標を掲げている。その中であって、当初2機関と設定していた目標を上回る3機関（連携大学数は6大学）との連携が実現している。
達成	連携の形も、埼玉大学にみる「専門情報収集スキルの講習、場の提供」、埼玉県私立短期大学協会にみる「プログラムの共同開発」、青森中央学院大学にみる「講師の派遣による知見の提供」など多様であり、今後のNWECC事業の展開の可能性がみられる。 また、大学と連携する場合、参加申し込みに関する業務が大学負担であることから、比較的NWECCの業務負担が軽く、相対的にプログラム内容に比重を置いた事業実施が可能となる。 平成23年度に連携した3つの機関の全てから、平成24年度にも連携事業を実施したいとの申し入れがあったことは、連携先から高い評価が得られたことの証である。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
連携の効率効果を高めるため、業務にかかる経費の負担を大学側に求めることが課題である。 今回、共催事業であることから、青森中央学院大学に講師として職員を派遣するための費用（謝金、旅費）はNWECCが負担したが、次年度からは、この一部を大学側の負担にできないか、また、特に単位科目となっている事業については、プログラム提供について一部大学から料金をいただけないか、ということについて検討を行っていききたい。 「女子学生のキャリア教育」「男女共同参画」などの連携事業を学生生活に根付かせ、一過性のものとしないうちに、今後は、連携先の大学・短期大学図書館や教務部、学生部など学生生活に関係する部署への連携を検討していききたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	①昨今の厳しい雇用環境のもと、将来の人材である大学生を対象に、NWECCが保有する社会活動キャリア形成事例や複合キャリアという概念を活用しつつ、男女共同参画の視点に立ったキャリア教育を実施することは必要不可欠である。大学等と会館という、両者がもつ資源の強みを相互に生かした連携事業であること、また連携機関のうち2機関で、本事業が学生の単位取得に結びついている点は、今後の持続性を約束しており、事業として先駆性・効率性・発展性をもっている。
達成	②本事業は、男女共同参画学習とキャリア教育が個別に実施されている大学の現状を克服し、統合する視点をもっている。 ③「今後の課題」に記述されているように、特に単位科目になっている事業の、連携の効率効果を高めるため、プログラム提供に関する代価を大学負担にすることは妥当性をもっている。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)③)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ③女性関連施設相談員研修

事業名	女性関連施設相談員研修		
事業概要	目的：相談を女性が抱える課題の解決への入り口と考え、女性のエンパワーメント支援をめざし、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談体制を構築するため、女性関連施設の相談員を対象に、男女共同参画の喫緊の課題である配偶者からの暴力、児童虐待、関連機関との連携等の課題解決に必要な知識の習得・相談技能の向上を内容とする専門的・実践的研修を行う。 なお、内閣府委託事業平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」（相談員ワークショップ）北海道・東北・関東甲信越ブロックと合同開催としている。 開催日程：平成23年10月12日（水）～14日（金） 会場：NWEC		
担当課室	事業課		
スタッフ	専門職員（1）係員（1）		計2名

年度実績概要	1. わらい：平成23年度は、「相談から始まる女性のエンパワーメント」をテーマに、女性の相談を「女性の抱える様々な問題の入り口」ととらえ、それらの問題を解決へつなぐ女性相談を目指した。 2. 内容（プログラムの特徴）： 相談員として必要な知識の習得や相談技能の向上を図るため、講義とワークを交えるなど、参加者が主体的に学習できるようなプログラムの工夫を行った。 初めに、女性関連施設における相談業務の意義について考え、喫緊の課題である、配偶者からの暴力の現状についての理解を深めた。適切に対応できる相談技能の取得については、スーパービジョンの技法を取り入れ、当事者理解と相談のすすめ方についての理解を図った。 多様な相談ニーズについては分科会「困難な問題を抱えた当事者への支援を考える」として、「重複被害を受けた被害者」「障がいを持っている被害者」「子どもを連れた被害者」「被災地における女性」の4つのコースでそれぞれの支援と留意点をケース検討した。また、最終日のワークショップでは、「相談から始まる女性のエンパワーメント」として、「人間関係に関する相談から」「児童虐待に関する相談から」のコースを開設し、女性の様々の悩みに寄り添えるケース検討を行った。加えて、相談員の二次的外傷を防ぐため、メンタルヘルスに関する講義・ワークを取り入れ、実践的な知識としてアロマテラピー等によるセルフケアのオプションプログラムを希望者に提供するなど、相談員自身のエンパワーメントもねらった。 3. 成果：参加者の研修後のアンケート調査では、この研修は98.5%が有用と答えており、92.1%が満足であったと回答している。意見・感想では「法と弁護士の立場から被害者支援が現実的に語られ、非常に役に立った」「実務に活きるわかりやすい話だった。先生のエネルギーに背中を押された」等の声が寄せられた。		
実績を裏付けるデータ	データ詳細は添付アンケート集計結果参照【】内は平成22年度実績		
1. 応募倍率：	180.8%（定員120名 応募者217名）【118.3%（定員120名 応募者142名）】		
2. 地域バランス：	北海道・東北51名（33.3%） 関東・甲信越77名（50.3%） 北陸・東海9名（5.9%） 近畿7名（4.6%） 中国・四国6名（3.9%） 九州・沖縄3名（2.0%） 【北海道・東北19名（14.0%） 関東・甲信越62名（45.6%） 北陸・東海23名（16.9%） 近畿10名（7.4%） 中国・四国12名（8.8%） 九州・沖縄10名（7.4%）】		
3. 相談員としての経験年数：	1年未満 17名（11.6%） 1年以上～2年未満 17名（11.6%） 2年以上～3年未満 21名（14.4%） 3年以上～10年未満 57名（39.1%） 10年以上 12名（8.2%） 無回答 22名（15.1%）		
4. 全体の満足度について：	92.1%（非常に満足 43.5% 満足 48.6%）【91.6%（非常に満足 45.8% 満足 45.8%）】		
5. プログラムの有用度について：	98.5%（非常に有用 59.1% 有用 39.4%）【93.8%（非常に有用 51.5% 有用 42.3%）】		
6. 目標達成度：	- 女性関連施設における相談事業の役割と意義を理解することができた。100.0% - 様々な相談への的確な対応や、配慮事項など、実践に役立つ力をつけることができた。96.8% - 相談員としての自分の役割を、振り返り、確認することができた。96.4% - 配偶者からの暴力に関する実態・今日的課題について、知ることができた。96.4% - 研修や交流を通して、相談員としてのエンパワーメントにつながった。96.4%		

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：複雑多様化する女性の悩みの中でも、配偶者からの暴力や女性が抱える困難を講義や分科会のテーマに取り上げた。近年は相談員のバーンアウトが課題になることから、メンタルケアに係わる講義や体験も行い、相談員のエンパワーメントを総合的に支える内容は時宜を得た取組として評価できる。 独創性：NWECの調査研究の成果を活かした情報提供、女性関連施設ならではの視点を入れることで、男女共同参画社会実現に向けた相談業務の意義を考えられるようにするなど、独創性のある取組として評価できる。 発展性：参加者同士が事例を持ち寄って行うケース検討や、相談ニーズの事業化についての検討をプログラムに盛り込んだことから、相談員の技能の向上と相談事業への反映が期待できる点など、発展性のある取組として評価できる。 効率性：内閣府委託事業である、「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」（相談員ワークショップ）北海道・東北・関東甲信越ブロックを一部取り入れることによりプログラム設置にかかる講師選定等の作業期間を短縮するなど、効率性からも評価できる。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度			
判定	A	A			
○応募倍率：180.8% 【平成22年度 118.3%】 ○プログラムの有用度：98.5% 【平成22年度 93.8%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	女性関連施設等の相談員に向け、女性の様々な悩みに関する専門的・実践的な研修を提供できた。特に配偶者からの暴力は被害が複雑多様化しており、最新の情報と課題について理解が深まるよう努めた。女性関連施設等における相談業務の意義と役割の習得、さらに全国からの相談員との交流を支援したことにより、相談員自身の技能、意欲の向上につながったことが感想からも伺える。これらのことから、本プログラムの企画は適切なものであり、ねらいを十分に達成できたと考える。
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
合同開催としている内閣府委託事業平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」（相談員ワークショップ）北海道・東北・関東甲信越ブロックが旅費支給であった。そのため、配偶者からの暴力被害者支援センターからの参加希望者が増加し、応募倍率は180.8%になった。参加者は会場収容人数の限界に達しており、女性関連施設の相談員への研修需要に応じきれなかった。内閣府委託の配偶者暴力被害者支援事業との別開催が必要である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	相談体制の構築と相談技能の向上のために実施された研修は、女性問題の解決に大きな力を発揮する。今回、多様な相談ニーズと現代的課題に対応するために設けられた4つのコース別検討会は、より具体的な視点から相談業務を考え、スキルを向上することに役立つ。また、相談員の二次的外傷の防止にも配慮されており、相談員のエンパワーメントのためにも有益であることがわかる。応募倍率は180%を越えており、当該研修の需要が高いことを示している。有用度、満足度も極めて高く、成果が相談員から相談者へ波及する効果を持つ。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)④)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ④家庭教育・次世代育成指導者研修

事業名	家庭教育・次世代育成指導者研修
事業概要	目的：全国の家庭教育・次世代育成支援の行政担当者、子育て支援に携わる団体のリーダー、企業の次世代育成支援担当者、女性関連施設職員・社会教育施設職員等を対象に、社会全体で家庭教育・次世代育成支援に向け、様々な機関、企業が連携して取り組んでいる事例や男性の子育て参画に関する事例を研修内容に取り上げ、男女共同参画の視点から行う専門的・実践的研修である。 開催期日：平成23年5月13日(金)～14日(土) 1泊2日 会場：NVEC
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1) 計3名

年度実績概要	1. 研修内容の分析：平成23年度は、「家庭と地域でなう子育て・子育て」を主題に、男性の家庭・地域への参画や子育て中の家庭を支える地域の様々なつながりなど、家庭と地域で子育て・子育てをになう上での課題について、施策・動向説明、講義、パネルディスカッション、分科会などを通して検討した。討議や全体会での発表の機会を設けるなど、参加型のプログラムも盛り込んだ。分科会では、事例報告と協議を行い、課題解決につながる実践力を養うことを目指した。調査研究との連携に関しては、平成22年度に実施した「男女共同参画の視点に立った地域全体で取り組む次世代育成支援事業に関する調査研究」の報告を行い、調査研究の成果を研修に反映させた。先駆的な試みとしては、第3次男女共同参画基本計画において、男女共同参画における男性への積極的な働きかけが強調されている点等を踏まえ、男性パネリストによる事例報告等を多数盛り込み、パネルディスカッションを行った。 2. 研修対象者の厳選：本研修は地域ぐるみの子育て支援の推進においては、多様な機関・専門職の連携が不可欠であり、参加者の情報交換・ネットワーク形成を支援する場を提供する点からも、幅広く参加者を受け入れている。平成23年度は、「その他」の区分の参加者が24.1%を占め、保育園職員、児童福祉施設職員、児童館の指定管理者等も参加している。 3. 内容評価：参加者のアンケートからは、有用度98.8%、満足度94.1%と共に高い評価を得ることができた。
実績を裏付けるデータ	データ詳細は添付アンケート集計結果参照【】は平成22年度実績 1. 応募倍率：102.5%（定員120名 応募者123名）【100.7%（定員150名 応募者151名）】 2. 参加者内訳：家庭教育関係行政担当者11名(9.8%)、子育て支援関係行政担当者22名(19.6%)、子育てネットワーク等のリーダー31名(27.7%)、企業の次世代育成支援等担当者3名(2.7%)、女性関連施設職員等9名(8.0%)、社会教育施設職員5名(4.5%)、その他27名(24.1%)、無回答4名(3.6%) 【家庭教育関係行政担当者17名(12.9%) 子育て支援関係行政担当者16名(12.1%)、子育てネットワーク等のリーダー28名(21.2%)、企業の次世代育成・社会貢献活動担当者7名(5.3%)、女性関連施設職員・社会教育施設職員15名(11.4%)、その他43名(32.6%)、無回答6名(4.5%)】 3. 参加者の地域バランス：北海道・東北3名(2.7%)、関東・甲信越92名(82.1%)、北陸・東海8名(7.1%)、近畿3名(2.7%)、中国・四国5名(4.5%)、九州・沖縄1名(0.9%) 【北海道・東北2名(2%) 関東・甲信越105名(79%) 北陸・東海6名(4.5%) 近畿6名(4.5%) 中国・四国5名(4%) 九州・沖縄8名(6%)】 4. 有用度：98.8%（非常に有用43.8% 有用55.0%）【92.5%（非常に有用46.8% 有用45.7%）】 5. 満足度：94.1%（非常に満足35.3% 満足58.8%）【96.6%（非常に満足37.5% 満足59.1%）】 6. 目的達成度： ・男女共同参画の視点を持った子育て支援を理解することができた96.8% ・男性の家庭・地域への参画の現状と課題を把握することができた98.4% ・男女共同参画を推進する施設や団体が行う子育て支援と地域づくりの現状と課題を把握することができた94.6%

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：男性の家庭・地域への参画について、パネルディスカッションを通して多様な視点から男性が子育てに参画する上での課題を把握する等したことは最新の関連施策である第3次男女共同参画基本計画を踏まえたものであり、時宜を得た取組として評価できる。 独創性：分科会では、ワークショップの手法を取り入れ、参加者自身が、課題解決につながる実践力・関係力を養った。家庭教育支援と次世代育成支援の両方について、1回の研修のなかで学ぶ機会を提供していることはNWECの独創性をいかした取組として評価できる。また、宿泊研修の利点を活かし、全日程を通じて、参加者同士の情報交換やネットワーク形成を支援した。 発展性：参加者アンケートでは、高い有用度と満足度が得られており、研修成果を活かした子育て支援講座や講演会等の開催など、今後の地域での事業企画・実践につながる取組が期待されることから、発展性のある取組として評価できる。 効率性：講義、事例報告等の講師については、これまでNWECで実施した調査研究等への協力者や客員研究員に依頼するなど、NWECが培った人的資源、ネットワークを活かして短期間の間に講師を選出しており、効率性からも評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
応募倍率：102.5%（定員120名、応募者123名）【100.7%（定員150名、応募者151名）】【22年度実績】 プログラムの有用度：98.8%（非常に有用43.8＋有用55.0）【92.5%（非常に有用46.8＋有用45.7）】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	家庭教育・次世代育成支援の行政担当者や子育てネットワーク等のリーダーなど地域ぐるみの子育て支援を推進していく上での指導者に対して、最新の情報や参加型プログラムの提供、宿泊研修の利点を活かした参加者同士の情報交換やネットワークづくりの支援を行うことができた。アンケートによると、有用度98.8%、満足度94.1%と、共に高い評価を参加者から得ることができた。これらのことから、家庭と地域で担う子育て・子育ての課題となっている男性の家庭・地域への参画や子育て中の家庭を支える地域の様々なつながりについて、パネルディスカッションや事例報告を通して検討するプログラム企画は適切であり、ねらいは十分達成できたと考えられる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
男女共同参画の視点から社会全体で担う子育て支援のあり方について検討する家庭教育・次世代育成支援者のための研修は必要である。今後は特に、第3次男女共同参画基本計画をふまえ、社会全体での子育て支援を推進していく上で課題となっているワーク・ライフ・バランスの推進と両立支援や地域で子育て支援に関わる女性のエンパワーメント、男性の子育て支援活動への参画などに重点を置く必要がある。 事例報告者の選定については、参加者が、翌年度以降の研修で事例報告者等となることによって、循環型の人材育成を行い、研修成果のさらなる波及効果をねらいたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	本研修の特徴は、これまでの調査研究の成果を踏まえ、参加型のプログラムを盛り込み、課題解決のための実践力を養うことを目指した点である。参加者の職業は行政から企業、NPOなどと多岐にわたり、多様な関係者の関心を集めている。
達成	参加者のアンケートによれば、本事業の有用度、満足度ともに高く、プログラム内容と方法が優れていたことが評価されている。男性の参加者が全体の2割であった。男性の参加と企業の次世代育成推進者の参加がもう少し増えると良い。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)⑤)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ⑤行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

事業名	【新規事業】配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ 管理職ワークショップ(主管課長) (内閣府委託事業)		
事業概要	目的：全国の配偶者暴力相談支援センターを主管している部(局)の課長級を対象に、配偶者からの暴力についての基本的な知識をはじめ、支援センターにおける関係機関との連携モデル、支援センターの効果的な運営及び情報交換等を内容とした管理職研修を行う。 開催期日：平成23年7月11日(月)～12日(火) 1泊2日 会場：NVEC		
担当課室	事業課		
スタッフ	専門職員(1) 事業主任(1) 係員(1)		計3名

年度実績概要	1. ねらい： 管理職に求められるマネジメントと地域において官官・官民の連携体制を構築していく上での工夫を中心課題として取り上げた。 2. プログラムの内容： 初日は、配偶者等からの暴力について基本的な理解を深める講義、関係省庁による施策や最新の動向についての説明、「加害者対応マニュアル」を用いた講義といったように基本的・実務的な内容を中心とした。2日目は、午前中に、管理職に求められるマネジメント、地域において官官・官民の連携体制を構築していく上での工夫について講義を通して学んだ。午後は、分科会「管理職の役割」として、参加者が二日間を通して学んだ内容を踏まえ、主体的に協議に参加することのできるよう、県からの参加者・市区町からの参加者等に分かれ、管理職としての悩みや連携に際しての課題等のテーマで話し合いを深め発表した。 3. 成果： 研修後のアンケートでは、90.9%の満足度と100.0%の有用度を得ることができた。参加者の満足した理由は、「ワークショップに参加して知識の整理や情報を得ることができてとても良かった」、「配偶者暴力に関するまとまった講義を初めて受講し、現状課題等が明らかになった」、「配偶者暴力対策の全体像を把握することができた。また、各県の話聞いて同じような課題を抱えていると感じた」などが挙げた。また、目標達成度では、全員から「配偶者等からの暴力について、その特徴や被害者の状況、必要な支援など「配偶者からの暴力」に関する基本的な事柄についての知識を得ることができた」との回答(100%)を得た。		
実績を裏付けるデータ	(データ詳細は添付アンケート集計結果参照)		
1. 応募倍率：	[募集は内閣府が実施] 51.5% (定員68名 応募者35名)		
2. 地域バランス：	北海道・東北 3名 (8.6%) 関東・甲信越 16名 (45.7%) 北陸・東海 3名 (8.6%) 近畿 5名 (14.3%) 中国・四国 5名 (14.3%) 九州・沖縄 3名 (8.6%)		
3. 現職経験年数：	1年未満 20名 (57.1%) 1年以上～2年未満 11名 (31.4%) 2年以上～3年未満 2名 (5.7%) 3年以上～4年未満 1名 (2.9%) 4年以上～5年未満 0名 (0.0%) 5年以上 0名 (0.0%) 無回答1名 (2.9%)		
4. 全体の満足度について：	90.9% (非常に満足 21.2% 満足 69.7%)		
5. プログラムの有用度について：	100.0% (非常に有用35.5% 有用64.5%)		
6. 目標達成度	・配偶者等からの暴力について、その特徴や被害者の状況、必要な支援など「配偶者からの暴力」に関する基本的な事柄についての知識を得ることができた。100.0% ・配偶者等からの暴力に関する相談事業を実施する機関等の管理職としての意識が高まった。93.9% ・安心して相談することのできる支援体制づくりについて学ぶことができた。90.9%		

自己点検評価調査書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
○適時性：喫緊の課題である配偶者からの暴力被害者支援として、相談事業を統括する課長に対して、配偶者からの暴力について基本的な知識、相談員の資質向上連携のあり方等を内容とする研修を実施したことは時宜を得た取組として評価できる。 ○独創性：今年度は、配偶者暴力相談支援の管理職を「主管課長」と「支援センター長」に分け、別々の研修会とした。これにより、参加者が同じ立場同士で交流することができ、それぞれの機関が抱える課題や情報の共有を促進するなど、交流事業を長年実施してきたNVECならではの独創性のある取組として評価できる。 ○発展性：全国から集まった参加者が、協議を通じてそれぞれが抱える課題について意見交換を行い、「主管課長」同士のネットワークづくりができた。管理職の意識啓発と資質向上は、現場の実務に与える影響が大きく、発展性のある取組として評価できる。 ○効率性：プログラム企画や講師選定については、企画委員の協力を得るなどしたことは、内閣府に加えてNVECの人的ネットワークをいかした効率性のある取組として評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率：51.5%【募集は内閣府が実施】 ○プログラムの有用度：100.0%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	喫緊の課題である配偶者からの暴力に関する支援者に対し、NVECの今までの研修成果とネットワークを活かし、内閣府と各専門家と連携を図りながら、専門的・実践的なワークショップを実施することができた。プログラムの有用度が高かったことから、参加者に役立つ研修会として、関係機関との連携を促進する有意義な事業であった。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○本事業は内閣府委託事業であり、今年度は企画の立案や運営で、NVECの創意や工夫を盛り込むことができず、内閣府の指定したプログラムの実施とその後のアンケート集計等の業務に限定されていた。次年度も同様の委託事業であれば、受託については見送りを含め検討を要する。 ○参加者募集と広報については全面的に内閣府の担当であったが、昨年度と比較した際の応募倍率減少については、1泊2日という日程が原因のひとつと予想され、東京都心での日帰り開催を含めた開催期間等の検討を要する。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	主管課長を対象とした本事業は、知識の獲得と同時に官官、官民の連携や情報交換を目的としており、国内における課題理解や問題点の発見に意義ある内容となっている。参加者のアンケート結果は、有用度、満足度が極めて高く、今後の支援事業に効果的であると考え。残念なのは、応募倍率が51.5%と他の事業に比べ、低調であったことである（募集は内閣府）。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)⑤)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ⑤行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

事業名	【新規事業】配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ 管理職ワークショップ(支援センター長) (内閣府委託事業)		
事業概要	目的：全国の配偶者暴力相談支援センター長を対象に、配偶者からの暴力についての基本的な知識、相談員の資質向上、関係機関との連携のあり方等を内容とした管理職研修を行う。 開催期日：平成23年7月14日(木)～15日(金) 1泊2日 会場：京都府男女共同参画センター らら京都		
担当課室	事業課		
スタッフ	専門職員(1) 事業主任(1) 係員(1)		計3名

年度実績概要	
1. ねらい： 管理職（支援センター長）に求められるマネジメントと地域において官官・官民の連携体制を構築していく上での工夫を中心課題として取り上げた。 2. プログラムの内容： 初日は「加害者対応マニュアル」を用いて、配偶者等からの暴力について基本的・実務的な理解を深める講義を行うとともに、分科会において「管理職の役割」についての認識を深めた。 2日目は、午前中に、関係省庁による施策や最新の動向についての説明からDVに対する取り組み等の情報を得るとともに、管理職に求められるマネジメント、地域において官官・官民の連携体制を構築していく上での工夫を学んだ。午後は、分科会「都道府県の支援センター長」と「市区町村の支援センター長」で別々のグループを作り、それぞれの立場での課題検討会とした。最後にグループでの話し合いをまとめ発表した。 3. 成果： 研修後のアンケートでは、86.4%の満足度と98.6%の有用度を得ることができた。参加者の満足した理由は、「管理職の役割、現場での対応など、必要な課題に関することでもよかった」、「センター長の集まりだけに、意識レベルの高い発表が聞けた」といった内容が挙げられた。	
実績を裏付けるデータ（データ詳細は添付アンケート集計結果参照）	
1. 応募倍率 [募集は内閣府が実施] 46.7% （定員150名 応募者70名） 2. 地域バランス 北海道・東北 8名（11.4%） 関東・甲信越 17名（24.3%） 北陸・東海 7名（10.0%） 近畿 15名（21.4%） 中国・四国 11名（15.7%） 九州・沖縄 12名（17.1%） 3. 現職経験年数 1年未満 20名（28.6%） 1年以上～2年未満 14名（20.0%） 2年以上～3年未満 8名（11.4%） 3年以上～4年未満 3名（4.3%） 4年以上～5年未満 3名（4.3%） 5年以上 12名（17.1%） 無回答10名（14.3%） 4. 全体の満足度について 86.4%（非常に満足 22.8% 満足 63.6%） 5. プログラムの有用度について 98.6%（非常に有用41.2% 有用57.4%） 6. 目標達成度 ・配偶者等からの暴力について、その特徴や被害者の状況、必要な支援など「配偶者からの暴力」に関する基本的な事柄についての知識を得ることができた。97.1% ・配偶者等からの暴力に関する相談事業を実施する機関等の管理職としての意識が高まった。93.7% ・配偶者等からの暴力の被害者支援について最新の情報を得ることができた。92.7%	

自己点検評価調査書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
○適時性：配偶者からの暴力被害者支援センターは、増加する被害相談者の対応に追われており、配偶者等からの暴力について、その特徴や被害者の状況、必要な支援などについての最新の情報を得ることができる本研修は時宜を得た取組として評価できる。 ○独創性：参加者にはあらかじめ課題を提出させ、実際に直面している内容に即したグループワークを行った。また、講師に各省庁の担当者を招へいし最新情報を提供したほか、昨年の経験を踏まえ、あらかじめ参加者から寄せられた質問等について講義内で回答いただくなど、研修事業を多数実施している本会館ならではのプログラムとなり、独創性のある取組として評価できる。 ○発展性：全国から集まった参加者が、協議を通じてそれぞれが抱える課題について意見交換を行い、「支援センター長」同士のネットワークづくりができた。管理職の意識啓発と資質向上は、現場の実務に与える影響が大きいと言える。 ○効率性：プログラム企画や講師選定について、企画委員の協力を得るなどしたことは、内閣府に加え会館の人的ネットワークをいかした効率性のある取組として評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率：46.7%【募集は内閣府が実施】 ○プログラム有用度：98.6%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	喫緊の課題である配偶者からの暴力に関する支援者に対し、会館の今までの研修成果とネットワークを活かし、内閣府や各専門家と連携を図りながら、専門的・実践的なワークショップを実施することができた。プログラム有用度が98.6%と高かったことから、参加者に役立ち、関係機関との連携を促進する事業であった。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○本事業は内閣府委託事業であり、本年度は企画の立案や運営で、国立女性教育会館の創意や工夫を盛り込むことができず、内閣府の指定したプログラムの実施とその後のアンケート集計等の業務に限定されていた。次年度も同様の委託事業であれば、受託については見送りも含め検討を要する。 ○参加者募集と広報については全面的に内閣府の担当であったが、応募倍率は46.7%と低調であり、これは1泊2日という日程が原因のひとつと予想される。全国3～4ブロックに分け、日帰りでの実施で行うなど開催期間等の検討を要する。 ○参加者の主体的な学習を重視したプログラムとするため、協議の時間をできる限り確保すべきである。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	支援センター長を対象とした本事業は、マネジメントと官官、官民の連携体制構築をねらいとした。参加者の本事業への満足度と有用度は高く、センター長を一堂に会したこの事業が貴重な時間であり、有益なものであったことがわかる。しかし、応募倍率が46.7%で、定員の半数以下であった（募集は内閣府）。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	1 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)⑤)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ⑤行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

事業名	【新規事業】配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ 相談員ワークショップ (内閣府委託事業)		
事業概要	目的：配偶者からの暴力相談支援センターや男女共同参画センター等の配偶者からの暴力に関する相談経験が2年以上の相談員を対象に、高度な知識と技術を取得するため、様々な事象への的確な対応方法や配慮事項など、専門的・実践的な内容のワークショップを全国の3会場で実施した。(下記参照) ○中国・九州・沖縄ブロック 開催期日：平成23年10月4日(火)～5日(水) 1泊2日 会場：福岡県男女共同参画センターあすばる ○北海道・東北・関東甲信越ブロック 開催期日：平成23年10月12日(水)～13日(木) 1泊2日 会場：NVEC ○中部・近畿・四国ブロック 開催期日：平成23年11月1日(火)～2日(水) 1泊2日 会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター		
担当課室	事業課		
スタッフ	専門職員(1) 事業主任(1) 係員(1)		計3名

年度実績概要	
1. ねらい： 平成23年度は、最新の情報や専門的な知識を提供すること、並びに参加者が抱えている課題や事例をもとに検討し合う場を充実させることで、より実践的な内容となるようにした。 2. プログラムの内容 知識に関しては、支援現場における最新の状況や課題、被害者心理の理解のための対応のあり方、複雑多様化する暴力の特徴などを講義で学ぶこととした。そのうえで、参加者が抱えている事例に基づいたスーパービジョンや、困難事例への対応に関するケース検討を行い、実践に即した学習の場を提供した。講師は、配偶者暴力被害者の支援で活躍する中の第一人者に依頼した。また、「相談員のメンタルヘルス」についても心理学博士や精神科医から学んだ。 3. 成果 参加者のアンケートによると、全体の有用度は、平成22年度の95.2%から99.2%へ増加しており、特に「非常に有用」と回答した者の割合が55.7%と言う高い値になっている。「非常に有用」とした理由では、「民間でDV支援をやっている方々はとてもパワフルで、良い刺激となった」「日頃の学習不足をも痛感。今後の業務に生かしたい」「相談業務をするうえで参考になることばかりだった」という声が寄せられている。	
実績を裏付けるデータ	(データ詳細については添付アンケート集計結果を参照)
1. 応募倍率：163.0% (定員270名 応募者440名) 2. 地域バランス： 北海道・東北 49名 (17.7%) 関東・甲信越 68名 (24.5%) 北陸・東海 33名 (11.9%) 近畿 58名 (20.9%) 中国・四国 27名 (9.7%) 九州・沖縄 42名 (15.2%) 3. 相談員としての経験年数： 3年未満 65名 (24.4%) 3年以上～5年未満 62名 (23.3%) 5年以上 90名 (33.8%) 無回答 49名 (18.4%) 4. 全体の満足度について： 91.8% (非常に満足 36.5% 満足 55.2%) 5. プログラムの有用度について： 99.2% (非常に有用55.7% 有用43.4%) 6. 目標達成度： ・相談員としての自分の役割を振り返り、確認することができた。98.1% ・研修や交流を通して、相談員としてのエンパワーメントにつながった。98.0% ・配偶者からの暴力に関する実態・今日的課題について、知ることができた。97.6%	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

○適時性：喫緊の課題である配偶者からの暴力被害者に対応する職員等については、官・民を問わず一層の経験と知識を求められており、時宜にかなっている。

○独自性：被害者の心理状況をより深く理解するために、フェミニストカウンセリングを用いた対応について学んだ。実践的研修として、参加者の事例に基づいたスーパービジョンの手法を取り入れた。

○発展性：同期間に開催した女性関連施設相談員研修の参加者も交え、全プログラムを通じて全国レベルの情報交換・交流を実施した。実践に役立つ情報や研修成果は実務での活用が期待できる。

○効率性：事業に関する必要経費を内閣府からの委託金で実施した。また、プログラム企画や講師の選定については、企画委員の協力を得て、質の向上に努めた。

女性関連施設相談員研修と同時開催とすることにより、資料作成や事例収集等において効率的に実施することができた。

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			

○応募倍率：163.0%

○プログラム有用度：99.2%

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	喫緊の課題である配偶者からの暴力被害者を支援する相談員に向けて、企画委員、内閣府と適宜連携を図りながら、専門的・実践的な研修を実施することができた。全国から参加がある研修において、スーパービジョンの手法を取り入れ、参加者の課題にそった実践的な内容であったと高い満足度をいただいた。「多方面の知識を得られた」「研修により力を得た」という声もあがっている。これらのことから本企画は適切であり、目的を十分に達成したと考えられる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○NWECで開催した北海道・東北・関東甲信越ブロック向け研修では、女性関連施設の相談員研修と同時開催のため、応募人数が収容人数の上限に達し、研修に参加できなかった希望者が多数発生した。
○福岡や大阪の開催では、会場との連絡調整、物品の調達・搬送など煩雑な作業が多かった。また、参加者旅費計算作業や振込手続きなどで内閣府との確認作業が膨大になり、予想以上の手間を要した。
○本研修は、配偶者からの暴力被害者支援に特化した配偶者からの暴力相談支援センター相談員に向けたプログラムであり、フェミニストカウンセリングの視点や暴力被害を伴わない女性相談の内容が含まれていないなど、NWECで受託事業として実施する課題も多い。よって、次年度も同様の委託事業であれば、受託の見送りを含めて検討を要する。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	相談員を対象に3会場で開催され、最新の情報と専門知識の獲得を目的とした。 国内の現状把握と最新の支援方法、さらに相談者のメンタルヘルスの講義は、こうした場でなくては得られないものである。また、スーパービジョンを体験するワークショップ、ケース検討会は、相談員の交流を促す内容となっている。応募倍率は163%であり、当該研修の事業の需要が高いことがわかる。参加者アンケートでは、本プログラムの有用度99.2%、満足度は91.8%となっており、優れた内容であったことが評価されている。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供
年度計画の項目 (I-3-(1)) ①②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供 ①男女共同参画統計に関する調査研究 ②調査研究成果の普及

事業名	男女共同参画統計に関する調査研究
事業概要	調査研究の目的： 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供のために5年計画で男女共同参画統計に関する調査研究を実施している。 本年度は「男女共同参画統計データブック2009」の内容を見直し、データを更新するとともに、新たな課題に対応するデータを収集・分析し、「男女共同参画統計データブック2012」を作成する。また「男女共同参画統計ニュースレター」を年3回配信する。
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(1)、客員研究員(1)、情報課専門職員(1) 計4名

年度実績概要	1. 「男女共同参画統計データブック2012」の刊行 男女共同参画に関する統計を人口、家族、労働、生活時間、教育、福祉、健康、安全、災害、意思決定、意識調査の分野から収集し、14章からなる「男女共同参画統計データブック2012」を作成した。1人口 2家族と世帯 3労働力と就業 4労働条件 5企業 6生活時間と無償労働 7家計と資産 8教育と学習 9社会保障と社会福祉 10健康と保健 11安全と犯罪 12自然災害 13意思決定 14意識調査 2. 「統計リーフレット」の作成 「男女共同参画統計データブック2012」で収集した最新データをもとにミニ統計集「日本の女性と男性」のデータを更新してリーフレットを作成した。 3. 「男女共同参画統計ニュースレター」の作成 男女共同参画に関する国内外の動き、自治体の取組、データ解説などを発信する「男女共同参画統計ニュースレター」を年3回作成し配信した。 4. 「男女共同参画統計ニュースレター」配信先を1,508件まで拡充した。
実績を裏付けるデータ	男女共同参画統計ニュースレター配信数 女性関連施設、大学研究所・学会、研究者等 第6号 1,399件 第7号 1,401件 第8号 1,508件

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：本調査研究は、第3次男女共同参画基本計画でも重視されている、男女共同参画統計に対応するものである。「男女共同参画統計データブック」2012年版は、データを更新するだけでなく、東日本大震災を踏まえ、「自然災害」の章を新設するとともに、現在大きな課題となっているワーク・ライフ・バランスに対応するため、これまで労働条件の章に掲載されていたデータを見直し、新たに「企業」の章を新設した。 独創性：「男女共同参画統計データブック」は2003年に刊行されて以来、3年ごとに刊行している。データを更新するだけでなく内容の見直しや男女共同参画に関する情報（国内外の動き、用語解説、文献、ウェブサイト案内など）の充実を図っている。さらに男女共同参画統計データブックだけではなく男女共同参画統計ニュースレターや統計リーフレットなどと関連づけて事業を展開しており、他に例を見ない。 発展性：「男女共同参画統計データブック」「男女共同参画統計ニュースレター」の活用によって、女性関連施設の事業展開や女性団体の活動の充実に寄与すると考えられる。また、大学での授業に活用されることによって、若い層の男女共同参画に理解が深まることが期待される。 効率性：「男女共同参画統計データブック」は出版社を通して販売する。出版社の持つルートで販売先が拡大するとともに、編集、校正、チラシの作成などを依頼することによって効率的に進めることができた。					

2. 定量的評価

観 点	男女共同参画統計ニュースレター配信先				
判 定	A				
「男女共同参画統計ニュースレター」は、NVEC講師、委員等への新規配信先を増やし、年度目標の1,500件を達成した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	中期計画通り、男女共同参画統計データブック2012を作成した。新たな課題に対応した男女共同参画統計データブック2012によって、ナショナルセンターとして地域の機関で活用できる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的なデータを提供することができた。併せて「男女共同参画統計ニュースレター」での、男女共同参画統計に関する最新の情報の発信は、日本の男女共同参画の推進に寄与するものとする。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
男女共同参画統計データブック2012は作ることだけが目的ではない。来年度以降は、どのように活用していくかが課題である。研修事業や交流事業の中で、効果的な説明やワークショップなどに工夫をこらした活用を図りたい。さらに男女共同参画統計データブックの中からデータを選び、対象別の研修参考資料を作成することも必要と考えている。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	「男女共同参画統計データブック」は2003年に刊行されて以来、3年ごとに刊行されており、男女共同参画の現状と推移を把握する上で、極めて貴重な資料となっている。
達成	また、「男女共同参画統計ニュースレター」を作成・配信するなど、男女共同参画にかかる現状について実証的データをもってわかりやすく発信しており、ナショナルセンターにふさわしい、有意義な取組みを進めている。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ①③	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ①男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供 ③資料・情報の館外への貸し出し

事業名	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供と館外貸出
事業概要	目的：男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、基本的かつ全国的な資料・情報を計画的に収集・整理し、利用者に提供するとともに、レファレンス・サービス、文献複写サービス、図書資料の展示などによる情報提供を行う。
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長（1）専門職員（3）情報係長（1）係員（3）計8名

年度実績概要	
1. 資料・情報の収集 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集を図った。 (1) 収集資料 ・図書資料 受入4,362冊、累計122,703冊（H22年度は2,332冊。H23の内1,557冊は(2)棚町コレクション参照） ・新聞切り抜き 受入 19,501点、累計 323,111点 ・洋雑誌 継続受入 88誌、新規受入 2誌、受入中止（休廃刊含む） 14誌、累計731誌（62カ国） ・和雑誌 継続受入 667誌、新規受入 62誌、受入中止（休廃刊含む） 20誌、累計3,206誌 ・海外の専門データベース 3点 ・埼玉県地域共同リポジトリSUCRA 登録アイテム 46件、累計573件 なお、資料収集の重点化を目指して、図書選定作業に新刊自動配本サービスを導入した。 (2) 新設コーナー ・棚町知彌氏（国文学研究資料館名誉教授、園田学園女子大学近松研究所初代所長）が収集した女性著者の署名本1,557冊の寄贈を受け「棚町コレクション～自署名本にみる昭和の女たち～」として展示コーナーを新設した。 ・「女性研究者研究活動支援事業」採択大学及び埼玉県下の大学の男女共同参画担当部署が発行するニュースレター等36誌を収集し、新コーナーを設置した。 2. 収集資料の利用状況 【貸出数】 (1) 館外貸出サービス 国立情報学研究所のNACSIS-CAT/ILL、埼玉県内公共図書館間相互貸借サービス、パッケージ貸出、個人への館外貸出を利用した貸出が302件、8,858冊あり、昨年度（171件、4,049冊）より大幅に増加した。 (2) 図書パッケージ貸出 平成22年6月よりサービスを開始した図書のパッケージ貸出サービスは、昨年より17機関拡大（大学22、女性／男女共同参画センター3、女性団体1、研究機関1、企業1）し、前年度からの継続を合わせて計27機関へ55回、8,438冊貸しと、貸出機関、冊数とも大幅に増加した。特に、23年度は企業の専門図書室への貸出を開始し、研究者・学生や男女共同参画関係者のみならず、一般社会人への男女共同参画情報の提供を実現した。また、東京大学駒場図書館と京都大学附属図書館では、図書が利用者の手に取られた数のカウントや、書棚から離れている時間を計測するシステムの実証実験を行い、利用者ニーズの把握に努めた。 【レファレンス・サービス】 レファレンス・サービス件数は898件と、昨年685件より増加した。	

【文献複写サービス】

国立情報学研究所のNACSIS-ILLシステムや、メール・FAX・WEBでの直接申込みが計928件と、昨年845件より増加した。

【情報提供】

(1) 女性教育情報センター見学(33件、558名)

利用者の希望に応じて女性教育情報センターの資料や利用方法について、職員による説明を行った。また、NWEC主催事業のプログラムとして見学を実施した。

(2) 情報研修プログラム(5件、39名)

「女性情報ポータルWinetの使い方」をはじめ、女性デジタルアーカイブシステム、NWEC作成データベースの基本的な使い方を習得する1時間コースの実技研修を提供した。

【図書資料の展示】

東日本大震災の経験から、災害時に必要とされる女性の視点をテーマにした「女性と災害」や、第3次男女共同参画基本計画の新たな分野から「男性にとっての男女共同参画」等をテーマに、図書資料の展示を年4回実施した。主催事業や社会のテーマに合わせて、積極的に情報提供を行うことで、男女共同参画の推進のための学習・教育の支援に役立った。

3. その他、情報発信、学習支援

(1) 埼玉県地域共同リポジトリSUGRAIにNWECが発行する調査研究の成果物等を掲載し、世界に広く発信した。

(2) 埼玉大学男女共同参画室との連携授業を実施した。大学1、2年生30名を対象とした授業において、講義「男女共同参画社会を考える」、実習講義「専門情報を使う」「男女共同参画統計を学ぶ・女性と男性に関する統計データベースを使う」では専門情報収集の手法を講義した。さらにNWECにおいて、女性教育情報センターの見学と、レポート作成のための資料収集の支援を行った。

(3) 創価女子短期大学において、図書パッケージ貸出サービスと合わせて、女性情報ポータルWinetの使い方や資料の調べ方についての講習会を行った。

実績を裏付けるデータ

- ・ 収集資料統計(平成24年3月31日)
- ・ 利用状況統計(平成24年3月31日)
- ・ 展示実施状況一覧

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：学習支援、事業支援として様々なテーマの図書をパッケージ化して機関に貸し出すサービスは、遠隔地であっても多くの利用者が女性教育情報センターの図書を利用することができ、男女共同参画の推進のための学習を支援するナショナルセンターとして、高く評価できる。また「災害と女性」、第3次男女共同参画基本計画の新たな分野である「男性にとっての男女共同参画」をテーマにした図書等資料のテーマ展示は、時宜に合わせた事業として評価できる。

独創性：NVEC設立当初から34年分にわたり全国・地方紙（50紙）から女性関連記事を収集している「新聞切り抜き」は、男女共同参画の視点を持った専門性に優れたコレクションであることが高く評価できる。

発展性：大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示は、各自治体の男女共同参画部署が発行する資料の収集・展示と合わせて、大学とNVEC、行政とNVEC、市民とNVECを、組織を超えて結ぶ連携のとして、将来性、モデル性が評価できる。

効率性：図書パッケージ貸出サービスにおいて、利用者動向調査のためのシステムを取り入れたことは、人的投資をかけず、今後の利用者ニーズの把握ができる将来性、効率性が評価できる。

2. 定量的評価

観 点	パッケージ貸出				
判 定	A				

昨年に引き続き利用機関を確実に拡大し、今年度27機関に対して年間55回、延べ8,438冊の資料を貸出した。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	地域レベルでは収集困難な広域的・専門的な国内外の資料・情報の収集、提供に着実に取り組んでいる。今年度、大学の男女共同参画担当部署の発行資料の収集をはじめたことは、ナショナルセンターとしての取り組みとして評価できる。
達成	図書パッケージ貸出サービスでは、利用機関の大幅な拡大を実現し、男女共同参画の推進のための学習支援に貢献した。また、大学との連携授業や講習会の開催は、女性教育情報センターの専門知識を活かした学習支援として今後の発展が期待できる取り組みである。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○図書パッケージ貸出業務の定型化、効率化と、今後の利用機関の拡大へ対応するため、利用機関と連携して業務のルーチン化を検討する。 ○試行的に導入した利用者動向調査のためのシステム、新刊自動配本サービスの利用について、評価・検討を行う。 ○学習支援の充実として、大学との連携事業や学習支援の経験を基に、専門図書館としての豊富な資料や電子データの活用法を積極的に広報する。 ○資料収集について、引き続き見直しと重点化をすすめる。 ○遠隔利用者サービスの工夫を検討する。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	男女共同参画に関する全国的な図書館として、広範囲で専門性に富む、貴重なコレクションを有している。その範囲、種類、ボリュームは適切であり、ナショナルセンターにふさわしい活動といえる。また、資料の利用状況等をもて、図書パッケージ貸出サービスにおける利用機関の拡大や大学との連携等が着実に進んでおり、高く評価できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

事業名	女性情報ポータル及びデータベースの整備充実
事業概要	「女性情報ポータル“Winet”(Women's information network, ウィネット)」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。 下記要素で構成され、データやコンテンツを継続的に整備充実することで、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザーのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。 平成23年4月にトップページをリニューアル公開した。 ①女性情報ナビゲーション（リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内） ②NWECC作成のデータベース ③女性情報CASS（NWECC作成のデータベース及び他の関連機関のデータベースの横断検索）
担当課室	情報課
スタッフ	専門職員（3） 係員（3） 計6名

年度実績概要	
1. 方針	女性情報ポータル“Winet”の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指し、英語版の作成を実施。 ○データベース化件数：545,671件（27,088件増） ○アクセス件数：273,456件（12,663件増）
2. 女性情報ポータルトップ画面リニューアル、英語版の作成	「ユーザーにもっと届きやすく」をコンセプトにトップページを開発、下記4点の「見える化」を実現。 昨年度の日本語版に続き、今年度は英語版を作成した。トップページは上記日本語版を英語化し、各データベースはグーグル翻訳（無料）を使うことにより、安価に英語によるアクセスが可能となった。 ①「文献情報データベース」等の日々の新着情報が見える。 ②NWECCの情報事業の最新情報がトピックスから常に見える。 ③NWECCが提供するデータベースへの入口を目的別に分け、情報が簡単に見える（探せる）。 ④NWECCの事業・研修・調査研究の成果や、海外専門データベースがピックアップコンテンツから簡単に見える（探せる）。
3. データの更新・充実	(1)「女性情報ナビゲーション」 リンク1,035件（追加21件、修正124件、削除23件） (2)「文献情報データベース」 総件数490,542件（24,137件増） 新規に受け入れた図書、雑誌、地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事等のデータを登録した。 (3)「新着資料お知らせ（アラート）サービス」（平成20年3月サービス開始） 登録者108件（5件増） (4)「女性情報レファレンス事例集」累計232事例（16事例増） (5)「女性関連施設データベース」のデータ登録・更新を、Webシステムを活用して、全国の各施設職員が直接行った。登録数 施設概要636件（内、Web登録の施設は198館）、実施事業（情報・相談以外）24,024件（内、平成23年度開催の事業は613件）、情報事業369件、相談事業319件。 (6)「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また『男女共同参画統計ニュースレター』（男女共同参画の推進に向けた統計の活用に関する調査研究により作成）のバックナンバーと英語目次をホームページに掲載した。
実績を裏付けるデータ	別表

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

○適時性：リニューアルした女性情報ポータルトップ画面において、トピックス欄からNVEC情報の見える化を図っており、情報提供の適時性を高めている。

○独創性：「文献情報データベース」のうち特に地方紙も含めた新聞記事インデックス、また「女性関連施設データベース」等、全国を網羅した情報を提供することは、他の機関では不可能、かつナショナルセンターとしての責務であり、独自性、高度専門性として評価できる。

○発展性：「女性関連施設データベース」は、事業内容の蓄積が施設の行ってきたことのアーカイブとなるなど、影響性が評価できる。

○効率性：Winet各データベースはグーグル翻訳（無料）を使うことにより、安価に英語によるアクセスが可能となった。

2. 定量的評価

観 点	利用者の有用度	データベース化件数	アクセス件数		
判 定	A	A	A		

○男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修「女性情報ポータルWinet紹介および女性教育情報センター見学」：有用度91.4%（非常に有用17.6%、有用57.1%）

○大学職員のための男女共同参画推進研修「大学における男女共同参画関連情報」（希望者のみ）：有用度79.0%（非常に有用18.5%、少し有用60.5%）

○データベース化件数：545,671件（27,088件増）

○アクセス件数：273,456件（12,663件増）

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	平成23年度はデータベース化件数が545,671件、アクセス件数が273,456件と、順調に推移している。また、ポータル英語版の作成により、在日外国人や海外からのアクセスの増加も期待される。
順調	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続きコンテンツの整備充実に努めるとともに、今後も利用者ニーズ等から新たに提供すべき情報を把握し、的確に提供する必要がある。また、データベース利用に係る課金システムについて中期的に検討する。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指したWinetは、関連する情報にかかる総合窓口であり、そこでのデータベースとしての蓄積件数やアクセス件数は、着実に増加している。また、常に質の高い情報を提供するため更新を続けており、その有用性についても、関係者から高い評価を受けている。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ①②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実 ①女性アーカイブ機能の充実 ②女性情報アーキビスト養成研修(入門)

事業名	女性アーカイブ機能の充実
事業概要	目的：女性に関する過去の歴史的事実および現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能にするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等を通じて提供・公開する。また、女性アーカイブ等の実務者を対象に基礎的な研修を行い、参加者間のネットワーク形成と地域における女性アーカイブの構築を支援する。
担当課室	情報課
スタッフ	専門職員(2) 計2名

年度実績概要																	
1. 資料の収集・デジタル化(年度目標1千点以上)	新規受入1,068点、累計収集資料6,189点 資料選定委員会の助言に基づいて、資料の新規受入を行い、女性デジタルアーカイブシステム(http://w-archive.nwec.jp/)を通じて、全ての目録データと一部の画像データをインターネット上に公開した。																
2. 展示室利用(年度目標8千件以上)	所蔵展示(4～8月、11～3月、入場者数8,176人)と企画展示「化学と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ」(8～11月、入場者数3,100人)を実施した。																
3. 女性アーカイブ企画展における他機関との連携状況	大学、企業等の計7機関との共催にて開催し、資料提供等の協力を得た。また、世界化学年日本委員会への申請によって「世界化学年事業」として登録され、より多角的な広報活動につながった。 名古屋大学物質科学国際研究センターとは展示資料の相互貸借を行った。当館での企画展示終了後に一部の展示パネルを貸し出し、巡回展示を行った。同様に、同センターにて開催された「マリー・キュリーポスター展」の展示資料の提供を受け、展示室での展示と並行して新たに展示を行った。																
4. 女性アーカイブ実務者への学習支援状況	「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」を実施し、39名の参加があった。本研修においては、『災害経験を通して災害に備える』をテーマに、資料の保存・管理方法と災害との関わりに重点を置くプログラムとした。また、情報課職員による女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの見学、女性アーカイブの活用事例報告等も行われた。																
5. アーカイブ実務者同士のネットワーク構築支援	「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」において情報交換会を開催し、参加者同士の交流を支援する場を設けた。																
実績を裏付けるデータ																	
1. 資料の収集・デジタル化(年度目標1千点以上)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コレクション名</th><th>収集点数</th><th>目録データ入力件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国婦人新聞社取材写真コレクション</td><td>338</td><td>338</td></tr> <tr> <td>塩ハマ子・春秋会コレクション</td><td>728</td><td>1,533</td></tr> <tr> <td>奥村祥子世界女性会議資料</td><td>2</td><td>28</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>1,068 点</td><td>1,899 件</td></tr> </tbody> </table> (昨年度合計) 【862】 【1,454】		コレクション名	収集点数	目録データ入力件数	全国婦人新聞社取材写真コレクション	338	338	塩ハマ子・春秋会コレクション	728	1,533	奥村祥子世界女性会議資料	2	28	合 計	1,068 点	1,899 件
コレクション名	収集点数	目録データ入力件数															
全国婦人新聞社取材写真コレクション	338	338															
塩ハマ子・春秋会コレクション	728	1,533															
奥村祥子世界女性会議資料	2	28															
合 計	1,068 点	1,899 件															

2. 展示室利用（年度目標 8 千件以上）
入場者数：企画展示 3,100【4,383】人、所蔵展示 8,176【3,686】人
3. 女性アーカイブ企画展における他機関との連携状況（期間中に5機関以上）（資料1参照）
共催機関：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、東京大学駒場博物館、学校法人東邦大学、公益社団法人日本化学会、明星大学図書館、ライオン株式会社、名古屋大学物質科学国際研究センター
4. 女性アーカイブ実務者への学習支援状況
「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」平成23年12月1日（木）～2日（金）
参加者について
（1）募集定員30名、応募者40名（133%）、参加者39名（130%）
（2）所属：女性・男女共同参画センター18名、図書館6名、文書館・文学館1名、女性史グループ1名、その他13名
（3）地域バランス：北海道・東北2名、関東・甲信越32名、中部・北陸1名、近畿2名、中国・四国2名、九州・沖縄0名
＜以下、終了時アンケートより＞
（4）満足度
93.9%（非常に満足54.5% 概ね満足39.4%）
（5）有用度
97.2%（非常に有用61.3% 概ね有用35.9%）
5. アーカイブ実務者同士のネットワーク構築支援
「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」第1日目 情報交換会 19:00-20:30

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
備考 ○適時性：2011年はマリー・キュリーのノーベル化学賞受賞から百年目にあたり、国連の定める世界化学年であることから、化学と女性研究者をテーマに企画展示を行った。また、「女性情報アーキビスト研修（入門）」は、『災害経験を通して災害に備える』をテーマに、資料の保存・管理方法と災害との関わりに重点を置いたプログラムとした。いずれもナショナルセンターとして時宜を得た取り組みとして評価できる。 ○独創性：女性デジタルアーカイブシステムを独自に構築し、収集した資料の目録と一部の画像をインターネットに公開している点に、高度専門性がある。 ○発展性：展示および研修を通じて、女性アーカイブ構築の推進・支援に意欲的に取り組んでいる点に、独自性、先駆性、モデル性が認められる。 ○効率性：企画展示において、他機関との共催、特に企業との共催を初めて実現させたこと、展示資料の相互貸借を実施したことは、他機関との積極的な連携として評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○女性情報アーキビスト養成研修(入門)：応募倍率1.33倍（募集定員30名、応募者40名） ○女性情報アーキビスト養成研修(入門)：有用度 97.2%（非常に有用61.3% 概ね有用35.9%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	女性アーカイブ学習支援状況は今年度目標値を達成し、展示室入場者数および資料の収集・デジタル化も順調に推移している。
達成	展示、インターネットによる公開等、様々な形で女性アーカイブを活用している。 全国の女性アーカイブ担当者向けに研修を実施し、女性アーカイブに係るネットワーク構築の役割を担っている。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、価値ある資料の収集に努めるとともに、更なる資料の効果的な活用のために、資料研究を着実に実施する必要がある。また、展示や研修の実施を基盤に、大学をはじめとする様々な機関とのネットワークの構築を継続し、拡大する必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	女性アーカイブ機能については、他に例を見ない貴重な取り組みであり、資料の収集・デジタル化も着実に進んでいる。また、大学等と連携したアーカイブの企画展も開催されており、展示室の利用と併せて、男女共同参画や女性教育にかかる知見を広める上での重要な場を提供している。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(1))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施
年度計画の項目 (I-4-(1))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

事業名	国内の関係機関・団体等との協働事業の実施		
事業概要	目的：女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・家庭教育情報に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。 また、全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、積極的に講師を派遣する。		
担当課室	全課室		
スタッフ	理事長、理事、全職員		計26名

年度実績概要	1. 全国の関係機関等との協働実績について【共催13機関、受託2機関】 (1) 主に以下の事業について協働事業を実施し、参加者相互の情報交換の促進や連携効果による多様な企画の実現等の成果を得た。 ①女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修 【共催：NPO法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コース）】 ②大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進 【共催：埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会、青森中央学院大学】 ③配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ【受託：内閣府】 ④女性アーカイブ企画展における連携 【共催：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、東京大学駒場博物館、学校法人東邦大学、公益社団法人日本化学会、明星大学図書館、ライオン株式会社、名古屋大学物質科学国際研究センター】 ⑤国別研修タイ【受託：独立行政法人国際協力機構（JICA）】 ⑥NWE C男女共同参画プログラム【日本女子体育大学、女子栄養大学】 (2) 上記の他、「女性関連施設に関する調査研究」を【全国387箇所の女性・男女共同参画センター】からの情報提供により実施するとともに、「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム研究」におけるアンケート調査を【全国71箇所の女性関連の連携協力施設】の協力を得て実施した。 (3) 今年度は、夏期の節電により、例年、独立行政法人科学技術振興機構（JST）から受託している「女子中高生夏の学校2011～科学・技術者のたまごたちへ」は申請取りやめとなった。（24年度は受託決定） 2. 連携の内容と効果について NPO法人全国女性会館協議会との連携においては、互いの知見やネットワークの蓄積をもちよることにより質の高い研修内容を企画することができた。 また、埼玉県私立短期大学協会との連携においては、短期大学生に対するキャリアプランニング研修について大学から寄せられたリクエストにきめ細かく対応することで実践的なプログラムの開発を進めることができた。また、NWE Cを会場とすることで利用促進にも繋がった。 女性アーカイブ企画展においては様々な機関と連携したが、ライオン株式会社等の企業との連携においては、女性化学者のアイデアが活かされた研究が、生活に役立つ商品開発と繋がったもの（洗剤）の試供品を提供いただき、来館者へ配布した。 さらに、例年実施している「女性関連施設に関する調査研究」における調査票配布時に「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム研究」に関するアンケートの配布を併せて行い、郵送の手間と料金の効率化を図った。 3. 全国の関係機関・団体への講師派遣 全国の地方自治体、大学、女性関連施設、企業、女性団体等の要請により、NWE C役職員を研修講師として派遣した。		
実績を裏付けるデータ	1. 各事業の報告参照 2. 講演等派遣回数 34件		

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：プログラム内容や講師について助言を得ることで、NVECが単独で実施する事業とは違った広がり企画・参加者を得ることができた。NVECを中心としたネットワークを広げるためにも、連携拡大の取り組みは促進させるべきである。

独創性：女性のノーベル化学賞受賞者や、近代から現在まで化学研究や教育に先駆的な活躍をする日本の女性化学者たちの業績を紹介し、未来の化学者へエールを送る女性アーカイブ企画展示の独自性は評価できる。

発展性：大学との連携事業は開発したプログラムを他大学の利用に展開させる可能性を持つ。また、異なる専門分野の機関である名古屋大学物質科学国際研究センターと連携して、「マリー・キュリーポスター展」「化学と歩む」の展示物を相互貸借し、2地区（名古屋・埼玉）で展示を開催したことは、巡回展示へ発展させる将来性・モデル性をもつ。

効率性：連携機関の経費分担、人的支援等により、経費の節減を図ることができている。大学等との連携事業は、プログラム開発と利用拡大を同時に進めることができた。

2. 定量的評価

観 点	提携数	講師等派遣数			
判 定	A	A			

提携数 【共催13機関、受託2機関】

①行政機関：内閣府、国際協力機構（JICA）

②女性関係施設・団体：NPO法人全国女性会館協議会

③大学、学術関係団体：埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会、青森中央学院大学、明星大学図書館、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、東京大学駒場博物館、公益社団法人日本化学会、名古屋大学物質科学国際研究センター

④企業：ライオン株式会社

協力数 ①情報提供：全国387箇所の女性・男女共同参画センター

②アンケート調査：全国71箇所の女性関連の連携協力施設

講演数 平成22年度43件 → 平成23年度34件

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	全国の女性・男女共同参画センターの実情を伝える「女性関連施設データベース」の掲載情報を更新するため、全国387箇所の女性関連施設に対し、アンケート調査及びヒアリング調査を実施。情報を集約し、国民に提供するとともに、関連施設とのネットワークを深めている。
達成	また、今年は、男性の家庭・地域への参画促進をテーマとする調査研究を実施する上で、家庭・地域で積極的に活動に取り組んでいる男性の事例を収集するにあたり、これら387施設とのネットワークを活かし、71施設の協力を得ることができた。
	一方、年度計画に記載する7機関以上との事業の協働実施も倍以上の機関と実現しており、連携の進捗は順調であると言える。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
連携の実施は、連携先における男女共同参画の取り組みの促進につながることから、今後は企業へのアプローチを進めて行きたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	行政機関、教育機関、関係施設など多くの機関・団体と連携協力を進めてきており、大きな成果を上げている。本来、協働というのは、異質な目標・性格をもつ機関同士が、一定の方向性の下での実践を共有することであり、参加した機関等に、これまで気づかなかった視点や経験をもたらすものである。その意味で、会館がナショナルセンターとして発展していく上で欠くことのできない活動であり、会館がこれを積極的に進めていることを高く評価したい。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供によるNWECを中心としたネットワークの構築
年度計画の項目 (I-4-(2)) ①	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供によるNWECを中心としたネットワークの構築 ①男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム (NWECフォーラム)

事業名	男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム (NWECフォーラム)		
事業概要	目的：全国で男女共同参画を推進している施設、女性団体・グループ、行政担当者、研究者、NPO、学生などを対象に、男女共同参画社会の形成に向けた課題解決と女性のエンパワーメントに資するため、“研究”“学習”“実践”を結び、参加者同士の情報交換や交流を促進する機会とする。「第3次男女共同参画基本計画」に基づいて設定したテーマに沿ってワークショップやシンポジウムを行うと共に、NWECボランティアの参画による交流推進のためのプログラムを実施し、参加者同士の交流を支援する。 開催期日：平成23年10月21日（金）～23日（日）2泊3日 会場：NWEC		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長（1）	専門職員（2） 係員（2）	計5名

年度実績概要	1. 全国フォーラムにおける交流機会の充実： 平成23年度は、新しい地域社会を創出していくための関係づくりに焦点をあて、ワークショップやシンポジウムのテーマには、東日本大震災を踏まえ、災害・震災を意識した内容を盛り込んだ。計画停電の関係で急遽予定していた8月から10月へと開催時期を変更したため、使用可能な施設や宿泊可能人数に制約がある中での開催となったが、ボランティアの参画等も得て、全日程を通じて参加者同士の交流推進の支援を充実させた。 2. 大学や企業等からの参加促進状況： NWECが蓄積してきた人的資源やネットワークを活かし、大学関係者等へ募集ワークショップへの参加促進を試みた。この結果、ワークショップ運営者に占める「研究者・大学教員」区分の割合を平成23年度は12.9%と平成22年度の7.6%から約5%増やすことができた。 3. 影響評価 ワークショップ運営者のアンケートからは、有用度100.0%、満足度92.9%と共に高い評価を得ることができた。 4. フォローアップ調査結果の研修プログラムへの反映： フォローアップアンケートは、平成24年4月下旬実施予定。 5. 参加者の多様性を増すための工夫と努力： 参加者の多様性を増すため、交流推進委員に女子大学院生と男性の企業関係者を1名ずつ新たに依頼する等の工夫を行った。その結果、行政担当者（平成23年度14.5% 前年度より0.1%増）、大学関係者（平成23年度12.9% 前年度より5%増）、男性参加者（「一般参加者」の男性の割合：平成23年度17% 前年度より2.2%増）のいずれにおいても前年度より参加者の割合が増やすことができた。		
実績を裏付けるデータ	（詳細は添付アンケート集計結果等参照）【】内は平成22年度実績		
1. 応募倍率：90.5%（定員1,000名 応募者905名（女性762名（84.2%）、男性143名（15.8%）） 【142.1%（1,000名 1,421名（女性1,177名（82.8%）男性239名（16.8%））】、			
2. 参加者内訳：団体・グループ403名（44.5%） 行政担当者130名（14.5%） 研究者・教員77名（8.5%） 施設関係者64名（7.0%） 学生19名（2.1%） その他212名（23.4%） 【団体・グループ636名（44.8%） 行政担当者204名（14.4%） 研究者・教員87名（6.1%） 施設関係者68名（4.8%） 学生146名（10.2%） その他280名（19.7%）】			
3. 参加者の地域バランス：北海道・東北133名（14.7%） 関東・甲信越634名（70.1%） 北陸・東海29名（3.2%） 近畿42名（4.6%） 中国・四国8名（0.9%） 九州・沖縄38名（4.2%） その他21名（2.3%） 【北海道・東北113名（7.9%） 関東・甲信越1,099名（77.3%） 北陸・東海51名（3.6%） 近畿62名（4.4%） 中国・四国18名（1.3%） 九州・沖縄28名（2.0%） その他50名（3.5%）】			
4. 参加者の年代別：20代以下31名（3.5%） 30代61名（6.7%） 40代96名（10.6%） 50代164名（18.1%） 60代241名（26.6%） 70代以上101名（11.2%） 無回答211名（23.3%） 【20代以下157名（11.1%） 30代71名（5.0%） 40代148名（10.4%） 50代278名（19.6%） 60代354名（24.9%） 70代以上110名（7.7%）、無回答303名（21.3%）】			
5. 有用度： ○参加者99.7%【99.5%】 ○ワークショップ運営者100%（非常に役に立った54.8%+役に立った45.2%）【96.3%（非常に役に立った64.2%+役に立った32.1%）】			
6. 満足度： ○参加者89.1%（非常に満足30.9%+満足58.2%）【95.2%（非常に満足31.6%+満足63.6%）】			

- ワークショップ運営者92.9%（非常に満足42.9%＋満足50.0%）【94.4%（非常に満足53.7%＋満足40.7%）】
7. 目的達成度：
- 参加者 テーマについて情報・知識を得ることができた94.7%
研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること90.4%
- ワークショップ運営者 実施により、さらに活動を充実させることができた97.1%
研究・実践活動を多くの人に知ってもらったことができた92.3%
8. ワークショップ運営者に対するフォローアップアンケート：＊平成24年4月下旬実施予定

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	

適時性：「第3次男女共同参画基本計画」における「第14分野地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」の「地域における男女共同参画推進の基盤づくり」に基づき、東日本大震災に関連したワークショップ・シンポジウムを行うなどしている点は時宜を得た取組として評価できる。

独創性：男女共同参画の視点から見た女性研究者支援や地域づくり等、NVECの調査研究の成果を活かしたワークショップや交流推進委員とNVEC職員の専門性を活かしたワークショップを実施したことは、調査研究・交流事業を長年手がけてきたNVECの独創性を活かした取組として評価できる。

発展性：全国から応募のあった募集ワークショップは、実践の成果を参加者と共有する場となっており、ワークショップ実施後の地域での影響や汎用をすることができる。特に平成23年度は大学関係者（平成23年度：12.9% 前年度より5%増）の参加が増えており、科学技術・学術分野への男女共同参画推進の波及効果が期待できるなど、発展性のある取組として評価できる。

効率性：参加者の多様性を高めるため交流推進委員に女子大学院生と男性企業関係者を新たに加えたことは効率的な手法である。

2. 定量的評価

観 点 判 定	応募倍率	プログラムの有用度			
	A	A			

応募倍率：90.5%（定員1,000名、応募者905名）【142.1%（定員1,000名、応募者1,421名）】【22年度実績】

プログラムの有用度：参加者99.7%【99.5%】

ワークショップ運営者100%（非常に役に立った54.8%+役に立った45.2%）【96.3%（非常に役に立った64.2%+役に立った32.1%）】

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	東日本大震災の影響に伴い、予定していた8月から10月へと時期を変更しての実施となった。すでに他団体の施設利用の予約が入っていたため、利用可能な研修施設および宿泊施設に制約がある中での開催となったが、募集定員の9割の参加者を得ることができた。全国から募集したワークショップの実施は、運営団体にとって他団体の実践者や研究者などから貴重な意見を聞き、視野を広めるとともに新たなネットワークのきっかけを得る場となり、地域での実践力の向上が期待できる。参加者・ワークショップ運営者から高い満足度を得られたことから、プログラム企画は適切であり、ねらいを十分達成することができた。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、第3次男女共同参画基本計画を反映し、地域における男女共同参画推進の基盤づくりに役立つ最新の情報提供や参加者の交流推進に努める。全国各地の幅広い参加者による研究・学習・実践をつなぐ交流の場、情報交換の場づくりというナショナルセンターとしての役割を適切に果たしていきたい。平成24年度以降も、地域や年代、男女の構成に配慮した幅広い参加者の確保に努める。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	・ワークショップやシンポジウムのテーマを、東日本大震災を踏まえて、災害・震災を意識した内容を盛り込んだことは、新たな取り組みを必要とする分野として防災が記載された第3次男女共同参画基本計画に沿ったものであり、適時性になっている。
達成	・大学や企業等からの参加を促進するために、NVECの人的資源やネットワークをいかした点や、参加者の多様性を増すために、交流推進委員に女子大学院生と男性の企業関係者を1名ずつ新たに依頼するなどの工夫を、効率的かつ発展性に富んでいる。 ・男女共同参画社会の形成に向けた課題解決と女性のエンパワーメントには、ワークショップ手法が有効であることをアンケートが裏付けている。 ・テーマの災害・震災について、NVECフォーラムを通じて、第3次男女共同参画基本計画の14分野「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」に、どのように政策的に結び付ける成果を上げたかについての記述をしてもよい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (1-4-(2))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供によるNVECを中心としたネットワークの構築
年度計画の項目 (1-4-(2)) ②	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供によるNVECを中心としたネットワークの構築 ②交流学习会議

事業名	交流学习会議
事業概要	目的：男女共同参画の視点に立って地域づくりを推進する人材の育成を目的として、これまでNVECの研修・交流事業に参加した者が地域に戻って実践したことを報告し合い学習する機会を設定し、循環型の人材育成システムを構築するとともに、各地の先進事例や地域における課題等を共有して、課題解決へのステップを進める。また、女性団体・グループや女性関連施設等の関連機関との連携の促進に向けての意見交換を行い、ネットワークを形成し、NVECと地域との連携を促進する。 開催期日：平成24年3月9日（金）～10日（土）1泊2日 会場：NVEC
担当課室	事業課
スタッフ	専門職員（2） 係員（1） 合計3名

年度実績概要	1. NVECと地域の連携を強化するための取組 本年度はNVECと協働で交流学习会議の企画・運営を行っている交流学习会議協働連絡会のメンバーを昨年度の15名から28名に増やし、地域の実情を踏まえたテーマ、報告で取り上げる実践事例等のプログラム、効率的な広報の方法等について平成23年6月にNVECにて協議した。 内容については、実践事例を持ち寄っての意見交換や情報交換等による交流を通じた学習を中心に置き、テーマを「地域で男女共同参画を推進するためには ―「人材育成」「組織の基盤強化」「連携・協働」のあり方を探る―」とした。4つの分科会に分かれそれぞれ2つの先進事例を取り上げ、その報告と意見交換・情報交換を行い、自分たちの実践活動の活性化のためのヒントを学ぶプログラムとした。交流会では、参加者同士が互いに情報交換し合い、全国規模での交流ができた。このほか、樋口恵子氏による特別講演「男女共同参画の実現に向けて」、神田前理事長による講義、NVECの調査研究の報告、さらに「社会参画の具体化と交流学习会議」と題した意見交換会をプログラムに取り入れた。 参加者は、循環型の人材育成の場となるよう、これまでNVECの主催事業に参加したことのある者のうち、地域で男女共同参画推進の実践活動をしている団体・グループメンバー、行政担当者、女性関連施設関係者とした。全国23都道府県から、128人の参加があった。 2. 参加者の多様性を増すための工夫と努力 参加者の多様性を増すため、交流学习会議協働連絡会のメンバーを増やした。会議では、多様な事例の推薦や参加者の呼びかけをする等の工夫を行った。その結果、行政担当者は、前年度の3.8%から12.5%、女性関連施設関係者は、7.0%から9.4%と増やすことができた。
実績を裏付けるデータ	（データ詳細は添付アンケート集計結果参照）【】内は22年度実績
1. 定員150名 応募者151名 参加者128名（女性115名 男性13名）	
2. 参加者の年代	女性 20代1名 30代5名 40代6名 50代14名 60代以上65名 無回答24名 計115名 男性 20代1名 30代2名 40代2名 50代1名 60代以上5名 無回答2名 計13名
3. 参加対象者	女性団体・グループ・NPO 96名（75.0%）、行政担当者16名（12.5%）、女性関連施設関係者12名（9.4%） その他4名（3.1%）
4. プログラムの有用度について	100.0%（非常に有用39.7%、有用60.3%） 【93.6%（非常に有用46.1%、有用47.5%）】
5. 全体の満足度について	91.0%（非常に満足30.8% 満足60.2%） 【90.1%（非常に満足28.2%、満足62.0%）】
地域バランス（参加地域）	北海道・東北 19名 関東・甲信越 76名 北陸・東海 4名 近畿 6名 中国・四国 17名 九州・沖縄 6名

(3) 自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：全国の実践事例を持ち寄り意見交換や情報交換をすることは、地域課題の解決の方向性を探り、地域活動を活発化するために有効であり、第3次男女共同参画基本計画で地域における身近な男女共同参画の推進が強調されていることから、時宜を得た取組として評価できる。 独創性：NWECの事業参加者へのフォローアップの場を中心とした交流事業であり、全国から参加者が集まる点は我が国における男女共同参画推進のナショナルセンターとしての特色を活かしたものである。また、参加者にとっては過去の研修成果を地域でどのように活用しているかを、発表しあう場ともなっており、研修と交流の両事業を長年行ってきたNWECの独創性をいかした取組として評価できる。 発展性：参加者が交流学習会議で得た地域課題を解決するための様々な実践活動についての工夫や人的ネットワークを地域に持ち帰り、地域で男女共同参画を推進するための実践活動に活かすことにより、地域の男女共同参画が、一層推進されるなど発展性のある取組として評価できる。 効率性：NWECボランティアや有識者、NWEC事業参加者等からなる交流学習会議協働連絡会メンバーに、分科会のコーディネーターや学習支援者として無償で交流学習会議の運営にも協力いただいたことにより、人的ネットワークをいかした有効な人材活用を行うなど効率性からも評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率:100.7% ○プログラムの有用度:100%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	地域で男女共同参画推進の核として活動している者や団体・グループに対するNWECの主催事業参加者が、フォローアップの場として全国から参加した。交流学習会議協働連絡会メンバーとの協働により、先駆的な実践事例の紹介をはじめ、地域の実践事例を持ち寄り、交流を通して学ぶという実践的なプログラムを提供できた。NWECを中心とした全国規模でのネットワークづくりをより進めることができ、そのねらいを十分達成できた。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
本年度は、震災後1年に当たる日を避け、当初予定していた2泊3日から1泊2日へ日程を変更したため、例年に比べて時間的に余裕がなかった。来年度は2泊3日にすることで日程に余裕を持たせ、参加の交流時間を十分に確保する必要がある。また、分科会における実践事例報告がその後のディスカッションに活かされていない分科会があったため、今後は、分科会のコーディネーターを担当する交流学習会議協働連絡会のメンバーとも事前打ち合わせを密に行うなど、分科会の進め方を検討する必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	・交流学習会議の企画・運営を行っている交流学習会議協働連絡会のメンバーを増やすなどの工夫は評価できる。今後は男性の参加を増やす試みなども検討されたい。 ・全国23都道府県から128人の参加があったが、逆に24府県からの参加がなく、男性の参加が少ないこと（128名中13名）も課題である。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供によるNWECを中心としたネットワークの構築
年度計画の項目 (I-4-(2)) ③	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供によるNWECを中心としたネットワークの構築 ③男女共同参画交流特別週間(らんざん交流ウィーク)

事業名	男女共同参画交流特別週間(らんざん交流ウィーク)		
事業概要	目的：女性団体等が相互に参加者同士の交流や情報交換を行える機会を提供し、団体のネットワークづくりを支援する。 開催期日：平成23年11月8日(火)～11日(金) 4日間 会場：NWEC		
担当課室	事業課		
スタッフ	専門職員(1)	係員(1)	計2名

年度実績概要			
1. プログラムの内容	平成23年度は11月8日～11日の4日間で開催し、地方自治体・グループ等が企画する研修・学習利用のみばかりでなく、日頃NWECの事業に参加する機会が少ない一般利用者をも広く対象としたプログラムを提供した。また、JICAの国別研修のため来館していたタイ研修生等も交え、参加者同士の交流や情報交換の機会を提供した。 計画停電の影響により、本事業と同じく交流事業である「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」が急遽10月下旬開催となったことで、参加者の分散や大幅な減少が予想されたため、前年度に比べ総講座数を減らした。同時に、従来、男女共同参画には触れる機会が少なかった一般利用者向けに日本の伝統芸能の世界と男女共同参画、女性のとらえ方等を講義に盛り込んだ文化プログラムを、研修等で参加する団体向けには、被災地での女性センターの活動など時事プログラム等を新たに開設するなど内容を工夫した。(参加者は全ての講座を受講できる) ・男女共同参画について学ぶための講座：3講座 ・時事プログラム：2講座 ・文化プログラム：4講座 ・NWECを紹介するプログラム：1講座 総講座数：10講座【13講座】		
2. 成果	北九州市女性リーダー国内研修団をはじめ熱心な参加者が多く、全体の満足度において「非常に満足」と回答した人の割合が9%上昇している。参加者からのアンケートによると「バラエティに富んだ内容で研修の目的を達することができた」「初体験でしたがわかりやすい。早くに出会いたかった。でも今からでも遅くないと思っている。」等、初めて男女共同参画を学ぶ場に訪れた参加者からも好評であった。 また、「日々の雑事から切り離されて豊かな自然の中で心身を癒しながら様々な事を学ぶことができた。」等、宿泊施設を含むNWEC施設の環境の良さが、満足度の向上に貢献した面もあると思われる。		
実績を裏付けるデータ	詳細は添付のアンケート集計結果参照【】は平成22年度実績		
1. 延べ参加者数	478名(15団体+個人)【699名(16団体+個人)】		
2. 全体の満足度	96.2% (「非常に満足」40.8% 「満足」55.4%) 【96.5% (「非常に満足」31.8% 「満足」64.7%)】		

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：東日本大震災における、被災地での女性センターの活動等、地方自治体からの参加者だけでなく一般からも講師へ多くの質問があり、関心の高いテーマで学習機会を提供することができたことから、時宜を得た取り組みとして評価できる。 独創性：文化プログラムにおいては、NVECの施設、設備（日本家屋等）を生かした会場とし、我が国の男女共同参画や女性のとらえ方にも影響している文化的背景についても考察する機会を設けるなど、会館の独自性を生かした取り組みとして評価できる。 発展性：地方自治体等の男女共同参画研修にも対応できるプログラム内容としたことにより、今回の参加で得た情報等が各地域での取り組みに活かされることが予想され、発展性のある取り組みとして評価できる。 効率性：NVECボランティアのほかNVEC男女共同参画プログラムの研修修了生による自主学習グループ「ヌエック・ノットの会」メンバー等の協力を得て会場運営を行った点は効率性を向上する取り組みとして評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度				
判 定	A				
○プログラムの満足度：96.2% 全体の満足度については0.3%減少しているが「非常に満足」と回答した参加者の割合は9%増加しており、非常に高い満足度を得られたと言える。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	震災の影響により、本事業と同じく交流事業である「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」が急遽10月下旬開催となったことで、参加者の分散や大幅な減少が予想されたが、プログラム内容に時事関連のテーマを盛り込むなどし、夜間は参加団体・参加者が情報交換を行う場を提供するなどした結果、高い満足度を得た。
達成	参加団体等が相互に参加者同士の交流や情報交換を行える機会を提供することにより、交流事業の目的である地域における男女共同参画の推進する取り組みとして評価できる。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成22年度と比較した際の全体の満足度低下については、質問が多数寄せられたため予定時間どおりに終了できなかった講座に対しての一部参加者による評価が原因であり、適切な進捗が来年度の課題である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	・来日していたタイ研修生等も交えたこと、時事プログラムに被災地での活動を盛り込んだことなどは評価できる。今後は利用者の更なる開拓や初心者の開拓なども検討されたい。
達成	・プログラムの実施には講師と事前に十分な打ち合わせを重ね、受講者の満足度を高める普段の努力を望みたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供によるNVECを中心としたネットワークの構築
年度計画の項目 (I-4-(2)) ④	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供によるNVECを中心としたネットワークの構築 ④NVECボランティアの活動支援

事業名	NVECボランティアの活動支援
事業概要	目的：NVECでは昭和52年の設立以来、ボランティアの持つ能力・技術を利用者に提供するとともに、NVECの機能を活用した多様な生涯学習を促進し、またボランティア自身の自己実現、社会参加につながる活動として、NVECでのボランティア活動を受け入れている。
担当課室	事業課
スタッフ	事業課職員（11）、総務課職員（2）、情報課職員（2）、研究国際室職員（1） 計16名

年度実績概要	
1. 受入の方針：	利用者の多様なニーズに対応し、事業運営の活性化を図ることを目的とし、責任あるパートナーとして受け入れる。
2. 支援の方針：	(1) 利用者への質の高いサービスをめざすため、NVEC資源を活用した自主的な活動を行えるよう支援する。 (2) 主催事業等に関わることで男女共同参画への理解を促し、NVECにおけるボランティア活動の成果を地域・社会へ普及・還元できるよう支援する。
3. 支援方法：	(1) 平成23年度もボランティア活動の円滑な実施を図るため、年3回（6月、9月、3月）の連絡会議と年1回（12月）のボランティア活動研究会を開催した。 (2) 交流事業である「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」（NVECフォーラム）をボランティア活動に必要な基礎的な研修として位置づけており、平成23年度もボランティアからも3名を交流推進委員に委嘱した。開催期間中は交流推進委員を中心に、参加者同士の交流を支援する交流推進プログラム（「情報のひろば」「さんかくカフェ」など）をボランティアが中心になって企画・運営した。 (3) 平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災者・避難者の方への支援として、NVECでは、3月18日（金）より宿泊料金を無料で受入れた。ボランティアからは無料の昼食提供や子どもへの絵本の読み聞かせなど様々な支援活動の申し出があり、平成23年度も引き続き継続された。NVECもボランティアによるこれらの活動を支援した。
実績を裏付けるデータ	1. 平成24年3月現在の登録者数は、72名（女性56名、男性16名）である。 2. 平成23年4月1日から平成24年3月31日までのべ活動数は、総計876回であった。 3. 活動区分別内訳は以下のとおりである。 ①主催事業・国際交流（主催事業の受付など）（計244回） ②受入（利用者への施設見学案内、地域との連携など）（計57回） ③情報（女性教育情報センターでの新聞・パンフレットの整理・ファイルなど）（計155回） ④環境整備（施設の修繕、本館ロビーの雛飾り・七夕飾りなど）（計37回） ⑤広報（「ヌエックニュース」郵送希望者の受付・発送）（計4回） ⑥その他（NVECで受け入れた東日本大震災の被災者・避難者への支援活動など）（計79回） ⑦自主活動（計300回）

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性： ボランティアとNVECが共に学ぶための研修事業として「ボランティア活動研究会」を実施しているほか、NVECでの活動をきっかけに東日本大震災の被災者支援に関わるなど、ボランティア自身の多様な生涯学習、社会活動を促進している点は時宜に適った取組として評価できる。 独創性： ボランティアを事業運営におけるパートナーとして位置づけ、年3回の連絡会議を実施するほか、NVEC内にボランティアルームを設置し、職員とボランティアが随時連絡を取り合い、活動に協力できる体制を構築している。地域に根ざしたボランティアの視点をNVEC事業に取り入れるなど、独創性のある取組として評価できる。 発展性： NVECの資源を活用したボランティア相互の自主的なグループの活動を受け入れ、それを支援することで、ボランティアをととして男女共同参画に対する理解を地域・社会へ普及・還元できるなど発展性のある取組として評価できる。 効率性： ボランティア活動の受け入れは、効果的な事業運営や特に地域社会へのNVECの広報活動への協力、利用者の立場に立った事業支援等に大きな役割を果たしており、職員のみでこれらの活動を行うことに比して、事業運営の効率性を高める取組として評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	活動回数				
判 定	A				
ボランティアの活動回数876回【712回】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	ボランティアに協力を依頼する活動は、ボランティアからの申出及び要望をもとにNVECが決定している。ボランティアの持つ能力・技術を利用者に提供するのみならず、NVECの機能を活用することによって、ボランティア自身の自己実現、社会参加につながる活動ともなっている。
達成	「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」（NVECフォーラム）をボランティア活動に必要な基礎的な研修と位置づけている。ボランティアの参画による交流推進プログラムの運営を通して、ボランティアと参加者や参加者同士の交流や情報交換のきっかけづくりを充実させた。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、NVECボランティアを事業運営におけるパートナーとして位置づけ、「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム（NVECフォーラム）」をはじめとする主催事業におけるボランティア活動参加の機会を提供していく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	①東日本大震災を契機に、あらためて「ボランティア」という活動のもつ地域づくり機能や、参加者自身の自己成長力・社会参加力への期待やニーズが高まっている。すでに実績のあるNVECのボランティア活動支援を、ボランティアの「顔の見える会館づくり」として位置づけ、可視化したことは時宜を得た取り組みである。
達成	②年3回の連絡会議の開催、ボランティアの研修の場としてのNVECフォーラムの位置づけ、事業へのボランティアの視点の導入など、事業運営における職員とボランティアのパートナーシップや職員のボランティア支援力を養成するための手法が工夫されている。 ③会館ボランティアの多くは地域の生活者である。ボランティア活動を通して男女共同参画へのNVECの取り組みを地域に広めていく広報の点でも、影響力は大きい。事業におけるボランティア活動参加の機会をさらに広げる努力をしてほしい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
①	①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

事業名	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー		
事業概要	1. 日程：平成23年10月20日～10月29日(10日間) 2. 研修会場：NVEC、内閣府、文部科学省、人と防災未来センター、尼崎市立女性・勤労婦人センタートレビエ他 3. テーマ：災害とジェンダー ～ 地域の復興に果たす女性の役割 4. 対象者：国内本部機構職員、研究者、NGO・女性団体のリーダー 5. 内容：カントリーレポートの発表、省庁の視察、女性関連施設やNGOの取り組みに関する講義と意見交換		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	専門職員(1) 研究国際係長(1) 係員(1)		計3名

年度実績概要	
1. 研修の有用度 100% (「非常に有用」100%)	
2. 研修の満足度 100% (「非常に満足」100%)	
3. アジア地域における拠点としての取り組み	
研修生には出身国(9カ国)での防災・災害復興過程における男女共同参画の推進に関する取り組みの好事例をテーマとした、ポスターを事前に提出するよう義務づけた。研修生が作成した資料は日本後と英語でパネルに加工し、NVECが10月22日に主催した「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NVECフォーラム)」で、ポスターセッションの時間帯を設け、研修生が報告を行った。ポスターセッションの実施にあたっては、岩手県内の女性関連施設の協力を得て、日本の被災地における男女共同参画の視点に基づく女性支援の多言語による発信にも留意した。	
また、研修生は最終日にNVECが主催した「平成23年度NVEC国際シンポジウム」にパネリストとして出席し研修の成果を発表した。	
4. 研修の成果還元	
研修生が国際シンポジウムで発表した内容は、「平成23年度NVEC国際シンポジウム」の記録として、日英二カ国語の報告書に掲載された。報告書は国内の女性関連施設、男女共同参画主幹課等に配付するとともに、NVECのホームページでも公表している。	
上記に加え、研修期間中に研修生が発表した、各国における災害とジェンダーに関する政策と課題について論じたカントリーレポートを研修終了後NVECのホームページ上でダウンロード可能な形式で公表している。	
また、研修終了後、事業担当者がJICA国別研修「人身取引被害者支援に関する日・タイ合同ワークショップ」で、本研修の成果に基づきアジア太平洋地域における災害とジェンダーについて、講義をおこなった。	
5. 研修成果の活用調査に基づく研修内容の見直し状況	
研修生からは、「災害とジェンダーは今後、自国でも取り組みが必要な新たな領域であり、本研修に参加できたことは有意義であった」との意見がみられた。その一方、「実際の被災地を訪問したり、被災女性の声を直接聞きたかった」との要望が寄せられた(カンボジア、バングラデシュ、インド)。困難に直面している女性のプライバシーを確保しつつも、より実践的な内容とするため、次年度以降は上記の点を考慮していく必要があると考えられる。	
実績を裏付けるデータ	(データ詳細は添付アンケート集計結果参照)
1. 研修員 定員 10名 参加者 11名	
2. 国 籍 中国、バングラデシュ(以上各2名)、インド、インドネシア、カンボジア、韓国、ネパール、パキスタン、スリランカ(以上各1名)	
3. 「NVECフォーラム」の参加者数 905名	
4. 「平成23年度NVEC国際シンポジウム」の参加者数 130名	
5. 「平成23年度NVEC国際シンポジウム」報告書の発行部数 日本語・英語 各1,000部	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：アジア太平洋地域は世界の中でも、自然災害が多発しているが、災害復興における女性の参画が十分には進んでいない地域である。本研修では東日本大震災の復興過程にある日本の先進的な取り組みや、阪神大震災時の教訓を学ぶことを目指した。 独創性：本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士が災害復興とジェンダーに関する好事例を学び合い、その成果を研修最終日に実施した「NWEC国際シンポジウム」で広く公表することを目指したカリキュラム構成としている。 発展性：尼崎市立女性・勤労婦人センターを視察し、センター職員と研修生との意見交換の時間を設けることにより、海外の事例をセンター職員が学ぶことができるよう双方向的な研修内容となるよう留意した。また、NWECフォーラムで研修生が自国の災害とジェンダーに関する取り組みについて報告し、日本人参加者と意見交換を行った。 効率性：長期間にわたる英語での研修の企画、講師との調整、講義資料の準備、謝金の支払いの手続き、実施までを、専門職員と研究国際室係長、事務補佐員のわずか3名体制で円滑に行うことができた。研修生の募集については、「ジェンダーと災害ネットワーク」のメーリングリストを通じて行うとともにNWECの協定締結機関である、延辺大学・カンボジア王国女性省からも協力を得ることができた。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○定員10名、応募者36名 ○有用度 100%（「非常に有用」100%） 100%の研修参加者が有用と回答した。特に、教材（とても有用82%、有用18%）、研修の運営（非常に効率的82%、効率的18%）に関する評価が高かった。）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	災害復興に男女共同参画の視点を組み込むことは、日本を含むアジア太平洋地域の共通の課題である。開発途上国の国内本部機構の担当者や非政府組織の中核的人材が、本研修を通じてた知見を、自国の政策や取り組みに反映することは、中期計画の目的に合致している。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今年度のテーマとした第14分野（地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進）の他にも、「第3次男女共同参画社会基本計画」の中では取り組みが必要な新領域が設定されているので、これらの領域を視野に入れた研修を企画していくことが必要と考える。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	男女共同参画・女性教育のナショナルセンターとしての会館が国際貢献の分野で果たすべき責務が十分に示された事業である。東日本大震災の発生を踏まえたテーマもきわめて時宜にかなったものであり、参加国のバランスもアジア全域にわたって良い。少ない職員数で大変効率的に事業が展開されており、研修生の募集も海外の協力機関との連携を上手く活かしてスムーズに進められている。また国内の関係機関との協力・連携が順調に行われた結果、研修生と国内関係機関職員との双方向での研修、交流が可能になるなどまさしくグローバルな観点からの大きな成果につながっている。さらにそうした研修成果が「NWEC国際シンポジウム」で公表されるという形で他事業との連動も図られている点に優れた独創性が認められる。研修の有用度、満足度ともに100%という高い評価に結びついたことも納得できる事業成果と考えられる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ②	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ②国際協力機構との連携による研修

事業名	国際協力機構との連携による研修（国別研修タイ）		
事業概要	目的：地球規模の課題であると同時に、世界の中で女性と女児の被害が最も大きいアジア地域の人身取引をテーマにした研修事業。 国際協力機構（JICA）が実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」（2009年～2014年）の一環として、プロジェクトのカウンターパートを対象に、日本で初めての人身取引に関するワークショップ型研修として平成21年度から実施している。具体的には、タイ政府社会開発・人間安全保障省が事務局として担う、女性や子どもの人身取引被害者の保護・支援のための多分野協働チーム(MDT)の機能・活動（アプローチ）を強化することを目的に参加型の実践的研修として行った。 開催期日：平成23年11月7日（月）～18日（金）		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	研究員(1) 研究国際係長(1) 計2名		

年度実績概要	
1. 協力機関：JICA、内閣官房、内閣府男女共同参画局、外務省、タイ大使館、厚生労働省、警察庁、法務省、岐阜県、愛知県、長野県、国際移住機関(IOM)、人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)、タイ人ネットワーク民間団体 2. 研修の特徴 (1) 5年計画の3年度として、これまでの経験と成果を踏まえ、多分野連携協働能力強化を図るという目的に沿って企画・実施した。特に、意見交換および成果発表の機会を増やし発信することに留意した。 (2) 日本の人身取引対策の全体像と男女共同参画の視点からの取組を理解できるように留意して行われた。特に、国連大学で開催された人身取引に関する国際シンポジウムでの発信、行政や民間の関係機関の視察と意見交換の時間を十分とり、新たに震災時におけるジェンダー視点についての講義も組み入れた。 (3) 幅広い関係者（①関係省庁機関、②国際機関、③県警察、④民間機関、⑤地方自治体レベルの婦人相談センター、⑥在日タイ人ネットワーク、⑦民間団体 など）を講師として意見交換・講義を行ったことで、実践的な課題についての討議と疑問の解決および関係強化に結びついた。 3. 研修成果 (1) 政府関係者、国際機関職員や有識者に対してタイ研修生が成果発表と意見交換をする場を設けた。研修生から高い評価を得ると共に、日本側職員等からもタイ側との相互理解が深まったと評価を得た。 (2) 研修成果報告会では、「日本でタイ人被害者がどのような問題に直面するか理解できたので、被害を根絶するための取組を自分の職場（空港、地方等）で提案していきたい」、「研修を通じて、（経済的に発展を続けている）タイの将来像を垣間見ると同時に、今後に向けて取り組むべきことについてヒントを得た」、「同国人の支援組織と話ができて大変よかった」、「業務実施方法など活用できる点が多かった」、「日本とタイの労働保護法に関する相違点など、労働者向けに周知すべき点が理解できた」などの意見が多数あげられ、タイの取り組みにも有用であると評価を得た。 4. アジア太平洋地域における拠点としての取組 研修参加者は、毎年タイ国内およびメコン地域での成果発表会で研修成果を共有しており、研修成果について委託元および研修生から高い評価を得ている。当初の国別研修から次年度はタイ、カンボジア、ミャンマー、フィリピン、インドネシア、ラオスの6カ国に拡大した課題別研修を日本で初めて実施することが決まった。	
実績を裏付けるデータ	（データ詳細は添付アンケート集計結果参照）
1. 終了後アンケート（JICA実施） 2. 参加者 14名（女性10名、男性4名）（タイ政府が選定・指名） 中央政府およびパヤオ県、チェンライ県のシェルター所長、ソーシャルワーカー、シェルタースタッフ、司法関係者、警察官、入国管理官、労働局担当官、NGO関係者	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A		
適時性：人身取引問題への取組は、地球規模の課題であると同時にアジア太平洋地域は女性や女児の被害が多く、政策的にも重要な課題である。労働搾取に関する関心やニーズも高まっており、日本における震災やタイにおける洪水被害に対応した震災時の外国人や女性の抱える課題についても取上げた点は、適時性が高い。 独創性：人身取引の問題解決のために、受入国と送出国の間で多分野にわたる連携協働をテーマに行われているワークショップ型の研修は、他に同様の例はなく独創的である。 発展性：今回の研修対象国であるタイの経験は、その後タイで開催されたメコン諸国を対象とした研修でも活かされており、日本の講師が招聘されるなど、今後も発展が予想される。これまでの成果を踏まえて、平成24年度からは国別研修から計画を変えて、人身取引をテーマにした6カ国対象の課題別研修になることが決定しており、研修の成果と発展性が期待されている。 効率性：NWECの国際研修実施経験で培ったノウハウや調査研究の知見と女性団体とのネットワークを活かしたプログラムは委託元から高い評価を得た。NWECに滞在し、専門職員による日本の男女共同参画や女性情報の取組に関する講義を入れ、主催事業「らんざん交流ウィーク」の国際交流に位置付けた。					

2. 定量的評価

観 点	目標達成度	プログラムの有用度	プログラムの満足度		
判 定	A	A	A		
(終了者アンケートにおける回答) ○有用度 100.0 % ○到達目標1「相互の理解を深める」の達成度 100.0% ○到達目標2「MDT(多分野協働チーム)の機能強化に資する知見を得る」の達成度84.6% ○期待充足度 100.0%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	人身取引の分野における国際研修の実施は、途上国に対する国際貢献と同時に、国内の行政や相談関係者、市民が、国際的な課題について認識を広め、関係者のネットワークを深める役割も果たした。来年度は参加国数を拡大するなど、委託元およびタイ参加者にも高く評価された。
達成	人身取引の分野で、途上国の女性の置かれている立場に着目して、被害の防止や女性被害者の保護とエンパワーメントの観点で参加型・実践的研修を実施したことは国際貢献、連携協力を推進するという中期計画の目的に合致している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
日本とタイの関係者双方がタイの取り組みについて理解を深め、帰国後の活動を見直す貴重な機会になったという評価を多く得た一方で、視察先を増やしてほしいという意見も出た。次年度は、受入れを6カ国に拡大した研修の実施が求められている。国毎に多様な研修ニーズをみとすため、視察先の選定、限られた時間に効率的に意見交換や情報交換を行うなど、研修の企画・準備・運営をさらに工夫していく必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	地球規模の課題であり、特にアジア地域の女性と女児にとって深刻な被害を及ぼしている人身取引をテーマとした研修として、会館が人権に関する国際的責務を果たす活動という意味で重要な意義を持つ事業である。特に今回はタイ側の担当チームと会館の緊密な協力関係が基盤となったワークショップ型の研修として大変ユニークな取組と評価できる。また実施に際して、これまで会館が培ってきた国際研修のノウハウや調査研究の知見が上手く活用されていて効率性の高い展開がなされており、しかもこの成果が今後タイに限らず同様の課題を抱える多くの他のアジア諸国での取組にも発展的に活かせる可能性がある点も重要である。会館の他の事業との連動も試みられるなど独自性も顕著である。有用度や目標達成度、期待充足度がいずれも100%という修了者アンケート結果が成果の大きさをよく示している。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ③	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ③NWEC国際シンポジウム

事業名	NWEC国際シンポジウム		
事業概要	目的：行政職員、在日大使館職員、女性関連施設職員、大学院生、援助関係者等を対象に、女性の人権やエンパワーメントに係る地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいするNWEC国際シンポジウムを開催し、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、意見交換を行う。 開催期日：平成23年10月29日（土）13:00～17:30 開催場所：国際協力機構（JICA）研究所 テーマ：災害復興とジェンダー		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	専門職員(1)	係員(1)	計2名

年度実績概要	
【評価指標】	
1. アジア太平洋地域における拠点としての取組	
(1) 女性教育のナショナルセンターとしての人的ネットワークを活用して、国内外から専門家を招へいし、シンポジウムのテーマについて課題を共有し、解決のための方策について議論することを目指した。	
(2) アジア太平洋地域における男女平等政策について、参加者と海外の専門家が意見交換を行うことができる場を設定し、参加者間の交流を促進した。	
2. シンポジウムの内容評価	
(1) 東日本大震災からの復興過程に女性の視点を反映するよう、政策提言をおこなっている堂本暁子前千葉県知事と、国際的な女性リーダーのネットワークを擁するアジア太平洋女性監視機構代表のコテゴダ氏を基調講演者として招へいた。またバングラデシュやタイの専門家に加え、日本国内で被災女性への支援を展開している女性センターの責任者にパネリストを依頼し、アジア太平洋地域における男女共同参画の視点に基づいた災害復興の現状をさまざまな角度から検討する機会となるよう配慮した結果、プログラム全体の満足度は100%であった。	
(2) 第一部と第二部の間の時間を活用して、シンポジウム参加者と報告者間の交流を促進するためポスターセッションをおこなった。本事業に先立って実施したアジア太平洋地域における男女共同参画推進官・女性リーダーセミナーの研修生11名が、9カ国における災害とジェンダーに関する諸政策をポスターにまとめ、報告した。参加者からは「視覚化されたポスターは、わかりやすかった」との高い評価を得た。	
(3) 基調講演とシンポジウムでの議論と質疑応答の内容は日英二カ国語の報告書を作成し、女性関連施設、男女共同参画主幹課、大使館等に送付した。報告書（日・英）とポスターセッションの資料はNWECのホームページ上でも、ダウンロード可能な形式で公表している。	
実績を裏付けるデータ	(データ詳細は添付アンケート集計結果参照)
1. 参加者 130名(定員 100名)	
2. 有用度 第Ⅰ部基調講演 99% (「非常に有用」77%、「有用」 21%)	
3. 有用度 ポスターセッション・交流 89% (「非常に有用」35%、「有用」54%)	
4. 有用度 第Ⅱ部パネルディスカッション 99% (「非常に有用」67%、「有用」32%)	
5. 満足度 100% (「非常に満足」34%、「満足」 66%)	
6. 「平成23年度 NWEC国際シンポジウム」報告書の発行部数 日本語、英語各 1, 000部	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：平成23年3月に発生した東日本大震災をふまえ、災害復興とジェンダーという喫緊の課題について、国内外の専門家や実践家との意見交換ならびに、好事例に関する情報を交換することができた。 独創性：NVEC主催の国際研修の研修生が本シンポジウムで報告することにより、一般参加者がアジア太平洋諸国におけるテーマに関する最新の取り組みを、限られた時間内で共有できることが特色となっている。 発展性：アンケート回答者の92%が、「自身の研究・仕事・活動に役立つ情報や知識を得ることができた」と回答し、94%が「各国の男女平等政策の取り組みについて知ることができた」と回答しており、参加者の視野を広げ今後の業務や活動を充実させる一助となったと考えられる。 効率性：国際シンポジウム実行委員会との共催により実施し、同委員会が獲得した外部資金（140万円相当）の費用を事業の実施に充当することができた。また、前年度に引き続き「国際協力機構」からの後援を得て、事業の広報並びに会場の確保の面で協力を得た。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度 (第Ⅰ部基調講演)	プログラムの有用度 (ポスターセッション・交流)	プログラムの有用度 (第Ⅱ部パネルディスカッション)	プログラムの満足度
判 定	A	A	A	A	A
○応募倍率 定員100名、応募者130名 ○有用度 第Ⅰ部基調講演 99% (「非常に有用」77%、「有用」21%) ○有用度 ポスターセッション・交流 89% (「非常に有用」35%、「有用」54%) ○有用度 第Ⅱ部パネルディスカッション 99% (「非常に有用」67%、「有用」32%) ○満足度 100% (「非常に満足」34%、「満足」66%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	「第三次男女共同参画基本計画」において、「第14分野 地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」が新設され、東日本大震災の復興にあたり、そのための具体的な取り組みが進められている。本事業を通じて、アジア太平洋諸国における男女平等政策の最新の情報を学び、男女共同参画の視点に基づいた災害復興に関する議論を深める場を設けることは、中期計画の目的に合致している。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ポスターセッションの会場が混雑していたとの意見が一部みられたので、ポスターの掲出方法等を工夫していきたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	会館の国際貢献・国際協力事業としてのメリットが大変有効に活かされていると評価できる。他の事業を通して構築されたJICAとの協力関係があったことで開催場所もJICAが利用できているし、国際シンポジウム実行委員会との共催によって外部資金の利用も可能となるなど効率性の点でも見るべきものがある。テーマ設定には高い適時性が示されており、特にNo.21の事業と連動させたことで、効率性と同時に内容の充実度が一層高まったことが注目される。日英二ヶ国語での報告書作成、ポスターセッションの実施により、海外からの情報の国内への発信にも大いに寄与している。プログラム全体の満足度は100%で、参加者からも高い評価を得ている状況がよくわかる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(2))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (2) 地球規模の課題についての調査研究の実施
年度計画の項目 (I-5-(2))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (2) 地球規模の課題についての調査研究の実施
①	①外国人女性の困難等への支援に関する調査研究

事業名	外国人女性の困難等への支援に関する調査研究		
事業概要	目的：これまで取り組んできた人身取引の教育・啓発に関する調査研究を踏まえ、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた教育・啓発をテーマに3年計画で行う調査研究の1年次として、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた啓発活動に関する基礎的調査を行う。		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	研究員(1)	計	1名

年度実績概要	
1. 調査研究経過	(1) 女性関連施設に対するデータベース調査に同封して、「第3次男女共同参画基本計画の新しい課題への取組に関するアンケート」を行った。女性関連施設が地域で暮らす外国人女性に関わる事業・サービスに関して、施設の現状の取組、地域で連携している機関、支援の一端を担う市民団体・グループについて課題と実態を把握、分析した。 (2) 地域で外国人女性を支援している支援者にヒアリングを実施した。 (3) 日本での取組の参考にするために、米国、韓国、オーストラリアにおける外国人支援や多文化共生の施策・取組について調べ、その成果を交流学習会議で発表した。 (4) 「人身取引と女性に対する暴力」のリーフレット英語版を作成し、ホームページ上に公開した。
2. 得られた知見	(1) 女性関連施設等に対するアンケート調査からは、女性関連施設が行う「外国人女性に関わる」事業・サービスの実施状況は次の通り：①外国人女性を対象とする場合（回答266施設中20件、14.9%）、②一般市民を対象に、支援者養成を目的とする場合（同2施設、1.49%）、③一般市民を対象に、啓発・理解促進を目的とする場合（例：多文化理解、人権にかかわる講座等）、（同46件、34.3%）、④施設職員（相談員を含む）を対象とする場合（3施設、2.24%）、であり取組は限定的である。 (2) 海外の調査からは、多文化共生施策を民間が担っている米国においては、移民が多いNY市は行政と民間の協働事業型、民間組織が財源や人材を確保して行っているパターンが見られた。一方、韓国では多文化家族支援法（2008年）が制定され、国際結婚をした家族に対する支援が女性家族部のもとに全国201カ所に置かれた「多文化家族支援センター」で行われている。センターあたりの予算は1000万円程度であり、ボランティアを活用している。米国・オーストラリアでは、外国人女性自体の自助グループの活動も活発であり、日本の地域の関係機関の連携や自助グループの活動促進に向けた方策に資する知見を得た。
3. 調査研究の活用	(1) 学習・啓発プログラムの実施 「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」、「交流学習会議」において、調査研究の報告を行った。 (2) 「NWE C実践研究」に、調査研究報告を寄稿した。 (3) 継続的实施として、人身取引と女性に対する暴力のリーフレットおよびパネルの貸し出しを行った。 (4) 会館の調査研究を基盤にした学会発表を3件行った。
実績を裏付けるデータ	
1. 全国の女性関連施設を対象とした、「第3次男女共同参画基本計画の新しい課題への取組に関するアンケート」を実施し、266施設の回答を得た。	
2. 平成23年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」、「交流学習会議」において、調査研究の報告を行った。参加者アンケートの各結果は、「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」：有用度92.3%（非常に有用15.4%、有用76.9%）、「交流学習会議」：有用度89.3%（非常に有用18.5%、有用70.8%）。	
3. 貸出用展示パネルが、自治体、大学、女性センターや女性団体等が主催する、全国18事業で活用された（参加者数19,349人）	
4. 「人身取引と女性に対する暴力」リーフレットの英語版を作成して、ホームページ上に公開。	
5. 会館の調査研究を基盤にした学会発表を3件行った。（日本社会教育学会、国際ジェンダー学会、国際開発学会）	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：グローバル化で国際的な人の移動が増加する中、国際結婚等で日本に暮らす途上国出身の女性の数が増加している。「少なくとも一方の親が外国人」の子どもも増加している。しかし、彼女たちが直面する生活上の課題や困難の実態を把握するために必要な情報、統計、プログラムは未整備な部分が多い。国連女性差別撤廃委員会からも指摘されている第三次男女共同参画基本計画の新規課題であるこの問題に関する教育及び啓発への取組はナショナルセンターとして時宜に合い重要である。 独創性：会館の人身取引に関する調査研究の成果も生かしつつ、これまで見過ごされてきた外国人女性の人権保障に資する地域の女性関連施設や女性団体等の活動について行う調査研究は、独創的である。 発展性：交流学習会議や学会、会館ホームページやNWE C実践研究を活用した調査研究の発表や報告を行った。会館の海外協力機関の協力を得て実施されており、今後さらなる国際的連携を含めた発展性が望める。 効率性：本調査研究の実施にあたっては、女性関連施設データベース調査と一緒にアンケート調査を行うことや海外協力機関の協力を得ることで、経済的・時間的の両方から効率的な実施につながった。					

2. 定量的評価

観 点	プログラム有用度	プログラム・参考資料作成数			
判 定	A	A			
○ 「リーダー研修」「交流学習会議」において、調査研究の報告を行った。有用度は「リーダー研修」：有用度92.3%（非常に有用15.4%、有用76.9%）、「交流学習会議」：有用度89.3%（非常に有用18.5%、有用70.8%） ○ これまでの調査研究の成果をいかした学会発表（日本社会教育学会、国際ジェンダー学会、国際開発学会）計3件を行い、NWE C実践研究に調査報告を執筆した。 ○ 貸出用展示パネルが、自治体、大学、女性関連施設や女性団体等で主催・実施された全国18事業で活用された（参加者数19,349人）。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	3年計画の1年次として、外国人女性の必要とする支援や教育・啓発活動について、海外及び国内の実態を調査し、明らかにした。
達成	これまで実施してきた人身取引に関する調査研究の成果を踏まえた「外国人女性」に焦点をあてた調査を立ち上げている。また、米国、韓国、フィリピンの海外連携協力3機関と次年度に向けた協力事業の準備も開始しており、中期計画を順調に進めている。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
我が国においては外国人女性が必要とする支援や教育・啓発活動への女性関連施設や女性団体等の関心は一部にとどまる一方、一般的関心も未だ低く、先進的事例も少ない状況である。次年度は、1年次の成果を踏まえつつ、当事者女性の課題解決に結びつく学習支援および啓発活動に取り組んでいる女性団体・民間団体を対象に、取組の実態や課題についての調査研究を行う。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	国の第三次男女共同参画基本計画でも新たな課題として重視されている分野に関し、会館の特色であるこれまでの人身取引の教育・啓発に関する調査研究の蓄積を生かした意欲的な取組として注目される。得られた知見からも明らかなように、重要でありながらこれまで地域の女性関連施設ではなかなか行われてこなかった外国人女性支援のサービスや事業を、海外の活動からの成果を有効に反映させつつ、リーフレットやパネル貸し出しを通して地域の女性関連施設で実践的に担いやすい形に展開できたことは、ナショナルセンターとしての会館の役割から見て、重要な責務を果たしていると評価できる。調査研究報告へのアンケート結果における有用度の高さもそのことをよく示しているといえる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(3))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (3) 国際的なネットワークの構築
年度計画の項目 (I-5-(3))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (3) 国際的なネットワークの構築

事業名	国際的なネットワークの構築		
事業概要	目的：アジア太平洋地域における男女共同参画を推進する女性教育の人材育成の拠点として、地域課題について海外の2機関以上と連携して実施する調査研究・事業の準備を進めるとともに、研修修了生に対し、研修修了後も双方向の情報交換・議論の呼びかけを通じてネットワーク構築を図り、アジア太平洋地域における男女共同参画のための先進的な取組を日本国内に普及させる。		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	研究国際室長(1) 専門職員(1) 研究員(2) 研究国際係長(1) 計5名		

年度実績概要	1. 海外の協定締結機関等との関係 (1) 韓国両性平等教育振興院 (KIGEPE, Korean Institute for Gender Equality Promotion and Education) 平成18年4月26日、交流及び協力に関する協定を締結 平成23年12月19日、韓国両性平等教育振興院よりイ・サンワ部長、イ・ジョーヨン課長が来館し、職員と交流・意見交換を行う。 平成24年1月18日、研究国際室研究員が調査研究のために訪問、研究員と意見交換を行う。 (2) 韓国女性政策研究院 (KWDI, Korean Women's Development Institute) 平成18年9月28日、研究交流及び協力に関する協定を締結 平成24年度に、NWECAがCenter for Women Policy Studies(米国CWPS)と共催する国際会議にて協力を得ることとなった。 (3) フィリピン大学機構 (University of the Philippines System) 平成21年3月11日、学術協力に関する協定を締結 平成24年度に、NWECAがCenter for Women Policy Studies(米国CWPS)と共催する国際会議にて協力を得ることとなった。 (4) 延辺大学女性研究中心 (中華人民共和国吉林省) 平成21年5月12日、研究交流及び協力に関する協定を締結 平成23年10月、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーに同大学職員が参加。 (5) カンボジア王国女性省 (Ministry of Women's Affairs of Kingdom of Cambodia) 平成22年4月6日、交流と協力に関する協定を締結 平成22年10月、女性のエンパワーメント国際フォーラムにイン・カンタ・パビー同省大臣が基調講演者として出席。 平成23年10月、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーに同省職員が参加。 2. 国際的なネットワークの構築 平成23年8月29～9月3日、Center for Women Policy Studies(米国CWPS)等に研究国際室研究員2名が「地域の男女共同参画の取組を核とした移民女性のエンパワーメントと支援に関する研究(科学研究費補助金)」の現地調査に訪問し、研究員と意見交換を行う。 平成23年10月30～11月5日、韓国 社会的企業と京畿道女性能力開発センター等を研究国際室研究員が調査研究のために訪問、研究員と意見交換を行う。 平成23年11月7～9日、2011 Asia Women Eco-Science Forum(日中韓科学技術指導者フォーラム)に理事長が出席。 平成24年1月23～30日、ビクトリア移民・難民女性連合会等に研究国際室研究員が「地域の男女共同参画の取組を核とした移民女性のエンパワーメントと支援に関する研究(科学研究費補助金)」の現地調査に訪問し、研究員と意見交換を行う。 平成24年2月27～3月9日、Commission on the Status of Women(第56回 国連女性の地位委員会)に日本政府代表団の一員として、研究国際室専門職員2名が参加。		
--------	---	--	--

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：協定締結先である5機関とは、協定に基づく交流が引き続き行われており、これまでに構築した協力体制を強化するためにも適切な協定締結であったと言える。

独創性：海外の2機関以上へ調査研究・事業の準備を進めるために訪問しており、来年度以降の事業等を進めるためにも適切。

発展性：アジア・太平洋地域及び米国を訪問し、ナショナルセンターとして、海外機関との連携やネットワーク構築をアピールした。
「NWECCフォーラム」でのリーダーセミナー研修生のパネル展示、「NWECC国際シンポジウム(英語)」報告書の会館ホームページ掲載等、研修成果を国内外に広く普及した。

効率性：国際協力機構、社団法人等からの資金を得て、効率的に事業を実施している。

2. 定量的評価

観 点	協力関係機関数				
判 定	A				

中期目標期間中に海外の5機関以上と連携した調査研究・事業を実施するとされているところ、平成23年2月には協定先である韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)に調査研究のために訪問、平成23年8月には、来年度、NWECCより理事長以下3名が出席をする国際会議の打合せのためにCenter for Women Policy Studies(米国CWPS)を訪問するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け、準備を進めている。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	協定締結先である韓国、フィリピン及び延辺大学の4機関とは、活発な人的交流、調査研究、情報・研修事業を通じた相互の情報交換・支援が行われた。年度計画で定められた「地域の課題について海外の2機関以上と連携して実施する調査研究・事業の準備を進める」についても、協定先である韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)、Center for Women Policy Studies(米国CWPS)等を訪問するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け、準備を進めている。米国等への訪問を通じて、活発な情報交換や意見交換が行われたことは、日本における男女共同参画の事業や実態を海外に広報し、海外の知見や実践をNWECCの事業に活かすためにも大変有意義であった。また、独立行政法人国際協力機構(JICA)の研修事業を1本委託で受け入れており、アジア太平洋地域のみならず、途上国の男女共同参画と通じた支援にも大きく貢献している。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今までに構築してきた海外機関との協力体制を強化しつつ、海外の諸機関・組織と男女共同参画及び女性教育の人材育成に関し、NWECCの持つ調査研究・事業・情報機能を有機的に用いて取り組むことにより、相互にメリットのある事業展開を目指す。また、海外研修修了生等の繋がりを一層強めるため、研修修了後のメール配信、情報交換・議論を行うなど、NWECCを中心とした研修参加者とのネットワークの充実を図るとともに、NWECCホームページ等で研修の成果、NWECCの取り組みを日本国内外に広く普及させる。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	国内のみならず、広くアジア太平洋地域での男女共同参画推進・女性教育人材育成拠点としての会館の存在意義を十分に示した事業と言える。個々の協定締結機関との関係は、いずれも情報交換、研修、国際会議での協力など有用性の高い形で関係強化の成果につながっており、こうした国際的ネットワークの構築がいくつかの重要な調査・研究における海外各機関との連携協力の実現に結びついている点も重要な成果である。こうした活発な国際的ネットワークを通じた諸事業の着実な成果の積み重ねが、今後より拡大された形で展開される会館の国際貢献活動の基盤となることも大いに期待される。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-6-(1)(2))	6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1) 利用者への学習支援 (2) 利用の拡大
年度計画の項目 (I-6-(1)(2))	6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1) 利用者への学習支援 (2) 利用の拡大

事業名	利用者への学習支援と利用の拡大
事業概要	(1)施設を利用する団体・グループ、個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関するプログラムを提供する。また、インターネットで提供する学習教材を作成するため、教材として適切なテーマを精査する。 (2)利用拡大戦略に基づき、大学・企業等からの利用促進に努めると共に、本年度は特に国家公務員を対象とする研修での利用を促進する。
担当課室	事業課
スタッフ	全職員

年度実績概要	
1. 利用者への学習支援	(1) 研修プログラム作成支援の実績： 会館を利用する団体・グループ等が企画・実施する研修等のプログラムについて、会館職員等が学習相談・利用相談を受け、研修プログラム作成を支援した。 (2) 利用者アンケートの結果の反映 利用者アンケートで寄せられた意見等を検討し、宿泊室を含めた全館禁煙の導入等について検討した。 (3) 情報提供の系統化と学習素材の提供 情報提供を担当する各課室職員によるワーキンググループを立ち上げ、情報提供における頻出キーワード等を収集し、教材のテーマについて検討を行った。
2. 利用の拡大	(1) 利用拡大戦略に基づく取組 過去に利用しているが平成23年度予約がない団体を中心に全館職員による訪問等を行ったほか、ホームページの見直し等、利用拡大戦略に基づき積極的に取り組んだ。 (2) 大学・企業等の利用促進 大学・企業向けに会館利用のモデルプラン等を掲載したチラシを作成し、積極的な広報を行った。 (3) 宿泊室利用率の実績（期間目標55%） 平成23年度宿泊室利用率31.8%。利用率低下の要因の一つとしては、東日本大震災の影響で年度当初を中心にキャンセルが相次いだほか、震災の影響により学校行事、研修等の開催時期がずれた結果、会館で実施するはずだった合宿等を中止せざるを得ない団体等があったことが上げられる。
3. 指摘事項への対応等	(1) 各主催事業においては、過去の実績に照らして参加率等の明確な目標を設定し募集を行った。利用拡大においては、過去に利用歴があり平成23年度に予約が入っていない団体を中心に広報を行い、訪問時は会館への要望等について聞き取りを行うなど利用者の拡大対策を講じた。 (2) 国家公務員を対象とする研修については、人事院の職員研修の受入れが予定されていたが震災の影響によりキャンセルとなった。そのほかは内閣府、文部科学省の研修について受入れを行った。 (3) 国内の利用者が少ない地域もあったことから重点的に広報等を行った結果、「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」においては、昨年度まで関東・甲信越地方からの参加者が全体の過半数を占めるなどに著しく偏りが見られていたところ、本年度は従来参加が少なかった中国・四国、九州・沖縄地域が増加するなど、地域バランスに改善が見られた。 (4) 男女共同参画社会の実現という政策実現に資するため、利用団体向けの講座等を積極的に提供した結果、利用件数における、目的利用（会館を利用する際の研修等において、女性・家庭、家族、男女共同参画に関するプログラムを含む利用）の割合が平成21年度の29.1%から34.7%に増加した。
実績を裏付けるデータ	【】内は2、5をのぞき平成21年度実績
1. 会館職員が講師を担当したプログラム（講義）件数（21件）【13件】	
2. 利用者アンケートにおける学習相談満足度：98.3%（非常に満足44.2%＋満足54.2%）【98.2%（非常に満足40.2%＋満足58.0%）】	
3. 地域バランス	
「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」※詳細は同事業業務実績報告書参照 平成23年度 参加者75名のうち	
(1) 関東・甲信越 29名（38.7%）【48名 61.5%】(2) 中国・四国 18名（24.0%）【4名 5.1%】	
(3) 九州・沖縄 4名（5.3%）【2名 2.6%】	
4. 利用の受入れ状況（①平成23年度国立女性教育会館利用状況、②目的別利用状況、③施設別利用状況、④利用回数別利用状況 参照）	

- (1) 平成23年度 延べ利用者数 114,101人（うち目的利用者数 57,613人）
(2) 利用団体数 3,039団体

5. 利用拡大の取り組み

- (1) 役員・職員による講演回数：34回【33回】
(2) NVECプログラムの開催：4回実施 参加者数 124人【2回 69人】

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	B	B	
適時性：学習支援については、講義や情報提供に近年問題となっているドメスティック・バイオレンスの課題を取り上げるなどした。また、利用拡大について、広報の効果を高めるため主催事業等に関する情報のホームページへの掲載等早めの周知を実施した。このほか、施設利用については利用案内等の配布に加え、会議室・研修施設等検索サイトに会館情報を登録するなどし、いずれも時宜を得た取り組みとして評価できる。 独創性：学習支援については会館を利用する団体・グループ等が企画・実施する研修等のプログラムについては、主催事業等で培った知識・経験を活かし、多様な利用者の各ニーズに合わせた内容を提供している点は、研修プログラムを長年実施してきた会館ならではの独創性として評価できる。 利用拡大においては、平成23年度以降厳しい状況が続いており、利用者増に向けた更なる取り組みを検討する必要がある。 発展性：学習支援については、各主催事業の参加者募集において、会館利用者が少ない地域を重点的に広報するなどした結果、地域バランスが改善されたものがあつたことは、男女共同参画を各地域で推進する発展性において評価できる。 利用拡大については、新たな利用先として企業・大学に対し積極的な広報を行っているが、成果が現れるのにはある程度期間が必要であり、継続した取り組みが求められる。 効率性：利用拡大については理事長や理事による講演依頼を積極的に受けたほか、人的ネットワークを活用した訪問活動を展開し効率的な広報に努めているが、限られた予算と人員減のなか主催事業の合間に実施せざるを得ない面もあり、効率性の向上が課題である。					

2. 定量的評価

観 点 判 定	宿泊室利用率				
	B				
平成23年度宿泊室利用率 31.8%【平成21年度44.8%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	平成23年度の年度当初には人事院、教職員研修センター等の職員研修など大人数を対象とした利用予約があつたが、当該機関職員の被災地支援活動の影響により中止となるなど、東日本大震災の影響もあり、利用率が伸び悩んでいるのが現状である。
順調	本会館を男女共同参画実現の学びの拠点として利用する団体が増加していることが伺える。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
目的利用団体向けの講義の増加など、職員への業務負担が見受けられるため他の業務と調整しつつ、より利用者のニーズに合わせた学習支援を検討する必要がある。 利用拡大については期間目標の55%達成のため、より一層の広報等を行う。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	宿泊室利用率は確かに期間目標に対してこれを下回る結果となつたが、この原因は東日本大震災の直接的影響としての年度当初を中心とするキャンセルの増大はもちろん、利用者側の行事、研修等の開催時期のズレにより会館の利用が他の時期も不可能になるなどといった間接的影響によるものも大きく、いわば不可抗力による結果と判断せざるをえない。むしろそうした困難な条件下で、全館職員による団体訪問やホームページの見直し、大学・企業向けの利用モデルプランの作成と広報など、利用者拡大に向けて積極的な取組を行っていることは高く評価できる。また研修参加者の地域バランスにおいて改善が見られたり、利用件数における目的利用の割合が上昇するなど、会館の本来の機能や役割を果たす点での成果が着実に上がってきている点も、取組の結果として十分評価に値する。今後は一層の利用拡大に向けての継続的な努力がさらに望まれる。
順調	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-1-(1))	1 適切な法人運営体制の充実 (1) ガバナンス・内部統制の充実
年度計画の項目 (Ⅱ-1-(1))	1 適切な法人運営体制の充実 (1) ガバナンス・内部統制の充実

事業名	ガバナンス・内部統制の充実
事業概要	① 理事長のリーダーシップのもと、NVECが担う役割や内包している課題等の情報を職員全員に共有・伝達するため、定期的に運営会議、館内研修等を実施する。 ② NVECを取り巻くリスクの把握、分析等を行い、定期的に運営会議に報告するとともに、リスク低減に向けた機能等を充実させ、職員全員に周知徹底する。 ③ 業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から、定期的にモニタリングを行う。また、その結果について役職員に周知を図り、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。
担当課室	総務課
スタッフ	全職員

年度実績概要	1. 理事長のリーダーシップについて (1) 理事長のリーダーシップの確保と効率的業務を目的として運営会議を毎週開催している。運営会議には、理事長、理事、各課室長及び各課室連絡担当係長（職員の過半数）が出席、理事長が各部署から業務報告や懸案事項の報告を受け、解決のための指示を直接伝達している。 (2) 理事長を補佐する組織としては、組織が小規模なため、総務課が担っている。 (3) 監事監査において、業務運営の効率化や各事業に関する取り組みに関し理事長の方針等を確認し、そのマネジメントのありように留意している。 2. リスク管理体制の整備について (1) 上記運営会議において、理事長、理事に対しきめ細かな報告がなされるため、理事長、理事の指示のもと、リスクの把握、分析、対応検討が速やかに実施されている。 (2) 予算の執行状況をはじめとする経営上の重要事項について役員会において検討・報告がなされている。 3. コンプライアンス体制の整備について 平成20年度に整備された以下の倫理行動規程について、職員研修等で周知徹底を図った。 ・独立行政法人国立女性教育会館における研究活動に係る行動規範 ・独立行政法人国立女性教育会館における研究活動上の不正行為に関する基本方針について ・独立行政法人国立女性教育会館における研究費の不正使用の防止等に関する規程 ・独立行政法人国立女性教育会館研究費不正使用防止推進委員会設置要項 ・独立行政法人国立女性教育会館職員倫理規程 4. 監事監査 「監事監査規定」に基づき、2名の監事による監査を実施。平成23年度は「監事監査計画」に基づき、四半期毎に計4回の定期監査（業務及び会計を対象）を実施した。監査結果は理事長に報告され、いずれも是正改善を必要とする事項はなかったが、年度計画の記載内容について、より具体的な記載表現とするよう助言を受け、理事長の指示により改善が図られた。 5. 年度計画の着実な実施について 利用拡大戦略や広報実施計画を策定、全課室横断的な取り組みを計画的に実施するとともに、毎週の運営会議における各課室からの事業実施状況の報告により、年度計画の着実な実施を行った。 6. モニタリングの実施について 非常勤職員も含む全職員に対し、業務改善に関する提言募集を実施した。職員から寄せられた様々な意見は総務課で集約し、業務の効率化に関して出された提言について、運営会議メンバーによる館内会議で検討し、事業のスクラップや統計業務の簡略化など結果を業務に反映した。 7. 法人のミッションの周知 役員に対しては役員会等において、職員に対しては館内研修や運営会議等の場所において周知しているが、組織が小規模なため、理事長の方針が迅速且つ直接役職員に伝えられる機会が多い。 8. 東日本大震災への対応について 8月まで被災者の無料受入れを実施した。その後も12月22日まで被災者の宿泊を受入れ、震災発生から約9ヶ月で115名、延べ宿泊者数2,418名の受入れを行った。 被災者を対象に、ボランティアや職員による昼食の無料提供や日用品購入の手伝い、近隣の観光案内、子どもへの絵本の読み聞かせ、折り紙体験等各種支援を実施し、被災者への継続的な支援に取り組んだ。
実績を裏付けるデータ	○監事監査 計4回開催（四半期及び決算監査） ○運営委員会 計3回開催 ○役員会 計4回開催 ○運営会議 原則毎週火曜開催

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性、独創性、発展性：
行政刷新会議における独立行政法人の在り方の見直しを通じ、今後のNWECの在り方について抜本的な見直しを行う館内検討会を合計9回実施。各部署の意見を吸い上げるとともに、理事長の主導のもと、全館職員がポジションにこだわらない自由な意見交換や提言を行いNWECの将来像について考えた。こうした一連の動きを通じ、職員の一人一人がNWECが担う役割や内包している課題等を認識するとともに、NWECを取り巻くリスクの把握、分析等を行い、今後の取り組みの在り方について館内の意識を集約することに繋がった。

効率性：
年度末に、全館職員を対象とした業務改善提案の募集を行い、約半数の職員からの提案を募集。第一線の業務現場の声を即、反映させた。

2. 定量的評価

観 点	役員会実施回数	監事監査実施回数	運営委員会実施回数	運営会議実施回数	館内検討会開催回数
判 定	A	A	A	A	A

○役員会規程に基づき、予定されていた4回の役員会を開催した。
○監事監査計画に基づき、予定されていた4回の監査を実施した。
○運営委員会規程に基づき、予定されていた3回の運営委員会を開催した。
○運営会議規程に基づき、原則として毎週火曜日、理事長、理事、課室長、各課連絡担当係長を構成員とした運営会議を開催した。
○行政刷新会議における独立行政法人の在り方についての抜本的見直しの動向も踏まえ、NWECの今後の在り方に関する理事長を中心とした館内検討会を9回開催した。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	今後のNWECの在り方が問われる中、全職員が理事長のもとに一丸となって将来構想を考え、業務効率化を進める取り組みが意欲的に行われた。 毎週開催される運営会議や検討会を通じて、NWECの抱える課題について職員が共通理解を深めるとともに、足並みを揃えた取り組みを実施している。
達成	また、役員会、監事監査を定期的に行い、NWECの現状と課題について適切に報告し、助言を得るとともに、得られた助言を速やかに業務に反映している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
小規模組織であることから理事長のリーダーシップが存分に発揮できる利点を活かし、今後も職員が一丸となって業務に取り組んでいく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	毎週開催される運営会議や四半期ごとの監事監査等、丁寧な運営がうかがえる。業務運営に関する提言に際し非常勤職員にも意見を求める等、理事長のリーダーシップのもと小規模な組織を生かした、全員参加の運営を心掛けている。加えて、東日本大震災の被災者支援にも積極的に取り組んだことは評価できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ－２－(１))	2 人件費・管理運営の適正化 (１) 人件費・管理運営の適正化 (２) 保有資産の見直し
年度計画の項目 (Ⅱ－２－(１))	2 人件費・管理運営の適正化 (１) 人件費・管理運営の適正化 (２) 保有資産の見直し

事業名	人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し
事業概要	(１) 人件費・管理運営の適正化 政府の給与改善改革を踏まえ、引き続き人件費削減を図るとともに、業務運営の見直しと自己収入等の増加に向けた努力を不断に行い、中期目標期間中に、一般管理費については平成２２年度比１５％以上、その他の事業費（外部資金で実施する事業及び利用の増加による支出増等を除く）については平成２２年度比５％以上を削減する。 (２) 保有財産の見直し 平成２３年度末までに埼玉県から借り受けているNVECの敷地面積を見直し、敷地の一部返却による土地借料削減を図る。
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長（１）、総務係長（１）、会計係長（１）、専門職員（２）、係員（１）計６名

年度実績概要	
1. 人件費の適正化	引き続き、理事が事務局長を兼任とし、人件費削減を図った。 職員のうち、育児休暇・育児時間を取得した者が２名いたため、人件費が削減された。 しかし、ナショナルセンターとして本来業務の質の確保が求められることから、職員数は昨年と同数を維持した。
2. 給与水準の適正化と結果の公表	役職員の報酬・給与等と職員給与については、その実績値と、国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をＨＰにおいて情報公開している。 ラスパイレース指数は、事務職が国家公務員比８４．８、他法人比８０．２であり、研究職が国家公務員比６５．４、他法人比６５．２となっており、国家公務員と比較して低い水準にある。
3. 保有財産の見直し	埼玉県から借り受けている敷地面積を見直し、研修棟東側の雑種地、草原運動場及びテニスコート（３面）を返却することで埼玉県と合意した。これにより、埼玉県との県有財産賃貸借契約を改定し、土地賃借面積を134,543.81㎡から98,239.81㎡に縮小することとなり平成23年度賃借料を41,946,000円から18,086,834円に削減、23,859,166円の経費削減となった。
4. 重要な財産の処分	平成23年12月の役員会で廃止を決定した温水プールの処分を進めているが、建物の取り壊しにかかる経費などが課題となっている。 金融資産は保有していない。
5. 諸手当・法定外福利費	(１)「国と異なる諸手当」及び「法人独自の諸手当」の支給はない。 (２) 法定外福利費については、医療・健康にかかる費用などを支出。 (３) 健康保険組合の保険料に関する労使負担割合については、職員については、国家公務員共済組合の割合に準じている。また、有期雇用職員については、全国健康保険協会の健康保険料率に従っている。
実績を裏付けるデータ	
1. 効率化率（財務諸表及び決算報告書により記載）	(１) 一般管理費効率化 平成２３年度 74,583千円 前年度比８２％ (２) 業務経費効率化 平成２３年度 343,049千円 前年度比８７％（中期計画期間中の目標値：９５％） (３) 人件費削減状況 平成２３年度 176,156千円 前年度比９５％（中期計画期間中の目標値：９５％） ※中期計画期間中の目標値は平成２２年度の基準金額に対する割合
2. ラスパイレース指数：事務職８４．８、研究職６５．４【２２年度：事務職９１．２、研究職６８．５】	
3. 研修施設の活用状況（参考資料）	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	効率性		
判 定	A	A	A		
適時性：独立行政法人通則法に定める企業会計原則の適用及び独立行政法人会計基準による会計処理により、公正性・透明性が確保された運営が実施された。 独創性：行政刷新会議の評価結果を踏まえ、事業や予算の見直し等を適切に実施した。 効率性：埼玉県から借り受けている土地の一部返却により、大幅な管理経費の削減が実現した。					

2. 定量的評価

観 点	一般管理費効率化	業務経費効率化	人件費削減状況	ラスパイレス指数	
判 定	A	A	A	A	
1. 効率化率（財務諸表及び決算報告書により記載） （1）一般管理費効率化 平成23年度 82% （2）業務経費効率化 平成23年度 87%（中期計画期間中の目標値：95%） （3）人件費削減状況 平成23年度 95%（中期計画期間中の目標値：95%） ※中期計画期間中の目標値は平成22年度の基準金額に対する割合 2. ラスパイレス指数：事務職84.8、研究職65.4【22年度：事務職91.2、研究職68.5】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	各経費とも、目標値を達成している。 また、埼玉県から借り受けている敷地面積の一部返還により、大幅な管理経費の削減が実現したことは、評価できる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
人件費、一般管理費、業務経費の削減については、かなり限界にきており、これ以上の削減はナショナルセンターとしての本来業務の質の確保に影響することから、自己収入の拡大や業務のスクラップ＆ビルドを戦略的に進めていく必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	平成23年度も22年度に続き、一般管理費や業務経費の削減に非常な努力をしている。また、23年度は不要な資産を地元埼玉県に返却する等保有資産の見直しも行われており評価できる。一方、「4 今後の課題」にあるように、人件費等、経費的にナショナルセンターとして限界にきている。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ－３－(1)(2))	3 業務運営の改善及び効率化 (1) 業務運営の改善 (2) 人材育成、多様な人材の活用
年度計画の項目 (Ⅱ－３－(1)(2))	3 業務運営の改善及び効率化 (1) 業務運営の改善 (2) 人材育成、多様な人材の活用

事業名	業務運営の改善及び効率化
事業概要	(1) 業務運営の改善：効果的・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い、業務運営に反映させる。また、積極的に事務事業の外部委託を進めるとともに、必要に応じて組織の再編整理等を行う。 (2) 人材育成、多様な人材の活用 ①毎年、研修計画を策定し、業務に即応した能力開発及び専門性を高めるための職員研修を実施する。 ②関係機関・団体等との人事交流や客員研究員等外部人材の活用など、多様な人材を確保することにより、組織を活性化する。
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長（１）、総務係長（１）、会計係長（１）、専門職員（２）、係員（１） 計６名

年度実績概要	
1. 業務運営の改善	すでにぎりぎりの人員と予算により効率的な業務運営が求められていることから、運営会議を初めとする各種会議において不断の業務見直しを行っている。年度末には、全館職員から業務改善提案を募集し、運営会議出席者による検討会議を実施した。その結果、職員の配置換えによる業務分担の見直しや、これまで実施してきた利用統計の詳細項目の計上等の廃止など業務の効率化が図られた。 また、研修、調査研究に係る企画実施機能の強化、業務の効率化を図るため、チーム制を導入し、課室横断的な執行体制を整備した。
2. 人材育成、多様な人材の活用	(1) 職員研修の計画的実施 職員の資質・能力の向上を図るため、職員採用や人事異動時に新任職員研修を４月に実施した。 また、年度計画に基づき、情報セキュリティ研修を実施するとともに、ホームページの改定を機に、ヒット率の高い記事の作成の仕方などを中心とした広報に関する研修を実施した。 なお、新任職員対象研修及び情報セキュリティに関する研修について、ビデオ(DVD)化し、研修の効率化を行った。 (2) 人事に関する計画 文部科学省、近隣の大学（埼玉大学、東京大学）及び教育委員会（埼玉県、千葉県）と本人・機関等の意向を踏まえつつ期間を定めた人事交流を実施しており、館内における柔軟な人材配置との相乗効果により組織の活性化を図っている。 (3) 職場環境の整備・充実に関する取組 フロントに「ついたて」を設置し、美観を整えつつ、フロント業務委託先の職場環境を整備した。 (4) 危機管理体制等の整備・充実に関する取組 平成24年3月5日（月）に夜間を想定した避難・誘導・初期消火訓練を行った。訓練には、施設管理業者及び全職員が参加し、非常時に必要な行動を確認した。 また、検討をもとに、各課室連絡担当係長から構成される危機管理マニュアル策定委員会を発足し、マニュアル作成に着手した。 (5) 外部委託の活用 施設管理、保守、消費税申告書作成、アンケート集計や主催事業時のバス運行など事業実施に伴い派生する業務等について可能な限り外部委託を活用することで、職員が事業企画や実施など本来業務に専念できるよう図っている。 (6) 人事に関する計画の有無及びその進捗状況 関係機関との効果的な人事交流を実施し、常に組織の活性化を図っている。
実績を裏付けるデータ	
1. 常勤職員の数	平成23年度 25名（役員を除く） 【平成22年度 25名（役員を除く）】
2. 新たな職員の採用は無し	
3. 国の機関、都道府県、大学等との人事交流	【転入】3名（千葉県（1）、東大（1）、文科省（1））【転出】 3名（千葉県（1）、東大（1）、文科省（1））
4. 職員研修回数	館内 1 回（新任職員研修）、館外10回

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
適時性、独創性：課室横断的なチーム制を導入し各人の専門性や知見の相乗効果により効率的な事業実施を実現したことは、人員が限られている中での効果的な取り組みである。 発展性：夜間を想定した避難・誘導・初期消火訓練を実施し、その実績に基づき、危機管理マニュアルを作成したことは、利用者の安全確保に対する職員の意識を高めるとともに、リスク管理体制の強化に繋がった。 効率性：個々の職員の資質を向上させるため、各種研修を実施したり、外部の研修への積極的な参加を促した。					

2. 定量的評価

観 点 判 定	人事交流数	研修実施回数			
	A	A			
○人事交流数：転入3名 【22年度実績：8名】 ○研修実施回数：合計11回（館内1回、館外10回）【22年度実績：合計35回（館内4回、館外31回）】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	チーム制を導入するなどの業務横断的な執行体制の整備、他機関との積極的な人事交流の実施、職員研修の充実、外部人材の活用などによる組織の活性化等により、柔軟な組織体制の構築が着実に進められており、中期計画は極めて着実に実行されている。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ナショナルセンターとしての役割を果たす上で、また、限られた人員で事業を運営していく上で、職員には広い視野と高い専門性、極めて効率的な業務遂行能力が求められている。 引き続き、各種の研修を利用して職員の資質向上を図るとともに、人材の効果的な配置やキャリア形成の方針、外部人材との連携体制について検討していくが、これ以上の人員削減は困難である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	全職員からの業務改善提案等を基盤に業務分担の見直しや業務の効率化、チーム制の導入などが行われ、人員が限られているなか業務の改善が進んでいる。これらの改善に引き続き努力するとともに、女性教育のナショナルセンターであることから、人材の確保及び研修等による職員の専門性の育成に引き続き努力されたい。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-4-(1))	4 業務運営の点検・評価 (1) 自己点検・評価等による業務の改善
年度計画の項目 (Ⅱ-4-(1))	4 業務運営の点検・評価 (1) 自己点検・評価等による業務の改善

事業名	業務運営の点検・評価
事業概要	業務全般について、参加者や利用者等の評価を踏まえ、自己点検・評価を実施し、その結果を的確に事業に反映させる。 適時適切に外部評価を受け、業務に関する客観的意見も取り入れ、業務の改善を不断に行う。 評価結果はホームページを通じて公表するとともに、事業の活性化・効率化を図るために積極的に活用する。
担当課室	全課室
スタッフ	全職員

年度実績概要	1. 自己点検・評価 (1) 平成23年度は、昨年度よりさらに迅速なスケジュールを設定し、5月中に外部評価委員会を終了、6月末に決算と併せて評価報告書を文部科学省に速やかに提出した。 (2) 事業実施後、自己点検評価を次年度の事業に企画に反映させ、より有用な事業の企画・立案に努めた。 (3) 文部科学省独立行政法人評価委員会で「全ての研修・交流事業について、相当な業務負担を伴うフォローアップ調査を実施しているが、業務効率化の観点から、フォローアップ調査を実施する事業を厳選してはどうか」との指摘があったことを受け、①女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修、②男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育推進研修、③アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー、④NWECフォーラム（ワークショップ運営者）の4事業に厳選して実施することとした。 2. 外部評価委員会 平成23年度は、平成19年度に作成した「外部評価の観点」に基づき、第2期中期計画に記載された事業のうち、平成22年度に実施された35項目の事業についての評価を実施するとともに、第2期中期目標期間の評価を実施した。 平成22年度実績については、年度計画を十分に達成したものと評価した上で、今後はナショナルセンターとしてこれまで以上に男女共同参画に係る正確な情報を発信し、関係団体による相互交流を促す役割を担うべきといった指摘がなされる一方、既に人的・予算的に限界にあることから、ナショナルセンターとして本来業務の質の確保が課題であるとの指摘もなされた。 3. 評価結果の公表 ホームページの情報公開において、適切に公開している。
実績を裏付けるデータ	自己点検・外部評価スケジュール 1月25日 自己点検・評価委員会（第1回：担当職員への作業発注） 3月～4月 自己点検・評価委員会（計3回：記載内容の精査、自己評価の確定） 5月6日 外部評価委員会（第1回） 5月20日 外部評価委員会（第2回） 5月27日 外部評価委員会（第3回） 6月30日 外部評価委員会のコメントを添付した上で、「平成22事業年度自己点検・外部評価報告書」を文部科学省に提出。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性、独創性、発展性：各事業担当が担当する事業を振り返りシートを記入し、理事長・理事及び課室長で構成される「自己点検・評価委員会」で報告をする過程において、事業の成功点や課題が整理されている。さらに「自己点検・評価委員会」の席上で、理事長を初めとする各職員から、事業担当者が気付かなかった課題等についても指摘があるとともにその対応についても指示がなされるため、次年度の企画につながる発展的な評価となっている。

効率性：本年は、各課室で作成する個々の評価シート配布に際し、予め評価の指標や評価委員会からの指摘事項等の項目を記載した。これにより、各担当において記載もれを防ぐとともに効率的な作業を進めることができた。

2. 定量的評価

観 点	自己点検・評価等を受けた改善				
判 定	A				

事業参加者の応募倍率、アンケート回収率、利用者の新規開拓、連携先の拡大など、自己点検や評価において課題となった箇所について数多くの改善がみられており、点検・評価の結果が次年度の事業運営に効率的に活かされるサイクルが上手く機能していると言える。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	P D C Aサイクルでの事業評価システムを再認識し、評価シートの記載内容を精査するなどより効率的な自己点検・評価に努めた結果、目標が想定どおり達成されているかどうかのチェックを効果的に行うことができた。
達成	理事長、理事、課室長出席のもと開催される「自己点検・評価委員会」で事業毎に行われる事業担当者の報告を通じ、当該事業の達成度と課題が明らかになるとともに、次年度の企画においてその課題をどのように克服すべきかの検討が行われるため、幹部により課室横断的な課題共有が可能となっている。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今後も引き続き、外部有識者により構成される外部評価委員会の意見等をより積極的に取り入れて自己点検・評価全体を統括的に捉え、更なる研修・交流・情報・調査研究の各機能の向上に活かしていくとともに、この評価の過程を通じて、NVECの各事業の抱える課題の共有化を図る。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	各担当作成による振り返りシートをもとに「自己点検・評価委員会」を行い、それを外部評価委員会で更に検討する等の仕組みにより、課題の共有化と評価の流れや業務改善のサイクルが作られていることは適切である。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(1))	(1) 契約の点検・見直し
年度計画の項目 (Ⅳ－(1))	(1) 契約の点検・見直し

事業名	契約の点検・見直し		
事業概要	引き続き入札可能なものについては、全て入札を実施するとともに、積極的に一般競争入札を導入する。一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、一者応札を削減するとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。		
担当課室	総務課		
スタッフ	総務課長(1)、会計係長(1)、専門職員(2)、会計係(1)		計4名

年度実績概要	1. 契約の競争性、透明性の確保 (1) 契約に係る規程類の整備及び運用状況 ・文部科学省所管独立行政法人の少額随意契約に係る基準額を平成19年度より国と同基準とし、一般競争入札の範囲を拡大している。 ・「独立行政法人における契約の適正化について(依頼)」(平成20年11月14日総務省行政管理局事務連絡)において、総合評価方式や複数年契約について具体的な措置が求められたことから、規程の策定、要領・マニュアルを整備している。 (2) 契約の執行体制・審査体制 ・各課からの要望や仕様書を総務課会計係でとりまとめ、一般競争入札が必要な案件では入札を執行して契約を締結している。入札金額に満たない物品・役務・工事等の発注に対しては、過去の契約単価を調査し、複数の業者から見積書を徴収するなどして、安価な契約の締結に努めている。 (3) 契約監視委員会を平成23年12月に開催し、随意契約、一者応札契約等について報告した。 2. 随意契約の見直し (1) 随意契約の見直し状況 ・「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づき、外部有識者2名を含む契約監視委員会を設置(平成22年11月30日)、入札・契約の適切な実施についてチェック体制の強化を図った。 平成23年度契約については、引き続き入札可能なものについては全て入札を実施しているが、平成24年度の電力契約については官報公告まで行ったが参加者がなく、東京電力(株)との随意契約となった。 (2) 一者応札について ・一者応札の削減に向け、引き続き「公告期間を長くとり、入札条件の緩和」等の努力を行った結果、当該件数については、平成22年度は4件(エレベータ保守、会計係派遣、電話交換設備保守、女性デジタルアーカイブシステム保守)であったが、平成23年度はエレベータ保守の1件だけとなっている。 (3) 再委託は無し (4) 関連法人は無し
実績を裏付けるデータ	1. 随意契約状況：4件(水道料金、電気料金、土地借料、郵便料金(信書)) 2. 一者応札状況：1件(エレベータ保守) 3. 一者応札改善状況： (22年度はエレベータ保守の他、会計派遣、電話交換設備保守、デジタルアーカイブシステム保守が該当) ○電話交換業務について 応札者数：2者【22年度実績：1者】 年間間契約金額：812,700円【22年度実績：1,260,000円】(447,300円の削減) ○派遣・デジタルアーカイブシステム保守については業務委託の必要が無くなり入札を中止。 ○エレベータ保守契約は1者応札となっが、34ヶ月の複数年契約を条件として入札を行ったため、単年度契約の場合と比較して16.2%(入札前の参考見積での比較)の経費を削減している。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：少額随意契約に係る基準額の国への準拠や「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成21年11月7日閣議決定）に基づく契約監視委員会の設置等、適切な処置がなされている。 独創性・発展性：新たに設けた複数年契約等に係る規程を適用して、エレベータ保守契約額の削減を図った。 効率性：入札件数の増加に伴う事務作業の分担等について担当内で検討し、部署の機能低下や特定職員の負担にならないよう配慮した。					

2. 定量的評価

観 点	随意契約数	一者応札数			
判 定	A	A			
○随意契約数：4件（水道料金、電気料金、土地借料、郵便料金（信書）） ○一者応札数：1件（エレベータ保守）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	随意契約は、水道料金、電気料金、土地借料、郵便料金（信書）の4件のみとなっており、可能な限り一般競争入札を実施している。
達成	また、低価格物品等の調達等における随意契約についても、引き続き複数業者からの見積徴取を徹底しており、契約に関する競争性・透明性が確保されていると言える。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
電力契約については、一般競争入札を実施しても東京電力（株）以外の応札者が現れなければ入札の意義が薄れるため、応札者の開拓に努める必要がある。 引き続き適正な契約の実施に努め、NVECホームページ等を用いた積極的な情報公開により公平性・透明性の拡大を図る。同時に、NVEC職員の負担増や担当部署の機能低下を招かぬような方策を考えることが必要である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施し、一般競争入札、随意契約、一者応札それぞれに改善がなされ、透明性の確保と経費の削減につながっていることは評価できる。事務的な負担増とならないように工夫しながら引き続き努力されたい。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(2))	(2) 外部資金の導入
年度計画の項目 (Ⅳ－(2))	(2) 外部資金の導入

事業名	外部資金の導入
事業概要	科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受入れを行い、外部資金を獲得する。
担当課室	全課室
スタッフ	全職員 計25名

年度実績概要	1. 受託事業経費 平成23年度は、内閣府、独立行政法人国際協力機構（JICA）より 2件、21,182千円の実績。昨年比6,755千円増。【22年度実績：5件 14,427千円】 2. 科学研究費補助金 平成23年度は3件、10,300千円の実績。昨年比1,648千円増。 【22年度実績：3件、8,652千円】 3. 寄附金収入 平成23年度は目的寄附金など、13件、6,983千円の寄附金収入実績。 昨年比5,772千円増。【22年度実績：28件、1,211千円】 ※「女性教育振興寄附金」として寄附のあった1件について、これを用い、「シングル・ペアレント」をテーマとする研修を実施した。
--------	---

実績を裏付けるデータ	【】内は22年度実績
1. 平成23年度受託事業経費 (1) 配偶者からの暴力被害者支援セミナー【内閣府】 19,599千円 (2) 国別研修タイ【JICA】 1,583千円 2. 平成23年度科学研究費補助金 (1) 女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究 3,500千円 (2) 地域の男女共同参画の取組を核とした移民女性のエンパワーメントと支援に関する研究 6,100千円 (3) 社会的に排除されたホームレスの自立支援における社会関係資本の構築に関する研究 700千円 3. 平成23年度寄附金収入 (1) 女性アーカイブ寄附金 5,350千円【290千円】 (2) 科学・技術分野の女性人材育成支援事業支援寄附金 0千円【315千円】 (3) 女性教育振興寄附金 1,633千円【606千円】	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：科学研究費補助金を3本獲得できたことは、当該テーマが時宜に適っていることの証である。 独創性：ナショナルセンターとして、内閣府やJICAから事業を受託した。 発展性：寄附によりシングルペアレントを対象とした事業を実施したことは、寄附金活用の新たな可能性の一つである。 効率性：研究員職員数3名の中、3本の科学研究費補助金の獲得は極めて高い獲得率であり、外部資金の積極的導入のもと、効率的な事業運営を図っていると言える。					

2. 定量的評価

観 点	受託事業経費	科研費獲得額	寄附金収入額		
判 定	A	A	A		
1. 受託事業経費 21,182千円（昨年比6,755千円増） 2. 科研費獲得額 10,300千円（昨年比1,648千円増） 3. 寄附金収入額 6,983千円（昨年比5,772千円増）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	受託事業経費、科学研究費補助金、寄附金ともに昨年度を上回る額を獲得している。 また、寄附金を資本とした事業も実施しており、外部資金の獲得とその活用は順調に推移していると評価できる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、外部資金の導入の促進を図るが、今後は特に受託事業については、収入額と事業実施にかかる経費のバランスを図りながら、人件費を初めとする事実上の持ち出しがないかどうかを見極めながら受託について検討する必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	小規模な組織で科学研究費補助金を3本獲得するとともに、受託事業収入も増えていることは専門性の査証であり、研究員の努力がうかがえる。また、テーマ性のある寄付の受け入れは発展性のある試みである。職員の健康に配慮しながら引き続き努力されたい。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(3))	(3) 自己収入の拡大
年度計画の項目 (Ⅳ－(3))	(3) 自己収入の拡大

事業名	自己収入の拡大
事業概要	積極的な広報活動や新たな利用者層の開拓、寄附金の拡大など自主的な取り組みのほか、受益者の負担を適正なものとする観点から、女性教育情報センターのデータベース利用に一部受益者負担を導入すること等により、自己収入を拡大する。
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計28名

年度実績概要	
1. 積極的な広報活動	広報の基本方針や重点推進内容の広報実施計画を策定した。自己収入拡大に向け、利用拡大プロジェクトチームを中心に、利用団体への訪問活動を実施するとともに、利用拡大を念頭に置いたホームページ改訂を行い、利用拡大及び自己収入拡大を図った。
2. 利用者の拡大のための取り組み	(1) 「利用拡大戦略」に基づき、過去に利用しているが平成23年度に予約がない団体を中心に全館職員による訪問活動を行い利用を獲得した。 (2) 美しく見やすいホームページとすることが、効率的な利用拡大策につながるとの認識から、ホームページの改訂を行った。新たなホームページには、NWECCの美しい四季の写真を盛り込み施設の素晴らしさをアピールするとともに、実施している事業（研修・情報・調査研究）の成果についてアクセスしやすくした。さらに、「はじめて利用される方に」のボタンを目立つ場所に置き、利用促進を図った。 (3) 大学・企業向けにNWECC利用のモデルプラン等を掲載したチラシを作成し、積極的な広報を実施した。 (4) NWECCの敷地を利用した映画・ドラマの撮影申し込みに対し、利用者の研修などの妨げにならない範囲で受入れた。これにより、施設使用料の徴収と並び、番組のテロップに「協力：国立女性教育会館（NWECC）」と流れたことによる広報にも繋がった。 (5) 地元菅谷小学校のマラソン大会の会場として敷地の利用を許諾（12月）するとともに、同校生徒の美術作品の展示をロビーで実施（3月）した。これにより、これまでNWECCに足を運んだことのない生徒保護者が来館し、今後の利用可能性に繋がった。
3. 宿泊利用料金の引き上げ	平成23年3月に目的利用料金を2分し、目的利用料金②の値上げをしたことに続き、平成24年3月に目的利用料金①について200円の値上げを実施した。値上げの影響については、同月に発生した東日本大震災の影響との切り分けが難しいことから困難。
4. 女性教育情報センターのデータベース利用に対する一部受益者負担の導入	平成23年度は一部受益者負担にむけ、ソフトウェア購入、認証システムの導入実験を開始し、システムの安定性の検証作業を進めた。
5. 寄附金の拡大	平成23年度は、女性教育振興寄附金に対し、「シングル・ペアレント」を支援する事業を実施するための寄附があったため、当該寄附金を活用し、母子家庭を支援する事業を開催した。
実績を裏付けるデータ	
1. 自己収入の実績	(1) 受託事業費収入 21,182千円【22年度比 6,755千円増】 (2) 科学研究費補助金収入 10,300千円【22年度比 1,648千円増】 (3) 寄附金収入 6,983千円【22年度比 5,772千円増】 (4) 研修施設使用料収入 78,696千円【22年度比 4,440千円増】 (5) その他雑収入（科学研究費補助金間接経費、文献複写料、職員講演料等） 5,599千円【22年度比 1,722千円増】
2. シングルペアレント事業	本事業は平成23年度NWECC男女共同参画プログラム特別企画「子どもと共に未来を拓く－シングル・ペアレント・ファミリーのための講座」として平成24年2月4日（土）～5日（日）1泊2日で開催した。 参加者はひとり親（母親）13名とその子ども12名計25名であり、鳥取県連合母子会やNP0法人しんぐるまざあず・ふおーらむ等の関連団体の協力を得て実施した。当日はシングル・ペアレントが抱える課題と男女共同参画の関わり等について学習したほか、大人向け・子ども向けに別のプログラムを準備し、男女共同参画の基礎でもある「自他の尊重」について、コミュニケーション能力の向上等を図るプログラムを実施した。参加者アンケートの結果、非常に有用83.3%、有用16.7%と高い評価を得ている。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：予算状況が厳しさを増す中、平成24年3月に目的利用料金②の値上げを実施し、自己収入の拡大に努めたことは、時宜に適っている。 独創性：敷地の景観や研修施設を利用する撮影による利用拡大は、保有財産の活用によるNVECならではのものである。 発展性：「見やすく美しい」ホームページへの改定を行う中で、NVECのキャラクターである「ヌエッキーのつぶやき」などの工夫を行ったことは、新規のアクセスを誘引する取り組みとして評価できる。 また、地元小学校の行事にNVECの敷地や施設を活用したことは、児童や児童の保護者など特に地元住民に対するNVECの取り組みへの理解を進める上で有効であった。 効率性：ホームページの充実に取り組んだことは、広く一般にNVECの取り組みを知らしめ、新たな利用者を呼び込む上で極めて効果的な取り組みである。					

2. 定量的評価

観 点	研修施設使用料収入				
判 定	A				
○研修施設使用料収入 78,696千円【22年度比 4,440千円増】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	平成23年度は「利用拡大戦略」に基づき、宿泊施設利用者の拡大に努めた。東日本大震災の影響が残る中、震災前の21年度の収入には到達しないものの、昨年度に比べ、「受託事業費」「科学研究費補助金」「寄附金」「研修施設使用料」「科学研究費補助金間接経費」「文献複写料」「職員講演料等」の収入全て増収となっている。
達成	ホームページの整備も継続して進められており、自己収入増加の取り組みは発展的に進んでいる。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
23年度は、東日本大震災の影響が続いていたことから、21年度に比べると減収となっている。 今後、できるだけ早期に、震災前のレベルまで宿泊施設利用率を戻し、研修施設使用料を引き上げることが課題である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	ホームページの改善や広報資料の工夫等広報活動を充実させるとともに、宿泊利用料金の値上げ等を行い、受託収入や補助金収入、寄付金収入と合わせ自己収入を増加させている努力は評価できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅷ-4・5)	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 4 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 5 情報セキュリティ体制の充実
年度計画の項目 (Ⅷ-1)	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 (1) 情報セキュリティ体制の充実

事業名	施設・設備の計画的整備、快適な環境構築及び情報セキュリティ体制の充実
事業概要	長期的視野に立った保守・管理を行うとともに、障害者・高齢者等すべての利用者が安全で快適に利用できる環境を提供するため、必要な施設設備の改修等を計画的に進める。 施設の有効利用のための工夫に努めるべく、個々の施設の有用性についての検証を行い、具体的措置を講ずる。
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長(1)、会計係長(1)、専門職員(3:再雇用職員を含む)、係員(1) 計6名

年度実績概要	1. 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 (1) 安全で快適な環境を提供するための取り組み ○高齢者等全ての人が利用し易いよう、本館1階女子トイレの2箇所4個の便器を和式から洋式に改修した。 ○屋外消火栓の部分改修、消火器の交換等防火に対する設備更新や、非常用蓄電池設備の改修、非常用発電機、防災用具セットの購入など非常時に対する整備を行った。 また、避難経路図を新たに作成し、宿泊棟全室ドア内側に掲示した。 ○宿泊棟全室でテレビが受信できるための準備として、建物各階に増幅器等の設置工事を行った。 ○フロント受付を中心として、案内表示を、より見えやすい位置に明示した。 (2) 施設の有効活用のための取組 地元菅谷小学校のマラソン大会の会場として敷地の利用を許諾(12月)するとともに、同校生徒の美術作品の展示をロビーで実施した。(3月) 2. 情報セキュリティ体制の充実 (1) セキュリティポリシーの見直し状況 セキュリティポリシーの認識を改めるため職員研修をとおしてわかりやすく実施しやすいポリシーについて継続して検討している。 (2) 職員研修の実施 職員を対象にセキュリティについて研修を実施した。
実績を裏付けるデータ	1. 施設に対する利用者の評価 NWECを利用する団体及び個人に対し、退館時に提出する「利用者カード」により、施設等に対する評価を調査した結果、「非常に快適だった」「快適だった」で示される利用者の満足度が合計97.2%であった。 【22年度実績 97.3%】 2. 利用者の声(一部抜粋) 「とてもきれいで快適に利用させていただきました。また利用させていただきたいと思います。」 「緑(自然)豊かなこの環境での学習(交流)は非常に素晴らしいものです。ありがとうございます。」

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性、発展性 ：宿泊棟全室でテレビが受信できるための準備として、建物各階に増幅器等の設置工事を行ったことは、利用者のニーズに的確に対応した措置であり、利用拡大に繋がるものと思われる。 独創性：地元菅谷小学校のマラソン大会の会場として敷地の利用を許諾（12月）するとともに、同校生徒の美術作品の展示をロビーで実施した（3月）ことは、NWECの施設を活用した取り組みである。 効率性：限られた予算の中、ポイントを絞った効率的な施設改修に努めた。					

2. 定量的評価

観 点	利用者の満足度				
判 定	A				
○宿泊施設及び宿泊施設等を利用した感想（満足度）97.2% （「非常に快適だった」41.8%、「快適だった」55.4%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	22年度に全館的な耐震工事を終了しており（東日本大震災の直前に工事完了）、東日本大震災の余震が続く中、利用者に対し、安心な研修環境を提供できたことは高く評価できる。
達成	また、地元小学校の行事に施設を提供するなど、NWECの保有施設を最大限に活用するための試みも行われている。 高齢者や障害者に気持ちよく利用していただくという視点から、トイレの改修なども計画的に進められている。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
22年度に大規模改修は終了しているが、排水処理施設の改修などが今後必要になる。建物自体が築35年を経過しているため、計画的なメンテナンスが必要である。 依然、和式として残っているトイレ内の便器については、状況を見て順次洋式化していく予定。 同時に、NWECの快適な利用環境の整備という面で、宿泊室へのテレビ設置を順次進めていく予定。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	障害者・高齢者等にも配慮したきめ細やかな保守・管理を行うとともに、地元の小学校等に施設の利用を許諾し、関係を深めている。施設等に対する利用者の評価は「非常に快適」「快適」合わせて97.2%であり、評価できる。
達成	

6. 外部評価の観点

◆ 評価の基本： ナショナルセンターとしての役割
男女共同参画推進の中核機関
公共性を実現する機関

評価の観点	評価する際に手がかりとなる事項の例
独自性・先駆性を有する事業を企画実施しているか 〔独自性・先駆性〕	・ 先行事例の有無 ・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
新たな社会的課題の解決に向けて積極的に取り組んでいるか 〔現代的課題性〕	・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
事業内容がよい事例として全国に広まっているか 〔モデル性〕	・ 他機関の事業内容の分析 ・ 事業内容に対する事業参加者の意見 ・ 事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が日本を代表するものとして国際社会において一定の役割を果たしているか 〔国際性〕	・ 他国における同種の機関との関係 ・ 国内における代替可能な機関の有無 ・ 海外の専門家の評価
事業の成果が国や地方公共団体における政策の企画実施に役立っているか 〔政策性〕	・ 国や地方公共団体の政策担当者の意見 ・ 事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が高度な専門性をもつものとして地域の関係機関の活動により影響を与えているか 〔高度専門性〕	・ 事業実施後における地域の関係機関の活動内容 ・ 事業内容に対する専門家（特に地域の研究者や実践者）の意見
事業の成果が参加者以外にも波及しているか 〔波及性・普及性〕	・ 事業参加者が中心となって行う講習会等の有無 ・ 事業に関連する分野における団体の数及びそれらの事業内容
会館のもつ内部資源を有効に活用しているか 〔内部資源の有効活用〕	・ 内部資源の把握とそれらに着目した事業内容の分析
関係する機関や団体のネットワークの形成を促しているか 〔ネットワークの促進〕	・ ネットワーク形成に関する専門家（研究者や実践者）の意見
様々なレベルで関係者の交流を促しているか 〔交流の促進〕	・ 交流事業の内容（プログラム・方法・対象者など）分析 ・ 交流事業参加者の事業後のフォローアップ
事業成果を他の事業に活用しているか 〔事業成果の有効活用〕	・ 事業の成果の把握とそれらに着目した事業内容の分析
最小の投入で最大の効果を上げるという点から事業の企画実施に創意工夫を行っているか 〔効率性〕	・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
宿泊施設を有意義に活用しているか 〔施設の有効活用〕	・ 宿泊に関わる事業に参加した者や関係者の意見
評価の結果を積極的に改善に結びつけているか 〔評価結果の有効活用〕	・ 評価結果の把握とそれらに着目した事業計画の分析

7. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成23年度）

平成23年3月31日

文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23年3月31日文部科学省大臣認可）に基づき、平成23年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上

（1）基幹的指導者に対する研修等の実施

①女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

- ・全国の女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体のリーダー等を対象に、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用等、高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。
- ・参加者の地域的なバランスを促進するため、計画的な取り組みを行う。

②大学職員のための男女共同参画推進研修

- ・大学等の男女共同参画部局の責任者を対象に、男女共同参画意識の学内への浸透方法、女性リーダーの養成方策、地域の女性関連施設との連携方策等、高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ・研修事後にフォローアップ調査を実施し、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。

（2）基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成

①女性関連施設に関する調査研究

- ・女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、指定管理、人材育成等新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の1年次として、女性関連施設の指定管理に関する実態調査を実施。調査結果を分析した上で、課題を抽出し、それらについて報告書を作成する。
- ・作成した資料を用いた研修について、事後に実施するフォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及

(1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施

①地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発

地域活動による経済的自立の促進をテーマに2年計画で行う調査研究の1年次として、コミュニティ・ビジネスの先進事例及び先駆的プログラムを実施している海外の研修事例についての調査を行い、研修資料を作成する。

②男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発

男性の家庭・地域への参画促進をテーマに2年計画で行う調査研究の1年次として、女性関連施設が行っている取組や工夫、地域参画活動を行っている男性の意識や活動についての調査を行い、調査結果について報告書を作成する。

(2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施

①男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育推進研修

・多様なキャリアを踏まえつつ個人の活動を社会に結びつける視点を導入するとともに、長期的な視野に立ったキャリア形成支援に資するように、女性関連施設・大学等のキャリア形成支援者等を対象に、これまでの調査研究の成果を活用し、女性のキャリア形成支援を内容とする専門的・実践的研修を行う。

・研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。

・フォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

・地方公共団体等が同課題に関する研修等を独自に実施・企画する力を育成するため、地域の女性関連施設等と協働して、地域の実情に応じた学習プログラムを開発する。本年度は、3年計画の1年次として学習プログラムの開発に着手する。

②大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進

・大学等におけるキャリア教育の充実に資するように、大学等と会館が協力して、会館が所蔵する「社会活動キャリア形成事例」や女性アーカイブセンター資料等を活用した学生を対象とするキャリア教育をモデル的に2校以上で実施する。

・キャリア教育実施にあたり、学生の85%以上からのプラス評価を得る。

・大学等に対しフォローアップ調査を実施し、キャリア教育の成果を適切に把握するとともに、それらの結果をもとに適宜キャリア教育内容の見直しを行う。

③女性関連施設相談員研修

・女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談体制を構築するため、女性関連施設や民間事業者が主催する相談所において相談業務に携わる者を対象に、女性の貧困や経済的自立など喫緊の課題解決に必要な知識や相談技能の習得を

内容とした専門的・実践的研修を行う。

- ・研修実施にあたり、参加者の８５％以上からのプラス評価を得る。
- ・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の８０％以上からプラス評価を得る。
- ・フォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

④家庭教育・次世代育成指導者研修

- ・全国の家庭教育・次世代育成支援の行政担当者、子育て支援に携わる団体のリーダー、企業の次世代育成支援担当者等を対象に、これまでの調査研究で得られた成果を活用し、社会全体での家庭教育・次世代育成支援に向け様々な機関、企業が連携して取り組んでいる事例や男性の子育て参画に関する事例を研修内容に取上げ、男女共同参画の視点から、参加者が日常抱えている課題の解決に向けた専門的・実践的研修プログラムを開発し、実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の８５％以上からのプラス評価を得る。
- ・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の８０％以上からプラス評価を得る。
- ・フォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

⑤行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

社会が抱える様々な喫緊の課題を解決するために、行政や関係機関等が実施する研修について、これまで会館が実施してきた研修の経験や女性教育、男女共同参画等に関する専門的知識を活かし、連携して実施する。

3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

(1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供

①男女共同参画統計に関する調査研究

- ・本年度は「男女共同参画統計データブック２００９」の内容を見直し、データを更新するとともに、新たな課題に対応するデータを収集・分析し、「男女共同参画統計データブック２０１２」を作成する。
- ・本調査の成果として「統計リーフレット」を作成し、ホームページ等を通じ普及する。
- ・統計調査の成果等を提供する「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先を１，５００件まで拡充する。

②調査研究成果の普及

- ・基幹的指導者の資質・能力の向上及び喫緊の課題をテーマとして実施した調査研究の成果について、ホームページや地域共同リポジトリ等を通じて普及する。

（２）全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供

①男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供

- ・引き続き、地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集に重点化を図る。本年度は特に、大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集を行う。
- ・これら収集資料等を整理し、文献情報データベースを通じて迅速に目録情報を公開・提供する。
- ・会館の調査研究事業、研修事業の主題に関する資料・情報の収集に努め、会館事業をサポートする。

②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

- ・女性情報ポータルについて利便性を向上するため、英語のトップページを作成する。
- ・文献情報データベース及び独自の調査に基づく各種データベースについて、５２万件以上のデータベース化を達成する。
- ・女性情報ポータルへのアクセスについて年間２６万件以上を達成する。

③資料・情報の館外への貸し出し

各施設における男女共同参画を推進するため、各施設の活動に沿ったテーマ毎にパッケージ化した図書の貸し出しを４機関以上に対してモデル的に実施する。

（３）女性アーカイブ機能の充実

①女性アーカイブ機能の充実

- ・歴史的価値、研究資料的価値を有する女性関連史・資料を１千点以上収集・整理し、女性アーカイブセンター及び女性デジタルアーカイブシステムを通じて利用に資するとともに、インターネットを通じて広く一般に公開する。
- ・展示室への入室について、８千件以上を達成する。
- ・女性アーカイブの企画展を他機関と連携して実施する。

②女性情報アーキビスト養成研修（入門）

女性アーカイブの具体的な保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者２０名以上を対象に基礎情報を提供する女性情報アーキビスト養成研修を実施する。また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する。

４ 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進

（１）国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

- ・女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・女性教育・家庭教育情報に関する情報交換を行うとともに、７以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。
- ・全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、積極的に職員を派遣する。

（２）交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築

①男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム（NWE Cフォーラム）

- ・全国の男女共同参画・女性教育・家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、女性団体等のリーダー、研究者、大学、企業等を対象に交流の機会を提供するため１千名以上の参加を募るフォーラムを開催する。
- ・交流機会の提供については、大学、企業等からの参加を促進する。

②交流学習会議

地域における男女共同参画を推進するため、これまで会館の研修・交流事業に参加した者が地域に戻って実践したことを報告し合い学習する機会を設定し、各地の先進事例や地域における課題等を共有するとともに、女性関連施設等の関連機関や女性団体・グループ等の連携・協働の促進に向けての意見交換を行い、ネットワークを形成し、会館と地域との連携を促進する。

③男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）

女性団体等が相互に参加者同士の交流や情報交換を行える機会として男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）を設け、団体のネットワークづくりを支援する。

④会館ボランティアの活動支援

会館ボランティアに対し、交流推進フォーラムをはじめとする主催事業における活動の機会を提供するなど、その活動を支援する。

５ 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進

（１）男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施

①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- ・開発途上国等において男女共同参画の政策策定ならびに政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者及びNGOのリーダーを対象に、女性の能力開発に係る喫緊の課題をテーマとした参加型の実践的なセミナーを行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の９０％以上からプラス評価を得る。
- ・研修修了生等による出身国での成果の活用についての調査を行い、同調査の結果等を踏まえ、研修の効果的な実施の観点から、研修内容等の見直しを行う。

②国際協力機構との連携による研修

国際協力機構が実施する開発途上国の行政職員等を対象とした研修について、男女共同参画、女性教育に関する専門的な観点から連携して実施する。

③NWE C国際シンポジウム

- ・女性の人権やエンパワーメントに係る地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいするNWE C国際シンポジウムを開催し、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、意見交換を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の８５％以上からプラス評価を得る。

（２）地球規模の課題についての調査研究の実施

○外国人女性の困難等への支援に関する調査研究

これまで取り組んできた人身取引の教育・啓発に関する調査研究を踏まえ、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた教育・啓発をテーマに３年計画で行う調査研究の１年次として、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた啓発活動に関する基礎的調査を行う。

（３）国際的なネットワークの構築

- ・研修修了生等に対し、研修終了後の定期的なメール送信や、議論の呼びかけを通じネットワーク構築を図る。
- ・研修成果について、「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」におけるパネル展示や英文報告書の会館ホームページへの掲載等の方法により国内外に普及する。
- ・地域の課題について海外の２機関以上と連携して実施する調査研究・事業の準備を進める。

６ 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

（１）利用者への学習支援

- ・施設を利用する団体・グループ、個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、研修プログラム作成を支援する。
- ・会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関するプログラムを提供する。
- ・インターネットで提供する学習教材を作成するため、情報提供の内容を系統化し、教材として適切なテーマを精査する。

（２）利用の拡大

- ・利用拡大戦略（年度）を作成し、大学・企業等からの利用を促進し、利用を拡大する。
- ・本年度は、特に、国家公務員を対象とする研修での利用を促進する。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 適切な法人運営体制の充実

(1) ガバナンス・内部統制の充実

- ・原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。
- ・職員の業務遂行に関する資質・能力を目的とした研修を実施する。
- ・リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。
- ・会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。

2 人件費・管理運営の適正化

(1) 人件費・管理運営の適正化

- ・政府の給与改善改革を踏まえ、引き続き人件費削減を図る。
- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。
- ・関係機関・団体等との人事交流や客員研究員等外部人材の活用など、多様な人材を確保することにより、組織を活性化する。

(2) 保有資産の見直し

- ・平成23年度末までに草原運動場及びテニスコートについて、利用実態・土地形状等を考慮し、研修に真に必要な施設への限定を図る。
- ・平成23年度末までに埼玉県から借り受けている会館の敷地面積を見直し、敷地の一部返却による土地借料削減を図る。

3 業務運営の改善及び効率化

(1) 業務運営の改善

- ・効果的・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い、業務運営に反映させる。
- ・積極的に事務事業の外部委託を進めるとともに、必要に応じて組織の再編等を行う。

(2) 人材育成、多様な人材の活用

- ・職員の業務遂行能力の資質・能力の向上に資するため研修を実施する。
- ・客員研究員として配置する外部人材の活用体制について検討を行う。

4 業務運営の点検・評価

(1) 自己点検・評価等による業務の改善

- ・自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。
- ・自己点検と連動した外部評価を実施する。

- ・評価結果をホームページで公表する。

Ⅲ 予算・収支計画及び資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な運営を行う。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営する。

1 予算（人件費の見積りを含む。）

別紙１のとおり

2 収支計画

別紙２のとおり

3 資金計画

別紙３のとおり

Ⅳ 財務内容の改善に関する事項

（１）契約の点検・見直し

・引き続き入札可能なものについては全て入札を実施するとともに、積極的に一般競争入札を導入する。

・一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、一者応札の削減を図るとともに、契約管理委員会等による定期的な契約点検を実施する。

（２）外部資金の導入

科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受け入れを行い、外部資金を確保する。

（３）自己収入の拡大

- ・利用料金の見直し、宿泊室利用率の向上等により、自己収入の拡大を図る。
- ・会館の活動について、広報実施計画（年度）を策定し、会館の利用促進を図る。

Ⅴ 短期借入金の限度額

運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合や受託事業に係る立て替えが生じた場合、短期借り入れすることができることとし、限度額は１億４千万円とする。

Ⅵ 剰余金の使途

会館の決算において、剰余金が生じたときは、研修事業、情報資料の収集・提供の充実、調査研究事業の充実及び交流事業の充実に充てる。

Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

（１）情報セキュリティ体制の充実

セキュリティポリシーに関する職員研修を実施する。

（以上）

8. 平成24年度 国立女性教育会館外部評価委員会委員名簿

天 野 正 子（東京家政学院大学学長）

犬 塚 協 太（静岡県立大学国際関係学部国際関係学科）

菊 川 律 子（国立大学法人九州大学理事）

斎 藤 悦 子（お茶の水女子大学准教授）

○笹 井 宏 益（国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官）

夏 目 智 子（全国地域婦人団体連絡協議会事務局長）

（○座長、五十音順）

9. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程

(設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(役割)

第2条 委員会は、会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。

(委員)

第3条 委員会は、会館の業務に関し識見を有するもののうちから、理事長が委嘱する8名以内の委員で構成する。

(委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成18年2月10日から施行する。

2 この規程の施行後、最初及び委員長が置かれていないときに召集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

10. 自己点検評価調書の記載について

1. 定性的評価の観点について

○各業務区分に応じた定性的評価の観点については、基本的な考え方は記のとおり。特段の事情がある場合などで、このほかの観点を使用する事が適当と思われるときは、任意に観点を設ける事も可能です。

適時性：喫緊の課題を踏まえたプログラムの実施や男女共同参画基本法等の政策との関連点等、時宜に合わせてその事業を実施することが、男女共同参画の推進等に資することを示すもの。

独創性：独自の視点による調査研究や先進的なプログラムの作成等、「国立女性教育会館ならではの」高い専門性等を示すもの。

発展性：会館で作成されたプログラム等をモデルとした地方の活動事例、研修やフォーラムをきっかけに拡大した女性関連団体等のネットワーク等、会館が提供した情報等で男女共同参画の展開に資するもの。

効率性：事業をより円滑に実施するための取組等を示すもの。

評価の観点	適時性	独創性	発展性	効率性
観点の考え方	・ 政策性 ・ 必要性 ・ 国際性 ・ 緊急性 ・ ナショナルセンターとしての対応	・ 独自性 ・ 新規性 ・ 先駆性 ・ 高度専門性	・ 影響性 ・ 汎用性 ・ 応用性 ・ 多様性 ・ 将来性 ・ モデル性	・ 時間的投資 ・ 人的投資 ・ 設備的投資 ・ 内部資源の活用 ・ 施設の有効活用 ・ 他機関との連携

○定性的評価の基準

(S：極めて顕著な成果が認められる)

A：十分に成果が認められる

B：概ね成果が認められる

C：一部成果が認められる

D：成果が認められない

2. 定量的評価の観点について

定量的評価の観点については、原則として、中期計画、年度計画に数値的目標が掲げられているとおり、文部科学省独立行政法人評価委員会の指標を準用し設定した。なお、それ以外の定量的評価の指標については、他の指標との整合性等を考慮し独自に作成した。

事業区分	評価観点	評価基準				
		S	A	B	C	D
研修事業	応募倍率		100%以上	99～90%	89～70%	69%以下
	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
調査研究事業	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	情報提供数（※1）		5回以上	4～3回	2～1回	0回
	プログラム・参考資料作成数（延べ）		4件	3件	2件	1件
交流事業	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
情報事業（※2）	資料等利用者数		6,000人以上	5,999～5,800人	5,799～5,500人	5,499人以下
	利用者の満足度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	データベース化件数		500,000件以上	500,000件以上	499,999～490,000件	489,999～480,000件
	アクセス件数		120,000件以上	119,999～117,000件	116,999～114,000件	113,999件以下
	資料収集数（延べ）		5,000点以上	3,700点以上	3,699～3,000点	2,999点以下
	資料等利用者数					
理解・利用の促進	学習相談利用者の満足		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	プログラム作成数		3種類以上	2種類	1種類	無し
	宿泊利用率		50%以上	45%以上	45%未満	42.5%未満
	利用者数		122,100人以上	122,099～119,300人	119,299～116,600人	116,599人以下
	目的利用者数		61,100人以上	61,099～58,700人	58,699～58,300人	58,299人以下
	利用団体数		2,860団体以上	2,859～2,800団体	2,799～2,730団体	2,729団体以下
連携協力	共催・受託件数		6件以上	5件	4件	3件以下
国際関係	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	活用可能性		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	連携機関数（延べ）		6機関以上	5機関	4機関	3機関以下
	プログラム・参考資料		2件	1件	0件	
業務の効率化 （平成17年度 の基準金額に 対する割合）	一般管理費効率化		85%以下	—	—	85%以上
	業務経費効率化		95%以下	—	—	85%以上
	人件費削減効率化		95%以下	—	—	85%以上

※1 男女共同参画に関する統計の調査研究に限る

※2 「資料等利用者数」「利用者の満足度」はセンターの運営、「データベース化件数」「アクセス件数」はポータルの充実、「資料収集数」「アクセス件数」「資料等利用者数」はアーカイブの構築に限る

3. 総合評価の判定基準の考え方

各観点評価の結果を基に、総合的判定を行うが、考え方は次のとおりとする。

S = 5 点、A = 4 点、B = 3 点、C = 2 点、D = 1 点

<例>

4 つの観点で評価し、A が 3 つ、B が 1 つの場合

$((4 \text{ 点} \times 3) + (3 \text{ 点} \times 1)) \div 4 = 3.75 \div 4 \rightarrow \text{総合評価 A}$

※S評価については、文部科学省等からその根拠について詳細な確認を求められる傾向にあります。

判定結果をSとする場合、「評価の観点」に応じた明確な理由を「理由欄」に記述してください。

4. 中期計画の実施状況に関する判定の考え方

判定に使用する用語は、次のとおりとする。

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| A 達成 | : 計画以上の成果が達成されている |
| B 順調 | : 計画通り実施されており、当該年度計画を95～100%達成 |
| C ほぼ順調 | : ほぼ計画通り実施されており、当該年度計画の達成率は80～94% |
| D 一部要注意 | : 一部計画の実施に支障があり、当該年度計画の達成率は50～79% |
| E 要注意 | : 計画の実施に注意が必要であり、当該年度計画の達成率は49%以下 |

参考資料編

平成23年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」 実施要項

1. 本研修の目的

本研修は、地域で男女共同参画を実現するために、持続可能な組織のあり方や、第3次男女共同参画基本計画を実現するための施策・事業のあり方を学びます。また、女性関連施設管理職、地方公共団体職員及び女性団体リーダーとしてのエンパワーメントと連携・協働関係の構築を支援することを目的としています。

2. 本研修の特徴

- ①男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践に結びつけます。
- ②男女共同参画の中核となる人材のリーダーとの関係力・連携力の向上を図ります。
- ③実践事例を重視し、課題解決につなげます。
- ④研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ生かす、というサイクルを考えたプログラムとなっています。

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

NPO法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コースにおける共催となります）

5. 参 加 者

- (1) 女性関連施設管理職コース：60名
公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての女性関連施設の管理職等（在職年数は問いません）
- (2) 地方公共団体職員コース：30名
男女共同参画行政責任者
- (3) 女性団体リーダーコース：30名
地域で男女共同参画を推進する団体等のリーダー（次世代リーダーを含む）

6. 内容

第1日 6月20日（月）

プレ・ワークショップ「男女共同参画社会の基礎知識」（*希望者のみ参加） 10:30~12:00

主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学びます。

講 師： 佐國 勝 国立女性教育会館事業課専門職員

(1) 開会

13:00~13:20

- ① 主催者あいさつ
- ② 共催者あいさつ

(2) プログラムの趣旨説明

13:20~13:25

(3) 講義「男女共同参画を推進する視点とは」

13:30~14:00

★地域で男女共同参画を推進する際に必要な男女共同参画の視点について理解を深めます。

講 師： 神田 道子 国立女性教育会館 理事長

(4) 講義「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」

14:10～15:40

- ★男女共同参画社会形成に向けた施策の現状及び今後の方向性について理解を深めます。
- ★関係府省からの施策説明に加え、参加者の質疑応答から、今知りたい国の動向や、男女共同参画推進のポイントを探ります。

講師：金子 浩之 内閣府男女共同参画局総務課 推進官

講師：高口 努 文部科学省生涯学習政策局 男女共同参画学習課長

講師：森 奈美 厚生労働省雇用均等・児童家庭局職業家庭両立課 課長補佐

(5) 討議「課題整理のためのディスカッション」

15:50～17:00

- ★予算縮小、人員削減、庁内連携、地域住民への啓発、効果的な事業の進め方など、各施設、地方公共団体及び女性団体が抱える問題を整理し、課題を抽出・共有します。

報告者：桜井 陽子 全国女性会館協議会 常任理事

報告者：関口 隆 国立女性教育会館 事業課長

報告者：西山 恵美子 国立女性会館 客員研究員

コーディネーター：久保 真季 国立女性教育会館 理事・事務局長

(6) 報告「女性の課題を知る～国立女性教育会館研究・調査事業の報告～」

(※希望者のみ)

17:10～18:10

- ★国立女性教育会館で実施している調査研究の成果について報告し、男女共同参画社会形成に向けた課題について視野を広げます。

- ①経済的自立につながる女性の課題解決型地域活動に関する調査研究より

講師：野依 智子 国立女性教育会館 研究国際室 研究員

- ②人身取引の防止のための教育・啓発と連携方策に関する調査研究より

講師：渡辺 美穂 国立女性教育会館 研究国際室 研究員

(7) 情報交換会 (※希望者のみ:有料)

19:00～20:30

- ★全国からの参加者と交流し、今後の活動に役立つ関係づくりを図ります。

第2日 6月21日 (火)

(8) 講義「組織の基盤強化～成果を見せるマネジメントとは～」

9:00～10:30

- ★厳しい社会状況において、住民の支持を得る組織・機関であるために、ドラッカー理論を踏まえた事業運営や客観的な指標を用いた評価について等、成果を見せるためのマネジメントについて学びます。

講師：田中 弥生 独立行政法人 大学評価・学位授与機構 准教授

(9) 報告「成果の見える化～組織の評価～」

10:40～11:40

- ★組織の実践を的確に把握し、次のステップにつなげる評価のあり方について学びます。

- ①男女共同参画センター等における自己評価システムについて

講師：桜井 陽子 財団法人 横浜市男女共同参画推進協会 理事・統括本部長

- ②国立女性教育会館における事業評価システムについて

講師：櫻田 今日子 国立女性教育会館 総務課 専門官

(10) コース別ワークショップ「事例に学ぶ～活動基盤を整える～」

12:40～15:10

- ★事例報告に基づき、グループワークを行い、実践に役立つ力を付けます。

＜女性関連施設管理職コース＞「予算制約下での組織の基盤強化」

◎厳しい状況の中、評価システムや予算削減下での運営の工夫等、効果的な事業を実践するための組織運営について考えます。

報告者：牟田 静香 NPO 法人 男女共同参画おおた理事長

報告者：石河 美千子 滋賀県立男女共同参画センター所長

アドバイザー：青木 玲子 全国女性会館協議会常任理事

ファシリテーター：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員心得

＜地方公共団体職員コース＞「庁内連携を通じた施策の推進」

◎地域住民の意見を取り入れ、庁内での連携を取りながら、施策・事業を推進していく手法を考えます。

報告者：松村 正 長野県企画部 人権・男女共同参画課 男女共同参画係 担当係長

報告者：中願寺 均 福岡市市民局 男女共同参画課長

アドバイザー：緒方 洋子 NPO 法人 チェンジライフ熊本 理事長

ファシリテーター：佐國 勝 国立女性教育会館 事業課専門職員

＜女性団体リーダーコース＞「地域資源を活かした事業展開～WinWin のつながりから～」

◎地域課題を事業に結びつける組織運営や、人、施設などの地域資源の有効なネットワークづくりなど、組織活性化に向けた手法を考えます。

報告者：紀平 容子 NPO 法人 高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会 代表

報告者：瀬尾 規子 NPO 法人 協働プランニングNIMS 理事長

アドバイザー：日置 真世 社団法人 北海道総合研究調査会 特別研究員

ファシリテーター：石崎 裕子 国立女性教育会館 事業課専門職員

(11) 事例報告「事例に学ぶ～第3次男女共同参画基本計画を実現する施策・事業とは～」

15:30～17:00

★第3次男女共同参画基本計画を地域で具現化する施策・事業のあり方について、考えます。

事例報告や、質疑応答・意見交換から、具現化の視点や手法を見出します。

報告者：内田 洋子 埼玉県男女共同参画推進センター 所長

報告者：山川 秀秋 山形県子育て推進部 青少年・男女共同参画課長

報告者：日置 真世 社団法人 北海道総合研究調査会 特別研究員

コーディネーター：月野美帆子 読売新聞立川支局 次席

(12) 自由交流

19:00～20:30

★参加者が自由に設定したテーマのもと、情報交換や交流を行います。

第3日 6月22日（水）

(13) コース別ワークショップ「方法を探る～男女共同参画を地域で実現する事業とは～」

8:50～11:20

★第3次男女共同参画基本計画に則り、地域で推進するための事業のあり方について、コース別に検討し合います。参加者が実践している又は、実践予定の事例に沿った検討を通じて、実務に活かせるヒントを得ます。

＜女性関連施設管理職コース＞「第3次男女共同参画基本計画に応える事業のあり方」

ファシリテーター：永田 祥子 財団法人 大阪市女性協会 常務理事 兼

クレオ大阪中央 館長

＜地方公共団体職員コース＞「第3次男女共同参画基本計画を地域で実現する事業のあり方」

ファシリテーター：佐國 勝 国立女性教育会館 事業課専門職員

＜女性団体リーダーコース＞「第3次男女共同参画基本計画に定める事業のあり方」

ファシリテーター：西山 恵美子 国立女性教育会館 客員研究員

(14) 全体討議「第3次男女共同参画基本計画実現に向けた連携・協働のあり方」 11:35～12:35

★ワークショップで話し合われた内容を元に、連携・協働のあり方について討議を行います。

コーディネーター：久保 真季 国立女性教育会館 理事・事務局長

(15) ふりかえり 12:35～12:40

(16) 閉 会 12:40

7. 情報の広場

皆様がお持ちになったパンフレットやちらし等を自由に設置できるコーナーです。カウンター上に並べられているものは御自由にお持ち下さい。

8. 女性教育情報センター（本館2階）

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館です。全国の地方のミニコミ誌など NVEC ならではの資料をそろえております。ぜひ御利用ください。開室時間は、下記のとおりです。

6月20日（月）9：00～13：00、17：00～19：00

6月21日（火）8：30～19：00

6月22日（水）9：00～17：00

9. 女性アーカイブセンター展示室（本館1階）

男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性、全国的な女性団体や女性教育・男女共同参画の施策等に関する史・資料を収集・展示しています。開室時間は、下記のとおりです。

6月20日（月）9：00～13：00、17：00～19：00

6月21日（火）8：30～19：00

6月22日（水）9：00～19：00

10. 研修成果の活用プラン

ご提出いただいた「研修成果の活用プラン」は最終日に返却いたします。研修後、約6ヶ月後にプランの進捗状況や研修成果の活用状況についてご報告いただく「フォローアップアンケート」をお送りいたします。御協力のほどよろしくお願いいたします。

11. その他

- (1) 6月20日（月）と22日（水）に、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスを運行いたしますので、御利用下さい。
- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめ御了承ください。
- (3) 計画停電等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合がございます。あらかじめ御了承ください。

平成23年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」参加者概況

2011年7月1日 現在

1. 性別

	参加者			
	管理職	地方公共団体	団体リーダー	総計
	計	計	計	計
女性	43	27	34	104
男性	13	11	2	26
計	56	38	36	130

定員 120 名
 申込者数 141 名
 キャンセル 11 名
 応募倍率 1.18 %
 (申込者数÷定員)

2. 年代別

	管理職		地方公共団体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
20代	-	-	1	1	-	-	1	1	2
30代	-	1	4	3	3	-	7	4	11
40代	11	-	14	4	6	-	31	4	35
50代	14	10	6	2	6	-	26	12	38
60代	7	2	-	-	12	2	19	4	23
70代以上	-	-	-	-	4	-	4	-	4
無回答	11	-	2	1	3	-	16	1	17
計	43	13	27	11	34	2	104	26	130

3. 勤務形態

	管理職		地方公共団体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
常勤 (専任)	26	11	14	6	2	-	42	17	59
(兼任)	1	-	5	3	-	-	6	3	9
無回答	4	-	6	2	-	-	10	2	12
非常勤 (専任)	4	-	-	-	-	-	4	-	4
(兼任)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
無回答	-	-	-	-	3	-	3	-	3
嘱託 (専任)	1	-	-	-	5	-	6	-	6
(兼任)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	1	-	-	-	-	-	1	1
無回答	6	1	2	-	24	2	32	3	35
計	43	13	27	11	34	2	104	26	130

4. 施設区分(管理職コースのみ)

	女	男	計
(1)公立Ⅰ：管理運営者が教育委員会	-	-	-
(2)公立Ⅰ：管理運営者が男女共同参画担当部課	12	3	15
(3)公立Ⅱ：指定管理者を導入	12	8	20
①運営者が財団法人、社団法人、任意団体等	1	-	1
②管理運営者が企業	14	-	14
③管理運営者がNPOなど	-	-	-
(4)私立	-	-	-
(5)その他	4	2	6
(6)無回答	-	-	-
計	43	13	56

* その他の内容 *

5. プレワークショップへの参加

	管理職		地方公共団体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
基礎知識	10	6	14	6	14	-	38	12	50

6. 会館の利用歴(複数回答)

	管理職		地方公共団体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある	23	1	-	1	15	-	38	2	40
会館が主催する本事業以外の事業に参加したことがある	23	5	3	1	18	-	44	6	50
会館を利用し、事業を実施したことがある	5	1	-	-	6	-	11	1	12
会館で実施された、他の機関・団体で実施した事業に参加したことがある	8	3	-	1	9	-	17	4	21

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合%
北海道・東北	11	4	15	11.5
関東・甲信越	48	13	61	46.9
北陸・東海	12	5	17	13.1
近畿	9	-	9	6.9
中国・四国	8	2	10	7.7
九州・沖縄	16	2	18	13.9
合計	104	26	130	100

7. 地域別 ※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

		管理職		地方公共団体		団体リーダー		総数		
		女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	計
北海道・東北	北海道	1	1	2	－	－	－	3	1	4
	(札幌市)	(1)	(1)	(－)	(－)	(－)	(－)	(1)	(1)	(2)
	青森県	1	－	1	－	1	－	3	－	3
	岩手県	1	－	－	－	－	－	1	－	1
	宮城県	1	－	1	－	1	－	3	－	3
	(仙台市)	(1)	(－)	(1)	(－)	(1)	(－)	(3)	(－)	(3)
	秋田県	1	－	－	－	－	－	1	－	1
	山形県	－	1	－	－	－	－	－	1	1
福島県	－	2	－	－	－	－	－	2	2	
関東・甲信越	茨城県	－	－	2	2	4	－	6	2	8
	栃木県	1	－	2	－	－	－	3	－	3
	群馬県	1	1	1	－	－	－	2	1	3
	埼玉県	6	1	1	2	5	－	12	3	15
	(さいたま市)	(－)	(－)	(－)	(1)	(1)	(－)	(1)	(1)	(2)
	千葉県	1	1	－	1	1	－	2	2	4
	(千葉市)	(－)	(1)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(1)	(1)
	東京都	10	1	－	－	3	－	13	1	14
	神奈川県	1	－	2	－	－	－	3	－	3
	(横浜市)	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	(川崎市)	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	(相模原市)	(1)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(1)	(－)	(1)
	山梨県	－	1	1	2	2	－	3	3	6
	新潟県	1	－	－	－	1	－	2	－	2
(新潟市)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
長野県	1	－	1	1	－	－	2	1	3	
北陸・東海	富山県	1	1	－	－	－	－	1	1	2
	石川県	－	－	－	－	3	－	3	－	3
	福井県	－	－	－	1	2	1	2	2	4
	岐阜県	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	静岡県	2	－	1	－	－	－	3	－	3
	(静岡市)	(1)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(1)	(－)	(1)
	(浜松市)	(1)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(1)	(－)	(1)
	愛知県	－	－	2	2	－	－	2	2	4
	(名古屋市)	(－)	(－)	(2)	(－)	(－)	(－)	(2)	(－)	(2)
	三重県	1	－	－	－	－	－	1	－	1
近畿	滋賀県	－	－	－	－	2	－	2	－	2
	京都府	1	－	－	－	1	－	2	－	2
	(京都市)	(1)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(1)	(－)	(1)
	大阪府	2	－	－	－	2	－	4	－	4
	(大阪市)	(1)	(－)	(－)	(－)	(2)	(－)	(3)	(－)	(3)
	(堺市)	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	兵庫県	－	－	1	－	－	－	1	－	1
	(神戸市)	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	奈良県	－	－	－	－	－	－	－	－	－
和歌山県	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
中国・四国	鳥取県	－	1	－	－	－	－	－	1	1
	島根県	－	－	1	－	－	－	1	－	1
	岡山県	1	－	－	－	－	－	1	－	1
	(岡山市)	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	広島県	2	－	－	－	1	－	3	－	3
	(広島市)	(1)	(－)	(－)	(－)	(1)	(－)	(2)	(－)	(2)
	山口県	－	－	1	－	－	－	1	－	1
	徳島県	－	－	1	－	－	－	1	－	1
	香川県	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	愛媛県	1	－	－	－	－	－	1	－	1
高知県	－	1	－	－	－	－	－	1	1	
九州・沖縄	福岡県	4	1	1	－	2	－	7	1	8
	(北九州市)	(2)	(1)	(1)	(－)	(－)	(－)	(3)	(1)	(4)
	(福岡市)	(－)	(－)	(－)	(－)	(1)	(－)	(1)	(－)	(1)
	佐賀県	－	－	2	－	1	1	3	1	4
	長崎県	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	熊本県	－	－	2	－	2	－	4	－	4
	大分県	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	宮崎県	1	－	－	－	－	－	1	－	1
鹿児島県	－	－	1	－	－	－	1	－	1	
沖縄県	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
計	43	13	27	11	34	2	104	26	130	

平成23年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための 男女共同参画推進研修」アンケート集計結果(合計)

定員 120 名
 応募者 141 名
 応募倍率 117.5 %
 実参加者 130 名 (女性104名 男性26名)
 アンケート回答数 101 件
 アンケート回答率 77.7 %

1. この研修の内容は、どの程度有用でしたか。

【20日 講義「男女共同参画を推進する視点とは」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	19	25.4	5	25.0	—	—	24	23.8	24	25.3
有用であった	48	64.0	14	70.0	3	50.0	65	64.4	65	68.4
あまり有用でなかった	4	5.3	1	5.0	—	—	5	4.9	5	5.3
有用でなかった	1	1.3	—	—	—	—	1	1.0	1	1.0
参加しなかった	2	2.7	—	—	2	33.3	4	3.9		
無回答	1	1.3	—	—	1	16.7	2	2.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	95	100.0

<理由>

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ これからの男女共同参画社会推進のために共通の基盤作りが大切であることがよく分かった。男女共同参画を進める上でポイントを理解できた。
- ・ 社会への「参加」と「参画」の違いがよくわかった。
- ・ 神田理事長の自他尊重を基盤とする話は本当にわかりやすく良かったと思う。今まで10年やってきたことがまちがっていなかったことを実感しました。

【20日 報告・協議「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	12.0	3	15.0	1	16.7	13	12.8	13	13.6
有用であった	56	74.7	15	75.0	3	49.9	74	73.3	74	77.1
あまり有用でなかった	7	9.3	1	5.0	—	—	8	7.9	8	8.3
有用でなかった	—	—	1	5.0	—	—	1	1.0	1	1.0
参加しなかった	2	2.7	—	—	1	16.7	3	3.0		
無回答	1	1.3	—	—	1	16.7	2	2.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	96	100.0

<理由>

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 短時間ではあったが各行政の取り組みが分かった。
- ・ 各省庁からの事業をコンパクトにしてQ&A中心にしたことは良いと思います。
- ・ 国の省庁の考え方とスタンスがよく分かった。それを踏まえて地方都市で何をしていくか考える機会となった。

【20日 討議「課題整理のためのディスカッション」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	29	38.7	3	15.0	2	33.3	34	33.7	34	35.8
有用であった	36	48.0	15	75.0	2	33.3	53	52.4	53	55.8
あまり有用でなかった	5	6.6	1	5.0	—	—	6	5.9	6	6.3
有用でなかった	1	1.3	1	5.0	—	—	2	2.0	2	2.1
参加しなかった	2	2.7	—	—	1	16.7	3	3.0		
無回答	2	2.7	—	—	1	16.7	3	3.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	95	100.0

<理由>

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 第3次男女共同参画基本計画の重要施策について抜粋して説明を受け、勉強となった。
- ・ 問題を整理し課題を確認することができました。
- ・ 課題整理があす以降の研修に活かそうである。
- ・ 非常にわかりやすかった。第3次男女共同参画基本計画の見方・意義など理解できた。

【20日 報告「女性の課題を知る～国立女性教育会館研究・調査事業の報告～」(希望者のみ)】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	7	9.4	—	—	1	16.7	8	7.9	8	15.4
有用であった	31	41.3	8	40.0	1	16.7	40	39.6	40	76.9
あまり有用でなかった	2	2.7	1	5.0	—	—	3	3.0	3	5.8
有用でなかった	1	1.3	—	—	—	—	1	1.0	1	1.9
参加しなかった	22	29.3	3	15.0	2	33.3	27	26.7		
無回答	12	16.0	8	40.0	2	33.3	22	21.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	52	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 研究・調査の重要性を知りました。
- ・ 研究による女性の課題を今後も参考にさせていただきたいと思います。
- ・ 個別課題のほりさげと解説。こういうことこそNWECの事業取り組みですね。

【20日 情報交換会】(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	24	32.0	3	15.0	1	16.7	28	27.7	28	35.4
有用であった	34	45.3	12	60.0	2	33.3	48	47.5	48	60.8
あまり有用でなかった	2	2.7	1	5.0	—	—	3	3.0	3	3.8
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	10	13.3	1	5.0	1	16.7	12	11.9		
無回答	5	6.7	3	15.0	2	33.3	10	9.9		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	79	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 実際に会って交流する場として貴重な機会だった。
- ・ 他県の自治体、センター、団体がまじって交流できたのがよかった。
- ・ 各団体の実践している事、問題点の意見交換ができて勉強になった。

【21日 講義「組織の基盤強化～成果を見せるマネジメントとは～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	53	70.7	15	75.0	2	33.3	70	69.3	70	72.9
有用であった	17	22.7	3	15.0	3	50.0	23	22.8	23	24.0
あまり有用でなかった	1	1.3	1	5.0	—	—	2	2.0	2	2.1
有用でなかった	—	—	1	5.0	—	—	1	1.0	1	1.0
参加しなかった	3	4.0	—	—	—	—	3	2.9		
無回答	1	1.3	—	—	1	16.7	2	2.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	96	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 自己評価をする際のポイント・エッセンスが分かった。
- ・ ドラッカーの話は今後の組織運営のヒントになった。
- ・ 非常にわかり易く、また今後の組織運営を考えるにあたり重要なヒントをいただいた。

【21日 報告「成果を見える化～成果を見せるマネジメントとは～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	31	41.4	4	20.0	4	66.6	39	38.6	39	41.5
有用であった	37	49.3	15	75.0	1	16.7	53	52.5	53	56.4
あまり有用でなかった	1	1.3	1	5.0	—	—	2	2.0	2	2.1
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	5.3	—	—	—	—	4	3.9		
無回答	2	2.7	—	—	1	16.7	3	3.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	94	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 具体的な評価方法が理解できた。自分の施設に生かしたい。
- ・ 他者評価ではなく、自己評価について把握することができました。
- ・ 成果を意識することの重要性を認識できた。

【21日 コース別ワークショップ「事例に学ぶ～活動基盤を整える～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	25	33.3	5	25.0	1	16.7	31	30.7	31	32.3
有用であった	39	52.0	12	60.0	5	83.3	56	55.4	56	58.3
あまり有用でなかった	6	8.0	2	10.0	-	-	8	7.9	8	8.3
有用でなかった	-	-	1	5.0	-	-	1	1.0	1	1.1
参加しなかった	3	4.0	-	-	-	-	3	3.0		
無回答	2	2.7	-	-	-	-	2	2.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	96	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・事例発表の内容も良かったし、グループワークも充実した。グループワークの分け方等良かったと思う。
- ・先進団体に密着してヒアリングでき有用だった。実際に団体視察に行ったぐらいの効果が感じられる。同じ事例報告を聞いていても、参加者それぞれ感想が違うことなども共有でき新しい発見。
- ・他の地域の具体的な活動内容をきかせてもらい活動のヒントをもらった。

【21日 事例報告「事例に学ぶ～第3次男女共同参画基本計画を実現する施策・事業とは～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	20	26.7	4	20.0	3	50.0	27	26.7	27	28.4
有用であった	44	58.7	14	70.0	3	50.0	61	60.4	61	64.2
あまり有用でなかった	5	6.6	2	10.0	-	-	7	6.9	7	7.4
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	2.7	-	-	-	-	2	2.0		
無回答	4	5.3	-	-	-	-	4	4.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	95	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・組織運営が似ている埼玉、先進的な山形が参考となった。
- ・視点を変えた活動へのきっかけとなりそうな気がする。
- ・「多様性」という言葉にこれからの男女共同参画の可能性が見えた気がした。「探せばある財源」の話し感銘しました。

【21日 自由交流】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	12.0	2	10.0	-	-	11	10.9	11	37.9
有用であった	12	16.0	3	15.0	1	16.7	16	15.8	16	55.2
あまり有用でなかった	-	-	2	10.0	-	-	2	2.0	2	6.9
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	31	41.3	7	35.0	3	50.0	41	40.6		
無回答	23	30.7	6	30.0	2	33.3	31	30.7		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	29	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜非常に有用であった理由＞

- ・フリートークで日頃の想いや事例など話し合うことができた。共通認識を持つことができた。
- ・仙台の方々と話ができました。「災害と女性」(ジェンダーの視点)を確実に政策化することが直近の課題と実感しました。
- ・様々な人と知り合いになれてよかった。

【22日 コース別ワークショップ「方法を探る～男女共同参画を地域で実現する事業とは～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	34	45.4	6	30.0	3	50.0	43	42.6	43	45.7
有用であった	31	41.3	13	65.0	3	50.0	47	46.5	47	50.0
あまり有用でなかった	4	5.3	-	-	-	-	4	4.0	4	4.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	4.0	1	5.0	-	-	4	4.0		
無回答	3	4.0	-	-	-	-	3	3.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	94	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・事例報告から男女共同参画を進めるための視点をつかむことができワークショップにより具体的に考えるきっかけとなった。
- ・震災対応を聴けたこと。グループワークが充実していた。帰ってからの課題抽出ができた。
- ・最も参考になった事例であった。その後のワークも議論が活発で大変良かった。
- ・具体的事例をもとに改めて自センターの役割を考える機会となり、多くのヒントもいただきました。

【22日 全体討議「新たな連携・協働のあり方」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	13	17.3	2	10.0	2	33.3	17	16.8	17	22.1
有用であった	41	54.7	14	70.0	3	50.0	58	57.4	58	75.3
あまり有用でなかった	2	2.7	-	-	-	-	2	2.0	2	2.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	4.0	1	5.0	1	16.7	5	5.0		
無回答	16	21.3	3	15.0	-	-	19	18.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	77	100.0

＜理由＞

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ ヒントになるキーワードがあり持ち帰れる。
- ・ 様々なふり返しと前進する力を得ることができました。職員とともに第3次の推進にあたります。
- ・ それぞれのコース別の内容がよくわかりました。地方公共団体は出席者が発表する場面も入れてよかったです。

★研修全体についての有用度

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	35	46.6	6	30.0	4	66.7	45	44.6	45	45.5
有用であった	36	48.0	13	65.0	2	33.3	51	50.5	51	51.5
あまり有用でなかった	2	2.7	1	5.0	-	-	3	3.0	3	3.0
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	2	2.7	-	-	-	-	2	2.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	99	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

2. 研修に参加された目的の達成度をご回答ください。

(1)男女共同参画についての視点、考え方を身につけることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	27	36.0	3	15.0	5	83.3	35	34.7	35	42.2
おおむねできた	32	42.7	12	60.0	-	-	44	43.6	44	53.0
あまりできなかった	2	2.6	2	10.0	-	-	4	3.9	4	4.8
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	14	18.7	3	15.0	1	16.7	18	17.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	83	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(2)男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解することができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	27	36.0	2	10.0	4	66.6	33	32.7	33	39.3
おおむねできた	33	44.0	11	55.0	1	16.7	45	44.5	45	53.6
あまりできなかった	2	2.7	3	15.0	-	-	5	5.0	5	5.9
できなかった	-	-	1	5.0	-	-	1	1.0	1	1.2
無回答	13	17.3	3	15.0	1	16.7	17	16.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	84	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(3)地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える問題点を整理し、課題を把握することができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	15	20.0	4	20.0	2	33.3	21	20.8	21	25.9
おおむねできた	38	50.7	11	55.0	3	50.0	52	51.5	52	64.2
あまりできなかった	7	9.3	1	5.0	-	-	8	7.9	8	9.9
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	15	20.0	4	20.0	1	16.7	20	19.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	81	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(4)実態把握・分析の方法について知識・情報を得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	15	20.0	3	15.0	1	16.7	19	18.8	19	25.3
おおむねできた	36	48.0	10	50.0	4	66.6	50	49.5	50	66.7
あまりできなかった	4	5.3	2	10.0	-	-	6	5.9	6	8.0
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	20	26.7	5	25.0	1	16.7	26	25.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	75	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(5)組織の基盤強化の推進について、具体的情報を知ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	13	17.4	-	-	2	33.4	15	14.9	15	19.0
おおむねできた	34	45.3	15	75.0	2	33.3	51	50.5	51	64.6
あまりできなかった	10	13.3	1	5.0	-	-	11	10.9	11	13.9
できなかった	2	2.7	-	-	-	-	2	1.9	2	2.5
無回答	16	21.3	4	20.0	2	33.3	22	21.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	79	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(6)第3次男女共同参画基本計画について知り、それに応える事業、推進体制等の課題解決の方向性や手立てを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	12	16.0	-	-	2	33.4	14	13.9	14	17.3
おおむねできた	40	53.3	16	80.0	2	33.3	58	57.4	58	71.6
あまりできなかった	9	12.0	-	-	-	-	9	8.9	9	11.1
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	14	18.7	4	20.0	2	33.3	20	19.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	81	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(7)地域で男女共同参画を推進するための連携・共同事業についての手がかりを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	15	20.0	2	10.0	-	-	17	16.8	17	22.4
おおむねできた	34	45.4	10	50.0	3	50.0	47	46.5	47	61.8
あまりできなかった	10	13.3	2	10.0	-	-	12	11.9	12	15.8
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	16	21.3	6	30.0	3	50.0	25	24.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	76	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(8)全国の地域で男女共同参画を推進するリーダーの人々とのネットワークづくりのきっかけを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	12	16.0	3	15.0	1	16.7	16	15.9	16	19.1
おおむねできた	38	50.7	10	50.0	4	66.6	52	51.5	52	61.9
あまりできなかった	14	18.6	2	10.0	-	-	16	15.8	16	19.0
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	11	14.7	5	25.0	1	16.7	17	16.8		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	84	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(9)その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
おおむねできた	-	-	-	-	1	16.7	1	1.0	1	100.0
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	75	100.0	20	100.0	5	83.3	100	99.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	1	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

3. この研修での満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	23	30.7	3	15.0	3	50.0	29	28.7	29	30.2
満足した	40	53.3	15	75.0	3	50.0	58	57.4	58	60.4
少し物足りなかった	8	10.7	1	5.0	-	-	9	8.9	9	9.4
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	4	5.3	1	5.0	-	-	5	5.0		
合計	75	100.0	20	100.0	6	100.0	101	100.0	96	100.0

<理由>

(※%は「無回答」を除いた割合)

- ・研修を受ける前とはちがって知識や知恵が増えたこと。今後の課題が整理されてきたこと。満足しております。
- ・プログラムがよく練られている。3日間、密度の濃いプログラムを感じました。
- ・共同参画の本質の部分にふれることができたことと他団体の取り組みを知ることができた。
- ・昨年より内容が充実していた。組み立て方が良かった。講師も明快で分かりやすく良かった。

地域バランス

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	割合%
北海道・東北	11	4	15	11.5
関東・甲信越	48	13	61	46.9
北陸・東海	12	5	17	13.1
近畿	9	—	9	6.9
中国・四国	8	2	10	7.7
九州・沖縄	16	2	18	13.9
合 計	104	26	130	100

役職別

	管理職		地方公共団体		団体リーダー		総数			%
	女	男	女	男	女	男	女	男	計	
館長・理事長等	24	3	—	—	14	1	38	4	42	32.3
副館長・理事等	7	3	—	—	3	1	10	4	14	10.8
部長・室長等	5	3	10	5	3	—	18	8	26	20.0
自治体担当官	5	1	17	6	1	—	23	7	30	23.1
その他	2	3	—	—	13	—	15	3	18	13.8
計	43	13	27	11	34	2	104	26	130	100

**平成23年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」
フォローアップアンケート集計結果(全体)**

● 回答者について

	対象者	回答数	%
管理職コース	52	46	88.5
地方公共団体職員コース	38	31	81.6
女性団体リーダーコース	36	23	63.9
合計	126	100	79.4

1. 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

(※%は「無回答」を除いた割合)

	件数	%	※%
a. 大いに役立っている	36	36.0	40.5
b. ある程度役立っている	52	52.0	58.4
c. あまり役立っていない	1	1.0	1.1
d. ほとんど役立っていない	-	-	-
無回答	11	11.0	
合計	100	100.0	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
88	98.9

※無回答を除く

2. 研修の成果を普及・活用した方法

(1) 所属する組織内での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (100名中)	件数	% (36名中)	件数	% (52名中)
研修内容の報告・説明	75	75.0	26	72.2	41	78.8
各種広報資料への執筆・公表	9	9.0	5	13.9	4	7.7
研修資料を活用した職員・メンバー向け勉強会・研修会の開催	21	21.0	11	30.6	6	11.5
所属組織・所属団体の組織や体制の改善に向けた指導・助言	22	22.0	12	33.3	6	11.5
来年度事業・予算への反映	29	29.0	14	38.9	12	23.1
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	39	39.0	16	44.4	21	40.4
その他	11	11.0	2	5.6	8	15.4
合計	206		86		98	

(表の中のa~bは、設問1におけるプラス回答者の件数とする)

(2) 地域(他機関、団体・グループ等との連携)での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

(表の中のa~bは、設問1における回答件数とする)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (100名中)	件数	% (36名中)	件数	% (52名中)
研修資料の提供	18	18.0	9	25.0	7	13.5
研修内容の説明	18	18.0	7	19.4	10	19.2
各種広報資料への執筆	4	4.0	3	8.3	1	1.9
勉強会・研修会での指導・助言・協力	31	31.0	15	41.7	15	28.8
他の組織・団体の組織や体制の改善に向けた指導・助言・協力	23	23.0	8	22.2	13	25.0
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	34	34.0	14	38.9	17	32.7
ネットワーク構築に向けた働きかけ	30	30.0	15	41.7	12	23.1
その他	7	7.0	2	5.6	4	7.7
合計	165		73		79	

平成23年度「大学職員のための男女共同参画推進研修」実施要項

1. 趣 旨

男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに共通に課せられた責務であり、高等教育機関としての大学においても、その一翼を担うべきことはいまでもありません。教育・研究活動や学術・研究分野における男女共同参画の促進について、近年、大学は社会人・職業人として自立できる人材を育成し、社会に送り出す役割を担っているだけでなく、地域の知の拠点としても重要な役割を担っています。科学技術・学術分野についても、我が国が国際競争力を維持・強化し、多様な視点や発想を取り入れた研究活動を活性化するためには、男女を問わず多様な研究者を質・量とも育成・確保していくことが不可欠です。そこで、社会・地域に大きな影響を与える大学において、男女共同参画が推進されるよう、大学・公的研究機関等の意思決定組織に所属する教職員等を対象として、管理職として必要な知識、マネジメント能力、ネットワーク力を身につけるために、高度で専門的な研修を行います。

2. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

3. 参 加 者

大学・公的研究機関等の意思決定組織に所属する教職員等 80名

4. 日 程

(各プログラムの間に10分程度の休憩があります)

12/8 (木)	10:00	11:30	12:30	13:00	13:10	13:40	14:50	16:20	17:30	18:00	19:00
	※ プレ・ ワーク ショッ プ		受 付	開 会	講 義	関係省庁 説明 課題整理	講義	講義	※情報 提供	夕 食	※情報 交換会
12/9 (金)	9:00	10:10	11:40	12:40	15:30	15:40					
	講義	事例 研究	昼 食	ワークショップ 分科会1・分科会2・分科会3	ま と め	閉 会					

※プレ・ワークショップ、情報提供、情報交換会は希望者のみのプログラムです。

※当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」「第12分野 科学技術・学術分野における男女共同参画」に位置づけられている事業です。

5. 内 容

第1日 12月8日(木)

○プレ・ワークショップ(※希望者のみ)

10:00～11:30

「男女共同参画社会の基礎知識」

主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学びます。

講 師：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課 専門職員

(1) 開会

13:00～13:10

主催者あいさつ：内海 房子 国立女性教育会館 理事長

プログラムの趣旨説明：国立女性教育会館事業課 専門職員

- (2) 講義「大学における男女共同参画を推進するためには」 13:10～13:40
リーダーシップやマネジメントの視点を交えた男女共同参画を推進するための話を聞き、大学における男女共同参画を推進するための基礎となる考え方を学びます。
講 師：内海 房子 国立女性教育会館 理事長
- (3) 関係省庁説明と課題整理「大学・研究機関における男女共同参画推進の課題と取組の方向性」 13:40～14:10 14:20～14:40
関係省庁の説明を聞き、科学技術・学術分野における男女共同参画を推進する上での現状及び国の施策について知り、大学における男女共同参画の推進に向けた今日の政策課題についての理解を深めます。
講 師：板倉 周一郎 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 課長
コーディネーター：久保 真季 沖縄科学技術大学院大学 エグゼクティブオフィス
副学長 アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当
- (4) 講義「韓国における女性研究者政策について」 14:50～16:10
近年女性研究者比率で日本を追い抜いた韓国の女性研究者施策について、STEM 分野 (Science, Technology, Engineering and Mathematics) における戦略、4W プロジェクト (WISE、NIS-WIST、WIE、そして WATCH21) の 4 つのプログラムの事例紹介を交え、韓国の女性研究者政策について学びます。
講 師：Heisook LEE 梨花女子大学数学科 教授、WISSET センター長
- (5) 講義「女性の活躍推進・WLB 推進と大学の役割」 16:20～17:20
わが国の学問・研究者の男女共同参画は極端に遅れています。わが国企業の生産性と男女共同参画の関係の分析結果の考察、欧米と比べたわが国の大学の問題について、シカゴ大学におけるダイバーシティや WLB 推進の施策などをお聞きしながら、わが国の高等教育に何が必要なのか考えます。
講 師：山口 一男 シカゴ大学ハンナ・ホルボーン・グレイ記念特別社会学 教授
- (6) 情報提供（＊希望者のみ） 17:30～18:00
「大学における男女共同参画関連情報」
講 師：森 未知 国立女性教育会館情報課 専門職員
- (7) 情報交換会（＊希望者のみ） 19:00～20:30
夕食後、それぞれが抱える課題の解決に向けた方策について情報を交換するとともに、参加者どうしのネットワークづくりを行います。

第2日 12月9日（金）

- (8) 講義「ドイツの女性研究者政策」 9:00～10:00
今日のドイツの女性研究者の状況について、科学分野等における共同参画の促進のための取組について紹介します。
講 師：バーバラ ホルトス ドイツ日本研究所 専任研究員
- (9) ベストプラクティス研究「女性が活躍する職場への取組」 10:10～11:40
近年大学の動きとして、男女共同参画を担当する部署の設置が進み、経営層の男女共同参画意識は浸透しつつあるが、実際の女性研究者数・比率（特に任期付ではない者）の伸びは遅々として進んでいません。大学の運営が個々の研究室という個人営業的に運営されており、大組織とし

でのメリットが発揮できていないという課題があります。

そこで、ベストプラクティス研究として、研究所を有する企業の事例と中小規模企業の事例を取り上げ、女性が会社で意欲を持ち能力発揮できるような支援をしている取組を紹介します。

事例①NECソフト株式会社

報告者：小々馬 恵 NECソフト株式会社 ITトレーニングセンター 兼人事総務部
シニアマネージャー

事例②石堂硝子株式会社

報告者：奥畑 桂子 石堂硝子株式会社業務部 課長

(10) コース別ワークショップ

12:40～15:30

男女共同参画の主要な課題について、講義及び事例報告をもとにディスカッションを行い、実践力を付けます。

＜分科会1＞【男女共同参画意識を学内に浸透させるために】

コメンテーター：久保 真季 沖縄科学技術大学院大学 エグゼクティブオフィス 副学長
アドミニストレイティブ・コンプライアンス担当

事例①「広島大学における構成員一人一人の個性と能力が十分発揮できる組織を構築するための具体的な取組」

報告者：相田 美砂子 広島大学大学院理学研究科 教授

事例②「元気！生き生き女性研究者公立大学モデル」

報告者：巽 真理子 大阪府立大学女性研究者支援センター コーディネーター

＜分科会2＞【大学におけるワーク・ライフ・バランス】

コメンテーター：渥美 由喜 内閣府男女共同参画会議 専門委員

事例①「さらに羽ばたく女性研究者たち 研究支援とワーク・ライフ・バランス
～3年間の取組報告～」

報告者：谷 俊子 東海大学ワークライフバランス推進室、特任助教

事例②「山形ワークライフバランス・イノベーション」

報告者：木村 松子 山形大学男女共同参画推進室 チーフ・コーディネーター、准教授

＜分科会3＞【女性研究力・アップ】

コメンテーター：有賀 早苗 北海道大学 副学長、同大学大学院農学研究院 教授

事例①「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」

報告者：田中 真美 東北大学女性研究者育成支援推進室 副室長、
同大学医工学研究科 教授

事例②「奈良先端大の事例を中心とした若手研究者育成について」

報告者：岡本 拓士 奈良先端科学技術大学院大学男女共同参画室 室長補佐

(11) ふりかえり

15:30～15:40

研修を振り返り、参加者それぞれがアンケート記入を行います。

(12) 閉 会

主催者あいさつ

15:40

平成23年度 大学職員のための男女共同参画推進研修 参加者概況

1. 性別

	合 計
女 性	46
男 性	42
合 計	88

定員 80 名
 応募者 93 名
 参加者 88 名
 応募倍率 116.3 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	37	39	76
8日のみ	4	2	6
9日のみ	5	1	6
合 計	46	42	88

3. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	2	8	10
30代	10	6	16
40代	12	8	20
50代	14	13	27
60代以上	4	4	8
無回答	4	3	7
合 計	46	42	88

4. プレワークショップ参加

(8日参加者 82 名)

	合 計
女 性	18
男 性	10
合 計	28

5. 分科会

(9日参加者 82 名)

	女 性	男 性	合 計
分科会1「男女共同参画意識を学内に浸透させるために」	18	15	33
分科会2「大学におけるワーク・ライフ・バランス」	7	6	13
分科会3「女性研究力・アップ」	11	4	15
合 計	36	25	61

6. 会館利用歴(複数回答)

	女 性	男 性	合 計
会館主催リーダー向け研修に参加	4	1	5
会館主催その他の事業に参加	8	2	10
会館を利用し、事業を実施	1	3	4
他の諸機関・団体実施の事業に参加	2	3	5
利用歴なし(全項目無回答)	30	24	54

平成23年度「大学職員のための男女共同参画推進研修」 アンケート集計結果

基礎情報

定員	80 名
応募者	93 名
応募倍率	116.3 %
実参加者	88 名
アンケート対象者	80 名
アンケート回答数	70 件
アンケート回答率	87.5 %

I 本研修に関する意見・感想

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりするうえで、有用でしたか。

1日目 12月8日(木)

ブレ・ワークショップ「男女共同参画社会の基礎知識」(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	5	16.1	1	3.1	1	16.7	7	10.0	7	26.9
有用であった	10	32.3	8	24.2	1	16.7	19	27.1	19	73.1
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	11	35.5	18	54.5	2	33.3	31	44.3		
無回答	5	16.1	6	18.2	2	33.3	13	18.6		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	26	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- ・本邦及び世界での男女共同参画の歩みを知ることが出来ただけでなく、他の参加者とのアイスブレイキング的役割としても有意義でした。
- ・グループディスカッションにおいて、各機関が抱える課題や取り組みについて意見交換や情報収集することができ、有意義であった。

講義「大学における男女共同参画を推進するためには」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	5	16.1	2	6.1	3	50.0	10	14.3	10	15.6
有用であった	21	67.7	26	78.8	3	50.0	50	71.4	50	78.1
あまり有用でなかった	-	-	4	12.1	-	-	4	5.7	4	6.3
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	9.7	1	3.0	-	-	4	5.7		
無回答	2	6.5	-	-	-	-	2	2.9		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	64	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- ・企業と教育機関、複数の切り口からの話が良かった。
- ・男女共同参画の歴史的な経緯と現状について知ることができた。

関係省庁説明と課題整理「大学・研究機関における男女共同参画推進の課題と取組の方向性」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	10	32.3	6	18.2	3	50.0	19	27.1	19	29.2
有用であった	16	51.6	24	72.7	3	50.0	43	61.4	43	66.2
あまり有用でなかった	-	-	3	9.1	-	-	3	4.3	3	4.6
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	6.5	-	-	-	-	2	2.9		
無回答	3	9.6	-	-	-	-	3	4.3		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	65	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- ・工学分野への女性の進出を推し進めていく必要があることを痛感した。
- ・国の施策を再認識し、最新の情報を得られた。
- ・質疑のコーナーが手際よく、色々と参考になった。

講義「韓国における女性研究者政策について」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	11	35.5	3	9.1	1	16.7	15	21.4	15	22.4
有用であった	12	38.7	19	57.6	3	50.0	34	48.6	34	50.7
あまり有用でなかった	5	16.1	10	30.3	2	33.3	17	24.3	17	25.4
全く有用でなかった	-	-	1	3.0	-	-	1	1.4	1	1.5
参加しなかった	2	6.5	-	-	-	-	2	2.9		
無回答	1	3.2	-	-	-	-	1	1.4		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	67	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

「非常に有用であった」理由

- ・韓国の総合的施策がよく分かった。
- ・国策としての取り組みを聞くことができ有用であった。詳細なデータの提示により、理解しやすかった。
- ・中高生に対して大学生がメンターとして支援しているシステムがこの10年で拡大していることが印象的であった。

課題「女性の活躍推進・WLB推進と大学の役割」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	17	54.8	18	54.6	3	50.0	38	54.3	38	57.6
有用であった	10	32.3	14	42.4	3	50.0	27	38.6	27	40.9
あまり有用でなかった	-	-	1	3.0	-	-	1	1.4	1	1.5
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	9.7	-	-	-	-	3	4.3		
無回答	1	3.2	-	-	-	-	1	1.4		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	66	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- ・管理職の女性割合と企業の生産性の相互作用効果の話が興味深かった。雇用期間の在り方について認識を新たにすることができた。
- ・国際的な比較を、たくさんのデータを用いての有意義な講義を受けることができました。
- ・豊富なデータに裏付けられた講義で、今後に活用しうる事例の紹介もあった。

情報提供(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	6	19.4	-	-	1	16.7	7	10.0	7	18.5
有用であった	10	32.3	13	39.4	-	-	23	32.9	23	60.5
あまり有用でなかった	5	16.1	2	6.1	-	-	7	10.0	7	18.4
全く有用でなかった	1	3.2	-	-	-	-	1	1.4	1	2.6
参加しなかった	6	19.4	15	45.5	3	50.0	24	34.3		
無回答	3	9.6	3	9.0	2	33.3	8	11.4		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	38	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

情報交換会(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	11	35.5	3	9.1	1	16.7	15	21.4	15	40.5
有用であった	13	41.9	6	18.2	1	16.7	20	28.6	20	54.1
あまり有用でなかった	-	-	2	6.1	-	-	2	2.9	2	5.4
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	9.7	18	54.5	2	33.3	23	32.9		
無回答	4	12.9	4	12.1	2	33.3	10	14.2		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	37	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

2日目 12月9日(金)

講義「ドイツの女性研究者支援」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	10	32.3	2	6.1	2	33.3	14	20.0	14	25.9
有用であった	15	48.4	15	45.5	2	33.3	32	45.7	32	59.3
あまり有用でなかった	3	9.7	4	12.1	1	16.7	8	11.4	8	14.8
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	6.4	11	33.3	1	16.7	14	20.0		
無回答	1	3.2	1	3.0	-	-	2	2.9		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	54	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- ・研究者の実態がよくわかりました。
- ・ドイツと日本の比較が良かった。

ベストプラクティス研究「女性が活躍する職場への取組」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	19	61.3	10	30.3	1	16.7	30	42.9	30	56.6
有用であった	9	29.0	10	30.3	3	50.0	22	31.4	22	41.5
あまり有用でなかった	-	-	1	3.0	-	-	1	1.4	1	1.9
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	6.5	11	33.4	2	33.3	15	21.4		
無回答	1	3.2	1	3.0	-	-	2	2.9		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	53	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- ・普段知ることのできない企業内部の取り組みを学べ有意義な時間でした。
- ・風土作り、意識改革が必要であることを認識しました。

コース別ワークショップ・参加組

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
1組	13	42.0	11	33.3	2	33.3	26	37.2	26	52.0
2組	5	16.1	6	18.2	1	16.7	12	17.1	12	24.0
3組	9	29.0	2	6.1	1	16.7	12	17.1	12	24.0
組不明	4	12.9	14	42.4	2	33.3	20	28.6		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	50	100.0

(※%は「組不明」を除いた割合)

コース別ワークショップ(講義・事例報告について)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	51.6	8	24.2	1	16.7	25	35.8	25	52.1
有用であった	10	32.3	9	27.3	3	50.0	22	31.4	22	45.8
あまり有用でなかった	-	-	1	3.0	-	-	1	1.4	1	2.1
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	6.5	12	36.4	-	-	14	20.0		
無回答	3	9.6	3	9.1	2	33.3	8	11.4		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	48	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	13	50.0	5	41.7	7	58.3	-	-	25	35.8
有用であった	12	46.2	6	50.0	3	25.0	1	5.0	22	31.4
あまり有用でなかった	1	3.8	-	-	-	-	-	-	1	1.4
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	14	70.0	14	20.0
無回答	-	-	1	8.3	2	16.7	5	25.0	8	11.4
合計	26	100.0	12	100.0	12	100.0	20	100.0	70	100.0

<理由>

- ・ 具体的、かつ効果的な事例紹介、コメントをいただき大変参考になった。
- ・ 男女共同参画支援プログラム採択機関での取り組みであり、予算的に恵まれた施策であり、そうでない私どもとしては、いかに金を使わずできる策を考える上で参考にしたい。

コース別ワークショップ(話し合いについて)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	15	48.4	5	15.2	1	16.7	21	30.0	21	46.7
有用であった	9	29.0	10	30.3	3	50.0	22	31.4	22	48.9
あまり有用でなかった	1	3.2	1	3.0	-	-	2	2.9	2	4.4
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	6.5	12	36.3	-	-	14	20.0		
無回答	4	12.9	5	15.2	2	33.3	11	15.7		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	45	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	10	38.5	4	33.3	7	58.3	-	-	21	30.0
有用であった	12	46.1	6	50.0	3	25.0	1	5.0	22	31.4
あまり有用でなかった	2	7.7	-	-	-	-	-	-	2	2.9
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	14	70.0	14	20.0
無回答	2	7.7	2	16.7	2	16.7	5	25.0	11	15.7
合計	26	100.0	12	100.0	12	100.0	20	100.0	70	100.0

<理由>

- ・ 個別にアドバイスと励ましをいただくことができました。
- ・ 他大学の現状と課題について情報交換することができた。今後の男女共同参画推進について非常に参考となる情報、知識を得ることができた。
- ・ 他大学の情報を得ることができた。

コース別ワークショップ(全般・その他)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	15	48.4	4	12.1	1	16.7	20	28.6	20	46.5
有用であった	11	35.5	10	30.3	2	33.3	23	32.9	23	53.5
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	6.5	12	36.4	-	-	14	20.0		
無回答	3	9.6	7	21.2	3	50.0	13	18.5		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	43	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	10	38.5	3	25.0	7	58.3	—	—	20	28.6
有用であった	11	42.3	6	50.0	5	41.7	1	5.0	23	32.9
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	14	70.0	14	20.0
無回答	5	19.2	3	25.0	—	—	5	25.0	13	18.5
合計	26	100.0	12	100.0	12	100.0	20	100.0	70	100.0

研修全体について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	21	67.7	10	30.3	3	50.0	34	48.6	34	49.3
有用であった	10	32.3	22	66.7	3	50.0	35	50.0	35	50.7
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	1	3.0	—	—	1	1.4	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	69	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- ・ 今日、何もわからず参加させてもらいましたが、非常にわかりやすい研修でした。学校に持ち帰り、少しでも意識改革できればと思います。
- ・ 次回は大学人事課職員と共に参加したいです。
- ・ 男女共同参画の基本的視点を学ぶことができ、大変勉強になった。

2 研修に参加された目的と達成度について

目的(複数回答)

	女性	% (31名中)	男性	% (33名中)	不明	% (6名中)	合計	% (70名中)
1 男女共同参画についての視点を身につける	12	38.7	16	48.5	3	50.0	31	44.3
2 国の最新動向について把握する	7	22.6	10	30.3	3	50.0	20	28.6
3 大学・研究機関における男女共同参画推進の現状と課題を把握・認識するとともに、自組織の位置や課題を明示化する	10	32.3	15	45.5	2	33.3	27	38.6
4 実態把握・分析のための方法について知識・情報を得る	5	16.1	8	24.2	2	33.3	15	21.4
5 各大学等で男女共同参画を推進していくために、実践に役立つ課題解決の方向性や手立てを得る								
男女共同参画意識を学内に浸透させるための、手がかりを得る	7	22.6	9	27.3	—	—	16	22.9
研究者のワーク・ライフ・バランス支援の手がかりを得る	2	6.5	3	9.1	2	33.3	7	10.0
女性研究力・アップ支援の手がかりを得る	4	12.9	3	9.1	—	—	7	10.0
6 各大学等で男女共同参画	9	29.0	7	21.2	1	16.7	17	24.3
7 その他	—	—	1	3.0	—	—	1	1.4

達成度

1. 男女共同参画についての視点を身につけることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	11	35.5	5	15.2	2	33.3	18	25.7	18	30.5
おおむね達成できた	15	48.4	23	69.6	3	50.0	41	58.6	41	69.5
あまり達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	5	16.1	5	15.2	1	16.7	11	15.7	—	—
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	59	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

2. 国の最新動向について把握することができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	10	32.3	4	12.1	3	50.0	17	24.3	17	32.1
おおむね達成できた	14	45.2	19	57.6	2	33.3	35	50.0	35	66.0
あまり達成できなかった	-	-	1	3.0	-	-	1	1.4	1	1.9
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	7	22.5	9	27.3	1	16.7	17	24.3		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	53	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

3. 大学・研究機関における男女共同参画推進の現状と課題を把握・認識するとともに、自組織の位置や課題を明示化することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	12	38.8	4	12.2	3	50.0	19	27.2	19	34.5
おおむね達成できた	13	41.9	17	51.5	1	16.7	31	44.3	31	56.4
あまり達成できなかった	1	3.2	3	9.1	-	-	4	5.7	4	7.3
達成できなかった	-	-	1	3.0	-	-	1	1.4	1	1.8
無回答	5	16.1	8	24.2	2	33.3	15	21.4		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	55	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

4. 実態把握・分析のための方法について知識・情報を得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	8	25.8	3	9.1	3	50.0	14	20.0	14	28.6
おおむね達成できた	11	35.5	19	57.6	1	16.7	31	44.3	31	63.3
あまり達成できなかった	1	3.2	3	9.1	-	-	4	5.7	4	8.1
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	11	35.5	8	24.2	2	33.3	21	30.0		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	49	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

5. 各大学等で男女共同参画を推進していくために、実践に役立つ課題解決の方向性や手立てを得ることができた(男女共同参画意識を学内に浸透させるための、手がかりを得ることができた)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	6	19.4	2	6.1	1	16.7	9	12.9	9	22.0
おおむね達成できた	13	41.9	13	39.4	-	-	26	37.1	26	63.4
あまり達成できなかった	-	-	6	18.2	-	-	6	8.6	6	14.6
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	12	38.7	12	36.3	5	83.3	29	41.4		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	41	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

5. 各大学等で男女共同参画を推進していくために、実践に役立つ課題解決の方向性や手立てを得ることができた(研究者のワーク・ライフ・バランス支援の手がかりを得ることができた)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	6	19.4	3	9.1	2	33.3	11	15.7	11	33.3
おおむね達成できた	6	19.4	12	36.4	1	16.7	19	27.1	19	57.6
あまり達成できなかった	1	3.2	2	6.1	-	-	3	4.3	3	9.1
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	18	58.0	16	48.4	3	50.0	37	52.9		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	33	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

5. 各大学等で男女共同参画を推進していくために、実践に役立つ課題解決の方向性や手立てを得ることができた(女性研究力・アップ支援の手がかりを得ることができた)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	4	12.9	2	6.1	1	16.7	7	10.0	7	26.0
おおむね達成できた	3	9.7	8	24.2	-	-	11	15.8	11	40.7
あまり達成できなかった	3	9.7	5	15.2	-	-	8	11.4	8	29.6
達成できなかった	1	3.2	-	-	-	-	1	1.4	1	3.7
無回答	20	64.5	18	54.5	5	83.3	43	61.4		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	27	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

6. 各大学等で男女共同参画を推進するリーダーの人々とのネットワークづくりのきっかけを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	7	22.6	3	9.1	-	-	10	14.3	10	25.0
おおむね達成できた	11	35.5	6	18.2	1	16.7	18	25.7	18	45.0
あまり達成できなかった	2	6.5	6	18.2	-	-	8	11.4	8	20.0
達成できなかった	-	-	4	12.1	-	-	4	5.7	4	10.0
無回答	11	35.4	14	42.4	5	83.3	30	42.9		
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	40	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

7. その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
おおむね達成できた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	-	-
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	-	-

(※%は「無回答」を除いた割合)

3. この研修での満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	16	51.6	6	18.2	2	33.3	24	34.3	24	34.8
満足した	13	41.9	25	75.8	3	50.0	41	58.6	41	59.4
少し物足りなかった	2	6.5	2	6.0	-	-	4	5.7	4	5.8
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	1	16.7	1	1.4	-	-
合計	31	100.0	33	100.0	6	100.0	70	100.0	69	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

<理由>

- ・ 基本的な情報から実践的な事例に基づく具体的な提言まで幅広いテーマで情報提供と議論がなされていたから。
- ・ 男女共同参画に関する基礎を知ることができた上に、他機関の事例も知ることができた。また、他機関とのネットワークも広げることができ、今後に役立てることができると思うので、非常に満足しています。
- ・ 男女雇用機会均等法が制定されて四半世紀が経過したが、特に民間企業での女性登用が進んでいない実態を再確認するとともに、女性の社会進出を加速させていくためには、一層のワークライフバランスの推進が欠かせない点を痛感した。

参加者概況

地域バランス

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	7	7	14
関東・甲信越	17	19	36
北陸・東海	6	2	8
近畿	5	4	9
中国・四国	7	7	14
九州・沖縄	3	3	6
海外	1	-	1
合 計	46	42	88

職種別

職種	合計(人)	割合(%)
男女共同参画室事務系	18	20.5
総務・人事課等事務系	41	46.6
教員系	25	28.4
研究機関等	4	4.5
合 計	88	100.0

平成23年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」 実施要項

1. 趣 旨

一人一人が置かれた状況に応じて柔軟にキャリアを設計できるよう、多様化する個人のキャリアを男女共同参画の視点から社会と結び付け、長期的なキャリア形成支援に資するため、女性関連施設、団体、大学等のキャリア形成支援担当者を対象に国立女性教育会館のこれまでの調査研究や実践で明らかになりつつある「複合キャリア」の概念や長期的な視野に立ったキャリア形成支援プログラムの立案やサポートシステムの構築等について専門的・実践的に学びます。

2. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

3. 参 加 者

- ・女性関連施設・社会教育施設等の職員
 - ・団体・グループ・NPO等のメンバー
 - ・大学等のキャリア教育担当教職員等
- 80名

4. 内 容

第1日 11月16日(水)

○プレ・ワークショップ（＊希望者のみ参加） 10:00～11:30

「男女共同参画社会の基礎知識」

地域における男女共同参画社会の推進に向け、日本の社会の様々な分野における女性と男性の現状を具体的なデータから読み解きます。

講 師：佐國 勝 国立女性教育会館事業課専門職員

(1) 開会 13:00～13:20

主催者あいさつ：内海 房子 国立女性教育会館理事長

プログラム説明：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員心得

(2) 講義「社会の変化とキャリア形成支援の必要性～男女共同参画の視点から～」

13:30～14:30

- ・近年の社会的な変化と現代的な課題を踏まえ、男女共同参画の視点からの生涯に渡るキャリア形成支援の必要性を考えます。

講 師：天野 正子 東京家政学院大学学長

(3) 報告・討議「国のキャリア形成支援施策の最新動向と課題」 14:45～16:00

- ・国のキャリア形成支援施策の現状及び今後の方向性について理解を深めます。
- ・関係府省からの施策説明に加え、参加者の質疑応答から、今知りたい国の動向やポイントを探ります。

講 師：松崎 和之 内閣府男女共同参画局推進課課長補佐

講 師：笹井 弘之 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長

- (4) 調査報告と討議 16:15～17:00
・国立女性教育会館の調査研究で明らかになってきている「社会活動キャリア」「複合キャリア」の考え方、今後の研究についての報告を聞き、キャリア形成支援についての課題等について意見交換を行います。

講師：中野 洋恵 国立女性教育会館研究国際室長・主任研究員

- (5) 「女性情報ポータル Winet 紹介および女性教育情報センター見学」(*希望者のみ参加)
17:15～18:00
説明・案内：国立女性教育会館情報課職員

- (6) 情報交換会(*希望者のみ参加) 19:00～20:30
・参加者相互の親交を深め、情報交換を行います。

第2日 11月17日(木)

- (7) 事例報告とインタビュー「多様なキャリアを推進する」 9:00～11:00
・様々な特色ある先進事例の報告から、多様なキャリア形成支援のあり方を考えます。

コーディネーター：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

「社会活動キャリアの促進と地域人材の活用」

事例報告：加藤 せい子 特定非営利活動法人吉備野工房ちみち理事長

「機関連携によるキャリア形成支援プログラム」

事例報告：小川 洋子 財団法人しまね女性センター専門員

「長期的視野に立ったキャリア形成支援」

事例報告：大津 晶 小樽商科大学商学部准教授

- (8) 事例研究「キャリア形成支援プログラムの実際」 11:15～12:00
・国立女性教育会館の開発したキャリア形成支援プログラムを題材として、プログラム開発から実施までのポイントを学びます。

報告者：野依 智子 国立女性教育会館研究国際室研究員

●コース別ワークショップ

- (9) 課題整理のためのディスカッション 13:15～14:45
・事例報告、事例研究での事例と参加者の取組とを結び付け、事業(学習)計画案づくりに向けて、それぞれの課題とニーズを整理します。

●コース別ワークショップ

- (10) 事業(学習)計画案づくりⅠ 15:00～17:00
・地域・組織での男女共同参画の視点に立ったキャリア形成支援に実際に役立つ支援の内容と方策について考え、参加者の立場に合わせて事業(学習)計画案を立てます。

※コース別ワークショップ(9)、(10)、(12)共通講師

＜Ⅰ 社会活動キャリア支援コース＞

【計画案テーマ】社会活動キャリア、NPO活動、地域づくりなど

アドバイザー：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

学習支援：金子 亜弥 国立女性教育会館事業課専門職員

＜Ⅱ ワーク・ライフ・バランスコース＞

【計画案テーマ】ワーク・ライフ・バランス、再チャレンジ、起業など

アドバイザー：福田 紀子 台東区立男女平等推進プラザ コーディネーター

学習支援：森下 敏広 国立女性教育会館事業課専門職員

＜Ⅲ 若年層に対する支援コース＞

【計画案テーマ】大学生へのキャリア形成支援プログラムなど

アドバイザー：上西 充子 法政大学キャリアデザイン学部准教授

学習支援：佐國 勝 国立女性教育会館事業課専門職員

(11) 自由交流

19:00～21:00

第3日 11月18日（金）

●コース別ワークショップ

(12) 事業（学習）計画案づくりⅡ

9:30～11:00

- ・前日に引き続き、キャリア形成支援に役立つ支援の内容と方策について事業（学習）計画案を立てます。

(13) 全体会

11:20～12:05

- ・コース別ワークショップで作成した事業（学習）計画案を発表し、全体で共有します。

コメンテーター：青木 玲子 国立女性教育会館客員研究員

(14) ふりかえり

12:05～12:20

- ・研修を振り返り、参加者それぞれがアンケート記入を行います。

(15) 閉会

12:20

- ・主催者あいさつ 独立行政法人国立女性教育会館

5. 情報の広場

研修期間中、参加者の所属する施設・企業・大学・団体等のパンフレットやチラシなどを自由に交換する情報交換コーナーを設置します。

6. 女性教育情報センター（本館2階）

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館です。全国各地のミニコミ誌など、NWE Cならではの資料もそろえております。

【開室時間】 11月16日（水） 9:00 ～ 19:00
11月17日（木） 8:30 ～ 19:00
11月18日（金） 8:30 ～ 17:00

7. 女性アーカイブセンター展示室（本館1階）

女性アーカイブセンターでは、男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性・全国的な女性団体や、女性教育・男女共同参画施策等に関する史・資料を収集しています。

【開室時間】 9:00 ～ 19:00（3日間共通）

8. その他

- (1) 11月16日(水)および18日(金)に、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスを運行いたします。
- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。
- (3) 電力需要等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- (4) この研修は第3次男女共同参画基本計画の「第4分野 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保」5 多様な生き方、多様な能力の発揮を可能にするための支援、「第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」に対応しています。

平成23年度 男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修参加者概況

1. 性別

	合 計	%
女 性	51	68.0
男 性	24	32.0
合 計	75	100.0

定員	80 名
応募者	81 名
参加者	75 名
応募倍率	101.3 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	31	5	36
16日のみ	6	14	20
17日のみ	5	4	9
18日のみ	1	—	1
16,17日のみ	5	1	6
17,18日のみ	3	—	3
合計	51	24	75

3. 年代

	女 性	男 性	合 計	%
20代	2	3	5	6.7
30代	9	1	10	13.3
40代	12	2	14	18.7
50代	6	2	8	10.7
60代以上	12	—	12	16.0
無回答	10	16	26	34.6
合 計	51	24	75	100.0

4. 区分

	女 性	男 性	合 計	%
① 女性関連施設・社会教育施設等の職員	25	8	33	44.0
② 団体・グループ・NPO法人等のメンバー	16	14	30	40.0
③ 大学等のキャリア教育支援者	10	2	12	16.0
合 計	51	24	75	100.0

5. プレワークショップ参加

	合 計
女 性	20
男 性	2
合 計	22

6. 情報センター見学参加

	合 計
女 性	22
男 性	4
合 計	26

7. 分科会

	女 性	男 性	合 計
I 社会活動キャリア支援コース	12	3	15
II ワーク・ライフ・バランスコース	12	1	13
III 若年層に対する支援コース	14	2	16
合 計	38	6	44

8. 会館利用歴(複数回答)

	女 性	男 性	合 計
会館主催キャリア形成支援研修に参加	8	2	10
会館主催その他の事業に参加	20	2	22
会館を利用し、事業を実施	3	1	4
他の諸機関・団体実施の事業に参加	3	1	4

平成23年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」アンケート集計結果

定員	80 名	
応募者	81 名	
応募倍率	101.3 %	
実参加者	75 名	(女性51名 男性24名)
アンケート回答数	57 件	
アンケート回答率	76.0 %	

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりするうえで、有用でしたか。

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

プレ・ワークショップ「男女共同参画の基礎知識」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	4	9.8	-	-	-	-	4	7.0	4	33.4
有用であった	6	14.6	1	6.7	-	-	7	12.3	7	58.3
あまり有用でなかった	1	2.4	-	-	-	-	1	1.7	1	8.3
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	16	39.0	2	13.3	-	-	18	31.6		
無回答	14	34.2	12	80.0	1	100.0	27	47.4		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	12	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・他の参加者のたくさんの意見を聞くことで、「M字カーブ」に対する理解が深まった。
- ・非常に基本的な内容だったが、初心者には取り組みやすい内容だった。

講義「社会の変化とキャリア形成支援の必要性～男女共同参画の視点から～」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	34.1	4	26.7	-	-	18	31.6	18	37.5
有用であった	15	36.6	9	60.0	1	100.0	25	43.9	25	52.1
あまり有用でなかった	5	12.2	-	-	-	-	5	8.8	5	10.4
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	4.9	-	-	-	-	2	3.5		
無回答	5	12.2	2	13.3	-	-	7	12.2		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	48	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・日頃取り組んでいる講座を思い起こしながら、明文化、言語化していくのを感じ、非常に有用だった。
- ・多様なキャリア形成支援の必要性はとても納得できた。でも実際にどうやるか、というところがやっぱり難しい。
- ・男女共同参画の視点がよく分かる内容で参考になった。
- ・キャリア形成をしていく上で社会環境の整備の必要性、そしてその取組を充実させていくことが大切と感じた。

報告・討議「国のキャリア形成支援施策の最新動向と課題」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	3	7.3	3	20.0	-	-	6	10.5	6	16.2
有用であった	19	46.3	3	20.0	-	-	22	38.6	22	59.5
あまり有用でなかった	7	17.1	-	-	1	100.0	8	14.0	8	21.6
有用ではなかった	1	2.4	-	-	-	-	1	1.8	1	2.7
参加しなかった	2	4.9	1	6.7	-	-	3	5.3		
無回答	9	22.0	8	53.3	-	-	17	29.8		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	37	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・生涯学習における男女共同参画の視点について初めて聞いた。
- ・現状と今後の課題について理解できた。具体性については今後に期待する。
- ・質問の方式が良かった。聞きたいことがあっても挙手してまで言いにくいので、用紙の回収というやり方は双方にとって効果的である。
- ・国の考え方を知る機会があるのは良いと思う。
- ・コンパクトにまとめてあったが基礎知識情報が必要ではないか。

調査報告と討議

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	22.0	2	13.3	1	100.0	12	21.1	12	34.3
有用であった	17	41.5	3	20.0	—	—	20	35.1	20	57.1
あまり有用でなかった	3	7.3	—	—	—	—	3	5.3	3	8.6
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	4.8	1	6.7	—	—	3	5.2		
無回答	10	24.4	9	60.0	—	—	19	33.3		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	35	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 提出した調査票がどのように活用されるのかがよく分かった。どのようなことでも事後報告が示されないことが多いのでフィードバックをしてほしい。
- ・ 研究のプロセス報告はスエックへの関心を高める。結果が待ち遠しい。
- ・ 有用な情報だと思うがまだ調査結果をとりまとめている段階ということで、それがどう学習プログラムに反映されていくのか期待したい。

「女性情報ポータルWinet紹介および女性教育情報センター見学」*希望者のみ

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	2	4.9	—	—	1	100.0	3	5.3	3	17.6
有用であった	11	26.8	1	6.7	—	—	12	21.1	12	70.6
あまり有用でなかった	2	4.9	—	—	—	—	2	3.5	2	11.8
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	9	22.0	2	13.3	—	—	11	19.3		
無回答	17	41.4	12	80.0	—	—	29	50.8		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	17	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 地域の図書館に依頼して資料を貸し出しできると知り、利用してみたいと思いました。
- ・ データベース等のシステムをぜひ利用したいと思った。
- ・ 情報の多さに驚くと共に、収集、クリッピングは大変なことだと思った。

情報交換会 *希望者のみ

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	13	31.7	—	—	1	100.0	14	24.6	14	46.7
有用であった	12	29.3	3	20.0	—	—	15	26.3	15	50.0
あまり有用でなかった	1	2.4	—	—	—	—	1	1.8	1	3.3
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	3	7.3	1	6.7	—	—	4	7.0		
無回答	12	29.3	11	73.3	—	—	23	40.3		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	30	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 講義の中だけではお互いを理解しづらい。活動や思いが個々にわかり合え、人との距離を縮める良い機会であった。
- ・ 全国各地の女性センター、また大学のキャリア支援担当者の方々と知り合え、ざっくばらんに悩みなどを語り合えたので勇気づけられた。
- ・ 宿泊研修の良さだと感じた。

事例報告とインタビュー 「社会活動キャリアの促進と地域人材の活用」 NPO法人吉備野工房ちみち

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	23	56.1	2	13.3	1	100.0	26	45.6	26	63.4
有用であった	10	24.4	3	20.0	—	—	13	22.8	13	31.7
あまり有用でなかった	2	4.9	—	—	—	—	2	3.5	2	4.9
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.4	—	—	—	—	1	1.8		
無回答	5	12.2	10	66.7	—	—	15	26.3		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	41	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 事例とそのプロセスと明らかになり、学ぶことがとても多かった。
- ・ 同じような取組をしてみたいと考えていたのでぜひ参考したい。
- ・ 自分の経験/課題を地域（社会）と共有してともに解決を探る手法を学ぶことができた。

事例報告とインタビュー「機関連携によるキャリア形成支援プログラム」しまね女性センター

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	39.0	2	13.3	1	100.0	19	33.3	19	50.0
有用であった	13	31.7	3	20.0	-	-	16	28.1	16	42.1
あまり有用でなかった	3	7.3	-	-	-	-	3	5.3	3	7.9
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	2.5	-	-	-	-	1	1.7		
無回答	8	19.5	10	66.7	-	-	18	31.6		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	38	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 現在実施していることとの重なりが多かったので、課題や共通するところがあった。
- ・ プログラムの紹介だけでなく、実施の詳細も参考になった。
- ・ ジェンダーに縛られる学生のしほりからの解放にセンターが関わる意味は大きいと感じた。

事例報告とインタビュー「長期的視野に立ったキャリア形成支援」小樽商科大学

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	34.1	3	20.0	-	-	17	29.8	17	41.5
有用であった	17	41.5	2	13.3	-	-	19	33.3	19	46.3
あまり有用でなかった	4	9.8	-	-	-	-	4	7.0	4	9.8
有用ではなかった	-	-	-	-	1	100.0	1	1.8	1	2.4
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	6	14.6	10	66.7	-	-	16	28.1		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	41	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 実際に行われている事例報告を開けるのはとても興味深い
- ・ 地方大学での事例として良いケースを開けて参考になった。
- ・ 大学のキャリア支援の取り組みについて理解できた。学生には内から外へだけでなく、外から内への交流もほしい。

事例研究「キャリア形成支援プログラムの実際」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	13	31.7	1	6.7	1	100.0	15	26.3	15	38.5
有用であった	17	41.5	2	13.3	-	-	19	33.3	19	48.7
あまり有用でなかった	4	9.8	1	6.7	-	-	5	8.8	5	12.8
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	7	17.0	11	73.3	-	-	18	31.6		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	39	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 具体的な取組がわかりやすかった。
- ・ 複合キャリアの学習は短期大学で取り入れていきたい。今後の調査等、学生との関わりの情報が欲しい。
- ・ プログラムの内容よりも、手法やねらいの部分が非常に参考になった。

自由交流 * 希望者のみ

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	39.0	-	-	-	-	16	28.1	16	94.1
有用であった	-	-	1	6.7	-	-	1	1.8	1	5.9
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	7	17.1	1	6.7	-	-	8	14.0		
無回答	18	43.9	13	86.6	1	100.0	32	56.1		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	17	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 事業計画を練り上げ、様々な意見交換ができてよかった。
- ・ コースで同じ課題に取り組む人々とチームを組んで有意義なグループワークをすることができてよかった。

分科会「コース名」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
I 社会活動キャリア支援コース	9	22.0	2	13.3	—	—	11	19.3
II ワーク・ライフ・バランスコース	11	26.8	—	—	—	—	11	19.3
III 若年層に対する支援コース	13	31.7	2	13.3	1	100.0	16	28.1
無回答	8	19.5	11	73.4	—	—	19	33.3
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0

コース別ワークショップ <分科会学習支援について>

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	19	46.4	—	—	1	100.0	20	35.0	20	60.6
有用であった	10	24.4	2	13.3	—	—	12	21.1	12	36.4
あまり有用でなかった	1	2.4	—	—	—	—	1	1.8	1	3.0
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.4	—	—	—	—	1	1.8		
無回答	10	24.4	13	86.7	—	—	23	40.3		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	33	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

※分科会コース別

	I	%	II	%	III	%	無回答	%	※	※%
非常に有用であった	6	54.5	6	54.5	7	43.8	1	5.3	20	60.6
有用であった	3	27.3	5	45.5	4	25.0	—	—	12	36.4
あまり有用でなかった	—	—	—	—	1	6.2	—	—	1	3.0
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	1	5.3		
無回答	2	18.2	—	—	4	25.0	17	89.4		
合計	11	100.0	11	100.0	16	100.0	19	100.0	33	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ ワーク形式・手法も参考になった。
- ・ 個別の問題を一般化することで、理解がしやすかった。
- ・ 現場経験豊かな方々とのグループワークが有意義だった。
- ・ プログラムづくりは初めての経験だったが、本当に楽しい研修だった。
- ・ テーマ絞りに苦労したが、アドバイスがよかった。

コース別ワークショップ <協議について>

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	18	43.9	—	—	1	100.0	19	33.3	19	63.3
有用であった	9	22.0	2	13.3	—	—	11	19.3	11	36.7
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.4	—	—	—	—	1	1.8		
無回答	13	31.7	13	86.7	—	—	26	45.6		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	30	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

※分科会コース別

	I	%	II	%	III	%	無回答	%	※	※%
非常に有用であった	3	27.2	7	63.6	8	50.0	1	5.3	19	63.3
有用であった	4	36.4	3	27.3	4	25.0	—	—	11	36.7
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	1	5.3		
無回答	4	36.4	1	9.1	4	25.0	17	89.4		
合計	11	100.0	11	100.0	16	100.0	19	100.0	30	100.0

<非常に有用であった理由>

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 同じ目的対象の方とお話しできて考えが深まった。
- ・ 多くの人の視点が得られることは大変有益と感じた。
- ・ グループの意見をまとめながらの企画はすり合わせと内容を深める点で有効であった。

コース別ワークショップ＜全般・その他＞

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	13	31.7	—	—	1	100.0	14	24.6	14	48.3
有用であった	12	29.3	3	20.0	—	—	15	26.3	15	51.7
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.4	—	—	—	—	1	1.8		
無回答	15	36.6	12	80.0	—	—	27	47.3		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	29	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

※分科会コース別

	I	%	II	%	III	%	無回答	%	※	※%
非常に有用であった	3	27.2	4	36.4	6	37.5	1	5.3	14	48.3
有用であった	4	36.4	5	45.5	6	37.5	—	—	15	51.7
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	1	5.3		
無回答	4	36.4	2	18.1	4	25.0	17	89.4		
合計	11	100.0	11	100.0	16	100.0	19	100.0	29	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 事業（学習）計画を1つ立てきる、という経験ができてよかった。
- ・ すでに自分のところで付け加える形で事業計画を立てるのは色々制約も見えていて難しかった。
- ・ 総評で整理された。ブラッシュアップの時間が貴重であった。
- ・ 全体的に夜の宿題にして、もう少し考える時間がほしい。

全体会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	18	43.9	—	—	1	100.0	19	33.3	19	55.9
有用であった	11	26.8	4	26.7	—	—	15	26.3	15	44.1
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.5	—	—	—	—	1	1.8		
無回答	11	26.8	11	73.3	—	—	22	38.6		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	34	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ 各テーマにそった事業計画は参考になるところが多かった。講評によりそれらが整理された。
- ・ 企画書の整合性がとれているのかなど、具体的なアドバイスが良かった。
- ・ どこに重点をおいて計画を立てるか、また、今自分のところでの取り組みに何が不足しているかととてもわかりやすくまとめていただいた。
- ・ 興味深い、すぐに取り組みそうなケースがあった。
- ・ もっと聞きたいというところで終わってしまい残念。もう少し時間をとってもらいたい。

開催資料

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	19.5	—	—	1	100.0	9	15.8	9	40.9
有用であった	11	26.8	2	13.3	—	—	13	22.8	13	59.1
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—		
無回答	22	53.7	13	86.7	—	—	35	61.4		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	22	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・ パワーポイント資料は全て手元にあるとよい。
- ・ プログラムデザインの図解が参考になった。

情報の広場

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	7	17.1	—	—	1	100.0	8	14.0	8	42.1
有用であった	8	19.5	—	—	—	—	8	14.0	8	42.1
あまり有用でなかった	1	2.4	2	13.3	—	—	3	5.3	3	15.8
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	25	61.0	13	86.7	—	—	38	66.7	—	—
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	19	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

(2) 研修全体について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	17	41.5	2	13.3	1	100.0	20	35.1	20	50.0
有用であった	14	34.1	6	40.0	—	—	20	35.1	20	50.0
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	10	24.4	7	46.7	—	—	17	29.8	—	—
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	40	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

- ・自分が捉えている課題を狭い範囲でなく広い場に出してみるにより、再確認でき、また、その捉え方を様々な角度から捉え直すことができた。事例を聞くことにより、今後の活動に参考になることが数多くあった。
- ・宿泊研修の良さか、多くの方と知り合い意見・情報交換ができた。社会活動キャリア支援について、参加者、講師と熟議することができ、自分の考えの整理ができた。プログラムだけではなく、人との交流があったことが大変良かった。
- ・最後に全員で共有する時間が少ないので、例えば昼をはさみ午後に閉会でもよいのではないかと。物足りないというよりは名残惜しい。
- ・同じ立場の参加者が少なかった。異なる立場の方々の情報は得ることができた。参加者の立場のバランスがとれていればもっとよかった。
- ・男女共同参画に関する専門的な知識がなくての参加で不安だったが、かえってフラットな気持ちでキャリア支援について考えることができた。
- ・自分自身、まだ実践的な事業を担当した経験が乏しく、事業計画作成プログラムでは苦労したが、良い経験となった。

2 研修に参加された目的と達成度について 目的(複数回答)

	女性	% (41名中)	男性	% (15名中)	不明	% (1名中)	合計	% (57名中)
1 男女共同参画の視点を学ぶことができた	8	19.5	5	33.3	—	—	13	22.8
2 国の最新動向の把握ができた	5	12.2	1	6.7	—	—	6	10.5
3 多様なキャリア形成支援の現状と課題を把握することができた	11	26.8	3	20.0	—	—	14	24.6
4 多様なキャリア形成支援の必要性和その役割、今後の支援の方向性について知ることができた	14	34.1	3	20.0	—	—	17	29.8
5 地域・組織で多様なキャリア形成を支援するための事業(学習)計画のヒントを得ることができた	13	31.7	2	13.3	—	—	15	26.3
6 相互の情報交換・交流を深め、ネットワークづくりのきっかけを得ることができた	8	19.5	1	6.7	—	—	9	15.8
7 その他	—	—	1	6.7	—	—	1	1.8

①男女共同参画の視点を学ぶことができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	18	43.9	1	6.7	1	100.0	20	35.1	20	51.3
おおむねできた	11	26.8	6	40.0	-	-	17	29.8	17	43.6
あまりできなかった	2	4.9	-	-	-	-	2	3.5	2	5.1
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	10	24.4	8	53.3	-	-	18	31.6		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	39	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

②国の最新動向の把握ができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	10	24.4	1	6.7	1	100.0	12	21.1	12	35.3
おおむねできた	16	39.0	2	13.3	-	-	18	31.6	18	52.9
あまりできなかった	4	9.8	-	-	-	-	4	7.0	4	11.8
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	11	26.8	12	80.0	-	-	23	40.3		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	34	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

③多様なキャリア形成支援の現状と課題を把握することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	15	36.6	2	13.3	-	-	17	29.8	17	39.5
おおむねできた	20	48.8	3	20.0	1	100.0	24	42.1	24	55.8
あまりできなかった	2	4.9	-	-	-	-	2	3.5	2	4.7
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	4	9.7	10	66.7	-	-	14	24.6		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	43	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

④多様なキャリア形成支援の必要性和その役割、今後の支援の方向性について知ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	14	34.2	2	13.3	-	-	16	28.1	16	40.0
おおむねできた	19	46.3	2	13.3	1	100.0	22	38.6	22	55.0
あまりできなかった	1	2.4	1	6.7	-	-	2	3.5	2	5.0
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	7	17.1	10	66.7	-	-	17	29.8		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	40	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑤地域・組織で多様なキャリア形成を支援するための事業(学習)計画のヒントを得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	16	39.0	1	6.7	1	100.0	18	31.6	18	46.2
おおむねできた	17	41.5	2	13.3	-	-	19	33.3	19	48.7
あまりできなかった	1	2.4	1	6.7	-	-	2	3.5	2	5.1
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	7	17.1	11	73.3	-	-	18	31.6		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	39	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑥相互の情報交換・交流を深め、ネットワークづくりのきっかけを得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	16	39.0	-	-	1	100.0	17	29.8	17	54.8
おおむねできた	9	22.0	2	13.3	-	-	11	19.3	11	35.5
あまりできなかった	2	4.9	1	6.7	-	-	3	5.3	3	9.7
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	14	34.1	12	80.0	-	-	26	45.6		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	31	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑦その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	1	2.4	-	-	-	-	1	1.8	1	50.0
おおむねできた	-	-	1	6.7	-	-	1	1.8	1	50.0
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	40	97.6	14	93.3	1	100.0	55	96.4		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	2	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

3. 本研修への満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	14	34.1	3	20.0	1	100.0	18	31.6	18	36.7
満足した	22	53.7	6	40.0	-	-	28	49.1	28	57.2
少し物足りなかった	2	4.9	1	6.7	-	-	3	5.3	3	6.1
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	3	7.3	5	33.3	-	-	8	14.0		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	49	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

- ・ 全国の先駆的な事例をはじめ、多くの知識、情報を得ることができた。
- ・ 社会活動キャリアの定義と社会活動キャリアによる経済的自立の模索（課題）について学ぶことが出来た。
- ・ NPOの活動だけでは知り得なかった情報・用語・事業などたくさん知ることができた。
- ・ 指導者や企画推進する人には、とてもよい。
- ・ 満足だが、コース別に分かれるタイミングが疑問。事例研究は情報・手法として参考になったが、職業キャリアに直結するものが無く残念。その後のワークにあたって、どうWLBに結びつけるか自分の中の課題とマッチせず少々やりにくく感じた。
- ・ 自分の事例報告含め、ワークショップで実作業に入る前段階のプログラムは座学が主で参加者どうし話し合ったりする時間が少し足りない気がした。

4. 今後、この研修で取り上げてほしいテーマ・内容・方法等についてご自由にお書きください。

- ・ 男性に対する男女共同参画。
- ・ 社会活動キャリアにおける経済的自立の成功例。また経済的自立するにはどうすれば良いかの具体例。
- ・ 若い世代へ向けたアプローチ
- ・ 男女共同参画、ジェンダー視点の講義、授業の具体例。
- ・ 国の女性のキャリア支援について、省や庁を超えた取組など具体的な事例・問題点など。

5. 研修の開催時期は適切でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
この時期でよい	30	73.2	4	26.7	1	100.0	35	61.4	35	92.1
この時期では参加しにくい	3	7.3	-	-	-	-	3	5.3	3	7.9
無回答	8	19.5	11	73.3	-	-	19	33.3		
合計	41	100.0	15	100	1	100.0	57	100.0	38	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

- ・ とても充実していた。これよりも長くても短くてもだめな気がする。
- ・ プログラム的にはもう少し踏み込んでほしい内容もあるが、期間を単にのぼすと参加自体が自分の仕事との兼ね合いで難しくなる。
- ・ 1泊2日が好ましい。もう少し集中して期間を短縮してほしい。

6. 《会館に宿泊された方のみ》会館に宿泊されたことで得ることができたことは何ですか。(複数回答)

	女性	% (41名中)	男性	% (15名中)	不明	% (1名中)	合計	% (57名中)
①新しい出会いがあり、仲間づくりができた	22	53.7	3	20.0	-	-	25	43.9
②日ごろの思いを共感してもらえる交流ができた	16	39.0	-	-	-	-	16	28.1
③ネットワークづくりのきっかけをつかむことができた	14	34.1	2	13.3	-	-	16	28.1
④ネットワークを深めることができた	6	14.6	-	-	-	-	6	10.5
⑤新しくネットワークができた	9	22.0	-	-	-	-	9	15.8
⑥その他	3	7.3	-	-	-	-	3	5.3

- ・ 仕事（家族）から離れて今の自分自身を見直す時間が出来た。
- ・ 日常生活（家事・育児・仕事）から離れて研修に集中することができた。

7. その他 国立女性教育会館の事業や施設等についてご自由にご意見をお書きください

- ・ 他センターの担当者との交流や意見交換ができたことが何より力（モチベーションアップや事業の参考）になった。
- ・ 会館・駅周辺にコンビニなどちょっとした買い物ができる場所がないことを事前に知らせてほしかった。情報センターもじっくり活用したかったので、開館時間をもっとおそくまでにしてほしかった。
- ・ 交通の便等、少々不便はあるが、研修に集中できる環境だった。

- ・キャリア支援に特化したこの事業を毎年楽しみにしている。活動している立場から、具体性のある研修であることを望む。

II あなた御自身のことをお聞かせください。

1. 年代

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
20代	2	4.9	1	6.7	—	—	3	5.3	3	5.6
30代	9	22.0	2	13.3	—	—	11	19.3	11	20.4
40代	14	34.1	4	26.7	—	—	18	31.6	18	33.3
50代	6	14.6	6	40.0	—	—	12	21.0	12	22.2
60代	10	24.4	—	—	—	—	10	17.5	10	18.5
70代以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	—	—	2	13.3	1	100.0	3	5.3		
合計	41	100.0	15	100.0	1	100.0	57	100.0	54	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

2. 所属

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
女性関連施設・社会教育施設等の職員	21	51.2	2	13.3	—	—	23	40.4	23	41.8
団体・グループ・NPO等のメンバー	7	17.1	1	6.7	—	—	8	14.0	8	14.6
大学等のキャリア教育担当職員等	6	14.6	1	6.7	—	—	7	12.3	7	12.7
その他	7	17.1	10	66.6	—	—	17	29.8	17	30.9
不明	—	—	1	6.7	1	100.0	2	3.5		
合計	41	100.0	15	100	1	100.0	57	100.0	55	100.0

<その他内容>

(※%は「不明」を除いた割合)

- ・ 地方公務員
- ・ 市議会議員

3. 研修開催の情報を何で知りましたか。(複数回答可)

	女性	% (41名中)	男性	% (15名中)	不明	% (1名中)	合計	% (57名中)
①行政から	男女共同参画課	8	19.5	2	13.3	—	10	17.5
	教育委員会	—	—	—	—	—	1	1.8
	その他の行政	1	2.4	2	13.3	—	3	5.3
②社会教育施設から	女性教育関連施設	6	14.6	—	—	—	6	10.5
	公民館	—	—	—	—	—	—	—
	生涯学習センター	—	—	—	—	—	—	—
③団体・サークルから	女性団体・家庭教育関係団体	1	2.4	—	—	—	1	1.8
	上記以外の団体等から	1	2.4	—	—	—	1	1.8
④国立女性教育会館から	ホームページ・メールマガジン	19	46.3	7	46.7	—	26	45.6
	ダイレクトメール	10	24.4	1	6.7	—	11	19.3
	チラシ・ポスター	1	2.4	—	—	—	1	1.8
	ヌエックニュース	—	—	—	—	—	—	—
⑤マスコミ関係から	新聞	—	—	—	—	—	—	—
⑥その他		3	7.3	2	13.3	—	5	8.8

4. 今までの「会館」とのつながりであてはまるところに○をお付け下さい。(複数回答可)

	女性	% (41名中)	男性	% (15名中)	不明	% (1名中)	合計	% (57名中)
主催事業に参加した	21	51.2	2	13.3	—	—	23	40.4
主催事業の講師・報告者等で参加した	4	9.8	—	—	—	—	4	7.0
施設を利用した	6	14.6	—	—	—	—	6	10.5
会館で情報提供を受けた	9	22.0	—	—	—	—	9	15.8
文献複写サービスを受けた	1	2.4	—	—	—	—	1	1.8
館外で職員の話聞いた	9	22.0	—	—	—	—	9	15.8
ない、今回が初めての利用	10	24.4	8	53.3	—	—	18	31.6
その他	1	2.4	1	6.7	—	—	2	3.5

<主催事業に参加した回数>

- ・ 1回(4件)
- ・ 2回(3件)
- ・ 3回(2件)
- ・ 4回(3件)
- ・ 5回以上(3件)

平成23年度「女性関連施設相談員研修」実施要項

1. 趣 旨 女性関連施設の相談員を対象に、男女共同参画・女性教育・家庭教育の喫緊の課題である配偶者からの暴力、児童虐待、関連機関との連携等の課題解決に必要な知識の習得・相談技能の向上を内容とする専門的・実践的研修を行います。
2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6724・6725 FAX 0493-62-6720
ホームページ URL <http://www.nwec.jp/> Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
4. 期 日 平成23年10月12日（水）～ 10月14日（金） 2泊3日
5. 参加者 公私立の女性会館・女性センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員 120名

6. 日程・内容

第1日 10月12日（水）

- (1) 開 会 10:00～10:10
 - ① 主催者あいさつ
 - ② プログラム説明
- (2) 調査研究報告「女性関連施設の相談業務の現状と課題」 10:10～10:40
国立女性教育会館が実施した、「男女共同参画推進拠点としての女性関連施設に関する調査研究」より、相談業務の現状と課題について報告します。
講 師 森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員
- (3) 講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」 10:40～11:30
女性関連施設における相談業務の意義と役割を、女性が抱える問題解決と女性のエンパワーメントの視点から学びます。
講 師 戒能 民江 お茶の水女子大学名誉教授
- (4) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」 12:45～13:15
配偶者等からの暴力の被害者支援体制と支援のあり方について、内閣府の施策や動向に関する最新の情報をお知らせします。
講 師 内閣府男女共同参画局担当官
- (5) 講義「配偶者からの暴力の相談の受け方ー相談員のメンタルヘルスー」 13:15～15:15
配偶者からの暴力相談に当たっての留意点や相談技法を学びつつ、相談員のメンタルヘルスに関する知識を学びます。
講 師 竹下 小夜子 さよウィメンズ・メンタルクリニック院長、精神科医
- (6) ワークショップⅠ「スーパービジョンを体験する」 15:30～17:30
具体事例を用いたスーパービジョンにより、被害者支援の実際を学びます。
*本プログラムでは所属や経験年数を考慮し、グループ分けをいたします。
スーパーバイザー (50 音順)
池田 ひかり 明治学院大学ハラスメント相談支援センター女性センター相談員

石本 宗子 久留米市男女平等推進センター、社会福祉士
 竹下 小夜子 さよウィメンズ・メンタルクリニック院長、精神科医
 原田 恵理子 名古屋市子ども青少年局子ども育成部主幹
 平川 和子 東京フェミニストセラピーセンター所長

*事例については参加者の皆様より募集します。開催要項の7. スーパービジョン事例募集についてをご参照ください。

- (7) 情報交換会 情報交換や連携促進を図ります。 19:00～20:00

第2日 10月13日(木)

- (8) 講義「配偶者からの暴力の実態と支援に役立つ法知識」 9:00～10:30

配偶者からの暴力の実態や暴力被害による心身への影響、支援に役立つ法などの事柄について学びます。

講師 番 敦子 日弁連犯罪被害者支援委員会副委員長、弁護士

- (9) 講義「加害者への対応」 10:30～12:00

相談、保護において、被害者とその親族等の安全確保に必要な知識・方策等について学びます。

講師 原田 恵理子 名古屋市子ども青少年局子ども育成部主幹

- (10) ワークショップⅡ「困難な問題を抱えた当事者への支援を考える」 13:00～15:00

以下の4つのテーマから1つを選択し、問題を抱えた当事者の支援について、ケース検討を行います。

A「重複被害を受けた被害者への支援と留意点」

講師 白川 美也子 横浜カメリアホスピタル／岩手晴和病院医師、臨床心理士

B「障がいを持っている被害者への支援と留意点」

講師 加藤 真規子 NPO 法人精神障害者ピアサポートセンター
こらーるたいとう代表

C「子どもを連れた被害者への支援と留意点」

講師 柿田 多佳子 長崎県長崎こども・女性・障害者支援センターこども・女性
支援部女性支援課長

D「被災地における女性への支援と留意点」

講師 田端 八重子 もりおか女性センター センター長

- (11) 講義とワーク 15:20～16:50

「被害者支援ワンストップサービスの意義～被害者の自立を支援するための方策～」

被害者の自立を支援するための方策として、被害者支援ワンストップサービスの意義について関係機関の活用や連携の視点で考えます。

講師 遠藤 智子 NPO 法人全国女性シェルターネット事務局長

- (12) オプションプログラム 希望者のみ

①見学・説明「女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの見学・活用」 17:00～17:50

国立女性教育会館の女性教育情報センターを見学し、情報活用の仕方について学びます。

講師 国立女性教育会館情報課職員

②講義・体験「アロマで癒される～手軽にできるセルフケア～」

18:45～19:45

リラックス効果がある香りについて知り、手軽にできるハンドマッサージなどの体験をします。

講 師 堀口 美智子 こころとからだの元気Lab. 代表
社団法人日本アロマ環境協会認定アロマセラピーインストラクター

- (13) 地域ブロック別交流 20:00～21:00
地域ブロック別に意見交換をし、ネットワークづくりをすすめます。

第3日 10月14日(金)

- (14) ワークショップⅢ「相談から始まる女性のエンパワーメント」 9:00～11:10
女性の相談からは様々な悩みがうかがえます。それらを解決が望まれる地域女性のニーズと捉え、地域女性のエンパワーメントへつなげるための方法や工夫について考えます。

- ①「人間関係に関する相談から」
身近な人間関係に関する相談から見える悩みに対応し、人間関係を円滑に行えるようにするための支援について考えます。
講 師 小柳 茂子 相模女子大教授、フェミニストセラピィ “なかま” カウンセラー

- ②「児童虐待に関する相談から」
女性相談のなかで、児童虐待を伴う事例に対応し、諸機関との連携や子どもの心のケアを考えます。
講 師 直井 裕子 野田市教育委員会学校教育部指導課スクールサポートカウンセラー、臨床心理士

- (15) 全体会 11:25～12:25
「現代的課題に対応できる相談とは～女性のエンパワーメントをめざして～」
コーディネーター 中村 敏子 越谷市男女共同参画支援センター所長
パネリスト 小柳 茂子 相模女子大教授、フェミニストセラピィ “なかま” カウンセラー
直井 裕子 野田市教育委員会学校教育部指導課スクールサポートカウンセラー、臨床心理士

- (16) 振り返り 12:25～12:30
アンケートへ記入し、研修をふりかえります。

- (17) 閉 会 12:30
主催者あいさつ

7. 所要経費

- (1) 参加費 無 料
- (2) 宿泊費 セミナー期間中は1泊 1,000円(前・後泊を含みます。)
- (3) 食 費 1食 1,000円程度(カフェテリア方式)
- (4) 情報交換会費 1,000円(飲み物、お菓子、消費税を含みます)
* 研修期間中の宿泊及び食事は、会館をご利用ください。
* 交通費・宿泊費の支給はありませんのでご注意ください。

8. 女性教育情報センター（本館2階）

開室時間 10月12日（水） 9:00 ～ 19:00
 10月13日（木） 8:30 ～ 18:45
 10月14日（金） 8:30 ～ 17:00

9. 女性アーカイブセンター展示室（本館1階）

開室時間は、10月12日（水）・13（木）・14日（金） 8:30 ～ 19:00 です。

10. 情報交換コーナー（研修棟2階大会議室前 展示コーナー）

セミナー期間中、施設に関するパンフレット等を自由に交換する情報交換コーナーを設置しますので、所属する施設のパンフレット、チラシ等をお持ちください。

11. その他

- （1）10月12日（水）から13日（木）の、平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」に、本研修受講の皆様もご参加いただきます。
- （2）10月12日（水）・14日（金）の両日とも東武東上線武蔵嵐山（むさしらんざん）駅と「国立女性教育会館」間で無料送迎バスを運行いたします。
- （3）期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。
- （4）計画停電等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合がございます。
- （5）この研修は、男女共同参画基本計画（第3次）の、第9分野「女性に対するあらゆる暴力の根絶」2 配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等の推進ならびに、第14分野「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」1 地域における男女共同参画推進の基盤づくりに対応しています。

平成23年度「女性関連施設相談員研修」参加者概況

定員： 120 名
 申込者： 217 名
 参加者： 153 名
 応募倍率： 180.8%

1. 性別

	合 計
女 性	146
男 性	7
合 計	153

2. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	6	1	7
30代	17	2	19
40代	28	2	30
50代	56	1	57
60代以上	38	1	39
無回答	1	—	1
合 計	146	7	153

3. 勤務形態

勤務形態 (専任・兼任)	女 性	男 性	合 計
常勤 (専任)	23	2	25
常勤 (兼任)	9	4	13
常勤 (無回答)	3	—	3
非常勤 (専任)	40	1	41
非常勤 (兼任)	15	—	15
非常勤 (無回答)	6	—	6
嘱託 (専任)	34	—	34
嘱託 (兼任)	7	—	7
嘱託 (無回答)	1	—	1
無回答	8	—	8
合 計	146	7	153

4. 施設区分

	女 性	男 性	合 計
公立Ⅰ：管理運営者が教育委員会	3	—	3
公立Ⅱ：管理運営者が男女共同参画担当部課	56	4	60
公立Ⅲ：管理運営者が福祉担当部局	50	1	51
公立Ⅳ：管理運営者が財団・社団・任意団体	10	—	10
公立Ⅳ：管理運営者が企業	2	—	2
公立Ⅳ：管理運営者がNPO	7	—	7
私立	7	—	7
その他	9	2	11
無回答	2	—	2
合 計	146	7	153

13日オプションプログラム

	女 性	男 性	合 計
①見学・説明	27	—	27
不参加	119	7	126
②講義・体験	32	—	32
不参加	114	7	121

2日目ワークショップ

	女 性	男 性	合 計
A：重複被害を受けた被害者への支援への支援と留意点	34	—	34
B：障がいを抱える被害者への支援と留意点	42	1	43
C：子どもを連れた被害者への支援と留意点	42	4	46
D：被災地における女性への支援と留意点	28	2	30
不参加	—	—	0
合計	146	7	153

3日目ワークショップ

	女 性	男 性	合 計
①「人間関係に関する相談から」	26	—	26
②「児童虐待に関する相談から」	18	—	18
不参加	102	7	109
合計	146	7	153

平成23年度「女性関連施設相談員研修」アンケート集計結果

定員	120 名
応募者	217 名
応募倍率	180.8 %
実参加者	153 名 (女性146名 男性7名)
アンケート回答数	146 件
アンケート回答率	95.4 %

女性	男性	不明	合計
128	6	12	146

1 研修の内容は、どの程度有用でしたか

(相1) 調査研究報告「女性関連施設の相談業務の現状と課題」

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	3	2.4	—	—	—	—	3	2.1	3	6.5
有用であった	30	23.4	—	—	—	—	30	20.5	30	65.2
あまり有用ではなかった	13	10.2	—	—	—	—	13	8.9	13	28.3
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	3.1	—	—	—	—	4	2.7		
無回答	78	60.9	6	100.0	12	100.0	96	65.8		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	46	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・データを知ることによって現状が見えた。非正規や外部の相談員が多く占めることに女性支援の壁を感じた。
- ・女性関連施設の相談業務の現状と今後の課題を理解できました。相談の多い内容、増えている内容等々。
- ・相談員のためのマニュアルが3割弱しかない点や相談室がない機関が多いのに驚いた。また、相談を聞いてそれが活かせる仕組み作りが早期に必要なと感じる。

(相2) 講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	37	28.9	—	—	—	—	37	25.3	37	77.1
有用であった	11	8.6	—	—	—	—	11	7.5	11	22.9
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4		
無回答	78	60.9	6	100.0	12	100.0	96	65.8		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	48	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・大切なポイントを得ていてわかりやすく、理解できた。
- ・福祉と男女共同参画は車の両輪。組織内の連携の大切さを再確認しました。
- ・初めて戒能先生の講義を聞くことができました。著書と同じようにわかりやすく説明していただき、新たな課題(相談業務の結果を男女共同参画事業へフィードバックetc)について考えることもでき、とても有意義でした。

(1) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	14	10.9	—	—	2	16.7	16	11.0	16	11.6
有用であった	72	56.3	4	66.7	7	58.3	83	56.8	83	60.2
あまり有用ではなかった	32	25.0	2	33.3	3	25.0	37	25.3	37	26.8
全く有用ではなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4	2	1.4
参加しなかった	5	3.9	—	—	—	—	5	3.4		
無回答	3	2.3	—	—	—	—	3	2.1		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	138	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・内閣府がどのような動きをしたかが末端にいるとわからないので、それを知ることができて良かったです。
- ・内閣府としての取り組みの策定が、課題・対策として理解する機会となった。
- ・第3次男女参画基本計画の概要を詳しく知ることができた。

(2) 講義「配偶者からの暴力の相談の受け方ー相談員のメンタルヘルスー」

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	105	82.0	3	50.0	10	83.3	118	80.8	118	82.5
有用であった	19	14.8	3	50.0	2	16.7	24	16.4	24	16.8
あまり有用ではなかった	1	0.8	—	—	—	—	1	0.7	1	0.7
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4		
無回答	1	0.8	—	—	—	—	1	0.7		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	143	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・具体的な事例を交えての説明で大変参考になりました。
- ・一番、気をつけなければいけないことなど、教えてもらったような気がした。(相談員の立場として)
- ・「誰か一人でもいい、その人の本当の気持ちを理解する人がいたらその人は立ち直れる」心に残った。

(3)ワークショップⅠ「スーパービジョンを体験する」参加組

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
1組	21	16.4	—	—	3	25.0	24	16.5	24	20.3
2組	24	18.8	—	—	1	8.3	25	17.1	25	21.2
3組	19	14.8	2	33.3	4	33.4	25	17.1	25	21.2
4組	22	17.2	—	—	2	16.7	24	16.5	24	20.3
5組	16	12.5	3	50.0	1	8.3	20	13.7	20	17.0
組不明	26	20.3	1	16.7	1	8.3	28	19.1		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	118	100.0

(※%は「組不明」を除いた割合)

※ワークショップⅠ 組別

	1組	%	2組	%	3組	%	4組	%	5組	%	組不明	%	合計	%
非常に有用だった	15	62.5	12	48.0	6	24.0	17	70.8	16	80.0	10	35.8	76	52.1
有用であった	8	33.3	12	48.0	14	56.0	6	25.0	4	20.0	13	46.4	57	39.0
あまり有用ではなかった	—	—	1	4.0	5	20.0	—	—	—	—	2	7.1	8	5.5
全く有用ではなかった	1	4.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.6
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	7.1	2	1.4
無回答	—	—	—	—	—	—	1	4.2	—	—	1	3.6	2	1.4
合計	24	100.0	25	100.0	25	100.0	24	100.0	20	100.0	28	100.0	146	100.0

〈理由〉

《意見・感想等》

- ・「事例」に対していかなる事例でも決して批判しない方法を学んだ。(尊重できる場所を探しだして褒めるやり方を勉強した)
- ・素晴らしいワークショップに参加でき、とても有意義でした。石本先生のことで「困っている人は、困った人ではない」という点に
- ・ワークショップ形式でのスーパービジョンは多くの方々からの様々な見方、意見がきけて有意義だと思った。

(4)情報交換会

※希望者のみ参加

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	52	40.6	1	16.7	3	25.0	56	38.4	56	45.5
有用であった	44	34.4	3	50.0	4	33.4	51	34.9	51	41.5
あまり有用ではなかった	11	8.6	—	—	3	25.0	14	9.6	14	11.4
全く有用ではなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4	2	1.6
参加しなかった	13	10.2	—	—	1	8.3	14	9.6		
無回答	6	4.6	2	33.3	1	8.3	9	6.1		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	123	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・共通の悩み、また新しい取り組み等を聞くことができ、つながりもできた。
- ・情報交換やネットワーク作りができた。
- ・悩みをシェアできた。

(5)講義「配偶者からの暴力の実態と支援に役立つ法知識」

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	105	82.1	1	16.7	10	83.3	116	79.5	116	80.0
有用であった	20	15.6	4	66.6	2	16.7	26	17.8	26	17.9
あまり有用ではなかった	3	2.3	—	—	—	—	3	2.1	3	2.1
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—		
無回答	—	—	1	16.7	—	—	1	0.6		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	145	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・法と弁護士の立場から被害者支援が現実的に語られ、非常に役に立った。
- ・対応ケースにすぐに活用できる内容と、新しい知識も得られて、頂くものが多い講義でした。
- ・実務に活きるわかりやすい話だった。先生のエネルギーに背中を押された。

(6)講義「加害者への対応」

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	79	61.7	4	66.6	7	58.3	90	61.6	90	62.1
有用であった	46	35.9	1	16.7	5	41.7	52	35.6	52	35.8
あまり有用ではなかった	2	1.6	1	16.7	—	—	3	2.1	3	2.1
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—		
無回答	1	0.8	—	—	—	—	1	0.7		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	145	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・加害者対応への認識が甘かったことに気づけさせられた。
- ・危険なときの110番は実際には使えないということがわかりました。また、被害者が孤立してしまわないよう心がけたいです。
- ・具体的な事例を通して、マニュアルを勉強ができなかった。

(7)ワークショップⅡ「困難な問題を抱えた当事者への支援を考える」参加組

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
A組:重複被害	32	25.0	—	—	2	16.7	34	23.3	34	24.8
B組:障がい	33	25.8	1	16.7	1	8.3	35	24.0	35	25.5
C組:子ども	32	25.0	4	66.6	7	58.4	43	29.5	43	31.4
D組:被災地	23	18.0	1	16.7	1	8.3	25	17.1	25	18.3
組不明	8	6.2	—	—	1	8.3	9	6.1		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	137	100.0

(※%は「組不明」を除いた割合)

(7) ワークショップⅡ 組別

	A組	%	B組	%	C組	%	D組	%	組不明	%	合計	%
非常に有用だった	12	35.3	10	28.6	18	41.9	13	52.0	2	22.2	55	37.7
有用であった	14	41.1	16	45.7	14	32.6	5	20.0	—	—	49	33.6
あまり有用ではなかった	4	11.8	6	17.1	1	2.3	1	4.0	1	11.1	13	8.9
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	4	11.8	3	8.6	10	23.2	6	24.0	6	66.7	29	19.8
合計	34	100.0	35	100	43	100.0	25	100.0	9	100.0	146	100.0

〈理由〉

- ・ 内容が豊富で、消化できないままですが、資料が手元にあるので復習したい。PTSVは何か、ソリューションフォーカストで、具体的解決をみつけていく方法は、すぐ使えそう。
- ・ 今まで聞いたことのない現実等、ショッキングな話も、これから障害者の方と対応していく時の参考になります。「施設には絶対入りたくない」と言った人の気持ち(理由)が、わかったような気がします。
- ・ 和やかな雰囲気の中で、子どもの部分について、学ぶことができたのが良かった。
- ・ 被災者の方に寄り添う気持ちを学ばせて頂くワークでした。当事者の方をエンパワーできる支援者になりたい。

(相3) 講義とワーク「被害者支援ワンストップサービスの意義～被害者の自立を支援するための方策～」

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	36	28.2	—	—	—	—	36	24.7	36	76.6
有用であった	9	7.0	—	—	—	—	9	6.2	9	19.1
あまり有用ではなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.3	2	4.3
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	78	60.9	6	100.0	12	100.0	96	65.7		
無回答	3	2.3	—	—	—	—	3	2.1		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	47	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 自分の知識不足、勉強不足を改めて思い知らされ、背中を後押ししてもらえた気分でした。
- ・ 相談員のあるべき姿について考えさせられた。
- ・ 支援に必要な法的根拠、社会資源についてきちんと理解をしておくことが必要だと痛感しました。

(相4) オプションプログラム【希望者のみ】

	女	%	男	%	不明	%	合計	%
①見学・説明	30	45.5	—	—	—	—	30	45.5
②講義・体験	36	54.5	—	—	—	—	36	54.5
合計	66	100.0	—	—	—	—	66	100.0

(相4-1) オプションプログラム① 見学・説明「女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの見学・活用」

参加人数:30名(女:30名 男:0名)

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	8	26.7	—	—	—	—	8	26.7	8	38.1
有用であった	12	40.0	—	—	—	—	12	40.0	12	57.1
あまり有用ではなかった	1	3.3	—	—	—	—	1	3.3	1	4.8
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—		
無回答	9	30.0	—	—	—	—	9	30.0		
合計	30	100.0	—	—	—	—	30	100.0	21	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 丁寧な説明でした。ゆっくり時間をかけて蔵書を全部読みたい気持ちです。
- ・ センターの豊富な資料と、それがデータベース化されていることに驚いた。

(相4-2) オプションプログラム② 講義・体験「アロマで癒される～手軽にできるセルフケア～」

参加人数:36名(女:36名 男:0名)

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	19	52.8	—	—	—	—	19	52.8	19	67.9
有用であった	9	25.0	—	—	—	—	9	25.0	9	32.1
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—		
無回答	8	22.2	—	—	—	—	8	22.2		
合計	36	100.0	—	—	—	—	36	100.0	28	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 癒されて幸せなひとときを過ごせた。先生も親しみやすく良かった。
- ・ セルフケアのメニューのひとつとして香りを取り入れたアロマテラピーは、知っていると役に立つと思いました。

(相5) 地域ブロック別交流【希望者のみ】

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	12	9.4	—	—	—	—	12	8.2	12	70.6
有用であった	5	3.9	—	—	—	—	5	3.4	5	29.4
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	96	75.0	6	100.0	12	100.0	114	78.1		
無回答	15	11.7	—	—	—	—	15	10.3		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	17	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 被災地の生々しい話が聞けた。困難な中でも夢をもって活動している人に会えた。
- ・ 他の施設の相談員と話し、地域の違いがあることを改めて感じた。今後、連絡して教示してもらおう場面もあると思った。
- ・ 小グループでしっかりと話し合えてありがたかった。今後について教わるが多かった。

(相6)ワークショップⅢ「相談から始まる女性のエンパワメント」参加組

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
①人間関係	22	17.2	—	—	—	—	22	15.1	22	57.9
②児童虐待	16	12.5	—	—	—	—	16	11.0	16	42.1
組不明	90	70.3	6	100.0	12	100.0	108	73.9		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	38	100.0

(※%は「組不明」を除いた割合)

※ワークショップⅢ 組別

	①組	%	②組	%	組不明	%	合計	%
非常に有用だった	18	81.9	7	43.8	1	0.9	26	17.8
有用であった	3	13.6	8	50.0	1	0.9	12	8.2
あまり有用ではなかった	1	4.5	1	6.2	—	—	2	1.4
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	103	95.4	103	70.5
無回答	—	—	—	—	3	2.8	3	2.1
合計	22	100.0	16	100.0	108	100	146	100.0

〈理由〉

- ・“ジェンダーの視点”について相談に活かしやすいわかりやすい内容で教えていただけたのが良かった。
- ・ジェンダーにからむ諸問題を原点から考え直すことのできる内容で、とても良かったです。講義もわかりやすかった。
- ・ワーク、とても楽しかったです。ポイントを押さえてくださり、大切なことがよくわかりました。ありがとうございました。
- ・網羅された内容で参考になりました。“自分にかきたい言葉”のワーク、とても良いと思いました。

(相7)全体会

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	14	10.9	—	—	—	—	14	9.6	14	45.2
有用であった	16	12.5	—	—	—	—	16	11.0	16	51.6
あまり有用ではなかった	1	0.8	—	—	—	—	1	0.7	1	3.2
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	84	65.6	6	100.0	12	100.0	102	69.8		
無回答	13	10.2	—	—	—	—	13	8.9		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	31	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・相談員は相談者をエンパワメントさせる大切な役割を担っていることがわかり、頑張ろうと思った。
- ・最後のまとめにふさわしい内容だった。各講義の総まとめという印象。
- ・相談員として、という前に自分自身をよく知ること、向き合うことの大切さを知った。

★研修全体についての有用度

	女	%	男	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	75	58.6	—	—	6	50.0	81	55.5	81	59.1
有用であった	44	34.4	6	100.0	4	33.3	54	37.0	54	39.4
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用ではなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4	2	1.5
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—		
無回答	7	5.4	—	—	2	16.7	9	6.1		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	137	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・このような研修を受ける機会を与えてくださり、とても感謝しています。全日程を終え、講義・ワークショップ・分科会、どれをとっても今後の相談業務に役立つことばかりでした。相談員としての悩みもあり、壁にぶつかっているなあと思っていた矢先のこの研修で、同じ悩みを持つ方との交流ができ、元気を頂きました。スタッフの皆様、ありがとうございました。
- ・さよウメンズ・メンタルクリニックの竹下先生の講義と、シェルターネット事務局長の遠藤先生の講義が大変心に残った。相談員としての責務と自覚を持つことができ、更なる勉強の必要性を感じた。
- ・とても有意義な研修となった。ワークショップも多く、実際の事例に触れることが出来、とても参考になった。
- ・盛り沢山の内容でとても勉強になりました。1つ1つの講義がもっと時間をとって聞きたい内容でした。皆、各部署で少人数で頑張っているの、こういった研修が支える力になると思います。ありがとうございました。

2 研修に参加された目的の達成度をご回答ください。

①相談員としての自分の役割を、振り返り、確認することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	52	40.6	1	16.7	4	33.3	57	39.0	57	50.0
おおむね達成できた	45	35.2	3	50.0	5	41.7	53	36.3	53	46.4
あまり達成できなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4	2	1.8
達成できなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4	2	1.8
無回答	27	21.0	2	33.3	3	25.0	32	21.9		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	114	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

②配偶者からの暴力に関する実態・今日的課題について、知ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	50	39.1	1	16.7	3	25.0	54	37.0	54	48.2
おおむね達成できた	44	34.3	5	83.3	5	41.7	54	37.0	54	48.2
あまり達成できなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4	2	1.8
達成できなかった	2	1.6	—	—	—	—	2	1.4	2	1.8
無回答	30	23.4	—	—	4	33.3	34	23.2		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	112	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

③様々な相談への的確な対応や、配慮事項など、実践に役立つ力をつけることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	42	32.8	1	16.7	4	33.3	47	32.2	47	37.3
おおむね達成できた	65	50.8	5	83.3	5	41.7	75	51.4	75	59.5
あまり達成できなかった	2	1.6	-	-	-	-	2	1.4	2	1.6
達成できなかった	2	1.6	-	-	-	-	2	1.4	2	1.6
無回答	17	13.2	-	-	3	25.0	20	13.6		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	126	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

④全国の相談員との情報交換や、交流を行うことができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	30	23.5	-	-	4	33.3	34	23.3	34	30.9
おおむね達成できた	50	39.1	2	33.3	2	16.7	54	37.0	54	49.1
あまり達成できなかった	14	10.9	3	50.0	2	16.7	19	13.0	19	17.3
達成できなかった	3	2.3	-	-	-	-	3	2.1	3	2.7
無回答	31	24.2	1	16.7	4	33.3	36	24.6		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	110	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑤研修や交流を通して、相談員としてのエンパワメントにつながった

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	48	37.5	2	33.3	1	8.4	51	34.9	51	46.4
おおむね達成できた	45	35.2	3	50.0	7	58.3	55	37.7	55	50.0
あまり達成できなかった	3	2.3	-	-	-	-	3	2.1	3	2.7
達成できなかった	1	0.8	-	-	-	-	1	0.7	1	0.9
無回答	31	24.2	1	16.7	4	33.3	36	24.6		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	110	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑥女性関連施設における相談事業の役割と意義を理解することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	18	14.1	-	-	-	-	18	12.3	18	48.6
おおむね達成できた	19	14.8	-	-	-	-	19	13.0	19	51.4
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	91	71.1	6	100.0	12	100.0	109	74.7		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	37	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑦その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	4	3.2	-	-	-	-	4	2.7	4	57.1
おおむね達成できた	3	2.3	-	-	-	-	3	2.1	3	42.9
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	121	94.5	6	100.0	12	100.0	139	95.2		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	7	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

3 本研修への満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	53	41.4	1	16.7	6	50.0	60	41.1	60	43.5
満足した	62	48.4	2	33.3	3	25.0	67	45.9	67	48.6
少し物足りなかった	6	4.7	2	33.3	-	-	8	5.5	8	5.8
物足りなかった	2	1.6	-	-	1	8.3	3	2.1	3	2.1
無回答	5	3.9	1	16.7	2	16.7	8	5.4		
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0	138	100.0

〈理由〉

(※%は「無回答」を除いた割合)

- ・もっともっと勉強したくなった。自分に足りないものがはっきりわかって、とてもありがたかった。
- ・最初はプログラムが多くてどうかな？と思いましたが、会場内での移動も少なく、本当に内容の濃い研修ができました。大きな施設ならではの有意義な研修だったと思います。
- ・始めに全体でケース質問をして、その後、グループ別の話し合いをもち、グループの域を越えて、一体となり取り組みとなったことがとても良かったです。

【相談員としての経験年数】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
1年未満	16	12.5	1	16.7	-	-	17	11.6
1年以上～2年未満	15	11.7	2	33.3	-	-	17	11.6
2年以上～3年未満	21	16.4	-	-	-	-	21	14.4
3年以上～10年未満	56	43.8	1	16.7	-	-	57	39.1
10年以上	11	8.6	-	-	1	8.3	12	8.2
無回答	9	7.0	2	33.3	11	91.7	22	15.1
合計	128	100.0	6	100.0	12	100.0	146	100.0

【地域バランス】

	女 性	男 性	合 計	割合%
北海道・東北	48	3	51	33.3
関東・甲信越	73	4	77	50.3
北陸・東海	9	—	9	5.9
近畿	7	—	7	4.6
中国・四国	6	—	6	3.9
九州・沖縄	3	—	3	2
合計	146	7	153	100

平成23年度「家庭教育・次世代育成指導者研修」実施要項

1. 本研修の趣旨

全国の家庭教育・次世代育成・子育て支援の行政担当者や子育て支援に携わる団体のリーダー、企業の次世代育成担当者、女性関連施設職員・社会教育施設職員等を対象に、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境の整備のため、男女共同参画の視点から行う家庭教育・次世代育成支援に必要な専門的・実践的な研修です。

2. 主題 「家庭と地域でになう子育て・子育て」

家庭教育・次世代育成に関する支援の取り組みとして、地域全体で家庭を支援する必要性が増しています。国立女性教育会館では、男女共同参画の視点に立った地域全体で取り組む次世代育成支援事業についての調査研究に取り組んできました。本年度は、これまでの調査研究の成果をふまえ、家庭と地域で子育て・子育てをになう上で課題となっている男性の家庭・地域への参画や子育て中の家庭を支える地域のさまざまなつながりについて、パネルディスカッションや研究報告、事例報告などを通して検討します。

3. 主催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 期日

平成23年5月13日（金）～5月14日（土） 1泊2日

5. 参加者

- ・家庭教育・次世代育成支援・子育て支援関係行政職員
- ・子育てネットワーク、子育てサポーター等のリーダー
- ・企業の次世代育成支援担当者
- ・女性関連施設職員・社会教育施設職員 等

120名

6. 内容

第1日 5月13日(金)

(1) 開会

10:00~10:30

- ①主催者あいさつ・研修の特徴について 神田道子 国立女性教育会館理事長
②プログラム説明 石崎裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

(2) 関係省庁説明「国の家庭教育・次世代育成支援の施策の最新動向」

10:40~12:10

★家庭教育・次世代育成支援に関わる国の施策・動向についての情報を得るとともに、家庭教育・次世代育成支援の指導者として取り組むべき事業内容・方策について考えます。

講 師： 岡本 利久 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付少子化対策担当参事官補佐

講 師： 里平 倫行 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室長補佐

講 師： 高口 努 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長

(3) 講義「家庭と地域でになう子育て・子育て」

13:10~14:40

★子どもの成長、発達を社会全体で支える視点から、家庭の役割や家庭を地域にひらいた子育て・子育て支援のあり方について学びます。

講 師： 増山 均 早稲田大学文学学術院 教授

(4) パネルディスカッション「子育てから考える男性の家庭、地域への参画」

14:55~17:05

★父親支援のNPOや企業のCSRとして地域と連携して子育て支援に取り組む企業、女性関連施設などと協働して祖父母や父親向けの孫育てや子育て講座を実施するNPOの報告を聞きます。パネリスト同士の意見交換、参加者との質疑応答を通して、地域ぐるみで子育てを支えるために、男性の家庭、地域への参画の方策について、検討しあいます。

パネリスト： 荒巻 仁 NPO法人パパジャングル代表理事

パネリスト： 寺尾 雄二郎 シナノケンシ株式会社グローバル事業推進本部人事・総務グループ

パネリスト： 古久保 俊嗣 NPO法人エガリテ大手前代表

コーディネーター： 大豆生田 啓友 玉川大学教育学部 准教授

(5) 討議「課題整理のためのディスカッション」

17:20~17:50

★講義やパネルディスカッションをふまえて、家庭と地域をつなぐ地域ぐるみの子育て・子育てについて話し合い、参加者自身の抱えている課題を共有します。

(6) 情報交換会

19:00~21:00

★全国からの参加者と交流し、それぞれが抱える課題の話し合いや日頃の活動成果の語り合いを通して、今後の活動に役立つ関係づくりを図り、交流を深めます。

第2日 5月14日(土)

(7) 研究報告「男女共同参画の視点に立った地域全体で取り組む次世代育成支援事業に関する調査研究」 **9:00～9:30**

★国立女性教育会館が実施している調査研究の報告から、子育て支援団体等と女性関連施設・女性団体との連携や次世代育成支援活動を通じた地域の身近な男女共同参画の推進に関わる現状と課題を把握します。

報告者：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室客員研究員

(8) 研究報告と講義「海外の子育て支援から学ぶ～スウェーデンの場合～」 **9:40～11:00**

★国立女性教育会館が実施した家庭教育に関する国際比較調査についての報告と男女共同参画の進んでいるスウェーデンの地域ぐるみの子育て支援についての講義から学び、視野を広げます。

①研究報告：「家庭教育に関する国際比較調査」 9:40～10:00

報告者：中野 洋恵 国立女性教育会館研究国際室長・主任研究員

②講義：「スウェーデンの地域ぐるみの子育て支援」 10:00～11:00

講師：高橋 美恵子 大阪大学世界言語研究センター 准教授

(9) 分科会「家庭を支える地域のつながり」 **11:10～12:10**

★実践事例の報告を通して、社会全体で子育て・育ちをになうために必要な家庭を支える地域のつながり方について、地域の中での機関同士の連携、子どもから高齢者までの多世代のつながり、孤立した家庭を支える地域づくりという3つの視点から学びます。

＜分科会1＞「さまざまな機関をつなぐ子育て支援」

事例報告1：地域の公民館、学校、NPOなどの機関が連携し、地域ぐるみで子どもの育ちを支える取り組みについて、報告します。

報告者：仙波 英徳 NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構事務局長

事例報告2：子どもに関わるNPO団体・諸機関・行政などと連携しながら地域で子育て支援に取り組むNPOの取り組みについて、報告します。

報告者：野口 比呂美 NPO法人やまがた育児サークルランド代表

コーディネーター：佐國 勝 国立女性教育会館事業課専門職員

＜分科会 2＞「さまざまな世代をつなぐ子育て支援」

事例報告 1：地域の婦人会が中心となり、母親学級・乳幼児学級等を実施し、家庭教育を支援する家庭教育支援連絡協議会の取り組みについて報告します。

報告者：福 宏人 鹿児島県いちき串木野市教育委員会社会教育課 課長補佐

事例報告 2：高齢者から子育て中の親世代、子どもまで、多世代をつなぎながら商店街と地域が一丸となった子育て支援の取り組みについて、報告します。

報告者：細川 保英 岩村田寺子屋塾 塾長・岩村田本町商店街振興組合理事

コーディネーター：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

＜分科会 3＞「孤立した家庭を地域とつなぐ子育て支援」

事例報告 1：家庭訪問をし、支援を必要とする家庭とのつながりをつくる家庭教育支援チームの取り組みについて、報告します。

報告者：川口 厚之 和歌山県湯浅町教育委員会指導主事

事例報告 2：地域の中で孤立した母親が安心することのできる居場所づくりを通じた地域づくりの取り組みについて、報告します。

報告者：岡本 聡子 NPO法人ふらっとスペース金剛代表理事

コーディネーター：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室客員研究員

（10）分科会「家庭を支える地域のつながり」

13:10～14:40

★午前中に引き続き、実践事例の報告をもとに、多様な機関連携や家庭を支える地域のつながりをつくる上での課題や留意点などを協議し、今後の取り組みの方向性・方策のための手がかりを得ます。

＜分科会 1＞「さまざまな機関をつなぐ子育て支援」

コーディネーター：佐國 勝 国立女性教育会館事業課専門職員

＜分科会 2＞「さまざまな世代をつなぐ子育て支援」

コーディネーター：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

＜分科会 3＞「孤立した家庭を地域とつなぐ子育て支援」

コーディネーター：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室客員研究員

（11）全体会

14:50～15:20

★各分科会の報告を通して、家庭と地域がつながりながら、子育てを支える取り組みを実践していくための方向性・方策を共有します。

（12）アンケート記入・閉会

15:20～15:30

7. 情報の広場

研修期間中、参加者の所属する地方公共団体・企業・子育て支援団体等のパンフレットやチラシなどを自由に交換する情報交換コーナーを設置しますので、お持ちになった資料を所定の場所に並べ、またご自由にお持ちください。

8. 女性教育情報センター（本館2階）

男女共同参画社会の形成を目指した、女性・家庭・家族に関する専門図書館です。ぜひご利用ください。開室時間は、下記のとおりです。

5月13日（金）9：00～19：00

5月14日（土）8：30～17：00

9. 女性アーカイブセンター展示室（本館1階）

男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性、全国的な女性団体や女性教育・男女共同参画の施策等に関する史・資料を収集しています。開室時間は、下記のとおりです。

5月13日（金）9：00～19：00

5月14日（土）8：30～17：00

10. 研修成果の活用プランとフォローアップアンケート

ご提出いただいた「研修成果の活用プラン」は、最終日に返却いたします。研修後、約6ヶ月後にプランの進捗状況や研修成果の活用状況について報告いただく「フォローアップアンケート」をお送りいたします。ご協力のほどよろしくお願いします。

11. その他

- (1) 5月13日（金）と14日（土）に、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスを運行いたしますので、ご利用下さい。
- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。
- (3) 計画停電等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。

平成23年度 家庭教育・次世代育成指導者研修 参加者概況

平成23年5月25日現在

1. 性別

	合 計	%
女 性	88	78.6
男 性	24	21.4
合 計	112	100.0

定員 120 名
 申込者数 123 名
 キャンセル 11 名
 応募倍率 102.5 %
 (申込者数÷定員)

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	57	18	75
1日目のみ	19	5	24
2日目のみ	12	1	13
合 計	88	24	112

3. 年代

	女 性	男 性	合 計	%
20代	4	2	6	5.3
30代	7	5	12	10.7
40代	22	8	30	26.8
50代	36	8	44	39.3
60代以上	16	1	17	15.2
無回答	3	—	3	2.7
合 計	88	24	112	100.0

4. 分科会(分科会参加者 86 名)

	女 性	男 性	合 計
分科会1「さまざまな機関をつなぐ子育て支援」	21	13	34
分科会2「さまざまな世代をつなぐ子育て支援」	17	2	19
分科会3「孤立した家庭を地域とつなぐ子育て支援」	29	4	33
合 計	67	19	86

5. 会館利用歴(複数回答)

	女 性	男 性	合 計
会館主催次世代育成研修に参加	40	3	43
会館主催その他の事業に参加	33	6	39
会館を利用し、事業を実施	12	—	12
他の諸機関・団体実施の事業に参加	20	2	22
利用歴なし(全項目無回答)	35	16	51

6. 区分

	女 性	男 性	合 計	%
①家庭教育関係行政担当者	3	8	11	9.8
②子育て支援関係行政担当者	16	6	22	19.6
③子育てネットワーク、子育てサポーター等のリーダー	26	5	31	27.7
④企業の次世代育成支援・社会貢献活動担当者	3	—	3	2.7
⑤女性関連施設職員・男女共同参画関係行政担当者	7	2	9	8.0
⑥社会教育施設職員	2	3	5	4.5
⑦その他	27	—	27	24.1
無回答	4	—	4	3.6
合 計	88	24	112	100.0

⑦その他の内容

- ・保育園職員(4件)
- ・児童福祉施設職員(3件)
- ・児童館の指定管理者
- ・男女共同参画課男性相談員
- ・男女共同参画アドバイザー
- ・大学教員
- ・コンサルタント

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	%
北海道・東北	2	1	3	2.7
関東・甲信越	75	17	92	82.1
北陸・東海	8	—	8	7.1
近畿	—	3	3	2.7
中国・四国	2	3	5	4.5
九州・沖縄	1	—	1	0.9
合 計	88	24	112	100.0

7. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	—
	(札幌市)	(—)	(—)
	青森県	1	—
	岩手県	—	—
	宮城県	1	—
	(仙台市)	(—)	(—)
	秋田県	—	—
	山形県	—	1
関東・甲信越	福島県	—	—
	茨城県	—	—
	栃木県	4	—
	群馬県	1	2
	埼玉県	45	7
	(さいたま市)	(4)	(4)
	千葉県	6	1
	(千葉市)	(—)	(—)
	東京都	15	4
	神奈川県	2	1
	(横浜市)	(1)	(—)
	(川崎市)	(1)	(—)
	(相模原市)	(—)	(—)
	山梨県	1	—
北陸・東海	新潟県	—	—
	(新潟市)	(—)	(—)
	長野県	1	2
	富山県	—	—
	石川県	—	—
	福井県	3	—
	岐阜県	1	—
	静岡県	2	—
	(静岡市)	(1)	(—)
	(浜松市)	(—)	(—)
近畿	愛知県	1	—
	(名古屋市)	(—)	(—)
	三重県	1	—
	滋賀県	—	1
	京都府	—	—
	(京都市)	(—)	(—)
	大阪府	—	2
	(大阪市)	(—)	(2)
中国・四国	(堺市)	(—)	(—)
	兵庫県	—	—
	(神戸市)	(—)	(—)
	奈良県	—	—
	和歌山県	—	—
	鳥取県	—	2
	島根県	—	—
	岡山県	1	—
九州・沖縄	(岡山市)	(—)	(—)
	広島県	—	—
	(広島市)	(—)	(—)
	山口県	—	1
	徳島県	—	—
	香川県	—	—
	愛媛県	—	—
	高知県	1	—
	福岡県	—	—
	(北九州市)	(—)	(—)
	(福岡市)	(—)	(—)
	佐賀県	1	—
	長崎県	—	—
	熊本県	—	—
	大分県	—	—
	宮崎県	—	—
	鹿児島県	—	—
	沖縄県	—	—
合 計		88	24

平成23年度「家庭教育・次世代育成指導者研修」 アンケート集計結果

定員	120	名
応募者	123	名
応募倍率	102.5	%
実参加者	112	名（女性88名、男性24名）
アンケート回答数	90	件
アンケート回答率	80.4	%

I 本研修に関する意見・感想

- この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりする上で、どの程度有用でしたか。

1日目 13日

1.関係省庁説明「国の家庭教育・次世代育成支援の施策の最新動向」

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	6	9.4	4	17.4	1	33.3	11	12.2	11	14.5
有用であった	39	60.9	13	56.5	1	33.3	53	58.9	53	69.7
あまり有用でなかった	9	14.1	3	13.0	-	-	12	13.3	12	15.8
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	6	9.4	2	8.7	-	-	8	8.9		
無回答	4	6.2	1	4.4	1	33.3	6	6.7		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	76	100.0

- 最新の情報が良くわかりました。国の流れがわかり地方自治レベルで何が出来るか考える参考になりました。
- 子どもをめぐるシステムの現状と課題など基本的な部分が聞けて良かった。

2.講義「家庭と地域でになう子育て・子育て」

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	37	57.8	15	65.2	1	33.3	53	58.9	53	67.9
有用であった	18	28.1	5	21.7	1	33.3	24	26.7	24	30.8
あまり有用でなかった	-	-	1	4.3	-	-	1	1.1	1	1.3
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	5	7.8	1	4.3	-	-	6	6.7		
無回答	4	6.3	1	4.3	1	33.3	6	6.7		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	78	100.0

- 今回、本研修に参加した目的が増山先生の講義を伺うことでした。「子どもを育てる子ども」を育てる！同感です。少子化の原因の根本はソコだと思います。
- 増山先生の話は以前から聞きたかったので、非常におもしろかった。子育ての時代の変化は、興味を持てた。
- 先生のお話が大変わかりやすかったです。活動の中で親のエンパワーメントを支えるということをいつも考えています。今後さらに子育ての豊かさ、子どもの輝きを見つめていく親を支える支援をしていきたいとあらためて思いました。また、先生のお話を聞きたいです。地域に呼びたいです。

3.パネルディスカッション「子育てから考える男性の家庭、地域への参画」

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	35	54.7	9	39.1	1	33.3	45	50.0	45	60.0
有用であった	16	25.0	12	52.2	1	33.3	29	32.2	29	38.7
あまり有用でなかった	1	1.5	-	-	-	-	1	1.1	1	1.3
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	6	9.4	1	4.3	-	-	7	7.8		
無回答	6	9.4	1	4.3	1	33.3	8	8.9		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	75	100.0

- NPO・企業それぞれの立場からの実践例を直に聞くことが出来、とても興味深かった。

- ・研修会の多くはパネリストが女性が多いが、3人の男性パネリストの発表は画期的でとても良かった。
- ・企業、NPOなど様々な立場から、男性の家庭・地域への参画のしかたの事例がわかり、大変参考になった。
- ・コーディネーターの大豆生田さん、講師の先生方それぞれの個性が光っていて、楽しく過ごさせていただきました。NPO法人立ち上げを思い描いていますので、とても心強くなりました。パパの子育て参加、企業での育休への理解と子育て支援と啓蒙、ジジババ世代の子育て参画、もっとお話をお聞きしたかったです。

4. 討議「課題整理のためのディスカッション」

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	21.9	2	8.7	1	33.3	17	18.9	17	25.4
有用であった	32	50.0	10	43.5	1	33.3	43	47.8	43	64.2
あまり有用でなかった	1	1.6	4	17.4	-	-	5	5.6	5	7.4
有用ではなかった	1	1.6	1	4.4	-	-	2	2.2	2	3.0
参加しなかった	7	10.9	3	13.0	-	-	10	11.1		
無回答	9	14.1	3	13.0	1	33.3	13	14.4		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	67	100.0

- ・4人のグループワークは少人数でお互いの自己紹介、活動、課題などを共有できて短い時間ながらもよかったと思います。
- ・まわりの席の方たちと話すきっかけとなり、その後のお互いの情報交換へもスムーズに移行できた。
- ・この時間まで隣に座っているにもかかわらずあいさつしかなかった方々との距離が一気に縮まり、情報交換会へのステップが低くなった。

5. 情報交換会

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	25.0	5	21.7	-	-	21	23.4	21	40.4
有用であった	18	28.1	10	43.5	1	33.3	29	32.2	29	55.8
あまり有用でなかった	1	1.6	1	4.4	-	-	2	2.2	2	3.8
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	14	21.9	4	17.4	-	-	18	20.0		
無回答	15	23.4	3	13.0	2	66.7	20	22.2		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	52	100.0

- ・分科会毎に分かれて話のできたので翌日の話し合いにつなげることができた。
- ・様々な人たちと話すことができ、ネットワーク作りのきっかけになった。

1日目 14日

6. 研究報告「男女共同参画の視点に立った地域全体で取り組む次世代育成支援事業に関する調査研究」

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	14.1	2	8.7	-	-	11	12.2	11	14.9
有用であった	39	60.9	13	56.5	-	-	52	57.8	52	70.3
あまり有用でなかった	4	6.3	3	13.0	1	33.3	8	8.9	8	10.8
有用ではなかった	2	3.1	1	4.4	-	-	3	3.3	3	4.0
参加しなかった	2	3.1	2	8.7	-	-	4	4.5		
無回答	8	12.5	2	8.7	2	66.7	12	13.3		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	74	100.0

- ・調査、結果をわかりやすく説明していただき、女性関連施設の役割を再確認できた。
- ・女性団体とのつながりや他の団体とより多くのつながりをもっている子育て支援団体の方が目的意識が高い。当たり前かもしれないが「なるほど」と思った。

7.研究報告と講義「海外の子育て支援から学ぶ～スウェーデンの場合～」

①研究報告「家庭教育に関する国際比較調査」

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	25	39.1	4	17.4	1	33.3	30	33.3	30	40.5
有用であった	29	45.3	14	60.9	-	-	43	47.8	43	58.1
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	1	1.6	-	-	-	-	1	1.1	1	1.4
参加しなかった	1	1.6	2	8.7	-	-	3	3.3		
無回答	8	12.5	3	13.0	2	66.7	13	14.5		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	74	100.0

- ・データから読み解く、国際比較調査等は興味深く、今後の事業に参考になる。
- ・統計という目に見えるかたちで分かりやすく今必要な現状が把握でき良かった。

7.研究報告と講義「海外の子育て支援から学ぶ～スウェーデンの場合～」

②講義「スウェーデンの地域ぐるみの子育て支援」

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	30	46.9	9	39.1	1	33.3	40	44.5	40	52.7
有用であった	23	35.9	10	43.5	-	-	33	36.7	33	43.4
あまり有用でなかった	1	1.6	1	4.3	-	-	2	2.2	2	2.6
有用ではなかった	1	1.6	-	-	-	-	1	1.1	1	1.3
参加しなかった	1	1.6	2	8.7	-	-	3	3.3		
無回答	8	12.5	1	4.3	2	66.7	11	12.2		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	76	100.0

- ・スウェーデンの実情を知り、おどろいたのと、でも最初からそうではなく、そういう文化をつくりあげていった過程を知り勉強になりました。
- ・社会状況は違えど、もっと詳しく知りたかったので、地域で呼びたいです。
- ・スウェーデンに長く滞在した経験から、わかりやすい説明であった。

○分科会(参加コース)

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
分科会1	17	26.6	13	56.5	-	-	30	33.3	30	41.1
分科会2	12	18.8	2	8.7	2	66.7	16	17.8	16	21.9
分科会3	23	35.9	4	17.4	-	-	27	30.0	27	37.0
無回答	12	18.7	4	17.4	1	33.3	17	18.9		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	73	100.0

8.分科会「家庭を支える地域のつながり」(午前)

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	27	42.2	11	47.8	-	-	38	42.2	38	52.8
有用であった	22	34.4	7	30.4	1	33.3	30	33.3	30	41.7
あまり有用でなかった	1	1.5	2	8.7	1	33.3	4	4.4	4	5.5
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	4.7	2	8.7	-	-	5	5.6		
無回答	11	17.2	1	4.4	1	33.3	13	14.5		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	72	100.0

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	19	63.3	5	31.3	14	51.9	-	-	38	42.2
有用であった	11	36.7	7	43.7	10	37.0	2	11.8	30	33.3
あまり有用でなかった	-	-	4	25.0	-	-	-	-	4	4.4
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	1	3.7	4	23.5	5	5.6
無回答	-	-	-	-	2	7.4	11	64.7	13	14.5
合計	30	100.0	16	100.0	27	100.0	17	100.0	90	100.0

(分科会1)

- ・地域の公民館との事業のノウハウがとても良くわかった。
- ・取り組み事例の舞台ウラがわかった。たいへんな苦勞のつみかさねの上に今の成果があることが理解できた。

(分科会2)

- ・同じような商店街の状態なので、うらやましく感じました。それぞれの理事が役割分担できているなと思いました。
- ・時間がおしてのスケジュールでしたが、前夜の分科会で福先生と交流できたことが効果的につながりました。岩村田商店街の街作りのひとつとして、子育てにも取り組んだ、画期的でもありなつかしい雰囲気もあり、新鮮でした。

(分科会3)

- ・行政とNPOとの連携のしかたや、それぞれの課題がよくわかった。すばらしい事例発表が聞けた。

9.分科会「家庭を支える地域のつながり」(午後)

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	10	15.6	6	26.1	1	33.3	17	18.9	17	26.2
有用であった	33	51.6	9	39.1	-	-	42	46.7	42	64.6
あまり有用でなかった	6	9.4	-	-	-	-	6	6.6	6	9.2
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	4.7	4	17.4	-	-	7	7.8		
無回答	12	18.7	4	17.4	2	66.7	18	20.0		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	65	100.0

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	8	26.7	6	37.5	3	11.1	-	-	17	18.9
有用であった	18	60.0	6	37.5	17	63.0	1	5.9	42	46.7
あまり有用でなかった	-	-	3	18.7	3	11.1	-	-	6	6.6
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	6.7	-	-	1	3.7	4	23.5	7	7.8
無回答	2	6.7	1	6.3	3	11.1	12	70.6	18	20.0
合計	30	100.0	16	100.0	27	100.0	17	100.0	90	100.0

(分科会1)

- ・限られた時間で難しかったが、グループ討議の形式で、具体的な話が聞けて良かった。

(分科会2)

- ・とても有意義な協議でアイデアもいただきました。地域で様々な人材がいらっしゃると感じました。

(分科会3)

- ・多様なニーズに対する支援は難しいと思いますが、「つながり」のヒントをもらえたように思います。

10.全体会(分科会報告)

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	3	4.7	2	8.7	-	-	5	5.6	5	10.4
有用であった	30	46.9	11	47.8	1	33.3	42	46.7	42	87.5
あまり有用でなかった	-	-	1	4.4	-	-	1	1.1	1	2.1
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	3.1	2	8.7	-	-	4	4.4		
無回答	29	45.3	7	30.4	2	66.7	38	42.2		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	48	100.0

- ・他の分科会のことも聞けたので良かったです。
- ・共有する時間があって良かった。
- ・分科会をさらにグループ分けして課題を整理、発表の流れがとても良かったです。

開催資料について

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	25.0	5	21.8	1	33.3	22	24.5	22	39.3
有用であった	25	39.1	9	39.1	-	-	34	37.8	34	60.7
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.5	2	8.7	-	-	3	3.3		
無回答	22	34.4	7	30.4	2	66.7	31	34.4		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	56	100.0

- ・持ち帰って見ることができるためにも、十分な分量の資料をいただきました。

情報交換コーナーについて

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	7	10.9	1	5.3	1	16.7	9	10.1	9	21.4
有用であった	23	35.9	2	10.5	1	16.7	26	29.2	26	61.9
あまり有用でなかった	4	6.3	1	5.3	2	33.3	7	7.9	7	16.7
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	4.7	3	15.8	-	-	6	6.7		
無回答	27	42.2	12	63.2	2	33.3	41	46.1		
合計	64	100.0	19	100.0	6	100.0	89	100.0	42	100.0

2 この研修全体は、あなたにとって、有用でしたか。

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	27	42.2	7	30.4	1	33.3	35	38.9	35	43.8
有用であった	31	48.4	12	52.2	1	33.3	44	48.9	44	55.0
あまり有用でなかった	-	-	1	4.4	-	-	1	1.1	1	1.2
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	6	9.4	3	13.0	1	33.3	10	11.1		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	80	100.0

- ・昨年度も参加させていただきましたが、今年度はプログラムも内容もさらに充実していて良かった。
- ・興味深い講演もいっぱいあったが、何より普段こういう形で会うことがないNPOの方と様々な話ができてよかった。

3 研修に参加された目的と達成度について 目的(複数回答)

	女性	% (64名中)	男性	% (23名中)	不明	% (3名中)	合計	% (90名中)
1 家庭教育・次世代育成支援に関わる国の施策・動向を理解する	26	40.6	11	47.8	1	33.3	38	42.2
2 男女共同参画の視点を持った子育て支援を理解する	18	28.1	10	43.5	-	-	28	31.1
3 男性の家庭・地域への参画の現状と課題を把握する	27	42.2	8	34.8	1	33.3	36	40.0
4 男女共同参画を推進する施設や団体が行う子育て支援と地域づくりの現状と課題を把握する	13	20.3	7	30.4	-	-	20	22.2
5 「家庭教育に関する国際比較調査」とスウェーデンの子育て支援の現状について学び、視野を広げる	12	18.8	6	26.1	1	33.3	19	21.1
6 実践事例の報告を通して、地域ぐるみで子育て・子育てを支える取り組みを実践していくための方向性をつかむ	29	45.3	12	52.2	1	33.3	42	46.7
7 各地域の家庭教育・次世代育成支援に関わる人たちとのネットワークづくりのきっかけを得る	19	29.7	13	56.5	-	-	32	35.6
8 その他	1	1.6	-	-	-	-	1	1.1

達成度

(1)家庭教育・次世代育成支援に関わる国の施策・動向を理解することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	12	18.8	4	17.4	-	-	16	17.8	16	24.2
おおむね達成できた	31	48.4	12	52.2	1	33.3	44	48.9	44	66.7
あまり達成できなかった	4	6.2	1	4.3	-	-	5	5.6	5	7.6
達成できなかった	-	-	1	4.3	-	-	1	1.1	1	1.5
無回答	17	26.6	5	21.7	2	66.7	24	26.7		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	66	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(2)男女共同参画の視点を持った子育て支援を理解することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	13	20.3	2	8.7	-	-	15	16.7	15	24.2
おおむね達成できた	32	50.0	12	52.2	1	33.3	45	50.0	45	72.6
あまり達成できなかった	1	1.6	1	4.3	-	-	2	2.2	2	3.2
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	18	28.1	8	34.8	2	66.7	28	31.1		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	62	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(3)男性の家庭・地域への参画の現状と課題を把握することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	18	28.1	4	17.4	-	-	22	24.5	22	35.5
おおむね達成できた	28	43.7	10	43.5	1	33.3	39	43.3	39	62.9
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	1	1.6	-	-	-	-	1	1.1	1	1.6
無回答	17	26.6	9	39.1	2	66.7	28	31.1		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	62	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(4)男女共同参画を推進する施設や団体が行う子育て支援と地域づくりの現状と課題を把握することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	9	14.1	2	8.7	-	-	11	12.2	11	20.0
おおむね達成できた	30	46.9	11	47.8	-	-	41	45.6	41	74.6
あまり達成できなかった	1	1.6	1	4.4	-	-	2	2.2	2	3.6
達成できなかった	1	1.6	-	-	-	-	1	1.1	1	1.8
無回答	23	35.9	9	39.1	3	100.0	35	38.9		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	55	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(5)「家庭教育に関する国際比較調査」とスウェーデンの子育て支援の現状について学び、視野を広げることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	20	31.2	5	21.7	1	33.3	26	28.9	26	50.0
おおむね達成できた	17	26.6	7	30.4	-	-	24	26.7	24	46.2
あまり達成できなかった	1	1.6	1	4.4	-	-	2	2.2	2	3.8
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	26	40.6	10	43.5	2	66.7	38	42.2		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	52	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(6)実践事例の報告を通して、地域ぐるみで子育て・子育てを支える取り組みを実践していくための方向性をつかむことができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	14	21.9	4	17.4	1	33.3	19	21.1	19	29.2
おおむね達成できた	32	50.0	6	26.1	-	-	38	42.2	38	58.5
あまり達成できなかった	4	6.2	4	17.4	-	-	8	8.9	8	12.3
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	14	21.9	9	39.1	2	66.7	25	27.8		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	65	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(7)各地域の家庭教育・次世代育成支援に関わる人たちとのネットワークづくりのきっかけを得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	14	21.9	5	21.7	—	—	19	21.1	19	33.9
おおむね達成できた	24	37.5	8	34.8	—	—	32	35.6	32	57.2
あまり達成できなかった	4	6.2	1	4.4	—	—	5	5.5	5	8.9
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	22	34.4	9	39.1	3	100.0	34	37.8		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	56	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(8)その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
おおむね達成できた	1	1.6	—	—	—	—	1	1.1	1	100.0
あまり達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	63	98.4	23	100.0	3	100.0	89	98.9		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	1	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

4. この研修の満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	20	31.3	9	39.1	1	33.3	30	33.3	30	35.3
満足した	37	57.8	12	52.2	1	33.3	50	55.6	50	58.8
少し物足りなかった	4	6.2	1	4.3	—	—	5	5.6	5	5.9
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	3	4.7	1	4.3	1	33.3	5	5.6		
合計	64	100.0	23	100.0	3	100.0	90	100.0	85	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

- ・研修会2日間の組み立てがすばらしく、最新の情報が得られたり、先進的な事例が聞けてとてもよかった。成し遂げるには、熱意とその人なりのポリシーとか、楽しんでやるとかやりがいや生きがいにつながる事が重要で、自己のあり方について深く考えさせられてとても良かった。
- ・研修としても、連携にきっかけの場としても有意義なものであった。

**「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」
(主管課長) 実施要項**

- 1 趣旨
全国の配偶者暴力相談支援センター（以下、「支援センター」）を主管している部（局）の課長級を対象に、配偶者からの暴力についての基本的な知識をはじめ、支援センターにおける関係機関との連携モデル、支援センターの効果的な運営及び情報交換等を内容とした管理職研修を行います。
- 2 主催
内閣府、独立行政法人国立女性教育会館
- 3 会場
独立行政法人国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
TEL 0493-62-6724・6725
FAX 0493-62-6720
URL <http://www.nwec.jp/>
- 4 期日
平成23年7月11日（月）～ 7月12日（火） 1泊2日
- 5 参加者
都道府県及び市区町村の支援センターを主管する部（局）の課長等
- 6 日程・内容

第1日 7月11日（月）【受付 12:00～12:30】

- (1) 開 会 12:30～12:45
 - ①主催者あいさつ
 - ②プログラム説明
 - ③オリエンテーション

- (2) 講義「DV法概論～配偶者等からの暴力と被害者への支援～」12:45～14:15

DV法と法に基づく支援制度及び配偶者等からの暴力の特徴、被害者の置かれている状況や必要な支援などについて学びます。

講 師 戒能 民江

お茶の水女子大学名誉教授

(3) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」

14:30～16:00

配偶者等からの暴力の被害者支援体制と支援のあり方について、関係省庁から最新の施策及び政策動向を伝えます。

講 師 原 典久 内閣府男女共同参画局推進課暴力対策推進室室長
講 師 荻野 英俊 警察庁生活安全局生活安全企画課課長補佐
講 師 齊藤 克也 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課
母子家庭等自立支援室女性保護専門官

(4) 講義「加害者への対応を考える～加害者対応マニュアルをもとに～」

16:15～17:45

相談、保護及び自立支援等において、被害者とその親族等の安全確保に必要な知識・方策等について学びます。

講 師 可児 康則 弁護士

(5) 情報交換会（参加希望者）

18:45～20:00

自治体間の情報交換や連携促進を図ります

第2日 7月12日（火）

(6) 講義「自治体における配偶者暴力相談支援センター等の管理・運営について」

9:30～11:00

支援センターの管理・運営において効果的な方法を学びます。

講 師 大日方 すみ江 中央大学経済学部客員講師
財団法人市川房枝記念会女性と政治センター理事

(7) 事例紹介

DV被害者支援体制を整備し、推進していくうえで各都道府県が取り組んでいる事例を紹介します。

また、質疑応答の時間を設け、各自治体における課題についても話し合います。

A 静岡県－連携に関する取り組み－

11:15～11:40

講 師 馬場 寿一 静岡県子ども家庭相談センター自立相談部長
兼女性相談センター所長

B 長崎県－自立支援に関する取り組み－

11:40～12:05

講 師 柿田 多佳子 長崎県長崎子ども・女性・障害者支援センター
子ども・女性支援部女性支援課課長

質疑応答

12:05～12:15

- (8) 分科会「管理職の役割」 13:15～14:45
自治体の現状や課題についての情報を共有し、行政の役割について認識を深めます。
コーディネーター 荒巻 千枝子（本事業企画委員）
- (9) 閉 会 14:55～15:00
主催者あいさつ

7 その他

(1) 企画委員（50音順、敬称省略）

※本ワークショップのプログラムは、企画委員の協力で作成しました。

委員長	戒能 民江	お茶の水女子大学名誉教授
企画委員	荒巻千枝子	千葉県環境生活部県民交流・文化課交流事業室副主幹
	田端八重子	もりおか女性センターセンター長
	原田恵理子	名古屋市子ども青少年局子ども育成部主幹
	平川 和子	東京フェミニストセラピーセンター所長

- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業の記録や広報のために使用することがあります。あらかじめ御了承ください。
- (3) 計画停電等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合がございます。あらかじめ御了承ください。

平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」事業
参加者概況(主管課長)

平成23年7月12日現在

1. 性別

	合 計
女 性	21
男 性	14
合 計	35

2. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	1	—	1
30代	—	—	—
40代	5	6	11
50代	12	7	19
60代	—	1	1
無回答	3	—	3
合 計	21	14	35

3. 現職在職年

	女 性	男 性	合 計
1年未満	11	9	20
1年以上2年未満	6	5	11
2年以上3年未満	2	—	2
3年以上4年未満	1	—	1
4年以上5年未満	—	—	—
5年以上	—	—	—
その他	—	—	—
無回答	1	—	1
合計	21	14	35

4. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	1
	(札幌市)	(1)	(1)
	青森県	—	—
	岩手県	—	1
	宮城県	—	—
	(仙台市)	(—)	(—)
	秋田県	—	—
	山形県	—	—
関東・甲信越	福島県	—	1
	茨城県	1	1
	栃木県	3	—
	群馬県	1	—
	埼玉県	2	—
	(さいたま市)	(1)	(1)
	千葉県	1	—
	(千葉市)	(1)	(1)
	東京都	3	—
	神奈川県	1	1
	(横浜市)	(1)	(2)
	(川崎市)	(—)	(—)
	(相模原市)	(—)	(—)
	山梨県	—	1
北陸・東海	新潟県	—	—
	(新潟市)	(—)	(—)
	長野県	—	1
	富山県	—	—
	石川県	1	—
	福井県	—	—
	岐阜県	1	—
	静岡県	—	—
	(静岡市)	(—)	(—)
	(浜松市)	(—)	(—)
近畿	愛知県	—	1
	(名古屋市)	(—)	(1)
	三重県	—	—
	滋賀県	1	—
	京都府	—	—
	(京都市)	—	—
	大阪府	1	2
	(大阪市)	(1)	(2)
	(堺市)	—	—
	兵庫県	1	—
中国・四国	(神戸市)	(1)	(1)
	奈良県	—	—
	和歌山県	—	—
	鳥取県	—	—
	島根県	—	—
	岡山県	—	2
	(岡山市)	(—)	(2)
	広島県	—	—
	(広島市)	(—)	(—)
	山口県	—	—
九州・沖縄	徳島県	1	—
	香川県	—	—
	愛媛県	—	1
	高知県	1	—
	福岡県	1	—
	(北九州市)	(1)	(1)
	(福岡市)	(—)	(—)
	佐賀県	—	—
	長崎県	—	—
	熊本県	—	—
	大分県	—	—
	宮崎県	—	—
	鹿児島県	—	1
	沖縄県	1	—

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	—	3	3
関東・甲信越	12	4	16
北陸・東海	2	1	3
近畿	3	2	5
中国・四国	2	3	5
九州・沖縄	2	1	3
合計	21	14	35

**平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」(主管課長)
アンケート集計結果**

定員 68 名
 応募者 35 名
 応募倍率 51.5 %
 実参加者 35 名 (女性21名 男性14名)
 アンケート回答数 35 件
 アンケート回答率 100.0 %

女性	男性	不明	合計
19	14	2	35

1 研修の内容は、どの程度有用でしたか

(1) 講義「DV法概論～配偶者等からの暴力と被害者への支援～」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	7	36.8	6	42.9	—	—	13	37.1	13	39.4
有用であった	9	47.4	8	57.1	2	100.0	19	54.3	19	57.6
あまり有用でなかった	1	5.3	—	—	—	—	1	2.9	1	3.0
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	33	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ DV防止法の制定への経過等がわかりやすく、今後の課題までとてもためになった。
- ・ 基本がすっきりと整理され職場での課題も明確になったと思います。
- ・ 大変役に立つ講義でした。お世話になりました。

(2) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	5	26.3	4	28.6	—	—	9	25.7	9	29.0
有用であった	12	63.2	8	57.1	2	100.0	22	62.9	22	71.0
あまり有用でなかった	—	—	2	14.3	—	—	2	5.7	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	31	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 各省庁の取り組みがわかり良かった。法改正の動きや警察の取り組みは特に良かった。
- ・ 短時間ではあったが現在それぞれの省庁で課題となっていること、施策を伺うことができた。特にDVと婦相の関係がよくわかった。
- ・ 資料の提供として有効でした。警察庁については特に連携が必要と感じていましたが、質疑応答などから相談しやすい印象を持ちました。

(3) 講義「加害者への対応を考える～加害者対応マニュアルをもとに～」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	10	52.7	10	71.4	2	100.0	22	62.9	22	66.7
有用であった	7	36.8	4	28.6	—	—	11	31.4	11	33.3
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	33	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 実践的な講義で大変参考になりました。職場で共有し、即活用していきたいです。
- ・ 加害者の視点からDVを捉えることが従来なかったため非常に参考になりました。
- ・ 加害者の定義、加害者対応などについて根拠や事例の説明があり、大変わかりやすい講義でした。

(4) 情報交換会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	3	15.8	6	42.9	-	-	9	25.7	9	33.3
有用であった	10	52.6	6	42.9	1	50.0	17	48.6	17	63.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	1	7.1	-	-	1	2.9	1	3.7
参加しなかった	4	21.1	1	7.1	1	50.0	6	17.1		
無回答	2	10.5	-	-	-	-	2	5.7		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	27	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 通信手段の発達により省略されがちですが、やはり膝を突き合わせての会話に勝るものはないと思いました。
- ・ 他県の状況がわかりとても良かった。
- ・ 交流の中で具体的な課題のヒントとなる情報をいただいた。

(5) 講義「自治体における配偶者暴力相談支援センター等の管理・運営について」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	13	68.4	10	71.4	1	50.0	24	68.6	24	75.0
有用であった	3	15.8	4	28.6	1	50.0	8	22.9	8	25.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	10.5	-	-	-	-	2	5.7		
無回答	1	5.3	-	-	-	-	1	2.9		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	32	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 管理職としての心構え等、本当に有意義な内容でした。やはり現場を知らないことには進まないと思います。
- ・ 経験に裏打ちされた説明でとてもわかりやすかった。
- ・ まさに日々現場で起きている事柄を通し、管理職としてどうすべきか、本庁として何をすべきかということを知りやすくなり講義いただいた。

(6) 事例紹介A「静岡県一連携に関する取り組み」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	-	-	2	14.3	-	-	2	5.7	2	6.5
有用であった	13	68.4	7	50.0	1	50.0	21	60.0	21	67.7
あまり有用でなかった	3	15.8	3	21.4	1	50.0	7	20.0	7	22.6
有用ではなかった	-	-	1	7.1	-	-	1	2.9	1	3.2
参加しなかった	2	10.5	-	-	-	-	2	5.7		
無回答	1	5.3	1	7.1	-	-	2	5.7		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	31	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 県と市町村の役割分担の参考になった。
- ・ 他市町村のDV被害者受入について検討しているので興味深かった。
- ・ 連携の参考にさせていただきます。

(6) 事例紹介B「長崎県一自立支援に関する取り組み」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	8	42.1	6	42.9	2	100.0	16	45.7	16	50.0
有用であった	7	36.8	8	57.1	-	-	15	42.9	15	46.9
あまり有用でなかった	1	5.3	-	-	-	-	1	2.9	1	3.1
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	10.5	-	-	-	-	2	5.7		
無回答	1	5.3	-	-	-	-	1	2.9		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	32	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 当県も基金を活用したサポート事業を実施しており、参考とさせていただきたい。
- ・ 官民連携、協働について具体的にお話をいただき参考になった。
- ・ 国の交付金を利用し、多方向からの施策を考案される手腕に驚きました。とても参考になりました。

(7) 全体会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	6	31.6	7	50.0	—	—	13	37.1	13	50.0
有用であった	6	31.6	6	42.9	1	50.0	13	37.1	13	50.0
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	3	15.8	—	—	—	—	3	8.6		
無回答	4	21.1	1	7.1	1	50.0	6	17.1		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	26	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・グループで討議することで他県の状況も聞くことができて良かった。
- ・改めて管理職の役割を再認識した。
- ・自分が気付かなかった課題に気がきました。

★研修全体についての有用度

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	5	26.3	6	42.9	—	—	11	31.4	11	35.5
有用であった	10	52.6	8	57.1	2	100.0	20	57.1	20	64.5
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	21.1	—	—	—	—	4	11.4		
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	31	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・この部門に着任して3か月。混沌としていましたが、ワークショップを受けて知識の整理や情報を得ることができてとても良かったです。
- ・DVに関するまとまった講義を初めて受講し、現状課題等が明らかになり非常に有用であった。
- ・さまざまな角度からDV支援・DV対策のご提案があり、大変参考になりました。

2 研修に参加された目的の達成度をご回答ください。

(1) 配偶者等からの暴力について、その特徴や被害者の状況、必要な支援など「配偶者からの暴力」に関する基本的な事柄についての知識を得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	4	21.1	4	28.6	1	50.0	9	25.7	9	27.3
おおむねできた	13	68.4	10	71.4	1	50.0	24	68.6	24	72.7
あまりできなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	33	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(2) 配偶者等からの暴力の被害者支援について最新の情報を得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	4	21.1	5	35.7	2	100.0	11	31.4	11	33.3
おおむねできた	11	57.9	6	42.9	—	—	17	48.6	17	51.5
あまりできなかった	2	10.5	3	21.4	—	—	5	14.3	5	15.2
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	33	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(3) 安心して相談することのできる支援体制づくりについて学ぶことができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	3	15.8	2	14.3	1	50.0	6	17.1	6	18.2
おおむねできた	12	63.2	11	78.6	1	50.0	24	68.6	24	72.7
あまりできなかった	2	10.5	1	7.1	—	—	3	8.6	3	9.1
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	33	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(4) 配偶者等からの暴力の被害者支援のための、関連機関との連携のポイントを知らることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	3	15.8	1	7.1	1	50.0	5	14.3	5	15.2
おおむねできた	12	63.2	11	78.6	1	50.0	24	68.6	24	72.7
あまりできなかった	2	10.5	2	14.3	—	—	4	11.4	4	12.1
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	33	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(5) 配偶者等からの暴力に関する相談事業を実施する機関等の管理職としての意識が高まった

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	6	31.6	3	21.4	1	50.0	10	28.6	10	30.3
おおむねできた	10	52.6	10	71.4	1	50.0	21	60.0	21	63.6
あまりできなかった	1	5.3	1	7.1	—	—	2	5.7	2	6.1
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	33	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(6) 全国の配偶者等からの暴力に関する相談事業の統括をする方との情報交換や交流をおこなうことができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	2	10.5	2	14.3	—	—	4	11.4	4	12.9
おおむねできた	9	47.4	8	57.1	2	100.0	19	54.3	19	61.3
あまりできなかった	3	15.8	3	21.4	—	—	6	17.1	6	19.4
できなかった	1	5.3	1	7.1	—	—	2	5.7	2	6.5
無回答	4	21.1	—	—	—	—	4	11.4		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	31	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(7) その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
おおむねできた	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
あまりできなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0		

(※%は「無回答」を除いた割合)

3 本研修への満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に満足した	3	15.8	4	28.6	—	—	7	20.0	7	21.2
満足した	12	63.2	9	64.3	2	100.0	23	65.7	23	69.7
少し物足りなかった	2	10.5	1	7.1	—	—	3	8.6	3	9.1
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	10.5	—	—	—	—	2	5.7		
合計	19	100.0	14	100.0	2	100.0	35	100.0	33	100.0

(理由)

(※%は「無回答」を除いた割合)

- ・ 大日方先生のお話は女性・DV問題に関わらず、公務員の女性幹部としても、まだまだお話をお聞きしたいと思いました。
- ・ 今の部署では日も浅く、基礎的な講義もあり非常に参考となった。
- ・ とても効果的な内容であったと思う。

【地域バランス】

	女性	男性	合計	割合
北海道・東北	—	3	3	8.6%
関東・甲信越	12	4	16	45.7%
北陸・東海	2	1	3	8.6%
近畿	3	2	5	14.3%
中国・四国	2	3	5	14.3%
九州・沖縄	2	1	3	8.6%
合計	21	14	35	100.0%

【現職経験年数】

	女性	男性	合計	割合
1年未満	11	9	20	57.1%
1年以上2年未満	6	5	11	31.4%
2年以上3年未満	2	—	2	5.7%
3年以上4年未満	1	—	1	2.9%
4年以上5年未満	—	—	—	—
5年以上	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
無回答	1	—	1	2.9%
合計	21	14	35	100.0%

**「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」
(支援センター長) 実施要項**

1 趣旨

全国の配偶者暴力相談支援センター（以下、「支援センター」）長を対象に、配偶者からの暴力についての基本的な知識をはじめ、支援センター長に求められるマネジメントのあり方及び情報交換等を内容とした管理職研修を行います。

2 主催

内閣府、独立行政法人国立女性教育会館

3 会場

京都テルサ 京都市南区東九条下殿田町70番地

〒601-8047

TEL 075-692-3400

FAX 075-692-3402

URL <http://www.kyoto-terrsa.or.jp/>

4 期日

平成23年7月14日（木）～ 7月15日（金） 1泊2日

5 参加者

都道府県及び市区町村の支援センター長

6 日程・内容

第1日 7月14日（木）【受付 12:00～12:30】

(1) 開 会

12:30～12:45

①主催者あいさつ

②プログラム説明

③オリエンテーション

(2) 講義「DV法概論～配偶者等からの暴力と被害者への支援～」

12:45～14:15

DV法と法に基づく支援制度及び配偶者等からの暴力の特徴、被害者の置かれている状況や必要な支援などについて学びます。

講 師 戒能 民江

お茶の水女子大学名誉教授

(3) 講義「加害者への対応を考える～加害者対応マニュアルをもとに～」

14:30～16:00

相談、保護及び自立支援等において、被害者とその親族等の安全確保に必要な知識・方策等について学びます。

講 師 可児 康則 弁護士

(4) 分科会「管理職の役割」

16:15～17:45

いくつかのグループに分かれて、あらかじめ持ち寄った課題に基づきディスカッションをおこないます。各支援センターの現状や課題についての情報を共有し、支援センターの役割について認識を深めます。

コーディネーター 田端 八重子 (本事業企画委員)

(5) 情報交換会 (参加希望者)

18:00～18:45

支援センター間の情報交換や連携促進を図ります。

第2日 7月15日 (金)

(6) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」

9:30～11:00

配偶者等からの暴力の被害者支援体制と支援のあり方について、関係省庁から最新の施策及び政策動向を伝えます。

講 師 原 典久 内閣府男女共同参画局推進課暴力対策推進室室長
講 師 荻野 英俊 警察庁生活安全局生活安全企画課課長補佐
講 師 齊藤 克也 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課
母子家庭等自立支援室女性保護専門官

(7) 講義「配偶者暴力相談支援センター等の管理職に求められるマネジメントの在り方」

11:15～12:15

相談員のサポートなど相談事業を運営していくうえで、配慮すべき事柄を理解し、管理職としてのマネジメントについて学びます。

講 師 大日方 すみ江 中央大学経済学部客員講師
財団法人市川房枝記念会女性と政治センター理事

- (8) 分科会「都道府県の支援センター長、市区町村の支援センター長別の課題検討会」

13:15～14:00

都道府県の支援センター長及び市区町村の支援センター長ごとに分かれて、仕事上、心がけていること・課題と感じていることについて共有します。

最後に、全体会に向けたまとめをおこないます。

コーディネーター 田端 八重子 (本事業企画委員)

- (9) 全体会 14:00～14:55

分科会での討議・検討内容について、グループごとに報告し、課題や情報を共有します。

セミナーをふりかえり、「気づいたこと」「今後活かしたいこと」をまとめます。

- (10) 閉会 14:55～15:00

主催者あいさつ

7 所要経費

- (1) 参加費 無料
- (2) 交通費 内閣府の規定に基づき支給 (後日払い)
- (3) 宿泊費 内閣府の規定に基づき支給 (後日払い)
- (4) 情報交換会費 (14日 18:00～18:45) 1,500円 (受付にて集金します)
弁当代 (15日昼食分) 1,000円 (受付にて集金します)
※情報交換会では、夕食は含まれておりません。

8 その他

企画委員 (50音順、敬称省略)

※本ワークショップのプログラムは、企画委員の協力で作成しました。

委員長 戒能 民江 お茶の水女子大学名誉教授

企画委員 荒巻千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課交流事業室副主幹

〃 田端八重子 もりおか女性センターセンター長

〃 原田恵理子 名古屋市子ども青少年局子ども育成部主幹

〃 平川 和子 東京フェミニストセラピーセンター所長

平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」事業
参加者概況（京都開催）

平成23年7月16日現在

1. 性別

	合 計
女 性	42
男 性	28
合 計	70

2. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	1	—	1
30代	1	1	2
40代	5	4	9
50代	27	21	48
60代	4	1	5
無回答	4	1	5
合 計	42	28	70

3. 現職在職年

	女 性	男 性	合 計
1年未満	11	9	20
1年以上2年未満	8	6	14
2年以上3年未満	5	3	8
3年以上4年未満	2	1	3
4年以上5年未満	3	—	3
5年以上	6	6	12
その他	—	—	—
無回答	7	3	10
合計	42	28	70

4. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	1
	(札幌市)	(—)	(1)
	青森県	2	—
	岩手県	1	1
	宮城県	—	1
	(仙台市)	(—)	(1)
	秋田県	1	—
	山形県	—	—
	福島県	1	—
関東・甲信越	茨城県	—	1
	栃木県	1	—
	群馬県	1	—
	埼玉県	1	1
	(さいたま市)	(1)	(—)
	千葉県	1	—
	(千葉市)	(1)	(—)
	東京都	2	—
	神奈川県	1	2
	(横浜市)	(1)	(2)
	(川崎市)	(—)	(—)
	(相模原市)	(—)	(—)
	山梨県	2	—
	新潟県	2	—
	(新潟市)	(2)	(—)
	長野県	2	—
北陸・東海	富山県	1	—
	石川県	—	1
	福井県	—	—
	岐阜県	2	—
	静岡県	—	1
	(静岡市)	(—)	(1)
	(浜松市)	(—)	(—)
	愛知県	1	1
	(名古屋市)	(1)	(1)
近畿	三重県	—	1
	滋賀県	1	1
	京都府	3	2
	(京都市)	(3)	(1)
	大阪府	2	1
	(大阪市)	(2)	(—)
	(堺市)	—	—
	兵庫県	2	—
	(神戸市)	(2)	(—)
	奈良県	—	1
	和歌山県	1	—
中国・四国	鳥取県	—	1
	島根県	—	2
	岡山県	1	—
	(岡山市)	(1)	(—)
	広島県	—	1
	(広島市)	(—)	(1)
	山口県	1	1
	徳島県	—	1
	香川県	—	—
	愛媛県	1	1
	高知県	1	—
九州・沖縄	福岡県	1	1
	(北九州市)	(—)	(1)
	(福岡市)	(1)	(—)
	佐賀県	1	—
	長崎県	1	1
	熊本県	1	—
	大分県	—	—
	宮崎県	—	1
	鹿児島県	—	—
	沖縄県	3	2

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	5	3	8
関東・甲信越	13	4	17
北陸・東海	4	3	7
近畿	9	6	15
中国・四国	4	7	11
九州・沖縄	7	5	12
合計	42	28	70

平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」(支援センター長)

定員 150 名
 応募者 70 名
 応募倍率 46.7 %
 実参加者 70 名 (女性42名 男性28名)
 アンケート回答数 68 件
 アンケート回答率 97.1 %

女性	男性	不明
40	27	1

1 研修の内容は、どの程度有用でしたか

(1) 講義「DV法概論～配偶者等からの暴力と被害者への支援～」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	20	50.0	6	22.2	-	-	26	38.2	26	38.8
有用であった	18	45.0	21	77.8	1	100.0	40	58.8	40	59.7
あまり有用でなかった	1	2.5	-	-	-	-	1	1.5	1	1.5
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	2.5	-	-	-	-	1	1.5	-	-
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	67	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ これからの支援の在り方を考えるきっかけとなりました。
- ・ 被害者支援への課題を再認識させられた。今後の仕事に対する課題としたい。
- ・ DV法の基本的部分をおさえることができました。

(2) 講義「加害者への対応を考える～加害者対応マニュアルをもとに～」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	25	62.5	18	66.7	-	-	43	63.2	43	63.2
有用であった	15	37.5	9	33.3	1	1.0	25	36.8	25	36.8
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	68	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 弁護士の立場から話されていた内容がとてもわかりやすく、自分の普段の業務と重なる内容の部分がが多く、役に立ちました。
- ・ 同様な事実と重なることもあり、緊張感を持って聞けた。
- ・ 配暴センターの役割について、疑問に思っていることへの解決のヒントが得られた。

(3) 分科会「管理職の役割」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	16	40.0	3	11.1	-	-	19	28.0	19	29.2
有用であった	21	52.5	22	81.5	1	100.0	44	64.7	44	67.7
あまり有用でなかった	1	2.5	1	3.7	-	-	2	2.9	2	3.1
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	5.0	1	3.7	-	-	3	4.4	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	65	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 課題を出していく中で、参加者の方々と日頃聞けない具体的事例を話し、参考となった。
- ・ 現場での実情について具体的に情報交換できました。
- ・ 参加者との交流を深め、それぞれの活動や悩みにふれ、とても有意義でした。

(4) 情報交換会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	5	12.5	3	11.1	-	-	8	11.8	8	15.7
有用であった	26	65.0	14	51.9	-	-	40	58.8	40	78.4
あまり有用でなかった	2	5.0	-	-	-	-	2	2.9	2	3.9
有用ではなかった	1	2.5	-	-	-	-	1	1.5	1	2.0
参加しなかった	1	2.5	5	18.5	1	100.0	7	10.3	-	-
無回答	5	12.5	5	18.5	-	-	10	14.7	-	-
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	51	100.0

〈理由〉 (※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ ビールをおいしく飲みました。県内でもなかなか会えないので、同じ県の他所の方ともたくさん話せてよかったです。
- ・ 他県とのネットワーク作りに役立った。
- ・ ざっくばらんに意見交換ができたこと。時間が短かったように思います。
- ・ 次年度以降こういった研修が予定されるなら、交換会を設けてほしい。

(5) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	11	27.5	5	18.5	-	-	16	23.5	16	24.2
有用であった	24	60.0	21	77.8	1	100.0	46	67.6	46	69.7
あまり有用でなかった	3	7.5	1	3.7	-	-	4	5.9	4	6.1
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	2.5	-	-	-	-	1	1.5		
無回答	1	2.5	-	-	-	-	1	1.5		
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	66	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 機関の現状と取り組みを知ることができた。
- ・ 基本計画策定、関係機関との会議が重要であると感じた。
- ・ 事前の質問それぞれ丁寧に回答していただいた。

(6) 講義「配偶者暴力相談支援センター等の管理職に求められるマネジメントの在り方」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	30	75.0	18	66.7	-	-	48	70.7	48	75.0
有用であった	7	17.5	8	29.6	1	100.0	16	23.5	16	25.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	2.5	1	3.7	-	-	2	2.9		
無回答	2	5.0	-	-	-	-	2	2.9		
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	64	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 都と市町はまた異なるところもありますが、共通する点がとても多く参考になりましたし、大日方先生のお話に元気づけられました。ありがとうございました。
- ・ わかりやすい資料と事例、説得力あるご説明でとてもためになった。管理職として必要なことも学びました。
- ・ 大変参考になる講義でした。所長としての立ち位置について気付きを多くいただきました。

(7) 分科会「都道府県別の支援センター長、市町村の支援センター長別の課題検討会」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	13	32.5	6	22.2	-	-	19	28.0	19	31.1
有用であった	21	52.5	18	66.7	1	100.0	40	58.8	40	65.6
あまり有用でなかった	1	2.5	1	3.7	-	-	2	2.9	2	3.3
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	3.7	-	-	1	1.5		
無回答	5	12.5	1	3.7	-	-	6	8.8		
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	61	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 各グループの発表内容に参考となる意見が多かった。
- ・ 各県の取組、課題について問題を共有することができた。
- ・ センター開設に向けて、課題が見つかり、今後の方向性が少しずつ明確になった。

(8) 全体会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	14	35.0	6	22.3	-	-	20	29.5	20	42.6
有用であった	13	32.5	13	48.1	-	-	26	38.2	26	55.3
あまり有用でなかった	-	-	1	3.7	-	-	1	1.5	1	2.1
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	2	7.4	-	-	2	2.9		
無回答	13	32.5	5	18.5	1	100.0	19	27.9		
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	47	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 各グループの発表内容に参考となる意見が多かった。
- ・ 様々な話題の共有、方向性が確認できた。
- ・ 県センター、市センターで別れての発表はそれぞれの思いがよく表れており、大変良かったと思います。

★研修全体についての有用度

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に有用であった	19	47.5	9	33.3	—	—	28	41.2	28	41.2
有用であった	21	52.5	17	63.0	1	100.0	39	57.4	39	57.4
あまり有用でなかった	—	—	1	3.7	—	—	1	1.4	1	1.4
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	68	100.0

〈理由〉

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

- ・ 仕事をする上での疑問点を詳しく教えていただけて大変為になった。専門知識を補える講義でした。
- ・ 各県の状況を聞くことができて、大変勉強になりました。
- ・ 特に管理職に主眼をおいた研修だったので、ポイントが定まっていた有意義でした。しかし、全体を通して時間が足りなかったと思います。各省庁の説明もなかなか聞く機会がないので、十分な時間の中でお聞き出来たら良かったと思います。

2 研修に参加された目的の達成度をご回答ください。

- (1) 配偶者等からの暴力について、その特徴や被害者の状況、必要な支援など「配偶者からの暴力」に関する基本的な事柄についての知識を得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	16	40.0	13	48.1	—	—	29	42.7	29	42.7
おおむねできた	22	55.0	14	51.9	1	100.0	37	54.4	37	54.4
あまりできなかった	2	5.0	—	—	—	—	2	2.9	2	2.9
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	68	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

- (2) 配偶者等からの暴力の被害者支援について最新の情報を得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	13	32.5	9	33.3	—	—	22	32.4	22	32.4
おおむねできた	26	65.0	14	51.9	1	100.0	41	60.3	41	60.3
あまりできなかった	1	2.5	4	14.8	—	—	5	7.3	5	7.3
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	68	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

- (3) 安心して相談することのできる支援体制づくりについて学ぶことができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	9	22.5	4	14.8	—	—	13	19.1	13	19.4
おおむねできた	28	70.0	19	70.4	1	100.0	48	70.6	48	71.6
あまりできなかった	2	5.0	4	14.8	—	—	6	8.8	6	9.0
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	1	2.5	—	—	—	—	1	1.5	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	67	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

- (4) 配偶者等からの暴力の被害者支援のための、関連機関との連携のポイントを知ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	10	25.0	3	11.1	—	—	13	19.1	13	19.4
おおむねできた	25	62.5	18	66.7	1	100.0	44	64.7	44	65.7
あまりできなかった	4	10.0	6	22.2	—	—	10	14.7	10	14.9
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	1	2.5	—	—	—	—	1	1.5	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	67	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

- (5) 配偶者等からの暴力に関する相談事業を実施する機関等の管理職としての意識が高まった

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	12	30.0	8	29.6	—	—	20	29.4	20	31.8
おおむねできた	22	55.0	16	59.3	1	100.0	39	57.4	39	61.9
あまりできなかった	3	7.5	1	3.7	—	—	4	5.9	4	6.3
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	3	7.5	2	7.4	—	—	5	7.3	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	63	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(6) 全国の配偶者等からの暴力に関する相談事業の統括をする方との情報交換や交流をおこなうことができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	12	30.0	8	29.7	—	—	20	29.4	20	29.9
おおむねできた	23	57.5	13	48.1	1	100.0	37	54.4	37	55.2
あまりできなかった	4	10.0	5	18.5	—	—	9	13.2	9	13.4
できなかった	—	—	1	3.7	—	—	1	1.5	1	1.5
無回答	1	2.5	—	—	—	—	1	1.5	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	67	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(7) その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
十分できた	1	2.5	—	—	—	—	1	1.5	1	14.3
おおむねできた	4	10.0	2	7.4	—	—	6	8.8	6	85.7
あまりできなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	35	87.5	25	92.6	1	100.0	61	89.7	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	7	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

3 本研修への満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	合計	※%
非常に満足した	10	25.0	5	18.5	—	—	15	22.1	15	22.8
満足した	23	57.5	18	66.7	1	100.0	42	61.8	42	63.6
少し物足りなかった	5	12.5	3	11.1	—	—	8	11.8	8	12.1
物足りなかった	1	2.5	—	—	—	—	1	1.5	1	1.5
無回答	1	2.5	1	3.7	—	—	2	2.8	—	—
合計	40	100.0	27	100.0	1	100.0	68	100.0	66	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・ 4月着任してこの時期に参考になるプログラムを組んでいただき、ありがたいと思います。
- ・ 講師の方々のお話がわかりやすく、非常に勉強になった。
- ・ 参加者各々の意見が聞けて良かった。

【地域ブロック別参加者内訳】

	女性	男性	合計	割合
北海道・東北	5	3	8	11.4%
関東・甲信越	13	4	17	24.3%
北陸・東海	4	3	7	10.0%
近畿	9	6	15	21.4%
中国・四国	4	7	11	15.7%
九州・沖縄	7	5	12	17.1%
合計	42	28	70	100.0%

【現職在職年数】

	女性	男性	合計	割合
1年未満	11	9	20	28.6%
1年以上2年未満	8	6	14	20.0%
2年以上3年未満	5	3	8	11.4%
3年以上4年未満	2	1	3	4.3%
4年以上5年未満	3	—	3	4.3%
5年以上	6	6	12	17.1%
その他	—	—	—	0.0%
無回答	7	3	10	14.3%
合計	42	28	70	100.0%

平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」実施要項
(北海道・東北・関東甲信越ブロック)

- 1 趣 旨 北海道・東北・関東甲信越の配偶者暴力相談支援センターや男女共同参画センター等で相談を行う職員を対象に、配偶者からの暴力に関するさまざまな事象への的確な対応や配慮事項についての専門的・実践的な研修を行います。
- 2 主 催 内閣府
独立行政法人国立女性教育会館
- 3 会 場 独立行政法人 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6724
FAX 0493-62-6720
ホームページ URL <http://www.nwec.jp/>
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
- 4 期 日 平成23年10月12日(水)～10月13日(木) 1泊2日
- 5 参加者 都道府県及び市区町村の配偶者暴力相談支援センター(婦人相談所を兼ねる配偶者暴力相談支援センターも含む)又は男女共同参画センター等において、相談員等としての経験年数が概ね2年以上の者
(地方公共団体における関連施策担当者、民間団体における相談員等も参加可能です)
※ 定員120名

6 日程・内容

第1日 10月12日(水)

- (1) 開 会 12:30～12:45
① 主催者あいさつ
② オリエンテーション
- (2) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」 12:45～13:15
配偶者等からの暴力の被害者支援体制と支援のあり方について、内閣府の施策や動向に関する最新の情報をお知らせします。
講 師 内閣府男女共同参画局担当官
- (3) 講義「配偶者からの暴力の相談の受け方ー相談員のメンタルヘルスー」 13:15～15:15
配偶者からの暴力相談に当たっての留意点や相談技法を学びつつ、相談員のメンタルヘルスに関する知識を学びます。
講 師 竹下 小夜子 さよウィメンズ・メンタルクリニック院長、精神科医
- (4) ワークショップⅠ「スーパービジョンを体験する」 15:30～17:30
具体事例を用いたスーパービジョンにより、被害者支援の実際を学びます。

スーパーバイザー (50音順)

池田 ひかり 明治学院大学ハラスメント相談支援センター女性センター相談員
石本 宗子 久留米市男女平等推進センター相談コーディネーター、社会福祉士

竹下 小夜子 さよウィメンズ・メンタルクリニック院長、精神科医
原田 恵理子 名古屋市子ども青少年局子ども育成部主幹、本事業企画委員
平川 和子 東京フェミニストセラピセンター所長、本事業企画委員

- (5) 情報交換会 19:00～20:00
情報交換や連携促進を促進します。

第2日 10月13日(木)

- (6) 講義「配偶者からの暴力の実態と支援に役立つ法知識」 9:00～10:30
配偶者からの暴力の実態や暴力被害による心身への影響、支援に役立つ法などの事柄について学びます。
講 師 番 敦子 日弁連犯罪被害者支援委員会副委員長、弁護士

- (7) 講義「加害者への対応」 10:30～12:00
相談、保護において、被害者とその親族等の安全確保に必要な知識・方策等について学びます。
講 師 原田 恵理子 名古屋市子ども青少年局子ども育成部主幹、本事業企画委員

- (8) ワークショップⅡ「困難な問題を抱えた当事者への支援を考える」 13:00～15:00

以下の4つのテーマから一つを選択し、問題を抱えた当事者の支援について、ケース検討を行います。

- ① A「重複被害を受けた被害者への支援と留意点」
講 師 白川 美也子 横浜カメリア・ホスピタル／岩手晴和病院 精神科医、臨床心理士
- ② B「障がいを持っている被害者への支援と留意点」
講 師 加藤 真規子 NPO 法人精神障害者ピアサポートセンターこらーる
たいとう代表
- ③ C「子どもを連れた被害者への支援と留意点」
講 師 柿田 多佳子 長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター
こども・女性支援部女性支援課長
- ④ D「被災地における女性への支援と留意点」
講 師 田端 八重子 もりおか女性センター センター長、本事業企画委員

- (9) 閉 会 15:00～15:15

7 所要経費

- (1) 参加費 無料
- (2) 交通費 内閣府の規定に基づき支給（後日払い）
- (3) 宿泊費 ワークショップ期間中は1泊 1,000円（前・後泊を含みます。）
内閣府の規定に基づき支給（後日払い）
なお、通勤圏内（通勤圏内とは自宅最寄り駅から会場までの往復路程全体で100kmとする）の場合、宿泊費は支給いたしませんので、あらかじめ御了解ください。
- (4) 食 費 1食 1,000円程度（カフェテリア方式）自己負担
- (5) 情報交換会費 1,000円（飲み物、お菓子、消費税を含みます）自己負担

* ワークショップ期間中の宿泊及び食事は、会館施設をご利用ください。

8 問い合わせ先

◇ ワークショップの内容に関すること

内閣府男女共同参画局推進課

03-5253-2111

(内線83762) 中里

◇ ワークショップの申込等事務手続きに関すること

国立女性教育会館事業課

0493-62-6724 (直通)

森下、玉川

**平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」実施要項
(中部・近畿・四国ブロック)**

- 1 趣 旨** 中部・近畿・四国の配偶者暴力相談支援センターや男女共同参画センター等で相談を行う職員を対象に、配偶者からの暴力に関するさまざまな事象への的確な対応や配慮事項についての専門的・実践的な研修を行います。
- 2 主 催** 内閣府
独立行政法人 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6724
FAX 0493-62-6720
ホームページ URL <http://www.nwec.jp/>
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
- 3 共 催** 財団法人 大阪府男女共同参画推進財団
- 4 会 場** 大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）
〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号
TEL 06-6910-8500
FAX 06-6910-8775
- 5 期 日** 平成23年11月1日（火）～ 11月2日（水） 1泊2日
- 6 参 加 者** 都道府県及び市区町村の配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所を兼ねる配偶者暴力相談支援センターも含む）又は男女共同参画センター等において、相談員等としての経験年数が概ね2年以上の者（地方公共団体における関連施策担当者、民間団体における相談員等も参加可能です）
※ 定員100名

7 日程・内容

第1日 11月1日（火）

- (1) 開 会 12:30～12:45
① 主催者あいさつ
② オリエンテーション
- (2) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」 12:45～13:15
配偶者等からの暴力の被害者支援体制と支援のあり方について、内閣府の施策や動向に関する最新の情報をお知らせします。
講 師 内閣府男女共同参画局担当官
- (3) 講義「配偶者からの暴力の相談の受け方ー相談員のメンタルヘルスー」 13:15～15:15
配偶者からの暴力相談に当たっての留意点や相談技法を学びつつ、相談員のメンタルヘルスに関する知識を学びます。
講 師 石井 朝子 医療法人社団慶神会武田病院顧問、心理学博士
- (4) ワークショップⅠ「スーパービジョンを体験する」 15:30～17:30
具体事例を用いたスーパービジョンにより、被害者支援の実際を学びます。

池田 ひかり 明治学院大学ハラスメント相談支援センター女性センター相談員
井上 摩耶子 ウィメンズカウンセリング京都代表
原田 恵理子 名古屋市子ども青少年局子ども育成部主幹、本事業企画委員
平川 和子 東京フェミニストセラピーセンター所長、本事業企画委員

- (5) 情報交換会 17:30～18:30
情報交換や連携促進を促進します。

第2日 11月2日(水)

- (6) 講義「加害者への対応」 9:15～10:45
相談、保護において、被害者とその親族等の安全確保に必要な知識・方策等について学びます。
講 師 原田 恵理子 名古屋市子ども青少年局子ども育成部主幹、本事業企画委員

- (7) 講義「配偶者からの暴力の実態と支援に役立つ法知識」 10:45～12:15
配偶者からの暴力の実態や暴力被害による心身への影響、支援に役立つ法などの事柄について学びます。
講 師 番 敦子 日弁連犯罪被害者支援委員会副委員長、弁護士

- (8) ワークショップⅡ「困難な問題を抱えた当事者への支援を考える」 13:00～15:00

以下の4つのテーマから一つを選択し、問題を抱えた当事者の支援について、ケース検討を行います。

- ① A「重複被害を受けた被害者への支援と留意点」
講 師 景山 ゆみ子 名古屋市男女平等参画推進室主幹
- ② B「子どもを連れた被害者への支援と留意点」
講 師 柿田 多佳子 長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター
こども・女性支援部女性支援課長
- ③ C「被災地における女性への支援と留意点」
講 師 田端 八重子 もりおか女性センター センター長、本事業企画委員

- (9) 閉 会 15:00～15:15

8 所要経費

- (1) 参加費 無料
- (2) 交通費 内閣府の規定に基づき支給（後日払い）
- (3) 宿泊費 内閣府の規定に基づき、一律7,800円（後日払い）
なお、通勤圏内（通勤圏内とは自宅最寄り駅から会場までの往復路程全体で100kmとする）
の場合、宿泊費は支給いたしませんので、あらかじめ御了解ください。
- (4) 食 費 自己負担
- (5) 情報交換会費 自己負担 1,500円（飲み物、お菓子、消費税を含みます）

平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」実施要項 (中国・九州・沖縄ブロック)

- 1 趣 旨 中国・九州・沖縄の配偶者暴力相談支援センターや男女共同参画センター等で相談を行う職員を対象に、配偶者からの暴力に関するさまざまな事象への的確な対応や配慮事項についての専門的・実践的な研修を行います。
- 2 主 催 内閣府
独立行政法人国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6724
FAX 0493-62-6720
ホームページ URL <http://www.nwec.jp/>
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
- 3 共 催 財団法人福岡県女性財団
- 4 会 場 福岡県男女共同参画センターあすばる
〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7 クローバープラザ内
TEL 092-584-3739
- 5 期 日 平成23年10月4日(火)～10月5日(水) 1泊2日
- 6 参 加 者 都道府県及び市区町村の配偶者暴力相談支援センター(婦人相談所を兼ねる配偶者暴力相談支援センターも含む)、男女共同参画センター等において、相談員等としての経験年数が2年以上の者(地方公共団体における関連施策担当者、民間団体における相談員等も参加可能です)※ 定員50名

7 日程・内容

第1日 10月4日(火)

- (1) 開 会 12:30～12:45
① 主催者あいさつ
② オリエンテーション
- (2) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」 12:45～13:15
配偶者等からの暴力の被害者支援体制と支援のあり方について、内閣府の施策や動向に関する最新の情報をお知らせします。
講 師 内閣府男女共同参画局担当官
- (3) 講義「配偶者からの暴力の相談の受け方ー相談員のメンタルヘルスー」 13:15～15:15
配偶者からの暴力相談に当たっての留意点や相談技法を学びつつ、相談員のメンタルヘルスに関する知識を学びます。
講 師 石井 朝子 医療法人社団慶神会武田病院顧問、心理学博士
- (4) ワークショップⅠ「スーパービジョンを体験する」 15:30～17:30
具体事例を用いたスーパービジョンにより、被害者支援の実際を学びます。

スーパーバイザー (50音順)

石本 宗子 久留米市男女平等推進センター相談コーディネーター、社会福祉士
平川 和子 東京フェミニストセラピシーセンター所長、本事業企画委員

- (5) 情報交換会 17:30～18:30
情報交換や連携促進を図ります。

第2日 10月5日(水)

- (6) 講義「配偶者からの暴力の実態と支援に役立つ法知識」 9:00～10:30
配偶者からの暴力の実態や暴力被害による心身への影響、支援に役立つ法などについて学びます。
講 師 川崎 政宏 NPO 法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ理事長、
弁護士

- (7) 講義「加害者への対応」 10:30～12:00
相談、保護において、被害者とその親族等の安全確保に必要な知識・方策等について学びます。
講 師 納米 恵美子 男女共同参画センター横浜館長

- (8) ワークショップⅡ「困難な問題を抱えた当事者への支援を考える」 13:00～15:00

以下の3つのテーマから一つを選択し、問題を抱えた当事者の支援について、ケース検討を行います。

- ① A「重複被害を受けた被害者への支援と留意点」
講 師 石本 宗子 久留米市男女平等推進センター相談コーディネーター、社会福祉士
- ② B「子どもを連れた被害者への支援と留意点」
講 師 柿田 多佳子 長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター
こども・女性支援部女性支援課長
- ③ C「被災地における女性への支援と留意点」
講 師 田端 八重子 もりおか女性センター センター長、本事業企画委員

- (9) 閉 会 15:00～15:15

8 所要経費

- (1) 参加費 無料
- (2) 交通費 内閣府の規定に基づき支給（後日払い）
- (3) 宿泊費 内閣府の規定に基づき、一律7,800円支給（後日払い）
なお、通勤圏内（通勤圏内とは自宅最寄り駅から会場までの往復路程全体で100kmとする）の場合、宿泊費は支給いたしませんので、あらかじめ御了解ください。
- (4) 食 費 自己負担
- (5) 情報交換会費 自己負担 1,000円程度（飲み物、お菓子、消費税を含みます）

9 問い合わせ先

◇ ワークショップの内容に関すること

内閣府男女共同参画局推進課
03-5253-2111
(内線83762) 中里

◇ ワークショップの申込等事務手続きに関すること

国立女性教育会館事業課
0493-62-6724（直通）
森下、玉川

平成23年度「配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ」 相談員の概況

(北海道・東北・関東甲信越ブロック)(中部・近畿・四国ブロック)(中国・九州・沖縄ブロック)

1 趣旨

全国の配偶者暴力相談支援センターや男女共同参画センター等で相談を行う、おおむね2年以上の経験を有する職員を対象に、配偶者からの暴力に関するさまざまな事象への的確な対応や配慮事項についての専門的・実践的な研修を行う。

2 主催

内閣府、独立行政法人国立女性教育会館

3 開催期日

平成23年10月4日(火)～10月5日(水)……(中国・九州・沖縄ブロック)

平成23年10月12日(水)～10月13日(木)……(北海道・東北・関東甲信越ブロック)

平成23年11月1日(火)～11月2日(水)……(中部・近畿・四国ブロック)

4 会場

中国・九州・沖縄ブロック……福岡県男女共同参画センターあすばる

北海道・東北・関東甲信越ブロック・国立女性教育会館

中部・近畿・四国ブロック……大阪府立男女共同参画・青少年センター
(ドーンセンター)

5 参加者

【3ブロック合計】

・定員	270	名			
・応募者	440	名			
・参加者(男女内訳)	277	名	(女性	263	名、男性 14名)
・応募倍率(%)	163.0	%			

・地域バランス(参加者内訳)

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	46	3	49
関東・甲信越	64	4	68
北陸・東海	32	1	33
近畿	55	3	58
中国・四国	26	1	27
九州・沖縄	40	2	42
合計	263	14	277

・相談員としての経験年数

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
3年未満	62	26.4	3	27.3	—	—	65	24.4
3年以上～5年未満	60	25.5	2	18.2	—	—	62	23.3
5年以上	85	36.2	4	36.3	1	5.0	90	33.8
無回答	28	11.9	2	18.2	19	95.0	49	18.4
合計	235	100.0	11	100.0	20	100.0	266	100.0

未回収 11 名

6 ワークショップ実施後のアンケートより

相談員ワークショップ3会場の集計

・中部・近畿・四国ブロック	参加者数	100 名	アンケート回収数	95	回収率	95.0
総 計	参加者数	277 名	アンケート回収数	266	回収率	96.0 %

(1) 研修目的に対する達成感

◆次の項目について、研修後の感想にもっとも近いもの(「無回答」を除いた割合)

項目	十分できた		おおむねできた		あまりできなかった		できなかった		合計(人)
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	
1. 相談員としての自分の役割を、振り返り、確認することができた	102	48.3	105	49.8	2	0.9	2	0.9	211
2. 配偶者からの暴力に関する実態・今日的課題について、知ることができた	93	45.4	107	52.2	3	1.5	2	1.0	205
3. 様々な相談への的確な対応や、配慮事項など、実践に役立つ力をつけることができた	93	40.8	125	54.8	8	3.5	2	0.9	228
4. 全国の相談員との情報交換や、交流を行うことができた	44	22.3	96	48.7	51	25.9	6	3.0	197
5. 研修や交流を通して、相談員としてのエンパワメントにつながった	88	43.3	111	54.7	3	1.5	1	0.5	203
6. その他	7	63.6	3	27.3	1	9.1	—	—	11

(2) 参加者の満足度

項目	非常に満足した	満足した	少し物足りなかった	物足りなかった	合計
人数(人)	93	141	18	3	255
割合(%)	36.5	55.2	7.1	1.2	100.0%

満足度 91.8 %

(3) 参加者の有用度

項目	非常に有用だった	有用だった	あまり有用でなかった	有用でなかった	合計
人数(人)	142	111	—	2	255
割合(%)	55.7	43.4	—	0.8	100.0%

満足度 99.2 %

女性教育情報センターの運営

収集資料統計（平成24年3月末現在）

項目		和		洋		計	
		年度受入	累計	年度受入	累計	年度受入	累計
図書	図書	3,565	75,009	388	22,208	3,953	97,217
	地方行政資料	409	25,478	—	8	409	25,486
	計（冊数）	3,974	100,487	388	22,216	4,362	122,703
逐次刊行物	雑誌	62 中止 20	3,206	2 中止 14	731 (62か国)	64	3,937
	新聞	—	74	—	1	—	75
その他	新聞切り抜き	19,501	323,111	—	—	19,501	323,111
	AV資料※	38種	187種	0	4種	38種	191種
	研修貸出用資料※	—	15	—	—	—	15

※毎年見直しを実施

利用状況統計：平成22年度・平成23年度（平成24年3月31日現在）

	平成22年度	平成23年度
資料等利用者数	7,278	8,185
貸出資料総数（冊）	7,484	11,886
図書資料	5,518	10,094
地方行政資料	49	53
雑誌類	694	997
新聞記事	461	246
研修貸出（冊数）	634	165
その他	128	331
レファレンスサービス件数	685	898
内 情報検索利用件数	175	181
文献複写サービス（件数）	845	928
情報研修プログラム（件数）	6	7
情報研修プログラム（人数）	96	71
相互貸借貸出件数	171	245
内 パッケージ貸出件数	20	55

展示実施状況一覧

	期間	テーマ・目的	冊数	会場
テーマ展示	4～6月	災害と女性	72	本館1階 ロビー
	7～9月	進めよう、男女共同参画	99	
	10～12月	女性に対する暴力の根絶	82	
	H24年1～3月	男性にとっての男女共同参画	91	

女性情報ポータルの整備充実

＜文献情報データベース データ件数＞ （平成 24 年 3 月末現在）

	23 年度入力件数	累計
図書	2,286	79,633
雑誌	81	3,937
地方行政資料	229	21,143
和雑誌記事	2,065	62,718
新聞記事インデックス	19,501	323,111
AV 資料	38	191
計	24,137	490,542

＜その他のデータベースのデータ件数＞ （平成 24 年 3 月末現在）

	23 年度入力件数	累計
女性関連施設 DB	2,852	25,348
国立大学における男女共同参画状況 DB	-	86
女性学・ジェンダー論関連科目 DB	-	28,168
女性と男性に関する統計 DB*	-	551
男女共同参画人材 DB*	-	744
女性情報レファレンス事例集	16	232
計	2,868	55,129

* 「女性と男性に関する統計 DB」は、更新のあった調査について、数値を追加しているため、累計（表数）は変化なし。

* 「男女共同参画人材 DB」は、登録に変化あった場合のメンテナンスを行っている。また亡くなった場合は削除している（平成 23 年度は 3 件）。

女性アーカイブの充実

展示

○所蔵展示

奥むめおコレクション、稲取婦人学級資料等の所蔵資料を紹介。

開催期間：平成 23 年 4 月 1 日（木）～8 月 21 日（日） および
平成 23 年 11 月 8 日（火）～平成 24 年 3 月 31 日（土）

入場者数：8,176 人

○企画展示

「化学と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」

男女共同参画社会実現のため、さまざまな分野においてチャレンジした女性たちのあゆみをたどるシリーズ企画の 4 年目。世界化学年とマリー・キュリーのノーベル化学賞受賞百周年にちなみ、女性のノーベル化学賞受賞者（マリー・キュリー、イレヌ・ジョリオ=キュリー、ドロシー・ホジキン、アダ・ヨナット）、日本の女性化学者（猿橋勝子、荻野和子、永合由美子）、および日本における化学教育のあゆみを紹介。

平成 23 年 8 月 29 日（月）～11 月 6 日（日）

入場者数：3,100 人

共催機関：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、東京大学駒場博物館、学校法人東邦大学、公益社団法人日本化学会、明星大学図書館、ライオン株式会社、名古屋大学物質科学国際研究センター

・関連イベント

平成 23 年 8 月 29 日（月）～10 月 24 日（月）

「マリー・キュリー・ポスター展」

キュリー博物館（フランス）制作の、名古屋大学物質科学国際研究センターより借用したポスターを展示。

会場：女性教育情報センター前ホール

館外へのパネル貸出

○名古屋大学物質科学国際研究センター展示「化学と歩む～チャレンジした女性化学者達」

平成 23 年 11 月 28 日（月）～平成 24 年 1 月 20 日（金）

館外における展示

○図書館と県民のつどい埼玉 2011

期日：平成 23 年 11 月 5 日（土） 会場：桶川市民ホール／さいたま文学館

受入予定資料「九重年支子資料」より織機、織物、実用新案証書等を展示・紹介。

研修

○女性情報アーキビスト養成研修（入門）

平成 23 年 12 月 1 日（木）～2 日（金）

- ・第 1 日目の情報交換会において、アーカイブ資料の活用事例紹介として、女性としごとの未来研究会により、旧労働省婦人少年局が 1950 年代に作成した幻灯をデジタルメディアに変換した作品を上映。
- ・その他詳細は実施要項、アンケートを参照。

女性情報アーキビスト養成研修（入門）実施要項

女性の歴史を今に生かし、未来につないでいくためには、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の適切な保存と活用が必要です。独立行政法人国立女性教育会館では、女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者の方を対象に、平成21・22年度に「女性情報アーキビスト入門講座」を実施いたしました。本研修は、この講座を引きついで新たにスタートするもので、女性アーカイブの具体的な保存技術や整理方法をご紹介します、実務者同士の情報交換を行うことを目的としています。

なお、今年度は『災害経験を通して災害に備える』をテーマとし、資料の保存・管理方法と災害との関わりに重点を置いたプログラム編成となっています。

アーカイブの保存や整理について新しい情報をお求めの方、これから業務にとりくむ方、関心をお持ちの方の御参加をお待ちしております。

1. 期 日 平成23年12月1日（木）～12月2日（金） 1泊2日

2. 募集人数 女性史関係者、女性関連施設職員、図書館職員、女性史や女性アーカイブの保存・整理に関心をお持ちの方 など 30名

3. 日程・内容

<第1日 12月1日（木）>

- | | | |
|---|----------------------|-------------|
| (1) 開 会
挨拶
オリエンテーション | 国立女性教育会館理事長
内海 房子 | 13:30～13:45 |
| (2) アーカイブと情報発信
大規模災害時における情報の記録・保管・公開およびアーカイブの役割を学びます。
講 師 | 常磐大学教授
坂井 知志 | 13:45～14:45 |
| (3) アーカイブと著作権
情報の公開・発信と著作権についての理解を深めます。
講 師 | 放送大学教授
尾崎 史郎 | 15:00～16:00 |
| (4) 資料の保存・管理方法 ～紙資料編～
媒体の保存管理と修復の基礎知識を身につけるとともに、被災資料への対応・事前にできる対策等を紹介します。
講 師 | 株式会社資料保存器材
木部 徹 | 16:15～17:15 |
| (5) 女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学 | | 17:30～18:00 |
| (6) 情報交換会（希望者のみ）
参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供します。 | | 19:00～20:30 |

<第2日 12月2日(金)>

- (7) アーカイブの危機管理 9:45~10:45
防災計画の立案および実施、配架・収納の手段等、災害対策の具体的な方法について学びます。
講 師 国文学研究資料館准教授 青木 睦
- (8) 女性アーカイブ概論 11:00~12:00
女性に関わる原資料の定義と意義について、歴史学の視点から捉えます。
講 師 上智大学教授 大澤 正昭
- (9) 資料の保存・管理方法 ~フィルム・写真編~ 13:00~14:00
媒体の保存管理と修復の基礎知識を身につけるとともに、被災資料への対応・事前にできる対策等を紹介します。
講 師 株式会社堀内カラー 肥田 康
- (10) 事例報告および閉会挨拶 14:15~14:45
国立女性教育会館女性アーカイブセンターの事例から女性アーカイブの普及・広報・活用の方
法を学びます。
講 師 国立女性教育会館情報課長 市村 櫻子

4. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館

5. 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地
(東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩12分)
URL: <http://www.nwec.jp/>

6. 所要経費

- (1) 参加費 無料
(2) 宿泊費 研修期間中は1泊 1,000円(前・後泊についても1泊1,000円です。)
(3) 食費 1食あたり800円程度(カフェテリア方式)
(4) 情報交換会費 500円
*研修期間中の宿泊及び食事は、すべて会館をご利用ください。

7. 申込手続

- (1) 方 法 次の①~③いずれかにてお申込ください:

- ①<http://www.nwec.jp/jp/archive/archivist2011.html> から申込書をダウンロードし
てご記入のうえ、FAX または電子メールのファイル添付にてお送りください。電子
メールでお申込の場合は、件名を「女性情報アーキビスト養成研修(入門)申込」
としてください。
- ②チラシ裏面の申込書を FAX でお送りください。
- ③以下の事項を FAX または電子メールでお送りください。電子メールでお申込の場合
は、件名を「女性情報アーキビスト養成研修(入門)申込」としてください。
- 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) TEL 4) FAX
5) 電子メールアドレス 6) 性別 7) ご所属
8) 参加日(全日 / 12月1日のみ / 12月2日のみ)
9) 宿泊・食事の希望
(宿泊/12月1日昼食/12月1日夕食/12月2日朝食/12月2日昼食)
- 10) ご自身またはご所属の機関で保管されている女性アーカイブ資料について
11) この研修で学びたいこと

※記載された個人情報については、国立女性教育会館の事業の企画・実施・連絡のみに使用いたします。今後、国立女性教育会館女性アーカイブセンターの事業実施のご案内を差し上げる場合がございます。ご不要な場合はその旨お書き添えください。
※氏名、住所の都道府県名、ご所属は参加者名簿に記載し、参加者に配布いたします。

お申込の FAX/電子メールに、受付完了の旨返信を差し上げます。3 日以上経っても返信がない場合、届いていない可能性がありますので、お問い合わせください。

(2) 期 限 平成23年11月18日(金)

定員を著しく超えた場合は、期限前に締め切ることもあります。

8. 申込・お問い合わせ先

国立女性教育会館情報課 桂典子・赤嶺良子

TEL: 0493-62-6727 FAX: 0493-62-6721 電子メール: infodiv@nwec.jp

平成23年度女性情報アーキビスト養成研修(入門)アンケート結果

○参加者内訳(申込書より)

・所属

女性・男女共同参画センター	18
図書館	6
文書館・文学館	1
女性史グループ	1
その他	13
計	39

・地域

北海道・東北	2
関東・甲信越	32
中部・北陸	1
近畿	2
中国・四国	2
九州・沖縄	0
計	39

○終了時アンケート集計結果

1. このプログラムで参加された日程について

12月1日のみ参加	1
1日、2日の2日間参加	28
2日のみ参加	1
無回答	3
計	33

2. 今回の講座を何でお知りになりましたか。(複数回答)

国立女性教育会館の広報(ホームページ、チラシなど)	20
所属している団体・グループからの呼びかけ	8
友人・知人からの誘い	1
その他	1
無回答	5
計	35

3. 講座の内容はいかがでしたか。

	アーカイブと 情報発信	アーカイブと 著作権	資料の保存・ 管理方法：紙 資料	情報センター・ アーカイブセ ンター見学	情報交換会	アーカイブの 危機管理	女性アーカイ ブ概論	資料の保存・ 管理方法：写 真資料	NWEC事例 報告
非常に有用だった	21	21	21	15	15	27	10	12	9
概ね有用だった	10	11	10	7	5	4	16	13	10
あまり有用でなかった	1	—	1	—	1	—	3	1	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加していない	—	—	—	9	8	1	2	3	4
無回答	1	1	1	2	4	1	2	4	10
計	33	33	33	33	33	33	33	33	33

* 講座の内容(%)

	アーカイブと 情報発信	アーカイブと 著作権	資料の保存・ 管理方法：紙 資料	情報センター・ アーカイブセ ンター見学	情報交換会	アーカイブの 危機管理	女性アーカイ ブ概論	資料の保存・ 管理方法：写 真資料	NWEC事例 報告	参加 者平 均	満足度
非常に有用だった	65.6%	65.6%	65.6%	48.4%	51.7%	84.4%	32.3%	41.4%	39.1%	61.3	97.2%
概ね有用だった	31.3%	34.4%	31.3%	22.6%	17.2%	12.5%	51.6%	44.8%	43.5%	35.9	
あまり有用でなかった	3.1%	—	3.1%	—	3.4%	—	9.7%	3.4%	—	2.8	
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
参加していない	—	—	—	29.0%	27.6%	3.1%	6.5%	10.3%	17.4%	—	
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0	

※%の算出からは無回答を除外

4. 参加した全体の感想

	回答数	%
非常に満足した	18	54.5%
概ね満足した	13	39.4%
少し物足りなかった	2	6.1%
物足りなかった	—	—
無回答	—	—
計	33	100.0%

満足度

93.9%

5. 望ましいと思われる日程(複数回答)

1泊2日が適当	27
もっと長い日程がよい	—
春の時期がよい	2
夏の時期がよい	1
秋の時期がよい	4
冬の時期がよい	1
その他	3
無回答	4
計	42

6. あなた自身について

(1) 所属

女性・男女共同参画センター	11
図書館	6
文書館・文学館	—
女性史グループ	—
その他	13
無回答	3
計	33

(2) 性別

女性	30
男性	3

(3) 年齢

20歳代	2
30歳代	6
40歳代	6
50歳代	9
60歳代	6
70歳以上	3
無回答	1
計	33

(4) 国立女性教育会館女性アーカイブセンターをご存知でしたか。

知っていて、利用したことがある	14
利用したことはないが知っていた	15
知らなかった	3
無回答	1
計	33

自由記述より

<講義に対して>

「大変有意義な講座だった」

「紙の乾燥法やカビの予防など、役に立つ知識ばかりだった」

「記録すること、アーカイブの重要性を再認識した」

「時間が短い」(複数あり)

<講義以外について>

「各地の女性センターの方や、講師の方と交流ができとても良かった」(情報交換会)

「規模の大きさに驚いた以上に、職員の方の案内の完璧さに驚いた。大変理解しやすく勉強になった」
(女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学)

「時間が短い」(複数あり)

<全体の感想>

「震災関連資料に保存について最新かつ有用な情報を入手できた。同時に講師の先生方の考え、姿勢から多くを学んだ」

「知識とネットワークを得られて嬉しく思う」

<今後開催する研修について>

「今回、入門編ということだったので、次のステップにすすむ形、初級、中級と続けて受講できるとよい」

「著作権のものは、来年も行ってほしい」

<女性アーカイブセンターに期待すること等>

「アーカイブの重要性はなかなか理解されていないが、手本となるヌエックがあるから、地方でも必要性を言うことができる。充実させてください」

「関係機関の連携は重要なので、今後も女性情報アーカイブ事業をすすめるとともに、女性のよりよい地位をつくるためにご指導をお願いします」

埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携「キャリア教育」プログラム実施要項

1. 趣旨

埼玉県私立短期大学協会に加盟する短期大学と国立女性教育会館が連携し、学生と教職員の交流を図りながら進める「キャリア教育」の一環として、「男女共同参画の視点に基づくキャリア教育プログラム」を実施する。

2. 主題「キャリアを考える～これからの人生を意義あるものとするために～」

本講座は、男女共同参画型社会における女性としての生涯（ライフキャリア）形成の考え方を学び、人間と人間の関わり合いとその方法の基礎を学ぶ（関係力の育成）とともに、他大学の学生と交流することなどにより、多様性（ダイバーシティ）をお互いに認め、他の文化や人などを尊重する態度を養うことを目標とする。

2. 主催

埼玉県私立短期大学協会、国立女性教育会館

3. 会場

独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292

TEL 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

URL <http://www.nwec.jp/>

4. 期日

平成23年9月1日（木）～9月3日（土）2泊3日

5. 参加者

埼玉県私立短期大学協会会員校学生40名

6. 科目名と単位数

各短期大学の該当科目（「キャリアデザイン」等）において単位認定を行う。

講義・演習科目として2単位

7. 日程

別添のとおり

8. その他

本事業と関係して、8月31日（水）に埼玉県私立短期大学協会による「教職員研修会」（国立女性教育会館協賛）が実施される。

「埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携プログラム」

女子学生のためのキャリア形成講座(夏季集中講座)

2011年9月1日(木)～9月3日(土)

期日	時間	コマ数	実施場所	授 業 内 容	担 当 者
九月一日(木)	13:00		101研修室	開講挨拶	埼玉短協：藤巻会長 NWE C：内海理事長
	13:15 14:00	1	101研修室	プログラムオリエンテーション (事前アンケート)	NWE C 桜田専門官・佐國専門職員
	14:10 15:10	2	101研修室	これからのキャリアを考えてみよう	埼玉短協：藤田学長 深澤学長・平工教授
	15:20 16:20	3	101研修室	講義「キャリア形成における社会参画の画期性 (参加から参画へ)ー男女共同参画の視点」	NWE C 神田道子前理事長
	17:00 17:45	4	本館	情報収集の手段を学ぶ (女性教育情報センター・女性アーカイブセンター)	NWE C情報課職員
	18:00		レストラン	・ ・ ・ ・ ・ 夕 食 ・ ・ ・ ・ ・	自由に館内散策
	19:30 21:00	5	ミーティング ルーム	自己紹介・レクリエーション 友達を作ろう	埼玉短協：安倍講師
九月二日(金)	7:30 8:30		レストラン	・ ・ ・ ・ ・ 朝 食 ・ ・ ・ ・ ・	
	9:00 10:00	6	101研修室	講義「女性のキャリアパスを考える ー複合キャリアとは」	NWE C 中野研究国際室長
	10:15 14:00	7	101研修室	グループワーク「複合キャリアの視点からキャリアパスの事例分析」6人×4グループ グループ発表「複合キャリアの事例分析」 (グループごとに適宜昼食)	コーディネータ NWE C野依研究員 アシスト 埼玉短協教員・NWE C職員
	14:10 15:20	8	101研修室	ワークライフバランス-女医の場合を中心に-	埼玉医科大学 名越澄子教授
	15:30 17:00	9	101研修室	講義・グループワーク 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	NWE C 森情報課専門職員
	18:00 19:30		レストラン	・ ・ ・ ・ ・ 夕 食 ・ ・ ・ ・ ・	自由に館内散策
	19:30 21:00	10	ミーティング ルーム	グループワーク ゲストスピーカーのキャリアに学ぶ	八巻・掃部・菊池さん コーディネータ：藤田学長
九月三日(土)	7:30 8:30		レストラン	・ ・ ・ ・ ・ 朝 食 ・ ・ ・ ・ ・	
	9:00 10:00	11	101研修室	「社会人(ビジネス)マナー」の基本	埼玉短協：細田咲江准教授
	10:10 11:45	12	101研修室	討議・まとめ「自分自身のキャリアを考える」	コーディネータ NWE C佐國事業課専門職員 コメント 深澤学長・平工教授・藤田学長
	11:45 11:55	13	101研修室	まとめ、振り返り(事後アンケート)	NWE C 佐國事業課専門職員
	11:55		101研修室	閉講の挨拶	NWE C：中野研究国際室長 埼玉短協：藤田学長

於：国立女性教育会館(嵐山町)

平成 23 年度埼玉大学との連携事業について

1. 授業名：「男女共同参画社会を考える」

2. 授業の目的

社会でも家庭でも男女がともに主体であり、対等に協力できる男女共同参画社会をつくることが求められている。しかし私たちはいつの間にか様々な場面で「男らしさ」「女らしさ」を内面化している。そのことがいかに男女の生き方を拘束しているのか、どうすればそれらを変えることが出来るのかについて、様々な方法や考え方を学ぶ。

埼玉大学男女共同参画室と国立女性教育会館との連携プログラムであり、会館の女性アーカイブセンター資料等の情報資料、および調査研究の資料を活用する。グループ・ワークを主体に授業を進める予定である。

回	日付	場所	内容	担当教員
1	4/13	埼玉大学	1 オリエンテーション ：授業の進め方についてほか	吉川・金井
2	4/20	埼玉大学	1 「男女共同参画とは、男女共同参画についての国際的・国内的動向」 2 埼玉大学における男女共同参画	1 NVEC 2 伊藤
3	4/27	埼玉大学	1 班分け 2 情報検索のデモンストレーション・実習	1 吉川・金井 2 NVEC・市村
4	5/11	埼玉大学	1 講義：こどもとジェンダー①	吉川
5	5/18	埼玉大学	2 講義：こどもとジェンダー②	吉川
6	5/25	埼玉大学	1 講義：教育とジェンダー①	田代
7	6/1	埼玉大学	2 講義：教育とジェンダー②	田代
8	6/8	埼玉大学	1 講義：労働とジェンダー①	金井
9	6/15	埼玉大学	2 講義：労働とジェンダー②	金井
10	6/22	埼玉大学	1 講義：セクシュアリティ	田代
11	6/25	NVEC	1 女性教育情報センターの見学等	NVEC
12	6/25	NVEC	2 資料収集	NVEC
13	7/6	埼玉大学	1 ゲストスピーカー 2 グループ討議	吉川・金井
14	7/20	埼玉大学	1 各班の発表	吉川・金井
15	7/27	埼玉大学	1 まとめ	吉川・金井

平成23年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム (NVEC フォーラム)」実施要項

1. 趣旨

男女共同参画社会の形成に向け、今、私たちが自らの意思で社会に参画し、新しい地域社会を創出していく上での課題とその解決方法を見出す機会とするとともに、“研究”“学習”“実践”を結び、女性のエンパワーメントをめざす交流の場とします。

2. 主題 「男女共同参画社会への展望—新たなコミュニティ創出のための関係づくり」

3. 主催・会場

独立行政法人 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

4. 期日

平成23年10月21日（金）～10月23日（日） 2泊3日

5. 参加者

女性団体等のリーダー、研究者、男女共同参画・女性教育・家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、NPO、学生等 1000名

6. 日程

10/21 (金)	12:30		13:00	15:00	15:30	17:30	18:30	20:00
		開 会	ワーク ショップ 1		ワーク ショップ 2		交流会	
10/22 (土)	9:30	11:30	12:30	14:30	15:00	17:00	19:30	21:00
	ワーク ショップ 3	昼 食	ワーク ショップ 4		ワーク ショップ 5		自由交流	
10/23 (日)	10:30		12:30					
		シンポジウム	閉 会					

*当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第14分野 地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」の「1 地域における男女共同参画推進の基盤づくり」に位置づけられている事業です。

7. 内容

*各ワークショップのタイトル、運営団体・グループ名、日時等につきましては、「ワークショップ一覧」をご覧ください。

*2時間のワークショップの運営時間には、設営と片付けに要する時間も含んでいます。

第1日 10月21日（金）（受付時間：11:30～18:00、本館1階ロビー）

(1) 開会 主催者あいさつ

12:30 ～ 12:50

- (2) ワークショップ 1 13:00 ～ 15:00
全国から募集したワークショップ（9件）を行います。
- (3) ワークショップ 2 15:30 ～ 17:30
全国から募集したワークショップ（9件）と文部科学省提供ワークショップ（1件）、会館提供ワークショップ（1件）を行います。
- (4) 交流会 18:30 ～ 20:00
夕食を兼ねた交流会（有料、3,000円、要事前申込）です。

第2日 10月22日（土）（受付時間：9:00～16:30、本館1階ロビー）

- (5) ワークショップ 3 9:30 ～ 11:30
全国から募集したワークショップ（10件）と会館提供ワークショップ（1件）を行います。
- (6) ワークショップ 4 12:30 ～ 14:30
全国から募集したワークショップ（8件）と会館提供ワークショップ（2件）を行います。
- (7) ワークショップ 5 15:00 ～ 17:00
全国から募集したワークショップ（8件）と会館提供ワークショップ（2件）を行います。
- (8) 展示ワークショップ 9:30 ～ 17:00
全国から募集した展示ワークショップ（6件）を行います。
- (9) 会館主催国際研修参加者によるポスターセッション 14:30～16:00
国立女性教育会館主催の「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」研修参加者による「災害とジェンダー」についてのポスターセッションを行います。
- (10) 自由交流 19:30 ～ 21:00
参加者同士が誘い合って自由に交流します。

第3日 10月23日（日）（受付時間：9:00～12:00、研修棟1階）

- (11) シンポジウム 10:30 ～ 12:30

「災害・震災復興と地域づくりー男女共同参画社会への展望」

未曾有の被害をもたらした東日本大震災を契機に、私たちは、価値観の転換、既存の社会システムの見直しをせまられています。ひとりひとりが、孤立することなく、つながり、支え合いながら、誰もが安全・安心に暮らせる地域社会を創出していく上で、何が求められているのか、男女共同参画社会を見すえながら、多角的な視点から議論します。

シンポジスト

吉村 美栄子	山形県知事
中村 順子	特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長
鈴木 素雄	河北新報社 論説委員長
コーディネーター	
萩原 なつ子	立教大学教授

- (12) 閉会 12:30

8. ワークショップのテーマ

テーマは、「第3次男女共同参画基本計画」に示されている施策を参考に、以下の5つのテーマを設定しました。

①【女性のキャリア形成】

雇用等における機会の均等と待遇の確保、継続就業、再就職、起業への支援、社会活動キャリアに対する評価、ライフプランニング支援の促進、大学における男女共同参画の推進、科学技術・学術分野への女性の参画 等

②【男性についての男女共同参画】

男性の男女共同参画に対する理解の促進、企業における男性管理職等への意識啓発、仕事と生活の調和のとれた働き方の推進、男性の家庭・地域への参画、男性に対する相談体制の確立 等

③【安全・安心と男女共同参画】

女性に対する暴力の根絶、人身取引、災害・震災への取組、生活上の困難に直面する男女への支援、高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備 等

④【災害・震災と地域づくり・仕事づくり】

政策・方針決定過程への女性の参画、地域における男女共同参画の推進、地域経済の活性化とコミュニティビジネスにおける女性の参画、地域や分野を横断するネットワークづくり、子ども・子育てにおける地域の役割、農山漁村女性のエンパワーメント、環境分野における女性の参画 等

⑤【男女共同参画の拠点】

男女共同参画意識づくりに向けた取組、女性関連施設・社会教育施設の機能の充実、団体・グループ・NPO活動の支援、指定管理者制度のあり方、男女共同参画情報の発信・活用 等

9. 交流推進の支援

参加者同士の交流推進を支援するため、会館ボランティアの参画によるプログラムを実施します。参加は自由です。

【さんかくカフェ】(試食室)

参加者同士の出会いの場です。

【情報のひろば】(本館2階 女性教育情報センター前)

参加者が無料の広報物、チラシ等の配布、または、有料の資料、書籍、パンフレット等の頒布を通して情報交換を行う場です。

【交流推進プログラム】

朝や夜の時間帯に、モーニング・アクティビティやナイト・レクチャーなどを実施します。

10. 企画委員 5名(五十音順・敬称略)

本フォーラムの企画を会館と共同で行います。

- ・矢澤 澄子 元東京女子大学教授(企画委員長)
- ・内田 洋子 埼玉県男女共同参画推進センター所長
- ・田中 雅文 日本女子大学教授
- ・中畔 都舎子 全国地域婦人団体連絡協議会長
- ・根岸 茂文 社団法人埼玉県経営者協会専務理事・事務局長

11. 交流推進委員 10名(五十音順・敬称略)

テーマワークショップ等を企画・運営し、参加者のネットワークづくりをすすめます。

- ・青木 玲子 国立女性教育会館客員研究員
- ・渥美 由喜 内閣府男女共同参画会議専門委員・株式会社東レ経営研究所
- ・高市 美佐子 国立女性教育会館ボランティア
- ・田中 秀子 国立女性教育会館ボランティア
- ・西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員
- ・野呂 知加子 日本大学准教授
- ・萩原 なつ子 立教大学教授
- ・正木 光子 国立女性教育会館ボランティア
- ・松村 聡子 千葉大学大学院融合科学研究科博士前期課程1年
- ・吉田 容子 弁護士・立命館大学教授

12. 女性教育情報センター(本館2階)

男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館です。全国各地のミニコミ誌などNVECならではの資料もそろえております。ぜひご利用ください。開室時間は、以下のとおりです。

10月21日(金) 9:00~18:30

10月22日(土) 9:00~19:00

10月23日（日）9:00～17:00

1 3. 女性アーカイブセンター展示室（本館1階）

女性アーカイブセンターでは、男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性・全国的な女性団体や、女性教育・男女共同参画施策等に関する史・資料を収集しています。

平成23年度企画展示「化学と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」を開催中です。ぜひご覧ください。

開室時間：9:00～19:00（3日間共に）

1 4. アンケート

今後の事業を企画する上での参考といたしますので、アンケートのご協力をお願いいたします。お帰りの際、ご記入いただいたアンケート用紙は、所定の箱にご提出ください。

1 5. その他

（1）フォーラム期間中、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスをピストン運行いたしますのでご利用ください。

（2）以下の点につきまして、あらかじめご了承ください。

①期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。

②計画停電等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合がございます。

③期間中、フォーラム以外の団体の方も会館を利用しております。

（3）参加者相互の交流・情報交換の促進を目的としたフォーラムですので、行き過ぎた勧誘や署名運動、募金等のご遠慮願います。

平成23年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」参加者概況

2011年11月14日現在

1. 参加区分別人数

(人)

一般参加者			WS運営者			講師・会館運営者			合計		
	計	%		計	%		計	%		計	%
女性	454	83.0	女性	216	87.1	女性	92	83.6	女性	762	84.2
男性	93	17.0	男性	32	12.9	男性	18	16.4	男性	143	15.8
計	547	100.0	計	248	100.0	計	110	100.0	計	905	100.0

定員 1,000 名
充足率 90.5 %

平成22年度参加者 1,421 名

【区分内訳】

一般参加者 事前申込者(宿泊・日帰り・通い、団体)、当日申込者

WS運営者 募集ワークショップ運営者

講師・会館運営者 企画委員、交流推進委員、会館プログラム講師・運営者、会館ボランティア等

【一般参加者・区分別人数】

	事前申込			当日	合計
	宿泊	日帰り	団体		
女性	115	71	190	78	454
男性	19	21	34	19	93
計	134	92	224	97	547

2. 参加日数別

	一般参加者				WS運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
全日程	143	24	167	30.5	35	5	40	16.1	28	5	33	30.0	206	34	240	26.5
21日・22日	27	11	38	6.9	37	5	42	16.9	10	4	14	12.7	74	20	94	10.4
22日・23日	8	1	9	1.6	17	1	18	7.3	8	2	10	9.1	33	4	37	4.1
21日・23日	2	-	2	0.4	-	-	-	-	1	1	2	1.8	3	1	4	0.4
21日のみ	98	27	125	22.9	43	4	47	19.0	14	2	16	14.5	155	33	188	20.8
22日のみ	108	21	129	23.6	84	17	101	40.7	27	3	30	27.3	219	41	260	28.7
23日のみ	68	9	77	14.1	2	2	4	1.6	4	1	5	4.6	72	10	82	9.1
計	454	93	547	100.0	216	32	248	100.0	92	18	110	100.0	762	143	905	100.0

3. 年代別

	一般参加者				WS運営者				講師・会館運営者				総数			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
10～19歳	3	1	4	0.7	1	-	1	0.4	-	-	-	-	4	1	5	0.6
20～29歳	13	4	17	3.1	4	1	5	2.0	4	-	4	3.6	21	5	26	2.9
30～39歳	28	9	37	6.8	14	3	17	6.9	7	-	7	6.4	49	12	61	6.7
40～49歳	49	17	66	12.1	20	6	26	10.5	4	-	4	3.6	73	23	96	10.6
50～59歳	94	19	113	20.6	34	7	41	16.5	10	-	10	9.1	138	26	164	18.1
60～69歳	139	18	157	28.7	59	4	63	25.4	15	6	21	19.1	213	28	241	26.6
70歳以上	56	10	66	12.1	29	-	29	11.7	5	1	6	5.5	90	11	101	11.2
無回答	72	15	87	15.9	55	11	66	26.6	47	11	58	52.7	174	37	211	23.3
計	454	93	547	100.0	216	32	248	100.0	92	18	110	100.0	762	143	905	100.0

4. 職業形態別

	一般参加者				WS運営者				講師・会館運営者				総数			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
a-1 教育委員会	2	2	4	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	4	0.4
a-2 男女共同参画行政	69	24	93	17.0	1	2	3	1.2	1	-	1	0.9	71	26	97	10.7
a-3 その他の行政	9	6	15	2.7	1	-	1	0.4	11	2	13	11.8	21	8	29	3.2
b 研究者・大学教員	15	8	23	4.2	26	6	32	12.9	14	3	17	15.5	55	17	72	8.0
c 小・中・高校教員	5	-	5	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	0.6
d 団体・グループ	229	29	258	47.2	83	8	91	36.7	45	9	54	49.1	357	46	403	44.5
e-1 社会教育施設	1	-	1	0.2	1	-	1	0.4	-	-	-	-	2	-	2	0.2
e-2 女性関連施設	25	6	31	5.7	18	1	19	7.7	6	-	6	5.5	49	7	56	6.2
e-3 その他の施設	-	3	3	0.5	1	1	2	0.8	-	1	1	0.9	1	5	6	0.7
f マスコミ	2	-	2	0.4	1	-	1	0.4	1	1	2	1.8	4	1	5	0.6
g 議員	9	2	11	2.0	2	-	2	0.8	-	-	-	-	11	2	13	1.4
h 会社員	5	3	8	1.5	8	1	9	3.6	6	-	6	5.5	19	4	23	2.5
i 学生	8	1	9	1.6	6	-	6	2.4	4	-	4	3.6	18	1	19	2.1
j 主婦・主夫	37	-	37	6.8	14	1	15	6.1	-	-	-	-	51	1	52	5.7
k 無職	5	3	8	1.5	6	-	6	2.4	4	1	5	4.5	15	4	19	2.1
l その他	18	4	22	4.0	13	2	15	6.1	-	-	-	-	31	6	37	4.1
無回答	15	2	17	3.1	35	10	45	18.1	-	1	1	0.9	50	13	63	7.0
計	454	93	547	100.0	216	32	248	100.0	92	18	110	100.0	762	143	905	100.0

5. 都道府県別（政令指定都市は都道府県の内数に含む）

	一般参加者				WS運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
北海道	30	2	32	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	30	2	32	3.5
（札幌市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
青森県	8	1	9	1.6	3	-	3	1.2	-	-	-	-	11	1	12	1.3
岩手県	5	2	7	1.3	8	2	10	4.1	1	-	1	0.9	14	4	18	2.0
宮城県	1	-	1	0.2	-	-	-	-	3	1	4	3.7	4	1	5	0.6
（仙台市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
秋田県	11	2	13	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-	11	2	13	1.4
山形県	4	1	5	0.9	2	2	4	1.6	4	-	4	3.7	10	3	13	1.4
福島県	27	5	32	5.9	8	-	8	3.2	-	-	-	-	35	5	40	4.4
茨城県	18	3	21	3.8	3	-	3	1.2	-	-	-	-	21	3	24	2.7
栃木県	44	1	45	8.2	-	-	-	-	-	-	-	-	44	1	45	5.0
群馬県	22	4	26	4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	22	4	26	2.9
埼玉県	40	12	52	9.5	47	10	57	23.0	45	11	56	50.9	132	33	165	18.2
（さいたま市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(2)	(3)	(1.2)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(2)	(3)	(0.3)
千葉県	46	9	55	10.1	12	-	12	4.8	2	-	2	1.8	60	9	69	7.6
（千葉市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(-)	(3)	(1.2)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(-)	(3)	(0.3)
東京都	60	11	71	13.0	76	6	82	33.1	20	4	24	21.8	156	21	177	19.6
神奈川県	5	1	6	1.1	14	2	16	6.5	2	-	2	1.8	21	3	24	2.7
（横浜市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	(2)	(0.8)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	(2)	(0.2)
（川崎市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
（相模原市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
山梨県	14	7	21	3.8	10	4	14	5.6	-	-	-	-	24	11	35	3.9
新潟県	13	6	19	3.5	-	-	-	-	-	1	1	0.9	13	7	20	2.2
（新潟市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
長野県	39	10	49	9.0	-	-	-	-	-	-	-	-	39	10	49	5.4
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	1	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
福井県	1	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
岐阜県	-	1	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0.1
静岡県	3	1	4	0.7	4	2	6	2.4	-	1	1	0.9	7	4	11	1.2
（静岡市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(-)	(3)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(-)	(3)	(0.3)
（浜松市）	(3)	(1)	(4)	(0.7)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(1)	(4)	(0.4)
愛知県	5	-	5	0.9	2	-	2	0.8	-	-	-	-	7	-	7	0.8
（名古屋市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
三重県	4	3	7	1.3	1	-	1	0.4	-	-	-	-	5	3	8	0.9
滋賀県	1	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
京都府	-	1	1	0.2	3	2	5	2.0	1	-	1	0.9	4	3	7	0.8
（京都市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(2)	(5)	(2.0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(2)	(5)	(0.6)
大阪府	9	4	13	2.4	10	-	10	4.1	-	-	-	-	19	4	23	2.6
（大阪市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(1)	(0.4)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(1)	(0.1)
（堺市）	(4)	(1)	(5)	(0.9)	(1)	(-)	(1)	(0.4)	(-)	(-)	(-)	(-)	(5)	(1)	(6)	(0.7)
兵庫県	2	1	3	0.5	5	-	5	2.0	2	-	2	1.8	9	1	10	1.1
（神戸市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
奈良県	-	-	-	-	-	1	1	0.4	-	-	-	-	-	1	1	0.1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0.2
島根県	1	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
岡山県	2	-	2	0.3	1	-	1	0.4	-	-	-	-	3	-	3	0.3
（岡山市）	(1)	(-)	(1)	(0.2)	(1)	(-)	(1)	(0.4)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	(2.0)	(0.2)
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
（広島市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
山口県	1	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	1	0.2	-	1	1	0.4	1	-	1	0.9	1	2	3	0.3
（北九州市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
（福岡市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
佐賀県	6	1	7	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1	7	0.8
長崎県	8	2	10	1.8	1	-	1	0.4	-	-	-	-	9	2	11	1.2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	2	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0.2
宮崎県	3	-	3	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0.3
鹿児島県	4	1	5	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	5	0.6
沖縄県	7	-	7	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	7	0.8
海外	1	-	1	0.2	1	-	1	0.4	11	-	11	10.0	13	-	13	1.4
不明・無回答	3	-	3	0.5	5	-	5	2.0	-	-	-	-	8	-	8	0.9
	454	93	547	100.0	216	32	248	100.0	92	18	110	100.0	762	143	905	100.0

※地域ブロック別参加者内訳

	一般参加者				WS運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
北海道・東北	86	13	99	18.1	21	4	25	10.1	8	1	9	8.2	115	18	133	14.7
関東・甲信越	301	64	365	66.7	162	22	184	74.2	69	16	85	77.3	532	102	634	70.1
北陸・東海	14	5	19	3.5	7	2	9	3.6	—	1	1	0.9	21	8	29	3.2
近畿	12	6	18	3.3	18	3	21	8.5	3	—	3	2.7	33	9	42	4.6
中国・四国	7	—	7	1.3	1	—	1	0.4	—	—	—	—	8	—	8	0.9
九州・沖縄	30	5	35	6.4	1	1	2	0.8	1	—	1	0.9	32	6	38	4.2
その他	4	—	4	0.7	6	—	6	2.4	11	—	11	10.0	21	—	21	2.3
合 計	454	93	547	100.0	216	32	248	100.0	92	18	110	100.0	762	143	905	100.0

平成23年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」

参加者アンケート集計結果

参加者数:795名(講師・会館関係者は除く) アンケート回答数:302件 アンケート回答率:38.0%

* 参加日 (複数回答)

	女性	%	男性	%	不明	%	総計	%
21日	132	54.5	31	63.3	2	18.2	165	54.6
22日	100	41.3	24	49.0	1	9.1	125	41.4
23日	81	33.5	15	30.6	2	18.2	98	32.5
無回答	56	23.1	10	20.4	8	72.7	74	24.5
合計	369	100.0	80	100.0	13	100.0	462	100.0

1. このフォーラムの内容は、役に立ちましたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
はい	231	95.5	49	100.0	9	81.8	289	95.7	99.7
いいえ	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
無回答	10	4.1	-	-	2	18.2	12	4.0	
合計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

- ・ 毎日の生活、仕事に活かせる、ヒントに出会いました。
- ・ シンポジウムのパネリストの吉村美栄子県知事のお話が、大変参考になりました。よい人選をされて感謝します。河北新報社の鈴木素雄さんのお話。
- ・ 23日のシンポジウムの人選が適切で、充実していた。
- ・ 他県の人達がそれぞれに活動されている様子を知ったこと、大変勉強になりました。
- ・ 3.11関係のプログラムが多いので、今の現状を知ることが出来た。
- ・ 貴重な情報をたくさん得ることができ、またさまざまな人たちと交流することができました。

1-2. 役に立ったプログラム(複数選択可)

	21日のみ参加 (73名中)	%	22日のみ参加 (29名中)	%	23日のみ参加 (28名中)	%	21日・22日参加 (28名中)	%
①ワークショップ	63	86.3	25	86.2	-	-	28	100.0
②シンポジウム(23日)	1	1.4	-	-	24	85.7	-	-
③展示ワークショップ	3	4.1	4	13.8	-	-	4	14.3
④交流会(21日夜)	1	1.4	-	-	-	-	11	39.3
⑤情報のひろば	4	5.5	1	3.4	-	-	7	25.0
⑥さんかくカフェ	-	-	1	3.4	-	-	2	7.1
⑦自由交流	1	1.4	-	-	-	-	8	28.6
⑧交流推進プログラム	2	2.7	-	-	-	-	3	10.7
⑨その他	-	-	1	3.4	-	-	1	3.6
無回答	7	9.6	3	10.3	4	14.3	-	-
合計	73	100.0	29	100.0	28	100.0	28	100.0

	21日・23日参加 (2名中)	%	22日・23日参加 (6名中)	%	3日間参加 (62名中)	%	不明	%
①ワークショップ	2	100.0	6	100.0	58	93.5	52	70.3
②シンポジウム(23日)	2	100.0	5	83.3	40	64.5	27	36.5
③展示ワークショップ	-	-	1	16.7	24	38.7	9	12.2
④交流会(21日夜)	-	-	-	-	31	50.0	10	13.5
⑤情報のひろば	-	-	-	-	6	9.7	4	5.4
⑥さんかくカフェ	-	-	2	33.3	9	14.5	9	12.2
⑦自由交流	1	50.0	-	-	11	17.7	7	9.5
⑧交流推進プログラム	1	50.0	-	-	8	12.9	7	9.5
⑨その他	-	-	-	-	-	-	2	2.7
無回答	-	-	-	-	-	-	8	10.8
合計	2	100.0	6	100.0	62	100.0	74	100.0

2. フォーラムに参加した目的(複数回答可)と達成度

《目的》

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)
①テーマについて情報・知識を得ること	154	63.6	41	83.7	4	36.4	199	65.9
②自分の抱える問題を解決する手がかりを得るため	83	34.3	16	32.7	3	27.3	102	33.8
③研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること	95	39.3	27	55.1	3	27.3	125	41.4
④日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること	45	18.6	9	18.4	1	9.1	55	18.2
⑤仲間づくりやネットワークづくりに役立てること	56	23.1	14	28.6	—	—	70	23.2
⑥宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること	29	12.0	7	14.3	—	—	36	11.9
⑦ワークショップを実施し、今後の活動に役立てるため	67	27.7	11	22.4	—	—	78	25.8
⑧その他	4	1.7	—	—	—	—	4	1.3

《目的の達成度》

①テーマについて情報・知識を得ること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
十分達成できた	65	26.9	17	34.7	1	9.1	83	27.5	36.2
達成できた	104	43.0	26	53.1	4	36.4	134	44.4	58.5
あまり達成できなかった	10	4.1	1	2.0	—	—	11	3.6	4.8
達成できなかった	1	0.4	—	—	—	—	1	0.3	0.4
無回答	62	25.6	5	10.2	6	54.5	73	24.2	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

②自分の抱える問題を解決する手がかりを得るため

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
十分達成できた	38	15.7	5	10.2	1	9.1	44	14.6	34.1
達成できた	57	23.6	10	20.4	1	9.1	68	22.5	52.7
あまり達成できなかった	11	4.5	1	2.0	1	9.1	13	4.3	10.1
達成できなかった	3	1.2	1	2.0	—	—	4	1.3	3.1
無回答	133	55.0	32	65.3	8	72.7	173	57.3	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

③研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
十分達成できた	42	17.4	9	18.4	1	9.1	52	17.2	35.9
達成できた	60	24.8	17	34.7	2	18.2	79	26.2	54.5
あまり達成できなかった	9	3.7	2	4.1	—	—	11	3.6	7.6
達成できなかった	3	1.2	—	—	—	—	3	1.0	2.1
無回答	128	52.9	21	42.9	8	72.7	157	52.0	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

④日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
十分達成できた	32	13.2	5	10.2	1	9.1	38	12.6	45.2
達成できた	28	11.6	4	8.2	1	9.1	33	10.9	39.3
あまり達成できなかった	10	4.1	1	2.0	-	-	11	3.6	13.1
達成できなかった	1	0.4	1	2.0	-	-	2	0.7	2.4
無回答	171	70.7	38	77.6	9	81.8	218	72.2	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

⑤仲間づくりやネットワークづくりに役立てること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
十分達成できた	23	9.5	4	8.2	1	9.1	28	9.3	29.5
達成できた	40	16.5	5	10.2	-	-	45	14.9	47.4
あまり達成できなかった	14	5.8	4	8.2	-	-	18	6.0	18.9
達成できなかった	2	0.8	2	4.1	-	-	4	1.3	4.2
無回答	163	67.4	34	69.4	10	90.9	207	68.5	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

⑥宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
十分達成できた	18	7.4	4	8.2	1	9.1	23	7.6	35.9
達成できた	30	12.4	3	6.1	-	-	33	10.9	51.6
あまり達成できなかった	5	2.1	-	-	-	-	5	1.7	7.8
達成できなかった	3	1.2	-	-	-	-	3	1.0	4.7
無回答	186	76.9	42	85.7	10	90.9	238	78.8	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

⑦ワークショップを実施し、今後の活動に役立てるため

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
十分達成できた	43	17.8	7	14.3	1	9.1	51	16.9	50.0
達成できた	39	16.1	5	10.2	-	-	44	14.6	43.1
あまり達成できなかった	6	2.5	-	-	-	-	6	2.0	5.9
達成できなかった	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	1.0
無回答	153	63.2	37	75.5	10	90.9	200	66.2	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

⑧その他

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
十分達成できた	3	1.2	-	-	-	-	3	1.0	75.0
達成できた	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	25.0
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	238	98.3	49	100.0	11	100.0	298	98.7	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

3. フォーラムの満足度

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (242名 中)	男性	% (49名中)	不明	% (11名中)	合計	% (302名 中)	※%
非常に満足した	75	31.0	10	20.4	—	—	85	28.1	30.9
満足した	126	52.1	32	65.3	2	18.2	160	53.0	58.2
あまり満足しなかった	20	8.3	4	8.2	2	18.2	26	8.6	9.5
満足しなかった	4	1.7	—	—	—	—	4	1.3	1.5
無回答	17	7.0	3	6.1	7	63.6	27	8.9	
合 計	242	100.0	49	100.0	11	100.0	302	100.0	100.0

- ・発表後の意見交換に大変参考になる意見が出て、良かった。
- ・災害に関するテーマは、いろいろな角度から深く考えられるものが多く、勉強になりました。対策や復興は、これからです。今日感じたこと、学んだことを活かしたいと思います。
- ・初めて宿泊して参加しました。WSや展示もいろいろ見ることができて、実り多いフォーラムでした。
- ・適時性のあるテーマでした。知りたい情報を得ることができ、今後の活動の参考になりました。
- ・ボランティアの方のしおり作りが楽しかったです。ありがとうございました。
- ・女性たちの活気が感じられ、全国規模で交流ができて、楽しかった。
- ・初めての経験だったので、いい勉強になった。
- ・初めて参加しましたが、今後も機会があれば参加したいと思いました。ボランティアの方々が朝早くから夜遅くまで、がんばっている姿に感動しました。

「平成23年度男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」

ワークショップ運営者用アンケート集計結果

募集ワークショップ 50 団体
アンケート提出 43 団体
回答率 86.0 %

1. ワークショップを実施された目的と、実施後の感想に当てはまるものに○をつけてください。(複数可)。
目的に○がなくても達成したと思われる項目には○をつけてください。

【目的】

	回答数	% (43団体中)
研究・実践活動を多くの人に知ってもらうこと	37	86.0%
報告や協議等を通じて更に有用な知識や情報を得ること	20	46.5%
団体・グループが抱える問題を解決する手がかりを得ること	10	23.3%
日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること	25	58.1%
仲間づくりやネットワークづくりに役立てること	22	51.2%
実施により、さらに活動を充実させること	33	76.7%
その他	3	7.0%

【実施後の感想】

(達成度＝十分達成＋達成)

- ①研究・実践活動を多くの人に知ってもらうこと(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度 (%)
十分達成できた	24	55.8%	61.5%	92.3%
達成できた	12	27.9%	30.8%	
あまり達成できなかった	3	7.0%	7.7%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	4	9.3%	—	
合計	43	100.0%	100.0%	

- ②報告や協議等を通じて更に有用な知識や情報を得ること(※%は「無回答」を除いた割合)

		%	※%	達成度 (%)
十分達成できた	9	20.9%	42.8%	90.4%
達成できた	10	23.3%	47.6%	
あまり達成できなかった	1	2.3%	4.8%	
達成できなかった	1	2.3%	4.8%	
無回答	22	51.2%	—	
合計	43	100.0%	100.0%	

- ③団体・グループが抱える問題を解決する手がかりを得ること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度 (%)
十分達成できた	4	9.3%	30.8%	84.6%
達成できた	7	16.3%	53.8%	
あまり達成できなかった	2	4.6%	15.4%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	30	69.8%	—	
合計	43	100.0%	100.0%	

- ④日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度 (%)
十分達成できた	15	34.9%	57.7%	88.5%
達成できた	8	18.6%	30.8%	
あまり達成できなかった	3	7.0%	11.5%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	17	39.5%	—	
合計	43	100.0%	100.0%	

⑤仲間づくりやネットワークづくりに役立てること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度 (%)
十分達成できた	9	20.9%	34.6%	84.6%
達成できた	13	30.2%	50.0%	
あまり達成できなかった	4	9.3%	15.4%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	17	39.6%		
合計	43	100.0%	100.0%	

⑥実施により、さらに活動を充実させること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度 (%)
十分達成できた	15	34.9%	42.9%	97.1%
達成できた	19	44.2%	54.3%	
あまり達成できなかった	1	2.3%	2.9%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	8	18.6%		
合計	43	100.0%	100.0%	

⑦その他(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度 (%)
十分達成できた	1	2.3%	50.0%	100.0%
達成できた	1	2.3%	50.0%	
あまり達成できなかった	—	—	—	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	41	95.4%		
合計	43	100.0%	100.0%	

2. ワークショップを実施されたことは、今後の活動を進めるために役に立ちましたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
非常に役に立った	23	53.5%	54.8%
役に立った	19	44.2%	45.2%
あまり役に立たなかった	—	—	—
役に立たなかった	—	—	—
無回答	1	2.3%	
合計	43	100.0%	100.0%

- ・初めてのイベントなのに、各地(長崎県や北海道からも)の人たちと出会うことが出来、意義深い交流が出来ました。
- ・ターゲットをしばったタイトルにしたことにより、参加者の方々の質(?)が高かった。同じ目的をもった人たちが集まったので、質問の内容も具体的で内容の濃いものとなった。また今後の情報交換となった。
- ・日頃、出会えない層の対象者に対して、事業の意義や内容を理解していただくことができた。
- ・日頃やっていることが十分発揮でき、充実感を持つことができた。

3. ワークショップの運営に関する満足度はいかがでしたか。(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
非常に満足した	18	41.9%	42.9%
満足した	21	48.8%	50.0%
あまり満足しなかった	2	4.7%	4.7%
満足しなかった	1	2.3%	2.4%
無回答	1	2.3%	
合計	43	100.0%	100.0%

- ・他のワークショップにも参加でき、様々な人々と交流できることは普段体験できないので、とてもありがたかった。
- ・来場した人が皆残らず発言され互いに啓発できたと思う。有意義な時間を持てた。

4. ワークショップ中の参加者の人数をご記入ください(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
1~20名	9	20.9%	27.3%
21~40名	13	30.2%	39.4%
41~60名	7	16.3%	21.2%
61~80名	3	7.0%	9.1%
81~100名	1	2.3%	3.0%
101名以上	—	—	—
無回答	10	23.3%	
合計	43	100.0%	100.0%

平成23年度 交流学習会議 実施要項

当初の事業計画では平成24年3月9日（金）～11日（日）となっておりますが、東日本大震災後1年に当たる日を考慮し、2日間の日程に変更しております。

1 目 的

男女共同参画の視点に立って地域づくりを推進する人材の育成を目的として、これまで会館の研修・交流事業に参加した者が地域に戻って実践したことを報告し合い学習する機会を設定し、循環型の人材育成システムを構築するとともに、各地の先進事例や地域における課題等を共有して、課題解決へのステップを進める。また、女性関連施設等の関連機関や女性団体・グループ等の連携・協働の促進に向けての意見交換を行い、ネットワークを形成し、会館と地域との連携を促進する。これらの企画・実施について、「交流学習会議協働連絡会」と協働して行うことで、地域づくりを推進する核人材の育成を促進する。

2 テーマ 『地域で男女共同参画を推進するためには ―「人材育成」「組織の基盤強化」「連携・協働」のあり方を探る―』

3 期 日 平成24年3月9日（金）～3月10日（土）1泊2日

4 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

5 出席者 これまで、国立女性教育会館の研修事業・交流事業等に参加されたのち、地域でネットワークを構築し、実践活動を行っている女性団体・グループのリーダー、男女共同参画・女性教育行政担当者、女性関連施設関係者 等 150名

6 日 程 （各プログラムの間に10分程度の休憩があります）

3/9 (金)	10:00	11:00	12:20	13:30	14:30	15:50	16:45	18:00	20:00
		開会	特別講演	昼食	講義	調査報告	報告と課題の共有	※見学	※交流会
3/10 (土)	9:00	10:45	12:15	13:30	15:00	16:10			
	分科会Ⅰ	分科会Ⅱ	昼食	全体会	意見交換	閉会			

※見学、交流会は希望者のみのプログラムです。

7 内 容

【第1日】 3月9日（金）

（1）開会 10:00～10:50

- ①主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館 理事長
- ②来賓あいさつ 合田 隆史 文部科学省 生涯学習政策局長
- ③「交流学习会議協働連絡会」メンバー紹介
- ④日程等説明 国立女性教育会館事業課
- ⑤国立女性教育会館の最新の情報 山根 徹夫 国立女性教育会館 理事・事務局長

（2）特別講演「男女共同参画社会の実現に向けて」 11:00～12:20

講 師：樋口 恵子 東京家政大学 名誉教授
NPO 法人高齢社会をよくする女性の会 理事長

（3）講義 「地域で男女共同参画を推進するためには」 13:30～14:30

講 師：神田 道子 国立女性教育会館 前理事長

（4）会館からの調査報告及び質疑応答 14:40～15:40

海外（米国・オーストラリア・韓国）の状況を紹介し、地域で抱える外国人等への対応を考えます。

報告者：渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室 研究員
越智 方美 国立女性教育会館研究国際室 専門職員
野依 智子 国立女性教育会館研究国際室 研究員

（5）NWE Cフォーラムのワークショップの報告と課題の共有 15:50～16:30

本年度のNWE Cフォーラムの報告の後、参加者同士でグループを作り、日頃の実践活動について報告し合うとともに、問題点を共有し話し合います。

報告者：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課 専門職員

（6）女性アーカイブセンターの見学（*希望者のみ） 16:45～17:15

（7）交流会 18:00～20:00

参加団体・グループの自己紹介を通して関係づくりをすすめるとともに、自由に自分たちの活動について情報交換・意見交換を行います。

進 行：宮本 紀子 交流学习会議協働連絡会

【第2日】 3月10日（土）

（8）分科会Ⅰ『団体組織の課題の実践事例』とグループ・ワーク 9:00～10:30

分科会A「学習を生かし、地域に広げた実践事例」

事例1「らんざんの会」の活動紹介（北海道）

報告者：西島 美智子 美幌町らんざんの会 会長
事例2「社会人学生ネットワークきらめき」の活動紹介（広島県）
報告者：東 由水枝 社会人学生ネットワークきらめき 代表
コーディネーター：小野 泰子 交流学习会議協働連絡会

分科会B「行政との連携・協働による男女共同参画の推進の実践事例」

事例1 男女平等社会の推進は一步ずつ着実に！
～市民・行政・企業との連携～（北海道）
報告者：高橋 雅子 苫小牧男女平等参画推進協議会 会長
事例2 行政との連携・協働で男女共同参画を推進（新潟県）
報告者：樋熊 憲子 男女（ひと）がともに生きる社会を進めるF&M
なおか市民会議 代表
コーディネーター：大島 煦美子 交流学习会議協働連絡会

分科会C「大学・企業との連携・協働による男女共同参画の推進の実践事例」

事例1 NGO 団体として大学や行政機関との連携参画の実践事例（岡山県）
報告者：渡邊 年子 社団法人大学女性協会岡山支部 前支部長
事例2 NPO 法人と企業との連携実践事例（長野県）
報告者：宮尾 秀子 NPO 法人子育て応援団ぱれっと 代表
コーディネーター：真邊 和美 交流学习会議協働連絡会

分科会D「会の活性化の実践事例」

事例1 変えることを楽しみ、変わることを厭わない
～ふれあいの居場所を通して～（静岡県）
報告者：稲葉 ゆり子 NPO 法人たすけあい遠州 代表理事
事例2 NPO 法人として男女共同参画センター等との連携参画の実践事例
（熊本県）
報告者：緒方 洋子 NPO 法人チェンジライフ熊本 理事長
コーディネーター：松下 光恵 交流学习会議協働連絡会

（9）分科会Ⅱ『地域課題の解決の実践事例』とグループ・ワーク 10:45～12:15

分科会E「子ども・子育てについて」

事例1 わたしのキャリア・プランニング「わたし自身を生きるために」
（香川県）
報告者：宮本 暢子 さぬき市キャリアサポート 代表
かがわキャリアサポート 元代表
事例2 子どもを見守り、子どもの育ちを喜びあえる地域社会の構築
（青森県）
報告者：清野 眞由美 特定非営利活動法人弘前こどもコミュニティ
・ぴーぷる 代表理事

コーディネーター：青木 千恵 交流学习会議協働連絡会

分科会F「連携・協働の取組による男性の男女共同参画」

事例1 地域における男性・若者の男女共同参画の推進を目指す出前学習の活動の展開―国・県・市・大学等との連携・協働による取組で、活動成果を点から面に広げる―（山口県）

報告者：岡本 早智子 シンクロナイズネット 副代表

事例2 行政と協働で生きる市民力（千葉県）

報告者：山口 文代 NPO 法人パートナーシップながれやま 代表理事

コーディネーター：松田 敏子 交流学习会議協働連絡会

分科会G「男性の男女共同参画」

事例1 「男の生き方塾」5年間の取り組みと卒塾生の活動事例

―4つのOB会誕生とその後―（青森県）

報告者：千田 晶子 青森市男女共同参画プラザカダール 副館長

事例2 「日本女性会議 in 大津」以降の男性の取組（滋賀県）

報告者：新庄 博志 おおつ男性会議 代表世話人

コーディネーター：小山内 世喜子 交流学习会議協働連絡会

分科会H「地域人材の養成の実践事例」

事例1 「女性センター講座受講生」から実践自主グループ活動へ～活動することでつながりが生まれる実感～（岩手県）

報告者：高橋 福子 エンパワーメント11（い）わて 代表

事例2 学びを活かすために ここからスタート

～「北九州市女性リーダー国内研修」の取り組みから～（北九州市）

報告者：久門 正子 北九州市教育委員会生涯学習総合センター
社会教育主事

コーディネーター：三隅 佳子 交流学习会議協働連絡会

(10) 全体会

13:30～14:15、14:15～15:00

前半：分科会Ⅰ『団体組織の課題の実践事例』の4つの分科会で得られた実践活動の成果と課題への問題解決のヒントを共有します。

司会者：荒谷 信子 交流学习会議協働連絡会

後半：分科会Ⅱ『地域課題の解決の実践事例』の4つの分科会で得られた実践活動の成果と課題への問題解決のヒントを共有します。

司会者：山崎 捷子 交流学习会議協働連絡会

(11) 意見交換「社会参画の具体化と交流学习会議」

15:00～16:00

今後、さらに地域における男女共同参画を推進するため、新たな課題である社会参画の具体化について考えます。

司会者：平賀 圭子 交流学习会議協働連絡会

(12) アンケート記入

16:00~16:10

(13) 閉会

16:10

主催者挨拶

8 情報交換コーナー（研修棟2階 大会議室前カウンター）

皆様がお持ちになったパンフレットやちらしを自由に設置できるコーナーです。
カウンター上に並べられているものはご自由にお持ち下さい。

9 その他

- (1) 3月9日（金）および10日（土）に、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスを運行いたします。
- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。
- (3) 電力需要等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。

平成23年度 交流学習会議 参加者概況

平成24年3月23日現在

1. 性別

	合 計
女 性	115
男 性	13
合 計	128

定員 150 名
 応募者 151 名
 参加者 128 名
 応募倍率 100.7 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	85	4	89
9日のみ	17	5	22
10日のみ	13	4	17
合計	115	13	128

3. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	1	1	2
30代	5	2	7
40代	6	2	8
50代	14	1	15
60代以上	65	5	70
無回答	24	2	26
合 計	115	13	128

5. 情報センター見学参加

	合 計
女 性	41
男 性	1
合 計	42

6. 参加対象者

	合 計	割合(%)
団体・グループ・NPO等	96	75.0
行政担当者	16	12.5
施設関係者	12	9.4
その他	4	3.1
合 計	128	100.0

7. 分科会 I

	女 性	男 性	合 計
A	17	—	17
B	34	2	36
C	11	1	12
D	21	1	22
合 計	83	4	87

8. 分科会 II

	女 性	男 性	合 計
E	12	1	13
F	30	1	31
G	12	4	16
H	27	—	27
合 計	81	6	87

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	19	—	19
関東・甲信越	66	10	76
北陸・東海	4	—	4
近畿	5	1	6
中国・四国	16	1	17
九州・沖縄	5	1	6
合計	115	13	128

9. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

		女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	3	—	3
	(札幌市)	(—)	(—)	(—)
	青森県	5	—	5
	岩手県	9	—	9
	宮城県	—	—	—
	(仙台市)	(—)	(—)	(—)
	秋田県	—	—	—
	山形県	—	—	—
	福島県	2	—	2
関東・甲信越	茨城県	1	—	1
	栃木県	1	—	1
	群馬県	4	2	6
	埼玉県	29	4	33
	(さいたま市)	(—)	(—)	(—)
	千葉県	10	1	11
	(千葉市)	(1)	(—)	(1)
	東京都	7	2	9
	神奈川県	2	—	2
	(横浜市)	(—)	(—)	(—)
	(川崎市)	(—)	(—)	(—)
	(相模原市)	(—)	(—)	(—)
	山梨県	—	—	—
	新潟県	9	1	10
	(新潟市)	(—)	(—)	(—)
	長野県	3	—	3
北陸・東海	富山県	—	—	—
	石川県	—	—	—
	福井県	—	—	—
	岐阜県	—	—	—
	静岡県	4	—	4
	(静岡市)	(—)	(—)	(—)
	(浜松市)	(—)	(—)	(—)
	愛知県	—	—	—
	(名古屋市)	(—)	(—)	(—)
	三重県	—	—	—
近畿	滋賀県	4	1	5
	京都府	—	—	—
	(京都市)	(—)	(—)	(—)
	大阪府	—	—	—
	(大阪市)	(—)	(—)	(—)
	(堺市)	(—)	(—)	(—)
	兵庫県	1	—	1
	(神戸市)	(—)	(—)	(—)
	奈良県	—	—	—
	和歌山県	—	—	—
中国・四国	鳥取県	—	—	—
	島根県	2	—	2
	岡山県	3	—	3
	(岡山市)	(—)	(—)	(—)
	広島県	3	—	3
	(広島市)	(1)	(—)	(1)
	山口県	5	—	5
	徳島県	—	—	—
	香川県	3	1	4
	愛媛県	—	—	—
九州・沖縄	高知県	—	—	—
	福岡県	2	1	3
	(北九州市)	(1)	(—)	(1)
	(福岡市)	(—)	(—)	(—)
	佐賀県	—	—	—
	長崎県	—	—	—
	熊本県	3	—	3
	大分県	—	—	—
	宮崎県	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—
	沖縄県	—	—	—
合計		115	13	128

平成23年度「交流学習会議」アンケート集計結果

定員 150 名
 応募者 151 名
 応募倍率 100.7 %
 実参加者 128 名

アンケート回答数 89 件
 アンケート回答率 69.5 %

I 本研修に関する意見・感想

1. この事業の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の活動に役立てたりするうえで、有用でしたか。

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

特別講演「男女共同参画社会の実現に向けて」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	30	37.5	3	60.0	3	75.0	36	40.4	36	49.3
有用であった	35	43.8	2	40.0	-	-	37	41.6	37	50.7
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	8	10.0	-	-	-	-	8	9.0		
無回答	7	8.7	-	-	1	25.0	8	9.0		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	73	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- 樋口さんは何度か聞いているが、人口動態からみて男女共同参画は待ったなし、というアプローチは説得力があつてよかった。
- 時々ユニークなエピソードをはさみながらのお話、大変わかりやすく素晴らしかったです。冒頭と最後で災害と男女共同参画に触れていたのが非常に心に残りました。
- ダイバーシティの尊重、ダイバーシティの基本は男女共同参画の言葉に落ちた。

講義「地域で男女共同参画を推進するためには」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	41	51.3	2	40.0	1	25.0	44	49.5	44	61.1
有用であった	23	28.8	2	40.0	-	-	26	29.2	26	36.1
あまり有用でなかった	1	1.2	1	20.0	-	-	2	2.2	2	2.8
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	6	7.5	-	-	-	-	6	6.7		
無回答	9	11.2	-	-	2	50.0	11	12.4		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	72	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- 社会的活動と個人の生涯発達の両面でみる複合キャリアという視点の大切さ。地域においては一人では絶対にできない方向を共し連携し合つて、協働すること。納得しました。
- とてもわかりやすい講義でした。”見える化”と”共有化”をあらためて実感した。

会館からの調査報告および質疑応答

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	11	13.8	-	-	1	25.0	12	13.5	12	18.5
有用であった	44	55.0	2	40.0	-	-	46	51.7	46	70.8
あまり有用でなかった	4	5.0	1	20.0	1	25.0	6	6.7	6	9.2
有用ではなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	1.1	1	1.5
参加しなかった	6	7.5	1	20.0	-	-	7	7.9		
無回答	14	17.5	1	20.0	2	50.0	17	19.1		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	65	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- 日本での課題に対し、外国のどの取組が役に立つかなど、今後の報告に興味があります。
- グローバルの視点から外国人の対応を知ることができた。
- 海外での調査報告、研修の結果報告はやはり必要だと思います。

NWECフォーラムのワークショップの報告と課題の共有

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	10	12.5	-	-	1	25.0	11	12.4	11	17.2
有用であった	40	50.0	2	40.0	-	-	42	47.2	42	65.6
あまり有用でなかった	6	7.5	1	20.0	1	25.0	8	9.0	8	12.5
有用ではなかった	3	3.8	-	-	-	-	3	3.4	3	4.7
参加しなかった	6	7.5	1	20.0	-	-	7	7.8		
無回答	15	18.7	1	20.0	2	50.0	18	20.2		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	64	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<理由>

- フロアの方々と少しでも情報交換や意見をお伺いできて、とても勉強になりました。
- 課題の共有のため、グループの中に入ったが、男女共同参画推進のためのリーダー養成など様々な課題があることがわかった。

女性アーカイブセンター見学 *希望者のみ

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	11.3	-	-	-	-	9	10.1	9	47.4
有用であった	9	11.3	-	-	-	-	9	10.1	9	47.4
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	1	25.0	1	1.1	1	5.2
参加しなかった	46	57.4	3	60.0	1	25.0	50	56.2		
無回答	16	20.0	2	40.0	2	50.0	20	22.5		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	19	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

交流会 *希望者のみ

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	18	22.5	1	20.0	1	25.0	20	22.5	20	33.9
有用であった	37	46.3	1	20.0	1	25.0	39	43.8	39	66.1
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	8	10.0	2	40.0	-	-	10	11.2		
無回答	17	21.2	1	20.0	2	50.0	20	22.5		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	59	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<非常に有用であった理由>

- ・他の地域から来られた方と楽しい交流を図ることができました。この交流からネットワークが広がっていくのだとエネックの存在の大きさを実感しました。
- ・全国各地の人と出会え良い交流になりました。

2日目

分科会Ⅰ「団体組織の課題の実践事例」とグループワーク

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
分科会A	16	20.0	-	-	-	-	16	18.0	16	22.5
分科会B	24	30.0	1	20.0	2	50.0	27	30.3	27	38.0
分科会C	10	12.5	-	-	1	25.0	11	12.4	11	15.5
分科会D	17	21.3	-	-	-	-	17	19.1	17	24.0
不明	13	16.2	4	80.0	1	25.0	18	20.2		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	71	100.0

(※%は「不明」を除いた割合)

<事例報告について> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	31	38.8	-	-	1	25.0	32	36.0	32	49.2
有用であった	29	36.3	1	20.0	1	25.0	31	34.8	31	47.7
あまり有用でなかった	1	1.2	-	-	1	25.0	2	2.2	2	3.1
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	3.7	1	20.0	-	-	4	4.5		
無回答	16	20.0	3	60.0	1	25.0	20	22.5		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	65	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<事例報告について> *分科会コース別

	A	%	B	%	C	%	D	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	5	31.3	16	59.3	5	45.5	6	35.3	-	-	20	32.8
有用であった	9	56.3	8	29.6	5	45.5	9	52.9	-	-	16	26.2
あまり有用でなかった	1	6.2	-	-	1	9.0	-	-	-	-	1	1.6
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	3.7	-	-	-	-	3	16.7	4	6.6
無回答	1	6.2	2	7.4	-	-	2	11.8	15	83.3	20	32.8
合計	16	100.0	27	100.0	11	100.0	17	100.0	18	100.0	61	100.0

<話し合いについて> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	23	28.8	-	-	-	-	23	25.8	23	36.5
有用であった	32	40.0	1	20.0	2	50.0	35	39.4	35	55.6
あまり有用でなかった	3	3.8	-	-	1	25.0	4	4.5	4	6.3
有用ではなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	1.1	1	1.6
参加しなかった	2	2.5	1	20.0	-	-	3	3.4		
無回答	19	23.7	3	60.0	1	25.0	23	25.8		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	63	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<話し合いについて> *分科会コース別

	A	%	B	%	C	%	D	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	5	31.3	10	37.0	4	36.4	4	23.5	-	-	23	25.8
有用であった	6	37.5	14	51.9	5	45.5	10	58.8	-	-	35	39.4
あまり有用でなかった	2	6.2	-	-	1	9.1	1	5.9	-	-	4	4.5
有用ではなかった	-	-	1	3.7	-	-	-	-	-	-	1	1.1
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	3	16.7	3	3.4
無回答	3	6.2	2	7.4	1	9.1	2	11.8	15	83.3	23	25.8
合計	16	100.0	27	100.0	11	100.0	17	100.0	18	100.0	89	100.0

<全般・その他> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	18	22.5	-	-	-	-	18	20.2	18	36.7
有用であった	24	30.0	1	20.0	1	25.0	26	29.2	26	53.1
あまり有用でなかった	4	5.0	-	-	1	25.0	5	5.6	5	10.2
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	4	5.0	1	20.0	-	-	5	5.6		
無回答	30	37.5	3	60.0	2	50.0	35	39.4		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	49	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<全般・その他> *分科会コース別

	A	%	B	%	C	%	D	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	2	12.5	8	29.6	2	18.2	6	35.3	-	-	18	20.2
有用であった	4	25.0	10	37.1	5	45.4	7	41.2	-	-	26	29.2
あまり有用でなかった	1	6.3	1	3.7	2	18.2	1	5.9	-	-	5	5.6
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	6.3	1	3.7	-	-	-	-	3	16.7	5	5.6
無回答	8	49.9	7	25.9	2	18.2	3	17.6	15	83.3	35	39.4
合計	16	100.0	27	100.0	11	100.0	17	100.0	18	100.0	89	100.0

分科会Ⅱ「地域課題の解決の実践事例」とグループワーク

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
分科会E	10	12.5	-	-	1	25.0	11	12.4	11	15.1
分科会F	21	26.3	-	-	1	25.0	22	24.7	22	30.1
分科会G	16	20.0	-	-	1	25.0	17	19.1	17	23.3
分科会H	22	27.5	1	20.0	-	-	23	25.8	23	31.5
不明	11	13.7	4	80.0	1	25.0	16	18.0		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	73	100.0

(※%は「不明」を除いた割合)

<事例報告について> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	40	50.0	-	-	1	25.0	41	46.1	41	61.2
有用であった	23	28.8	1	20.0	2	50.0	26	29.2	26	38.8
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	20.0	-	-	1	1.1		
無回答	17	21.2	3	60.0	1	25.0	21	23.6		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	67	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<事例報告について> *分科会コース別

	E	%	F	%	G	%	H	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	9	81.8	7	31.8	9	52.9	14	82.4	2	11.1	41	46.1
有用であった	2	18.2	11	50.0	6	35.3	7	41.2	-	-	26	29.2
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5.6	1	1.1
無回答	-	-	4	18.2	2	11.8	2	11.8	13	72.2	21	23.6
合計	11	100.0	22	100.0	17	100.0	23	100.0	16	100.0	89	100.0

<話し合いについて> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	28	35.0	-	-	-	-	28	31.5	28	43.1
有用であった	30	37.5	1	20.0	3	75.0	34	38.2	34	52.3
あまり有用でなかった	2	2.5	-	-	-	-	2	2.2	2	3.1
有用ではなかった	1	1.3	-	-	-	-	1	1.1	1	1.5
参加しなかった	1	1.3	1	20.0	-	-	2	2.2		
無回答	18	22.4	3	60.0	1	25.0	22	24.7		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	65	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<話し合いについて> *分科会コース別

	E	%	F	%	G	%	H	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	3	27.3	8	36.4	7	41.2	10	43.5	-	-	28	31.5
有用であった	6	54.5	9	40.9	9	52.9	9	39.2	1	6.3	34	38.2
あまり有用でなかった	2	18.2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2.2
有用ではなかった	-	-	1	4.5	-	-	-	-	-	-	1	1.1
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	1	4.3	1	6.2	2	2.2
無回答	-	-	4	18.2	1	5.9	3	13.0	14	87.5	22	24.7
合計	11	100.0	22	100.0	17	100.0	23	100.0	16	100.0	89	100.0

<全般・その他> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	28	35.0	-	-	-	-	28	31.5	28	50.0
有用であった	24	30.0	1	20.0	2	50.0	27	30.3	27	48.2
あまり有用でなかった	1	1.3	-	-	-	-	1	1.1	1	1.8
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	20.0	-	-	1	1.1		
無回答	27	33.7	3	60.0	2	50.0	32	36.0		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	56	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<全般・その他> *分科会コース別

	E	%	F	%	G	%	H	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	3	27.3	6	27.3	8	47.1	9	39.1	2	12.5	28	31.5
有用であった	3	27.3	10	45.4	5	29.4	9	39.1	-	-	27	30.3
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	1	4.4	-	-	1	1.1
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6.2	1	1.1
無回答	5	45.4	6	27.3	4	23.5	4	17.4	13	81.3	32	36.0
合計	11	100.0	22	100.0	17	100.0	23	100.0	16	100.0	89	100.0

全体会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	25	31.3	-	-	-	-	25	28.1	25	47.1
有用であった	23	28.8	2	40.0	1	25.0	26	29.2	26	49.1
あまり有用でなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	1.1	1	1.9
有用ではなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	1.1	1	1.9
参加しなかった	4	5.0	1	20.0	-	-	5	5.6		
無回答	26	32.5	2	40.0	3	75.0	31	34.9		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	53	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

意見交換「社会参画の具体化と交流学習会議」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	17.5	1	20.0	-	-	15	16.9	15	42.9
有用であった	18	22.5	1	20.0	1	25.0	20	22.5	20	57.1
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	4	5.0	1	20.0	-	-	5	5.6	-	-
無回答	44	55.0	2	40.0	3	75.0	49	55.0	-	-
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	35	100.0

(※%は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

(2)事業全体について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	29	36.7	-	-	-	-	29	32.6	29	39.7
有用であった	38	48.1	4	80.0	3	60.0	45	50.6	45	60.3
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	1	1.1	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	12	15.2	1	20.0	2	40.0	14	15.7	-	-
合計	79	100.0	5	100.0	5	100.0	89	100.0	74	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

2 交流学習会議に参加された目的と達成度について 目的(複数回答)

	女性	% (80名中)	男性	% (5名中)	不明	% (4名中)	合計	% (89名中)
1 テーマについて情報・知識を得ること	27	33.8	3	60.0	-	-	30	33.7
2 自分の抱える問題を解決する手がかりを得ること	19	23.8	-	-	-	-	19	21.3
3 研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること	19	23.8	-	-	-	-	19	21.3
4 日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること	14	17.5	-	-	-	-	14	15.7
5 仲間づくりやネットワークづくりに役立てること	14	17.5	-	-	-	-	14	15.7
6 宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること	13	16.3	-	-	-	-	13	14.6
7 分科会に参加し今後の活動に役立てるため	21	26.3	-	-	-	-	21	23.6
8 その他	4	5.0	-	-	-	-	4	4.5

①テーマについて情報・知識を得ること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	17	21.3	1	20.0	-	-	18	20.2	18	28.1
おおむねできた	37	46.2	3	60.0	3	75.0	43	48.3	43	67.2
あまりできなかった	2	2.5	-	-	1	25.0	3	3.4	3	4.7
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	24	30.0	1	20.0	-	-	25	28.1	-	-
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	64	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

②自分の抱える問題を解決する手がかりを得ること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	13	16.3	-	-	-	-	13	14.6	13	24.1
おおむねできた	33	41.2	-	-	2	50.0	35	39.3	35	64.8
あまりできなかった	3	3.8	1	20.0	2	50.0	6	6.8	6	11.1
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	31	38.7	4	80.0	-	-	35	39.3	-	-
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	54	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

③研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	17	21.3	-	-	-	-	17	19.1	17	29.8
おおむねできた	32	40.0	1	20.0	4	100.0	37	41.6	37	64.9
あまりできなかった	3	3.7	-	-	-	-	3	3.4	3	5.3
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	28	35.0	4	80.0	-	-	32	35.9	-	-
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	57	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

④日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	17	21.3	-	-	2	50.0	19	21.4	19	38.8
おおむねできた	22	27.5	-	-	1	25.0	23	25.8	23	47.0
あまりできなかった	5	6.2	-	-	1	25.0	6	6.7	6	12.2
できなかった	-	-	1	20.0	-	-	1	1.1	1	2.0
無回答	36	45.0	4	80.0	-	-	40	45.0	-	-
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	49	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑤仲間づくりやネットワークづくりに役立てること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	13	16.2	-	-	-	-	13	14.6	13	27.1
おおむねできた	26	32.5	-	-	2	50.0	28	31.5	28	58.3
あまりできなかった	5	6.3	-	-	1	25.0	6	6.7	6	12.5
できなかった	-	-	1	20.0	-	-	1	1.1	1	2.1
無回答	36	45.0	4	80.0	1	25.0	41	46.1	-	-
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	48	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑥宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	15	18.8	-	-	2	50.0	17	19.1	17	41.5
おおむねできた	22	27.5	-	-	1	25.0	23	25.9	23	56.1
あまりできなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	1.1	1	2.4
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	42	52.5	5	100.0	1	25.0	48	53.9	-	-
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	41	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑦分科会に参加し今後の活動に役立てるため

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	21	26.3	-	-	-	-	21	23.6	21	39.6
おおむねできた	29	36.2	-	-	3	75.0	32	36.0	32	60.4
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	30	37.5	5	100.0	1	25.0	36	40.4		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	53	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑧その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	3	3.8	-	-	-	-	3	3.4	3	60.0
おおむねできた	2	2.5	-	-	-	-	2	2.2	2	40.0
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	75	93.7	5	100.0	4	100.0	84	94.4		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	5	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

3. 本研修への満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	22	27.5	1	20.0	1	25.0	24	27.0	24	30.8
満足した	41	51.3	3	60.0	3	75.0	47	52.8	47	60.2
少し物足りなかった	7	8.7	-	-	-	-	7	7.9	7	9.0
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	10	12.5	1	20.0	-	-	11	12.3		
合計	80	100.0	5	100.0	4	100.0	89	100.0	78	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

平成23年度 男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）

開催要項

1 趣旨

国立女性教育会館では、男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）を設け、この期間に全国の地方自治体・女性関連施設・団体・グループ等が企画する研修・学習による利用を積極的に受入れ、男女共同参画に関する講演、講義、国立女性教育会館の施設や事業等に関する情報提供、施設見学等を行うとともに、各団体が相互に参加者同士の交流や情報交換を行える機会を提供します。

2 主催 独立行政法人 国立女性教育会館

協力 ヌエック・ボランティア ヌエック・ノットの会

3 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地

4 期 間 平成23年11月8日（火）～11日（金） 4日間

5 対 象 期間中、国立女性教育会館を利用する団体及び個人

6 プログラムについて

- ・国立女性教育会館からは、以下のような様々なプログラムを提供いたしますので、研修や交流の促進のためにぜひご活用ください。詳細を「別添1 男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）申込書」でご覧の上、お申し込みください（会場の都合等がありますので、原則として事前申し込み制となります）。
- ・会館提供プログラムにご参加の方は、この期間中に会館施設を利用して、各団体のプログラムを行っていただくこともできます。

〔国立女性教育会館提供プログラム〕

A 男女共同参画について学ぶための講座

- ①「男女共同参画のあゆみ」 講師：神田 道子 国立女性教育会館客員研究員
- ②「統計で読む男女共同参画」 講師：高橋 由紀 国立女性教育会館客員研究員
- ③「女性情報センター、アーカイブのあゆみ」 講師：国立女性教育会館職員※

※これらのプログラムは情報センター、アーカイブの施設見学となっております。

B 時事プログラム

- ①「野菜～安全に楽しく食べる～」 講師：吉田 企世子 女子栄養大学名誉教授
- ②「被災地における支援活動」 講師：田端 八重子 もりおか女性センター センター長

C 文化プログラム

- ①「まずは笑って！男女共同参画」 講師：古今亭 菊千代 噺家
- ②「能楽のススメ in 嵐山～能の世界の女性達～「人待つ女」…能『井筒』」
講師：小島 英明 観世流能楽師 皐風会主宰
- ③「ウィメンズショップ・パッチワークで学ぶフェアトレード」
講師：長谷川 輝美 ウィメンズショップ・パッチワーク代表
- ④「津軽三味線ミニコンサート」 企画：ヌエック・ノットの会

D NNEC・比企紹介プログラム

- ①館内施設案内〔30分程度〕（要事前予約）案内役：国立女性教育会館職員、ヌエック・ボランティア
- ②会館内の万葉の植物観察・万葉の植物及び落葉広葉樹の押し葉を使った作品づくり
案内役：ヌエック・ボランティア

平成23年度「らんざん交流ウィーク」アンケート集計

平成24年3月14日

基礎情報

定員	200 名
応募者	238 名
応募倍率	119 %
実参加者	237 名
アンケート回答数	139 件
アンケート回答率	58.6 %

1. 参加された全体の感想について

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 非常に満足した	39	38.6	8	33.3	6	42.9	53	38.1	40.8
2 満足した	52	51.5	13	54.2	7	50.0	72	51.8	55.4
3 あまり満足しなかった	3	3.0	—	—	1	7.1	4	2.9	3.1
4 満足しなかった	—	—	1	4.2	—	—	1	0.7	0.7
無回答	7	6.9	2	8.3	—	—	9	6.5	
合計	101	100.0	24	100.0	14	100.0	139	100.0	100.0

<意見・感想等>

- ・ 会館に来て、帰りは1回り大きくなった気持ちで毎回帰ります。これからも来ます。弱い女性から子ども達のために自立できる人間へ努力しよう！
- ・ 被災という非日常の状況で、人間が生きていくことの大変さを実感することができたと思う。生の声が伝わってきました。
- ・ 防災に向けて地域の防災会議に女性の要望、声を反映するためどのようにしたら良いかと団体で検討中です。
- ・ とても参考になりました。熱心にお話しただけでとてもよかったです。
- ・ 古今亭菊千代の話芸を堪能。羽織裏の紅が粋だった。小川町は万葉集注釈の地、植物観察も快適な散策であった。食の安全、賢く知識を得て恐れること。
- ・ それぞれの分野で活躍されている方のお話を聞くことができ非常に感動し、満足できた。
- ・ たくさんの方と交流できたので満足しています。プログラムもとても充実していると思います。
- ・ 日々の雑事から切り離されて豊かな自然の中で心身を癒しながら様々な事を学ぶことができました。とても充実した4日間でした。ありがとうございました。またここに学びに来ます！！
- ・ 初体験でしたがわかりやすい。早くに出会いたかった。でも今からでも遅くないと思っています。
- ・ 男女共同参画による地域社会づくりについての神田先生の講義をはじめ、日本の伝統芸能文化にふれた3日間でした。自分の進むべき方向が少し見えてきたような気がします。
- ・ バラエティに富んだ内容で研修の目的を達することができました。普段、国際交流の機会が少ないのでタイの方々と交流でき楽しかったです。
- ・ 被災地における支援活動の裏の苦労話や男女共同参画を統計から見ること等、考えも及ばなかった。また、万葉の植物も普段横を素通りするだけのものにも意味があることを知った。津軽三味線、能等興味があっても鑑賞に至らなかったが今回楽しませて頂いた。能楽の楽しみ方を理解できました。最後の神田前理事長の講座、男女共同参画による地域作りを目指していきたいと考えています
- ・ ボランティアの方々に大変お世話になりました。
- ・ 環境にめぐまれ研修の場として最適であった(自然を満喫し集中して研修にのぞむことができた)。男女共同参画の原点を見ることができた
- ・ 神田道子先生のフレンドリーなお話を聞き、身近な人間味のある方だとつくづく感心致しました。娘にも自慢でき光栄に思いました。
- ・ いつもの日常とは違う環境で集中して受講することができました。自分の為だけに時間を使え学べることを楽しめました。
- ・ 他の団体と交流することができた

- ・初めてきく「男女共同参画統計」でしたがわかりやすい内容だった
- ・男女共同参画統計というものを知ることができ、統計で現状を見せること、そこから解ることといった男女共同参画に取りかかるひとつの手段について学ぶことができた。夜の情報交換会も会館のスタッフの方も交えて有意義なワークができました。
- ・とても良かったのですが1時間では短すぎると感じました。2時間ほどあっても全然OKだったと思います。
- ・初めて知ること多かった。色々な人と出会えた。今後の情報収集に役立ちそう。
- ・視点が変わると見えてくるものがちがった。自分でも意識してやってみたい。
- ・地元ではなかなか専門的に話を聞く機会がないので(一般的に男女共同参画についての講演を聴くことができますが)わかりやすい説明(統計の講義、情報センターの見学も)で貴重な体験ができた。また自由交流でも他県から来られている方々と知り合うことができ楽しいひとときを過ごすことができた。
- ・今回は花丸です。
- ・自然に恵まれ、心豊かになりました。能にふれ、神田先生のお話をうかがい、地域に根ざし地域に私たちがお返しできたと思います。私の歩んだ道はこれでよかったのだと思っています。
- ・この度、友人の誘いもあり会館を利用させて頂いて感じたことは、会館の広さ、大きさに驚きました。文化プログラムでは楽しく笑って、そして時事プログラムでは野菜の成分をより深く知ることができとても有意義な二日間を過ごすことができました。
- ・いつ来ても自然豊かな環境で研修を受けることができ、活動に対するパワーをいただいて帰っています。また自分を見つめ直す機会ともなっています。
- ・広くすばらしい施設で感激いたしました。遠い九州から参加できとても光栄でした。今後の自分の活動を充実させまた学びに参りたいと思います。
- ・きれいに使用してあり気持ちよく学べ、くつろげ、すがすがしい気持ちで楽しく受講でき宿泊できました。女性も家族のことを考えずに自分の勉強ができるのは素晴らしい。
- ・菊千代師匠の落語に妻をさそって大正解、感謝されました。会館は近くて利用しやすいし最高です。

2. 参加された目的と参加後の感想について

(1)参加された目的(複数回答)

	女性	% (101名中)	男性	% (24名中)	無回答	% (14名中)	合計	% (138名中)
1 男女共同参画について知識や情報を得ること	38	37.6	4	16.7	4	28.6	46	33.1
2 関心のある分野に対する知識や情報を得ること	27	26.7	7	29.2	1	7.1	35	25.2
3 宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること	22	21.8	3	12.5	2	14.3	27	19.4
4 その他	2	2.0	—	—	—	—	2	1.4

(2)-1 男女共同参画について知識や情報を得ること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 十分達成できた	16	15.8	3	12.5	3	21.4	22	15.8	28.2
2 達成できた	36	35.6	7	29.1	5	35.7	48	34.5	61.5
3 あまり達成できなかった	5	5.0	1	4.2	1	7.2	7	5.1	9.0
4 達成できなかった	—	—	1	4.2	—	—	1	0.7	1.3
無回答	44	43.6	12	50.0	5	35.7	61	43.9	
合計	101	100.0	24	100.0	14	100.0	139	100.0	100.0

(2)-2 関心のある分野に対する知識や情報を得ること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 十分達成できた	16	15.8	4	16.7	3	21.4	23	16.5	29.5
2 達成できた	33	32.7	9	37.5	3	21.4	45	32.4	57.7
3 あまり達成できなかった	7	6.9	—	—	1	7.2	8	5.8	10.2
4 達成できなかった	1	1.0	1	4.1	—	—	2	1.4	2.6
無回答	44	43.6	10	41.7	7	50.0	61	43.9	
合計	101	100.0	24	100.0	14	100.0	139	100.0	100.0

(2)-3 宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 十分達成できた	19	18.8	3	12.5	3	21.4	25	18.0	42.4
2 達成できた	20	19.8	3	12.5	3	21.4	26	18.7	44.1
3 あまり達成できなかった	5	5.0	1	4.2	—	—	6	4.3	10.1
4 達成できなかった	1	1.0	1	4.2	—	—	2	1.4	3.4
無回答	56	55.4	16	66.6	8	57.2	80	57.6	
合計	101	100.0	24	100.0	14	100.0	139	100.0	100.0

(2)-4 その他

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 十分達成できた	4	4.0	1	4.2	—	—	5	3.6	55.6
2 達成できた	—	—	1	4.2	—	—	1	0.7	11.1
3 あまり達成できなかった	1	1.0	—	—	—	—	1	0.7	11.1
4 達成できなかった	1	1.0	1	4.2	—	—	2	1.5	22.2
無回答	95	94.0	21	87.5	14	100.0	130	93.5	
合計	101	100.0	24	100.0	14	100.0	139	100.0	100.0

3. 今後取り上げて欲しいテーマ、企画、内容について

- ・若いイクメンのお話
高齢者の男女共同参画への関わり
男女で参加できる「ワークライフバランス」
- ・健康に生活するための生き方
- ・健康、老後(現在)について
- ・国際指標について
- ・農村女性の生き方等
- ・専門的な事を知りたい
- ・俳句講座、園内の吟行などあればと願っております。
- ・源氏物語の講義、三国志を読む、世界の音楽(カンツォーネ、コンドル、蒙古の音楽、ソビエトの古歌、アフリカの曲)
- ・年齢的に非常に来るのが難しいのですが今日来て能をよく説明され本当に今日来たことがすごく有意義であり感謝に堪えません。
- ・ボランティア活動について

- ・文化プログラム、小島英明先生による講演・講義大変わかりやすく又内容豊かで楽しい2時間でした。是非講演も見に行きたいと思います。
- ・今回大変企画でありました。今後古典文化を知るふれあいが必要であると思います。
- ・うたで健康作り
- ・初めて参加してこのような催し物があるのを知りましたが今後も続きますように。
- ・一泊研修を企画して欲しい
- ・テーマ別の交流ができればと思います。私は現在市民センター職員で子育て支援を担当しています。今回の講義ではテーマとして取り上げられていませんでしたがテーマ別の情報交換があつていいかなと思います。
- ・海外での子育て支援 人権、国の文化等
- ・日本のトップ企業での働く女性の講演等
- ・今回研修生の引率で「らんざん交流ウィーク」に参加いたしましたが、研修生のテーマが最近、子育て支援の方が多いので、男女共同参画の視点からの子育て支援を企画していただけると幸いです。
- ・男性の立場から考える男女共同参画について討議してみたい
- ・伝統芸能の中での女性の立場等、女性史のような内容。もっと子育てに関するお金をかけずにできる支援講
- ・男性女性関係なく人としてのレベルアップができる場が欲しい
- ・3回コースなどで定期的に講座などを開催されると良いのでは？
- ・民主活動においての男女共同参画社会の推進。あまりにも過剰な個人情報保護がネックになっていて活動に差し障りがある現実。
- ・音楽会、狂言、歌舞伎の勉強、日本舞踊鑑賞、川柳、短歌、総合的な作品づくり、文学関係の講座、作詞作曲の勉強、詩歌、俳句、結婚、離婚、憲法
- ・男性の育児休暇について。何かのテーマを設定して思いを一つにしたい人がネットワークを広げることができるような場にするための企画があるといい。
- ・今回のような企画が大講でできるくらいPRして有料でもどんどん企画してください。「まずは笑って男女共同参画」入場料3000円でも満足です。

国立女性教育会館ボランティア活動回数・活動人数集計(平成19年～23年度)

登録者数

	女性	男性	計
19年度	63	15	78
20年度	61	17	78
21年度	59	15	74
22年度	53	15	68
23年度	56	17	73

※年度途中に登録取り消しを希望した1名を含む

※年度途中に登録取り消しを希望した2名を含む

※年度途中に登録取り消しを希望した1名を含む

協力依頼内容別活動数

(回)

	主催	受入	情報	広報	環境整備	以外	計	平均活動回数
19年度	286	39	348	14	30	213	930	11.9
20年度	298	57	248	12	12	151	778	10.0
21年度	297	82	226	4	28	164	801	10.8
22年度	281	77	153	10	49	142	712	10.5
23年度	244	57	155	4	37	379	876	12.0

※平成23年度の「以外」の活動には東日本大震災被災者への対応79回を含む

協力依頼内容別活動人数

(人)

	主催	受入	情報	広報	環境整備	以外	延べ数計	実数計
19年度	207	35	150	14	15	90	511	347
20年度	205	43	184	14	12	64	522	338
21年度	208	70	116	4	22	91	511	376
22年度	176	60	73	10	32	70	421	306
23年度	182	43	89	4	36	242	596	408

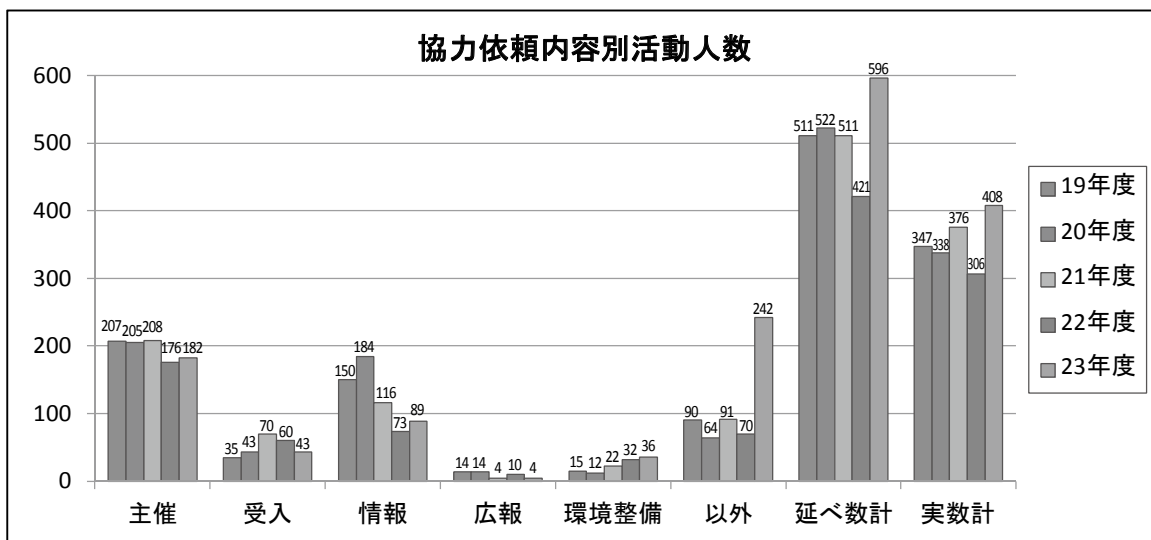
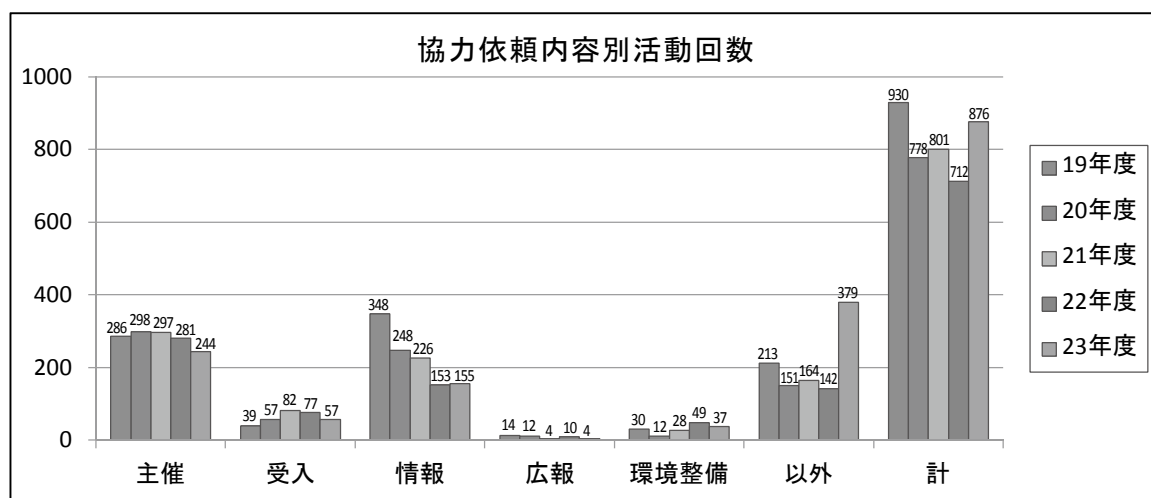


表1

「平成23年度 アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」日程
テーマ:災害とジェンダー ～地域の復興に果たす女性の役割

平成23年10月20日(木)～10月29日(土) (受け入れ期間 10月19日～10月30日)

月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師(敬称略)	開催地
10月19日	水	終日	日本到着			
20日	木	9:30～11:00	プログラムオリエンテーション & アイスブレイク	研修のねらい、目的、スケジュール説明	越智 方美 NWEC研究国際室専門職員	国立女性教育会館
		11:15～12:00	視察 女性教育情報センターと女性アーカイブセンター	「女性教育情報センター」と「女性アーカイブセンター」の見学	赤嶺 良子 NWEC情報課専門職員心得	
		14:00～15:30	講義 「災害におけるジェンダー～日本の経験から」		池田恵子 静岡大学教育学部 教授	
		15:45～16:00	開会挨拶		内海 房子 NWEC理事長	
		16:00～16:45	会館概要説明	国立女性教育会館について	久保 真季 NWEC理事	
21日	金	9:00～17:30	カントリーレポートの発表	研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター 越智 方美 助言者 齊藤容子 元国連地域開発センター防災計画ユニット研究員	国立女性教育会館
		18:30～20:00	男女共同参画のための研究と実践の交流 推進フォーラム(NWECフォーラム) 交流会に参加			
22日	土	14:30～16:00	NWECフォーラムポスターセッション	アジア太平洋諸国における、防災・減災とジェンダーに関する取組の報告	研修生	国立女性教育会館
23日	日		自由研究			
24日	月	9:30～11:00	講義 「日本の男女共同参画社会実現に向けた取組」	日本の男女平等施策に関する講義	金子 浩之 内閣府男女共同参画局 男女共同参画推進官	内閣府男女共同参画局
		11:30～12:00	表敬訪問 文部科学省 生涯学習政策局	表敬訪問	板東 久美子 文部科学省 生涯学習政策局局长	文部科学省
25日	火	9:30～11:10	視察 人と防災未来センター	震災の記憶を、どのように地域コミュニティの問題として語り継ぐかについて学ぶ	-	人と防災未来センター
		12:00～12:30	表敬訪問 尼崎市役所	表敬訪問	稲村 和美 尼崎市長	尼崎市役所
		14:00～15:00	講義 尼崎市女性センター トレピエについて	講義と施設見学を通じて、女性センターの機能と役割について学ぶ	森屋 裕子 尼崎市立女性・勤労婦人センター(トレピエ) 所長	尼崎市女性センタートレピエ
		15:00～17:00	講義とディスカッション 「ジェンダーの視点をふまえた災害復興・防災計画とは」	地域の女性リーダーとの意見交換	須田 和 尼崎市議会議員 正井 礼子 NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ 代表理事	
26日	水	15:30～17:00	研修の振り返り	神戸スタディーツアーについての振り返り	研修生・NWECスタッフ	国立女性教育会館
27日	木	9:00～10:30	日本文化の紹介		NWECボランティア	国立女性教育会館
		11:00～12:00	評価会	研修内容についての評価	研修生・会館職員	
		13:30～14:00	閉講式	修了書の授与	内海 房子 NWEC理事長	
		14:00～17:00	「NWEC国際シンポジウム」の発表準備		ファシリテーター 越智 方美 助言者 大崎 麻子 ジェンダー・アクション・プラットフォーム アドボカシー担当	
		18:00～19:30	情報交換会			
28日	金	10:00～16:00	「NWEC国際シンポジウム」の発表準備		ファシリテーター 越智 方美 助言者 大崎 麻子	国立女性教育会館
29日	土	13:00～17:30	「NWEC国際シンポジウム」			JICA研究所
30日	日		帰国			

平成 23 年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー開催要項

1. 趣 旨

「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は会館の第三期中期目標・中期計画において、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGO のリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成 23 年度のリーダーセミナーでは、災害とジェンダーをテーマとして設定し、男女共同参画の視点に基づいた災害後の復興支援のあり方や地域づくりに重点をおいた研修を行う。

2. 主 題 災害とジェンダー ～地域の復興に果たす女性の役割

3. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 期 間 平成 23 年 10 月 20 日（木）～10 月 29 日（土） （受入れ期間 10 月 19 日（水）～10 月 30 日（日））

5. 募集人員 10 名程度

6. 募集対象国

アジア・太平洋諸国の ESCAP 加盟国・準加盟国のうちの ODA 対象国等、日本

7. 応募資格

以下の 12 項目を満たす者

- (1) 女性
- (2) 下記のいずれかに該当する者
 - ① 女性に関する行政機関に所属する者
 - ② 女性の地位向上に関する NGO に所属する者
 - ③ 女性学関連研究に携わる者
- (3) 所属機関の長から推薦が得られる者
- (4) 大学卒またはそれと同等の学力および経験を有する者
- (5) 原則として、平成 23 年 4 月 1 日現在で満 45 歳未満の者
- (6) 講義を理解するのに十分な英語の能力を有する者
- (7) 原則として、研修の全日程に参加できる者
- (8) 男女共同参画および災害とジェンダーに関わる課題について十分な関心を持ち、課題解決に熱意のある者
- (9) 本国の担当部署で女性の能力向上に関わる事業を立ち上げる裁量・権限を持つ者
- (10) 研修終了後も、会館および参加者との持続的情報交換や連携事業について積極的に関わることができる者
- (11) 平成 23 年度の研修テーマに沿った事前課題を提出することが可能な者

- (12) 心身ともに健康である者（なお、妊娠中の女性の参加は、渡航・移動および研修参加への医者の許可がある場合に限る）

8. 応募方法

申込みは国立女性教育会館研究国際室宛に必要な書類（応募書類・所属長の推薦状）を提出する。募集要項および応募書類は、<http://www.nwec.jp> からダウンロードが可能。提出書類に不備がある申込みは選考の対象外となるので注意すること。

(1) 締切日 平成 23 年 6 月 24 日（金）日本時間 24 時必着

(2) 提出書類

- a. 様式 1 PART A：応募用紙（貼付する写真は、半年以内に撮影したものであること）
- b. 様式 1 PART B：所属長からの推薦状
- c. 様式 1 PART C：カントリーレポート
- d. 様式 1 PART D：健康に関する質問票
- e. 所属団体の活動内容の記載されたパンフレット
- f. 提出書類チェックリスト
- g. 有効なパスポートの顔写真貼付ページのコピー（所持者のみ）
＊行政機関以外の所属の場合は以下の書類及び資料を併せて提出のこと。
- h. 様式 2：NGO 団体概要

提出書類は返却しない。応募書類に記載された個人情報には本研修の実施の目的のみに使用する。可否に関する問い合わせには応じない。

9. 選考方法及び決定通知

(1) 募集方法

①海外

対象国はアジア・太平洋諸国の ESCAP 加盟国・準加盟国のうち ODA 対象国 35 カ国等とする。国立女性教育会館の調査研究事業等で関係を深めている国の機関を中心に、女性問題・女性教育に関するナショナルマシナリーおよびフォーカルポイント、女性団体等に応募要項・申込書を送付する。

②国内

国立女性教育会館及び男女共同参画行政関係の広報誌、メールマガジン、ホームページを通じて募集を行う。募集対象国に該当する駐日外国公館に応募要項・申込書を送付する。

(2) 選考方法

研修生の選考は、選考基準を定めて決定し通知する。

10. 研修日程

別紙参照

1 1. 研修内容・方法

- (1) カントリーレポートの発表・討議
- (2) 講義・グループワーク
- (3) 省庁・女性関連施設等の視察

研修成果の発表：「平成 23 年度男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」に、ポスターセッションの報告者として参加する。また研修最終日に会館が主催する「平成 23 年度 NVEC 国際シンポジウム」（10 月 29 日）に、研修生代表がパネリストとし、成果発表を行う。

1 2. 事前提出課題

研修参加者は、研修開始以前に、出身国における男女平等政策ならびにジェンダーの視点に基づいた防災・減災の取組に関するカントリーレポートを提出する。研修中に、提出したカントリーレポートをもとに討議を行う。提出方法・内容の詳細は応募書類（パワーポイントスライド 10～20 枚程度、様式 1 PART C）を参照のこと。カントリーレポートはその他の応募書類とともに、平成 23 年 6 月 24 日（金）日本時間 24 時までに会館あてメールで送付すること。

1 3. 使用言語

講義、演習はすべて英語で行う。日本語による講義・演習・施設訪問の場合には英語の通訳を配置する。

1 4. 研修費用

研修のための下記の費用は、国立女性教育会館が負担する。それ以外のすべての費用は研修生の負担とする。

- (1) 最寄りの国際空港から成田空港までの往復航空運賃（国内からの参加者には最寄り駅からの旅費を支給）、日本国内のホテル及び国立女性教育会館の宿泊費
- (2) 研修実施にかかる費用
- (3) 自国出国日から入国日までの滞在経費

1 5. 研修成果の普及

国立女性教育会館は、本研修の成果物（紙および電子媒体の資料、論文、パワーポイントスライド、カントリーレポート等）を研修終了後、会館のホームページならびに大学・行政機関が運営するレポジトリ等に掲載し、報告書を出版する。また国立女性教育会館が運営するメールリスト等で、研修テーマならびに各国の男女共同参画政策や最新の取組に関する情報交換や議論を継続して行う。

1 6. 連絡先、応募書類の提出先

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室

「平成 23 年度アジア太平洋地域の男女共同参画推進官・リーダーセミナー担当」宛

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

Tel: +81-493-62-6437

Fax: +81-493-62-9034

E-mail: rese2@nwec.jp

(電子メールでの問い合わせは、件名の頭に「平成 23 年度リーダーセミナー」と入れる)。

17. その他

- (1) 海外から日本への渡航に必要なすべての手続きは、研修生自身の責任において行う。
パスポート及びビザの入手に必要な招へい状等の書類は、国立女性教育会館が送付する。日本までの航空便、到着日時、交通手段等に関する詳細は、決定通知時に併せて知らせる。研修生の意向による航空便の変更は認めない。
- (2) 家族等の同伴は不可。
- (3) 研修期間中は日本国内に留まる。
- (4) 研修終了後は直ちに帰国する。
- (5) 応募用紙の記入方法等、不明の点は、独立行政法人国立女性教育会館研究国際室に照会のこと。

2011 The Seminar for Gender Equality Officers and Women Leaders in the Asia and Pacific Region

1. Why did you apply for this seminar? (Please circle as many as you like.)

1	10	91%	Enhance your knowledge and practical skills for promoting gender equality
2	11	100%	Capacity development as a women's leader for promoting gender equality
3	10	91%	Enhance your ability to implement what you have learned from this seminar in your country
4	11	100%	Build a collaborative network with NWECC and the seminar participants
5	3	27%	Others(pleasespecify:)

2. To what extent did the content of this program in general deepen your views on gender equality and help you execute your work duties?

←Very useful		Not useful→	
4	3	2	1
11	0	0	0
100%	0%	0%	0%

3. How satisfied were you with the program in general? Please provide details.

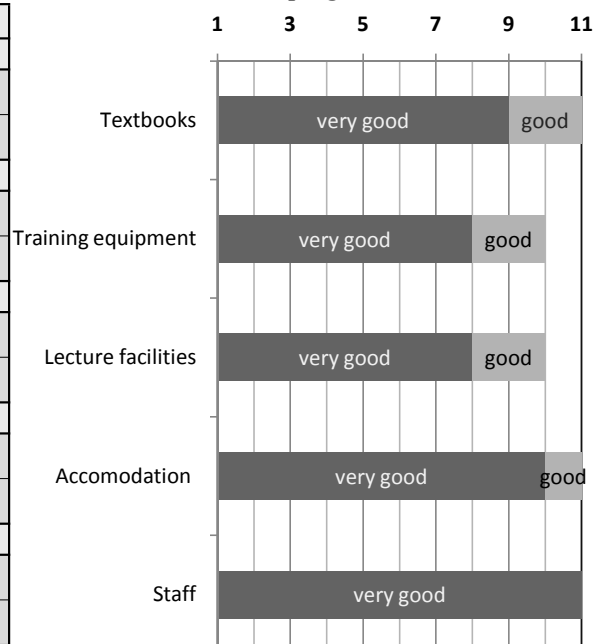
←Satisfied		Unsatisfied→	
4	3	2	1
11	0	0	0
100%	0%	0%	0%

4. Will you be able to apply information and knowledge gained through this program at work upon returning to your country?

←Very useful		Not useful→	
4	3	2	1
9	1	1	0
82%	9%	9%	0%

5. What did you think of the textbooks, training equipment and lecture facilities used for the program?

	←Good				Poor →			
	very good		good		poor		very poor	
Textbooks	4	3	2	1	4	3	2	1
	9	2	0	0	82%	18%	0%	0%
Training equipment	4	3	2	1	4	3	2	1
	8	2	0	0	73%	18%	0%	0%
Lecture facilities	4	3	2	1	4	3	2	1
	8	2	0	0	73%	18%	0%	0%
Accommodation	4	3	2	1	4	3	2	1
	10	1	0	0	91%	9%	0%	0%
Staff	4	3	2	1	4	3	2	1
	11	0	0	0	100%	0%	0%	0%



6. What did you think of the general administration and management of the training program?

←Very good		Very poor→	
4	3	2	1
9	2	0	0
82%	18%	0%	0%

平成23年度 国別研修「人身取引被害者支援に関する日・タイ合同ワークショップ（2011）」 実施要項

1. 趣 旨

国際協力機構（JICA）が実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」（2009年3月17日～2014年3月16日）の一環として、プロジェクトのカウンターパートを対象としたワークショップ型研修を実施する。5年計画の第3年次。タイ政府社会開発・人間安全保障省が事務局として担っている、女性や子どもの人身取引被害者の保護・支援のための多分野協働チーム（MDT）の機能・活動（アプローチ）を強化することを目的に行う。

2. 主 催

独立行政法人国際協力機構（JICA）

3. 実施機関

独立行政法人国立女性教育会館

4. 協力

内閣官房、内閣府男女共同参画局、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、岐阜県、愛知県、長野県、国際移住機関（IOM）、人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）、タイ人ネットワーク

5. 期 日

平成23年11月7日（月）～11月18日（金）（実施期間）

6. 対象

社会開発人間の安全保障省・社会福祉局・女性と子どもの人身取引対策部職員を含む、多分野協働チーム（MDT）のメンバー。

7. 参加者

14名（女性：10名、男性4名）

中央政府およびパヤオ県、チェンライ県のシェルター所長、ソーシャルワーカー、警察官、入国管理官、労働省、NGO関係者等。

8. 研修項目

- ① 日タイ両国の人身取引対策における取組の全体像を把握し、被害者の保護と自立支援に関わる関係機関の役割や協力体制等、一連のプロセスについての実態を把握し、相互の理解を深める
- ② 人身取引被害者の保護・自立支援に向けて、タイでのMDTの機能強化に資するプラクティスやネットワーク強化に資する方策を検討する

9. 評価（アンケート回答13人）

有用度	100%	期待充足度	100%
-----	------	-------	------

10. 研修日程

別添参照

平成23年度タイ国別研修「人身取引被害者支援に関する日・タイ合同ワークショップ」日程表【11月7日(月)～11月18日(金)】

月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師・参加者	研修場所	宿泊
11月6日	日			来日 移動 成田国際空港→幡ヶ谷(TIC)	JL718便 11/5 23:10/バンコク発, 7:25成田着		TIC
7日	月	9:00-10:30	オリエンテーション	ブリーフィング	JICEブリーフィング担当	TIC SR18	TIC
		10:30-11:00		プログラムオリエンテーション	関係者紹介、日程説明(JICA)	TIC SR18	
		11:00-12:00	講義	日本の人身取引対策・主な活動主体の概要	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)	TIC SR18	
				昼食			
				移動(電車) 代々木上原(TIC)→永田町(内閣府)			
		15:00-15:30	表敬	内閣府男女共同参画局	原 典久(内閣府男女共同参画局推進課暴力対策推進室室長)	内閣府	
		15:30-17:00	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:全体概要(内閣官房)	高岩 直樹(内閣官房 内閣参事官補)	内閣府	
				移動(電車) 永田町(内閣府)→代々木上原(TIC)			
8日	火			移動(バス) 幡ヶ谷(TIC)→渋谷	(8:00 国連大学にて資料受け渡し:渡辺)		NWEC
		9:30-11:00	講義	日本政府の人身取引対策:厚生労働省の取組	斉藤 克也(厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課母子家庭等自立支援室女性保護専門官)	こどもの城 905	
				移動(徒歩)			
		11:10-11:50		ポラリスシンポジウム部分参加	タイ代表が5分間英語スピーチ(11:15-11:20)	国連大学	
				昼食			
				移動(バス) 渋谷→新宿			
		14:00-15:30	視察・講義	東京都女性相談センターの取組	東京都女性相談センター	新宿	
		17:30-19:45	表敬・意見交換	表敬と夕食会	在京タイ王国大使館	目黒	
9日	水			移動(バス) 都内→NWEC(21:30過ぎ着予定)			NWEC
		9:00-9:30	施設案内	フェアートレードショップ	パッチワーク 長谷川		
		9:45-10:45	講義	国立女性教育会館の役割と人身取引への取組	桜田今日子(国立女性教育会館専門官)	NWEC 中会議室	
		11:10-11:50	施設案内	情報センター	情報課		
				昼食			
		13:00-14:30	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:外務省	宮田 高(外務省 総合外交政策局 国際安全・治安対策協力室)		
		15:00-17:00	講義	IOMの人身取引対策:国際移住機関	須藤 詠子(国際移住機関(IOM)人身取引対策コーディネーター)		
10日	木	9:30-10:30	講義・意見交換	女性に対する暴力について、日本の取組	森下 敏広(国立女性教育会館事業課専門職員)	NWEC 中会議室	NWEC
		10:30-11:00	講義・意見交換	在日タイ人ネットワークの支援活動(DV支援と自助グループの活動)	山崎パチャラー(ウェア・ワリ代表)		
		11:00-12:00	講義・意見交換	在日タイ人ネットワークの支援活動(DV支援と自助グループの活動)	吉永ワチラポン(ウェア・ワリスタッフ, 在住タイ人)		
				昼食			
		13:00-13:30	挨拶	ご挨拶	内海 房子(国立女性教育会館理事長)		
		13:30-14:30	講義・意見交換	東日本大震災から考える災害とジェンダー	越智 方美(国立女性教育会館研究国際室専門職員)		
		14:30-16:30	講義・意見交換	在日タイ人ネットワークの支援活動(災害支援)	武田ヴィーリン(財団法人茨城県国際交流協会相談員)		
				三味線演奏	NWECノットの会		
		18:00-19:30		交流夕食会	NWECノットの会+NWEC職員		
11日	金	10:00-12:00	講義	日本政府の人身取引対策:厚生労働省の取組	三原 糸(厚生労働省労働基準局監督課 特定分野労働条件対策係長)	NWEC 中会議室	TIC
				昼食			
		14:00-16:00	講義	日本政府の人身取引対策:警察庁	早川 昌宏(警察庁生活安全局保安課 警察庁警視)	NWEC 中会議室	
		16:30-17:00		次週の予定説明			
				移動(移動) NWEC→都内(TIC)			

月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師・参加者	研修場所	宿泊
12日	土			Aグループ 東京TIC9:00→神奈川(電車)			
		10:30-13:30	講義・意見交換	民間シェルターの取組(A)	武藤かおり(女性の家サラー事務局長)	神奈川	
				昼食			
				神奈川→東京(電車)			
				Bグループ 東京TIC8:30→千葉(バス)			
		10:30-11:30	講義・意見交換	民間シェルターの取組(B)	花崎みさを(社会福祉法人 一粒会理事長、児童養護施設「野の花の家」施設長)	千葉	
				昼食			
		12:30-13:30	講義・意見交換	民間シェルターの取組(B)	古賀 幸子(社会福祉法人 一粒会「FAH(フレンドシップアジアハウス) こすもす」施設長)		
		13:30-14:30	講義・意見交換	民間シェルターの取組(B)	フランク・オカンボス(社会福祉法人 一粒会「ファミリーセンター・ピオラ」職員)		
				移動(バス) 千葉→東京			TIC
13日	日			自由研究			TIC
14日	月	9:00-12:00	講義・ワークショップ	日本における取組から学ぶワークショップ	齋藤百合子(明治学院大学准教授)	TIC別館 SR AB	
				昼食			
				移動(バス) TIC発12:45(法務省西玄関に13:45)			
		14:00-16:45	講義・意見交換	日本の人身取引対策:法務省	刑事局担当官 入国管理局担当官	法務省	
				移動 新幹線(のぞみ251) 東京18:20→名古屋20:03			名古屋
15日	火			移動(電車) 9:00発			
		10:00-12:00	講義・意見交換	外国人女性支援 DVや雇用の問題	杉戸ひろ子(かけこみ女性センターあいち 事務局長)	AIA	
				昼食			
		13:00-14:00	見学	愛知県国際交流協会	栗木課長、相談員	AIA	
		14:30-15:30	講義・意見交換	愛知県におけるタイ人支援グループ「タイ女性の会」の取組	大久保スリラット(タイ女性友の会 代表)	AIA	
		15:30-16:30	講義・意見交換	愛知県におけるタイ人支援グループ「タイ女性の会」の取組	ピヤナン・ソバナシリ(タイ女性友の会 副代表)	AIA	名古屋
16日	水			移動(バス) 名古屋10:00→岐阜			
				昼食(ふれあい福寿会館)			
		12:40-14:40	講義・意見交換	岐阜における人身取引対策の取組:岐阜県警	西脇 克児(岐阜県警察本部生活安全部生活環境課保安事件・風俗事件補佐 警部)	県民ふれあい福寿会館	
		14:40-16:40	講義・意見交換	岐阜における人身取引対策の取組:岐阜県女性相談センター	堀 秀子(岐阜県女性相談センター長)		
				移動 新幹線(ひかり526) 岐阜羽島18:11→品川20:03			TIC
17日	木	10:00-11:30		成果発表準備		TIC SR16	
				昼食			
		12:30		移動 幡ヶ谷(TIC)→市ヶ谷(JICA本部)			
		13:30-16:30		成果発表・意見交換会	八幡浩紀(内閣官房), 斎藤克也(厚労省), 宮田 高(外務省), 早川昌宏(警察庁), 松井 新(法務省 刑事局)	JICA本部会議室(113)	
				移動 麹町(JICA本部)→幡ヶ谷(TIC)			TIC
18日	金	10:30		移動(電車) 幡ヶ谷(TIC)→市ヶ谷(JICA本部)	研修参加者、JICA関係者		
		11:30-13:30		評価会	研修参加者、武藤副室長、JICA、NVEC	JICA本部229TV室	
				修了書授与			TIC
19日	土			帰国 移動(バス) 幡ヶ谷(TIC)→成田国際空港	JL717便 11:00成田発→15:35バンコク着		

平成 23 年度 NVEC 国際シンポジウム開催要項

1. 趣 旨

本事業の目的は女性の人権、女性の能力開発、人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者、女性団体等指導者との交流を深めるとともにネットワークづくりを進めることです。

平成 23 年度の「国際シンポジウム」では、「災害復興とジェンダー」をテーマとして設定します。海外の研究機関ならびにナショナルマシーナリー、NGO でリーダーとして活躍している専門家/実践家を招聘し、基調講演とポスターセッション、パネルディスカッションを通じて、アジア・太平洋諸国における男女平等政策の現状を学び、男女共同参画の視点に基づいた災害復興のあり方について議論をおこないます。

2. 主 題

災害復興とジェンダー

3. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

国際シンポジウム 災害復興とジェンダー 実行委員会（実行委員長 原ひろ子 城西国際大学客員教授）

4. 後 援

独立行政法人 国際協力機構

5. 会 場

独立行政法人 国際協力機構 JICA 研究所
東京都新宿区市谷本村町 10-5

6. 期 日

平成 23 年 10 月 29 日（土）13:00-17:30

7. 使用言語

日本語、英語 （同時通訳付き）

8. 募集人員

男女共同参画、女性教育、家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、駐日大使館職員、女性団体等のリーダー、研究者、国際交流・開発援助に関わる者、企業関係者等
100 名程度

9. プログラム

開会 13:00-13:30 主催者挨拶・イントロダクション

第一部 基調講演 13:30-15:00

堂本暁子 （女性と健康ネットワーク代表・前千葉県知事）

「男女共同参画の視点からみた災害と復興～東日本大震災に学ぶ」
セパリ・コテゴダ（APWW（アジア・太平洋女性監視機構）代表・女性とメディアコレクティブ代表）
「災害対策政策のジェンダー主流化～アジア・太平洋地域における課題」

ポスターセッション 15:00-15:40

「アジア・太平洋地域におけるジェンダーの視点に基づいた防災・減災の取組」
（「平成 23 年度 アジア太平洋地域の男女共同参画推進官・リーダーセミナー」研修生による報告）

第二部 パネルディスカッション 15:40-17:20

「災害後の地域づくりとジェンダー ～アジア・太平洋地域からの提言」

- ・ファシリテーター 大崎麻子（ジェンダー・アクション・プラットフォームアドボカシー担当）
- ・パネリスト：
 - ・ジュリー・ヴィチトバダカン（慈善活動と市民社会センター代表）
 - ・シャンタナ R. ハルダー（国連開発計画 災害管理・災害救援部門 モニタリング・評価専門家）
 - ・平賀圭子（特定非営利活動法人参画プランニング・いわて理事長）
 - ・「平成 23 年度 アジア太平洋地域の男女共同参画推進官・リーダーセミナー」研修生代表

閉会 17:20-17:30

10. 申込方法・申込期限

①申込方法

ア. 電子メール

下記の必要事項を入力の上、rese2@nwec.jp までお申し込みください。
（メールのタイトルを「平成 23 年度国際シンポジウム参加希望」としてください。）

イ. ファックス

ホームページから申込用紙をダウンロードの上、

1) お名前・フリガナ、2) 郵便番号・住所、3) 電話番号、4) ファックス番号、5) メールアドレス、6) 所属先を記入し、下記までお送りください。

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室 国際シンポジウム担当

FAX 番号 0493-62-9034

②申込期限 平成 23 年 10 月 25 日（火）必着

③決定通知 参加される方が決定次第、メールもしくはファックスにて参加証をお送りします。
当日ご持参ください。

11. 所要経費 参 加 費： 無料

平成23年度「NWEC国際シンポジウム」アンケート集計結果

Questionnaire on "FY2011 NWEC International Symposium"

アンケート提出者 84 名
回収率(128名中) 65.6%

本シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございました。
今後の事業の充実を図るため、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

Thank you for your participation to the International Symposium. Please feedback your comments and suggestions.

1. このシンポジウムに参加された動機は何ですか。最もあてはまるもの3つに○をつけてください。

What do you expect from the symposium? Please choose up to 3 reasons from below which best matches your interest.

① 災害復興とジェンダーの現状や課題について知るため To learn the status quo and issues on disaster restoration and gender.	69	82%
② このテーマに関連する研究・仕事・活動に関わっているため Am involved in research and/or activities related to the symposium topic, or work in the related field.	38	45%
③ 各国の男女平等政策に関する取組について知るため To acquire information and knowledge about gender equality policies in the Asia Pacific region.	48	57%
④ シンポジウムのパネリストやポスターセッション報告者と意見を交換するため To exchange views on disaster restoration and gender with panelists and poster session presenters.	9	11%
⑤ その他 Other Others (Please specify.) ・何がジェンダー平等への道程が進まないかを知るヒントを得るため ・3つは難しいです。 ・アジアの国々についてもっと知りたいと思った。 ・友達にさそわれました。 ・To share experience on specific mechanisms to support female victims of disaster. ・To help and to support women victims of the domestic and economic violence in my country.	4	5%

2. このシンポジウムの内容はご自身の研究や活動に有用でしょうか。

次の各項目について最も近いものに○をつけ、その理由もお書き下さい。

How do you evaluate the symposium in relation to your research, work or activities? Please check the below .

		とても有用 Very useful	少し有用 Useful to some extent	あまり 有用でない Not so useful	全く 有用でない Useless	参加 しなかった Did not attend	その理由 Remarks
①第Ⅰ部 基調講演 Part I Keynote Speech	堂本氏 Ms. Domoto	69 87.3%	10 12.7%				
	・クリア ・被災地に自分には行っていないので基本的な考え方が参考になった。 ・いろいろ役に立ちたいと思うが難しいですね。 ・現地に行っていないので現場の事がよく分かった。						
	コテゴダ氏 Dr. Kottegoda	50 67.6%	22 29.7%	2 2.7%			
	・セオリー中心で実例が少なかった。 ・配付資料もありわかりやすかった。						
	・意思決定の場に女性がいることの大切さが理解できた。						
②ポスターセッション(交流) Poster Session		23 35.4%	35 53.8%	7 10.8%		2	
	・報告者と直接話ができた。 ・言葉がわからず、さらっと通り過ぎた。 ・言葉がわからない。						
③第Ⅱ部 パネルディスカッション Part II Panel Discussion		46 66.7%	22 31.9%	1 1.4%		1	
	・各国の状況がわかった ・通訳による差が出たと思います。時間が短かったので皆さん早口で大変だったと思いますが.. ・平賀さんの報告がためになった。 ・子供の頃からのジェンダー教育の大切さがわかった。 ・とても参考になりました。						

2-a 今後の研究・仕事・活動に活用できそうな点を具体的にお書きください。

Please specify how you could reflect the outcome of the symposium to your research, work or activities in future.

- ・ジェンダーの視点がどのように欠如しているのかを知ることが出来たので、その改善に取り組むにはどうすればよいか考えることが出来た。
- ・市政に女性の意見がとどくよう要望を出していきたい。
- ・ジェンダーの大切さを再認識しましたので、今後も活動の場で積極的に意識していける様にしたいと思います。
- ・防災計画に女性としての声を入れていきたい。
- ・好事例の紹介から学ぶことが多かった。
- ・地域の防災計画でジェンダー主流化の観点を導入するように働きかける
- ・問題意識を持った女性が必要ということを、知人、友人に伝える意味があると思うので、伝えたい。
- ・各国の状況を知ることができたこと。
- ・災害とジェンダーのテーマについての問題整理ができたので、今後の事業企画に生かしたいです。
- ・地域での防災活動、計画段階から女性を参加するようにしていく。
- ・4月より地方自治体の職員として勤めることになっておりますので、学んだことをしっかり内部から活かしていこうと思います。
- ・日本の中より、アジア地区の状況をくわしく知る事が出来た。
- ・法律に明文化するだけでは不十分という点を理解出来た。(堂本氏)
- ・組織・システムの恒常的機能とモニタリング(ポスター)
- ・女性の意志決定過程への参画の重要性、男女の意識改革の難しさがアジア共通の課題、ということが再認識できました。
- ・災害時の視点が非常に参考になった。
- ・職場における女性管理職としての行動指針。
- ・それ程感じていなかった事も、しっかりジェンダーとして取り組むべきと思った。
- ・パネルディスカッションのコーディネーターさんのまとめが少しわかりにくかった。(早くて)
- ・広い視野をもつことができた。
- ・Examples from Bangladesh
- ・It was wise to discuss many issues & ideas to work on in future for the society.
- ・Future policy & program design purpose

2-b このプログラムをよりよくするには、どのような点を改善すればよいでしょうか。

Please give us your suggestions to improve the program.

- ・原子力災害の話が一言も出ませんでした、世界の原子力事情も知りたいと思いました。
- ・男性の発表者を一人入れて「ジェンダー視点」について意見交換ができれば良かった。
- ・優良事例も役に立つが、それ以上に、具体策を実現するために動く際に、何によって障害がでてくるかの事例はもっと詳細が必要であると思います。
- ・せっかくなので、様々な国の方を囲んだグループディスカッションがあると、より交流が深まったように思います。
- ・こういうシンポジウムがあったということが、主要なメディアで報道されれば、より多くの人に伝わっていいなあ、と思いました。
- ・男性との対話 男性にも多く参加してもらう工夫が必要。この会場にいる人より、会場にこない人(男性)に聞いてもらう必要がある。
- ・各国からの参加者と小グループで話をするなど、交流がもてるとよい。
- ・堂本さんのお話の中で地震発生時のテープが流されました。その前にひとこと、テープを流します、と言ってほしいかなと思います。あの日を思い出すのがつらい方もひょっとしたらいらっしゃるかなと、うしろの方から見てて感じました。
- ・パネルディスカッションのジュリーさんのお話がとてもすばらしかった。もっともつとうかがいやすかったです。通訳の方もよかったです。
- ・広報をもっとしっかりとされて、日本の若い方に参加していただくとよいと思います。
- ・パネルの一部、通訳の方が居たのでお話し出来た。もう少し何人かが居て下さると良いのでは？
- ・男性の参加、または男性・マスキュリニティーの視点を持った参加者の増加。
- ・男性の職場とか男性団体の場で、このようなプログラムを行わないと前に進まないと思います。
- ・これでよいと思う。
- ・この内容を男性に聞いてもらう(機会)はあるのでしょうか？女性の中だけで伝えあっても解決は難しいのではと思いました。
- ・パネラーの方が続けてたので少し疲れました。
- ・昼食をとる時間がなかったので、ポスターセッションの間に軽くいただきましたが、近くにも建物内のレストランもお休みで残念でした。
- ・語学の壁を低くする。
- ・I'm not working in this area, just a JICA participant.

3. 次の各項目について、シンポジウム後の感想に最も近いものに○をおつけください。

Did the symposium meet your expectations? Please check below.

	そう思う Satisfactorily meet the expectation.	少しそう思う Meet the expectation to some extent.	あまりそう 思わない Fail to meet the expectation.	全くそう 思わない Not at all meet the expectation.
①災害復興とジェンダーをめぐる課題について知ることができた Was able to learn status quo and issues on disaster restoration and gender.	67 84.8%	12 3.0%		
②研究・仕事・活動に役立つ情報や知識を得ることができた Was able to obtain information/knowledge useful to my research, work or activities.	40 56.3%	25 35.2%	6 8.5%	
③各国の男女平等政策に関する取組について知ることができた Was able to learn gender equality policies in the Asia Pacific countries.	36 52.9%	28 41.2%	4 5.9%	
④災害復興とジェンダーに関する情報や経験を、パネリストやポスターセッション報告者と交換することができた Was able to exchange views on disaster restoration and gender with panelists and poster session presenters.	25 39.7%	24 38.1%	14 22.2%	
④その他 Others(Please specify.)	2	1		
・災害以前の文脈の部分の説明があった方が、もう少しわかりやすかったのでは？ ・Culture exposure				

4. ポスターセッションの感想を自由にお書き下さい。

Please give us feedback on poster session.

- ・各国の方と直接話せて良かったです。
- ・とても若い世代の方が活躍しているのが印象的でした。
- ・資料の内に日本語訳があったので便利だった。
- ・写真はわかりやすいので、ポスターは大変よいと思います。
- ・その国のどこの地方か、地図があるとよりわかりやすいです。
- ・ポスターの中に入れることをある程度指定した方が、各国の文脈をしらない人にとってわかりやすかったと思う。
- ・一寸見にくかった
- ・各国の取組について知るよい機会であったが、国によって取組や研修参加者の知識・経験にばらつきがあったように思う。
- ・好事例についての紹介をもっと見たかった。
- ・知らなかった事が多すぎた。
- ・制度についての情報が少なかった。
- ・ポスターが小さい
- ・バングラデシュはジェンダーが全然行きわたっていないが、女性がもう少し管理委員に関与しなければ発展出来ないのではないのでしょうか。日本もまだまだ女性の関与は少ないですが、それ以上に大変だと思いました。
- ・日本語訳を添えて欲しい。
- ・あまり関わらなかった。
- ・通訳の方にお世話になりながら話を聞く事が出来ました。ありがとうございました。
- ・沢山の人がいらっしやって、中に入っていけませんでした。
- ・テーマというか一番いいたい((表現したい)ことを絞った方が良い。
- ・積極的参加がしづらかった。
- ・I have got many useful information from different countries participants.
- ・Groove & interesting

5. 参加した全体の感想について、最も近いものに○をつけ、その理由もお書きください。

What is your overall impression about the symposium? Please tell us the reason.

① 非常に満足した Very satisfied	② 満足した Satisfied	③ 満足しなかった Unsatisfied
25 33.8%	49 66.2%	0 0.0%

- ・最初、部屋の暖房がききすぎてつらかったです。
- ・Some speakers are too fastt, so translations can't catch up.
- ・国際シンポジウムには初めて参加させていただいたので、私たちの市でも男女共同参画社会の実現を進めていることから参考になった。
- ・初めての参加で少し場所なれが出来なかった各国の様子が聞くことが出来、良かった。

6. お差支えない範囲で、教えてください。

Please tell us about yourself.

I 年 齢	① 19歳以下	② 20歳代	③ 30歳代	④ 40歳代	⑤ 50歳代	⑥ 60歳以上	⑦ 未回答
Age	Under 19 year-old	20's	30's	40's	50's	over 60 year-old	
	0	5	12	13	15	30	9

II 性 別	① 女性	② 男性	③ 未回答
Gender	Female	Male	
	66	5	13

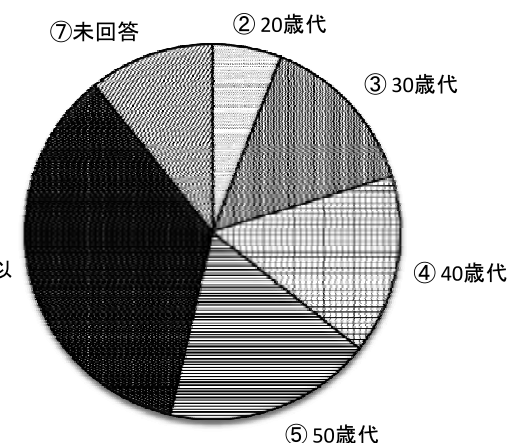
III お住まいの都道府県

Place of your residence (prefecture)

東京:16	埼玉:26	千葉:4	神奈川:2	栃木:1	茨城:1
北海道:2	京都:1	福岡:1	パキスタン:1	USA:1	

IV 職 業 Occupation

① 女性関連施設関係者	Staff of Women's Center	3	⑥ 学校教職員	School Teacher/Staff	1
② 行政関係者	Civil Servant	7	⑦ 会社員	Company Employee	3
③ 国際協力関係者	Staff of International Organization/Overseas Development	6	⑧ 学 生	Student	4
④ 団体・NPO関係者	Staff of Women's Organization/NGO/NPO	12	⑨ その他		27
⑤ 研究者・大学教員	Researcher/Academe	9	Other (Please specify.		)
			・主婦ですがボランティア団体で活動しています。		
			・Art therapist		
			・Family counseling of the Ministry of Family and women's promotion.		
			・Belongs to leaders from south Asian countries.		
			⑩ 未回答		12



♪ ♪ ご協力ありがとうございました ♪ ♪

Thank you for your cooperation.

*お書きいただいたご意見は、本事業の改善のためにのみ使わせていただきます

*NVEC will refer to your comments and suggestions solely for the purpose of improving the symposium program.

平成23年度 国立女性教育会館利用状況 (平成24年3月31日現在)

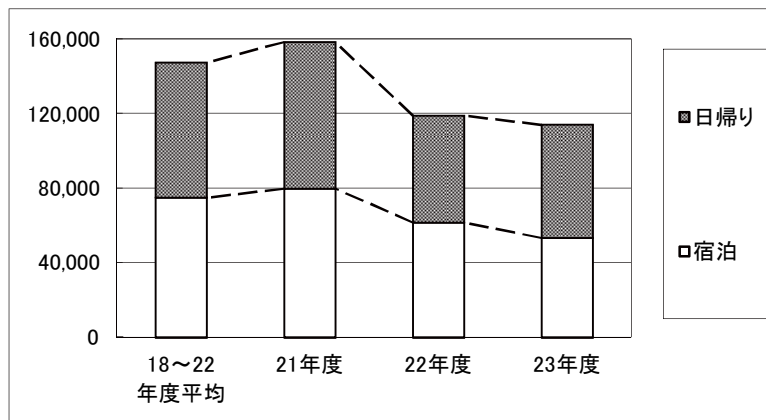
		(4月～3月)												対平成21年度増減	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	23年度実績合計	対平成21年度増減
利用団体数	宿泊日帰り計	76	87	65	81	89	109	105	95	50	34	51	72	914	1,242
	女性	197	184	206	180	145	206	193	185	140	123	174	193	2,126	2,861
	男性	273	271	271	261	234	315	298	280	190	157	225	265	3,040	4,103
	女性(個人)	1,571	950	1,932	1,613	1,679	2,002	2,794	1,311	884	596	1,079	1,656	18,067	26,213
	男性(個人)	369	508	493	873	973	1,001	1,274	614	506	365	711	650	8,337	11,906
	女性(個人)	(9)	(13)	(10)	(20)	(20)	(19)	(12)	(10)	(8)	(9)	(8)	(9)	(147)	149
	男性(個人)	(8)	(7)	(6)	(6)	(4)	(10)	(12)	(5)	(3)	(9)	(6)	(3)	(79)	122
	女性(個人)	1,940	1,458	2,425	2,486	2,652	3,003	4,068	1,925	1,390	961	1,790	2,306	26,404	38,167
	男性(個人)	(17)	(20)	(16)	(26)	(24)	(29)	(24)	(15)	(11)	(18)	(14)	(12)	(226)	271
	女性(個人)	2,164	1,675	2,415	1,895	1,799	2,462	2,867	11,880	2,036	1,587	1,634	2,328	34,742	48,295
実利用者数	女性(個人)	(70)	(66)	(86)	(176)	(113)	(173)	(74)	(8)	(30)	(14)	(11)	(22)	(843)	1,660
	男性(個人)	1,740	1,196	1,501	1,157	1,169	1,556	1,860	9,932	1,268	1,239	1,734	1,676	26,028	30,383
	女性(個人)	(68)	(66)	(69)	(100)	(85)	(201)	(78)	(66)	(59)	(53)	(51)	(62)	(958)	1,233
	男性(個人)	3,904	2,871	3,916	3,052	2,968	4,018	4,727	21,812	3,304	2,826	3,368	4,004	60,770	78,678
	女性(個人)	(138)	(132)	(155)	(276)	(198)	(374)	(152)	(74)	(89)	(67)	(62)	(84)	(1,801)	2,893
	男性(個人)	3,735	2,625	4,347	3,508	3,478	4,464	5,661	13,191	2,920	2,183	2,713	3,984	52,809	74,556
	女性(個人)	(79)	(79)	(96)	(196)	(133)	(192)	(86)	(18)	(38)	(23)	(19)	(31)	(990)	1,809
	男性(個人)	2,109	1,704	1,994	2,030	2,142	2,557	3,134	10,546	1,774	1,604	2,445	2,326	34,365	42,280
	女性(個人)	(76)	(73)	(75)	(106)	(89)	(211)	(90)	(71)	(62)	(62)	(57)	(65)	(1,037)	1,355
	男性(個人)	5,844	4,329	6,341	5,538	5,620	7,021	8,795	23,737	4,694	3,787	5,158	6,310	87,174	116,845
延利用者数	女性(個人)	(155)	(152)	(171)	(302)	(222)	(403)	(176)	(89)	(100)	(85)	(76)	(96)	(2,027)	3,164
	男性(個人)	9,345	7,078	7,039	8,498	9,276	7,547	9,144	32,223	5,234	6,100	7,475	6,365	115,323	172,485
	女性(個人)	1,923	940	894	2,417	2,501	2,337	1,959	1,165	960	503	647	2,108	18,354	27,428
	男性(個人)	497	559	518	1,181	1,592	1,125	656	562	454	322	350	757	8,573	14,266
	女性(個人)	2,420	1,499	1,412	3,598	4,093	3,462	2,615	1,727	1,414	825	997	2,865	26,927	41,694
	男性(個人)	3,494	1,890	2,826	4,030	4,180	4,339	4,753	2,476	1,844	1,099	1,726	3,764	36,421	53,689
	女性(個人)	866	1,067	1,011	2,054	2,565	2,126	1,930	1,176	960	687	1,061	1,407	16,910	26,172
	男性(個人)	4,360	2,957	3,837	6,084	6,745	6,465	6,683	3,652	2,804	1,786	2,787	5,171	53,331	79,861
	女性(個人)	2,164	1,675	2,415	1,895	1,799	2,462	2,867	11,880	2,036	1,587	1,634	2,328	34,742	48,295
	男性(個人)	1,740	1,196	1,501	1,157	1,169	1,556	1,860	9,932	1,268	1,239	1,734	1,676	26,028	30,383
開館日数	女性(個人)	3,904	2,871	3,916	3,052	2,968	4,018	4,727	21,812	3,304	2,826	3,368	4,004	60,770	78,678
	男性(個人)	5,658	3,565	5,241	5,925	5,979	6,801	7,620	14,356	3,880	2,686	3,360	6,092	71,163	101,984
	女性(個人)	2,606	2,263	2,512	3,211	3,734	3,682	3,790	11,108	2,228	1,926	2,795	3,083	42,938	56,555
	男性(個人)	8,264	5,828	7,753	9,136	9,713	10,483	11,410	25,464	6,108	4,612	6,155	9,175	114,101	158,539
	女性(個人)	14,814	9,821	9,521	13,447	15,539	11,582	12,503	34,494	6,427	7,572	9,155	9,818	154,692	153,059
	男性(個人)	30	29	29	30	23	29	29	28	23	19	23	30	322	338
	女性(個人)	275	200	267	304	422	361	393	909	265	242	267	305	354	469
	男性(個人)	25.0	17.2	15.6	38.4	55.2	38.4	30.1	20.6	21.9	15.0	14.7	30.6	27.4	39.5
	女性(個人)	53.6	29.8	27.2	49.7	60.8	42.5	36.7	31.5	20.4	26.0	26.5	39.3	37.8	23.3
	男性(個人)	24.5	24.3	21.7	45.2	52.3	39.6	41.8	29.1	26.4	21.4	18.8	31.3	31.8	44.7
収入額(円)	宿泊施設	6,042,400	3,401,400	2,985,800	9,281,800	10,491,200	8,798,200	5,674,800	4,090,200	3,308,200	2,244,600	2,725,200	7,594,400	66,638,200	90,249,800
	研修施設	1,084,250	1,031,750	848,625	1,139,275	1,163,850	1,257,900	1,384,850	1,075,400	576,925	574,725	738,175	1,197,425	12,073,150	12,519,400
	月計	7,126,650	4,433,150	3,834,425	10,421,075	11,655,050	10,056,100	7,059,650	5,165,600	3,885,125	2,819,325	3,463,375	8,791,825	78,711,350	102,769,200

※12月～2月は過去2年平均(平成22年度改修工事による休館のため) ※東日本大震災による被災者受入延べ2,264名(12月22日まで)を含む。

施設別利用状況(平成18～23年度)※1

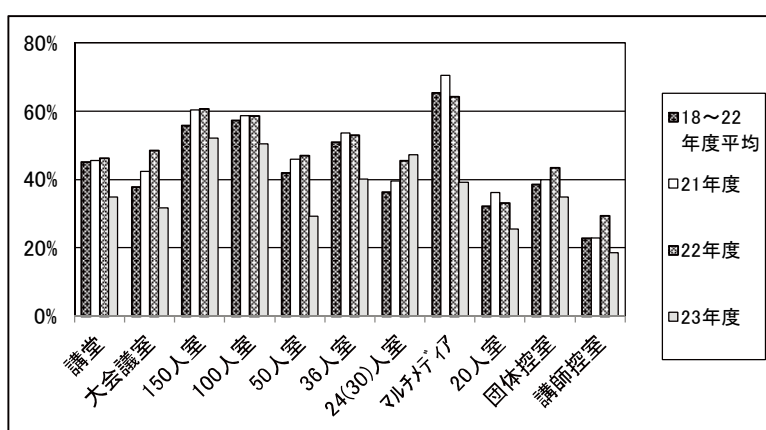
延べ利用者数(人)

	18～22 年度平均	21年度	22年度	23年度
宿泊	74,853	79,861	61,477	53,331
日帰り	72,486	78,678	57,497	60,770
計	147,339	158,539	118,974	114,101
会館日数	320	338	249	322



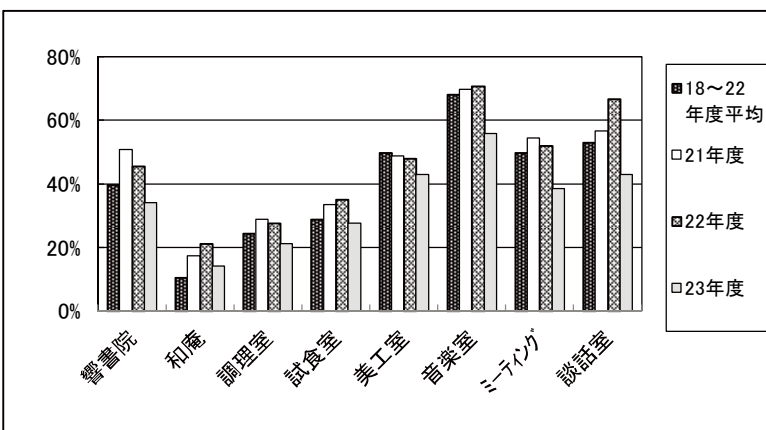
研修棟

	18～22 年度平均	21年度	22年度	23年度
講堂	45.2%	45.6%	46.4%	34.9%
大会議室	37.8%	42.3%	48.6%	31.7%
150人室	55.8%	60.4%	60.6%	52.2%
100人室	57.4%	58.7%	58.6%	50.5%
50人室	42.0%	45.9%	47.1%	29.3%
36人室	50.9%	53.6%	53.0%	40.2%
24(30)人室	36.3%	39.6%	45.5%	47.3%
マルチメディア	65.5%	70.6%	64.3%	39.1%
20人室	32.3%	36.2%	33.2%	25.4%
団体控室	38.6%	39.9%	43.5%	34.9%
講師控室	22.9%	22.9%	29.5%	18.6%



実技研修施設関係

	18～22 年度平均	21年度	22年度	23年度
響書院	39.7%	50.9%	45.6%	34.2%
和庵	10.6%	17.3%	21.3%	14.1%
調理室	24.4%	28.9%	27.6%	21.2%
試食室	28.8%	33.4%	35.1%	27.7%
美工室	49.8%	48.8%	47.9%	43.0%
音楽室	68.2%	69.7%	70.7%	55.8%
ミーティング	49.8%	54.4%	52.1%	38.6%
談話室	53.1%	56.7%	66.6%	42.9%

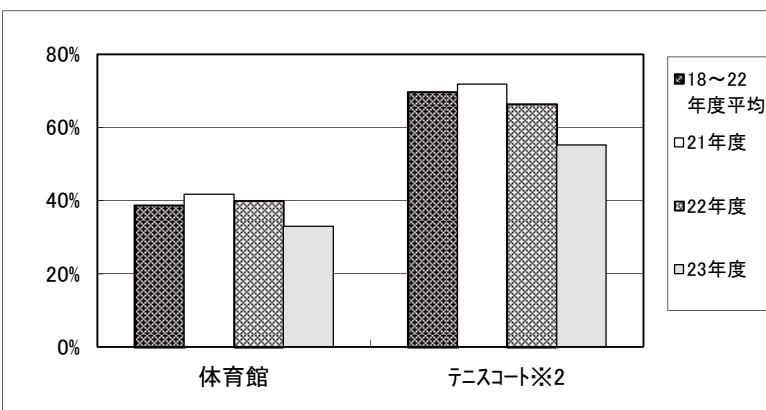


体育施設

	18～22 年度平均	21年度	22年度	23年度
体育館	38.7%	41.7%	40.0%	33.0%
テニスコート※2	69.7%	71.9%	66.4%	55.1%

※1:平成23年度より利用率算出方法を一部変更しており、掲載数値を再計算しているため、平成22年度以前の数値については、平成22年度版自己点検評価報告書と一致しない。

※2:テニスコートについては平成23年10月より5面→2面になっている。

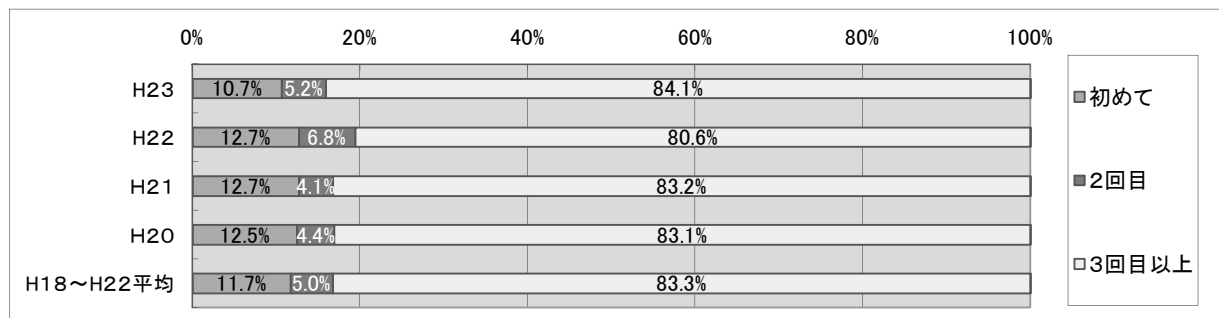


(2) 利用回数別利用状況

利用回数別利用状況(利用団体数、利用者数)

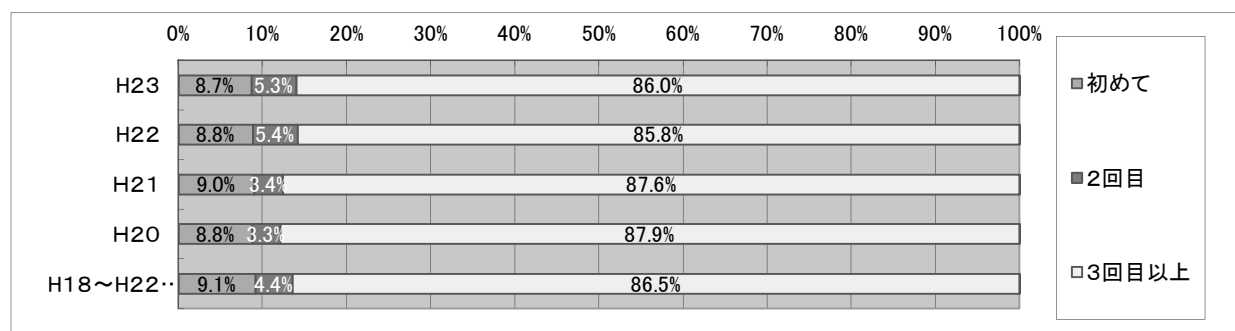
1 団体数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて		2回目		3回目以上		団体数	
H23	325	10.7%	159	5.2%	2,556	84.1%	3,040	100.0%
H22	368	12.7%	196	6.8%	2,338	80.6%	2,902	100.0%
H21	521	12.7%	168	4.1%	3,414	83.2%	4,103	100.0%
H20	476	12.5%	168	4.4%	3,161	83.1%	3,805	100.0%
H18～H22平均	416	11.7%	178	5.0%	2,956	83.3%	3,550	100.0%



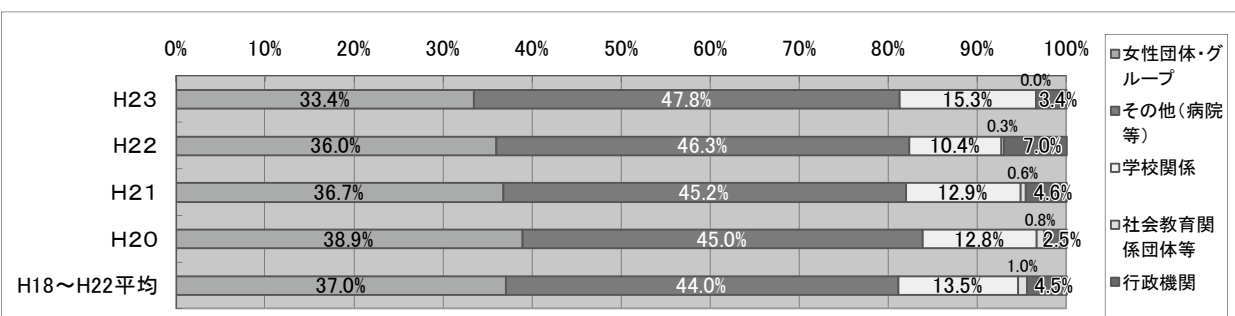
2 利用者数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて		2回目		3回目以上		利用者数	
H23	7,599	8.7%	4,596	5.3%	74,979	86.0%	87,174	100.0%
H22	7,754	8.8%	4,705	5.4%	75,395	85.8%	87,854	100.0%
H21	10,555	9.0%	3,984	3.4%	102,306	87.6%	116,845	100.0%
H20	10,777	8.8%	4,041	3.3%	107,644	87.9%	122,462	100.0%
H18～H22平均	9,897	9.1%	4,790	4.4%	93,744	86.5%	108,431	100.0%



3 初めての利用団体にみる主催区分別利用状況

	女性団体・グループ		その他(病院等)		学校関係		社会教育関係団体等		行政機関		団体数	
H23	107	33.4%	153	47.8%	49	15.3%	—	—	11	3.4%	320	100.0%
H22	128	36.0%	165	46.3%	37	10.4%	1	0.3%	25	7.0%	356	100.0%
H21	191	36.7%	236	45.2%	67	12.9%	3	0.6%	24	4.6%	521	100.0%
H20	185	38.9%	214	45.0%	61	12.8%	4	0.8%	12	2.5%	476	100.0%
H18～H22平均	153	37.0%	182	44.0%	56	13.5%	4	1.0%	18	4.5%	413	100.0%



平成23年度目的別利用状況

		目的利用		一般利用		合計
		利用者数	割合	利用者数	割合	
宿泊	実利用者	23,944	91%	2,460	9%	26,404
	延利用者	48,990	92%	4,341	8%	53,331
日帰り	実利用者	8,623	14%	52,147	86%	60,770
合計	実利用者	32,567	37%	54,607	63%	87,174
	延利用者	57,613	50%	56,488	50%	114,101

会館利用者地域分布

	利用団体数			実利用者数[A]			宿泊者数[B]			延利用者数[A+B]		
	宿泊	日帰り	計	女性	男性	計	女性	男性	計	女性	男性	合計
北海道	1	—	1	4	1	5	4	1	5	8	2	10
青森県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩手県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城県	16	—	16	100	18	118	601	277	878	701	295	996
秋田県	—	—	—	2	—	2	4	—	4	6	—	6
山形県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福島県	20	2	22	100	46	146	461	195	656	561	241	802
茨城県	2	15	17	130	28	158	3	4	7	133	32	165
栃木県	1	—	1	6	3	9	6	3	9	12	6	18
群馬県	8	7	15	487	107	594	342	82	424	829	189	1,018
埼玉県	370	1,964	2,334	37,741	24,836	62,577	6,341	2,203	8,544	44,082	27,039	71,121
千葉県	9	5	14	149	54	203	157	79	236	306	133	439
東京都	305	94	399	4,981	2,875	7,856	5,238	2,811	8,049	10,219	5,686	15,905
神奈川県	40	6	46	558	331	889	459	378	837	1,017	709	1,726
新潟県	3	—	3	23	23	46	42	45	87	65	68	133
富山県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石川県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福井県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨県	2	—	2	7	2	9	11	2	13	18	4	22
長野県	2	4	6	98	59	157	8	55	63	106	114	220
岐阜県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡県	1	—	1	12	3	15	23	5	28	35	8	43
愛知県	2	—	2	4	8	12	13	8	21	17	16	33
三重県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
滋賀県	1	—	1	2	17	19	2	17	19	4	34	38
京都府	3	—	3	11	11	22	37	28	65	48	39	87
大阪府	1	—	1	4	—	4	11	—	11	15	—	15
兵庫県	—	—	—	1	—	1	1	—	1	2	—	2
奈良県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和歌山県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鳥取県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
島根県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
広島県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山口県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
徳島県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香川県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛媛県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
高知県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福岡県	1	—	1	9	1	10	27	1	28	36	2	38
佐賀県	—	—	—	—	1	1	—	1	1	—	2	2
長崎県	—	—	—	—	1	1	—	1	1	—	2	2
熊本県	1	—	1	26	4	30	26	4	30	52	8	60
大分県	1	—	1	2	—	2	2	—	2	4	—	4
宮崎県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿児島県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
沖縄県	1	—	1	4	5	9	9	11	20	13	16	29
全国	52	9	61	3,285	1,135	4,420	1,939	779	2,718	5,224	1,914	7,138
海外	71	20	91	4,543	3,936	8,479	2,587	1,583	4,170	7,130	5,519	12,649
情セ日帰り	—	—	—	520	860	1,380	—	—	—	520	860	1,380
合計	914	2,126	3,040	52,809	34,365	87,174	18,354	8,573	26,927	71,163	42,938	114,101

会館利用の地域分布は関東甲信越地域が主体だが、北海道・東北地域や、関西、九州まで利用が広がっており、また、全国および国際規模で活動を行っている団体からの参加者も数多く見られる。このことにより、国内のみならず幅広い地域の利用者が来館していることを示している。

○利用者の多様性(年齢別、職業別)

●年齢別(平成23年度)

	実利用数割合	
20歳未満	11,979	13.7%
20歳代	8,319	9.5%
30歳代	8,208	9.4%
40歳代	10,429	12.0%
50歳代	13,971	16.0%
60歳以上	23,635	27.1%
不明	10,633	12.2%
計	87,174	100.0%

※小数点第2位を四捨五入

●職業別(平成23年度)

	実利用数割合	
勤労者(フルタイム)	22,539	25.9%
勤労者(パートタイム)	5,442	6.2%
農林漁業者	1,029	1.2%
自営業	3,478	4.0%
無職	18,681	21.4%
学生	12,353	14.2%
その他・不明	23,652	27.1%
合計	87,174	100.0%

※小数点第2位を四捨五入

平成23年度外国人来館状況

国際会議、国際交流、見学等を目的とする外国人の利用状況は、開館以来平成24年3月末までの累計で、170カ国から、実数23,705人、平成23年度の来館者実数は67カ国から865人となっています。

* 地域別来館状況

地 域	来館者累計	本年度実数	国数累計	本年度実数
ア ジ ア 州	10,815	633	26	20
中 近 東	214	1	13	1
大 洋 州	1,449	31	17	5
ア フ リ カ 州	521	19	45	14
ヨ ー ロ ッ パ 州	3,959	96	37	18
北 ア メ リ カ 州	6,111	67	2	2
中・南 ア メ リ カ 州	636	18	30	7
合 計	23,705	865	170	67

* 来館者実数国別ランキング

No.	国 名	累 計	平成23年度
1	アメリカ	5,319	56
2	韓国	3,735	254
3	中国	2,366	144
4	イギリス	895	22
5	オーストラリア	882	21
6	カナダ	792	11
7	フィリピン	750	7
8	インドネシア	644	65
9	タイ	622	23
10	オランダ	600	23
11	ドイツ	573	5
12	インド	333	15
13	マレーシア	330	5
14	ロシア	322	3
15	スリランカ	316	19
16	ニュージーランド	270	5
17	フランス	251	7
18	台湾	234	23
19	シンガポール	193	4
20	北朝鮮	193	8
21	ネパール	180	7
22	バングラデシュ	178	9
23	ノルウェー	174	1
24	ベトナム	170	22
25	パキスタン	168	4

平成23年度職員等による館外活動

1 外部からの依頼に応じた講師等の派遣

NO	件名	役職	役割	内容(テーマなど)	主催者	人数	主な参加者 構成(地域)	日程
1	「しずおか男女共同参画ポータルサイト」(仮称)構築事業のための研修	情報課専門職員	講師	「国立女性教育会館のウェブサイトのプロセス・運営・課題等」	特定非営利活動法人静岡県男女共同参画センター交流会議	15名	静岡県	平成23年5月24日
2	青森中央学院大学との連携授業	研究国際室長	講師					平成23年6月22日 平成23年6月29日
3	足利市男女共同参画週間事業	理事長	講師	「女と男 だれもが主役の社会づくりを」	足利市	不明名	栃木県	平成23年6月25日
4	埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」第2回	理事	講師	男女共同参画とは、男女共同参画について国際的・国内的動向	埼玉大学	30名		平成23年4月20日
5	埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」第3回	情報課長、専門職員	講師		埼玉大学	30名		平成23年4月27日
6	平成23年度行政担当者研修	研究国際室長	講師	ジェンダー統計(男女共同参画統計)とは	長野県男女共同参画センター	30名	長野県	平成23年5月15日
7	行政官のためのジェンダー主流化政策2011	研究国際室研究員	講師	CEDAWと日本の取組、国立女性教育会館のプログラムについて	国際協力機構	12名	途上国	平成23年6月23日
8	埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」第11回、12回	情報課長、専門職員	講師	女性教育情報センターの見学、情報収集	埼玉大学	30名		平成23年6月25日
9	生涯学習講座『くらしの中の人権問題を考えるシリーズ9』講師派遣	研究国際室研究員	講師	「女性の人権 男女共同参画社会と地域の関わりー第三次男女共同参画基本計画から考える」	毛呂山町教育委員会	20～30名	埼玉県毛呂山町	平成23年6月25日
10	「Winet、専門情報の使い方について」講習	情報課専門職員	講師	「Winet、専門情報の使い方について」	創価女子短期大学 現代ビジネス学科 学部学生ゼミ	12名		平成23年7月15日
11	ハーモニーフライトいばらき2011国内研修講師派遣	研究国際室長	講師	「これからの男女共同参画について」	茨城県女性団体連盟	30名	茨城県	平成23年7月23日
12	旭化成グループ女性管理職フォーラム	理事長	講師		旭化成グループ	不明名	東京都	平成23年7月25日
13	男女共同参画推進に関する懇談会講師派遣	理事	講師	「男女共同参画推進の取組について」	豊橋科学技術大学	不明名	愛知県	平成23年8月4日
14	地域リーダー養成講座	情報課専門職員	講師	「連携・協働による実践プログラムin三重」	三重県男女共同参画センター	35名	三重県	平成23年8月6、7日
15	平成23年度社会教育主事講習「A」の講師等派遣	研究国際室長	講師	「家庭教育と社会教育②(家庭教育支援)」	国立教育政策研究所	120名	全国	平成23年8月9日
16	平成23年度男女平等教育研修会講師派遣	研究国際室専門職員	講師	「男女共同参画社会を実現するために」	埼玉県教育委員会	不明名	埼玉県	平成23年8月11日
17	星城大学公開シンポジウム「グローバル社会と女性のキャリアデザイン」	理事長	講師	基調講演「キャリアウーマンとして生きて」	星城大学	不明名	愛知県	平成23年8月27日
18	平成23年度第3回市町村男女共同参画担当職員研修会講師派遣	事業課専門職員	講師	講義「第三次男女共同参画基本計画を地域で実現するための事業のあり方」 ワークショップ「前半期の事業を振り返り、今後の課題を探る」	埼玉県男女共同参画推進センター	40名	埼玉県	平成23年10月3日

NO	件名	役職	役割	内容(テーマなど)	主催者	人数	主な参加者 構成(地域)	日程
19	平成23年度カンボジア国ジェンダー主流化プロジェクトフェーズ2本邦研修	研究国際室長	講師	ジェンダー統計	JICA	10名	カンボジア	平成23年10月4日
20	PMI講演	理事長	講師		PMI	不明名		平成23年10月15日
21	大学女性協会セミナー「市民社会を構成するNGO活動とは」	理事長	講師		大学女性協会	不明名		平成23年10月15日
22	平成23年度大学マネジメント人材養成プログラム「大学マネジメント講座」講師派遣	理事	講師	ダイバーシティI(男女共同参画)	筑波大学大学研究センター	不明名	茨城県	平成23年10月15日
23	平成23年度市町村担当者説明会及び茨城県男女共同参画推進員研修会講師派遣	研究国際室長	講師	「これからの男女共同参画～日本の男女共同参画の現状を踏まえて」	茨城県知事公室	150名	茨城県	平成23年11月4日
24	第13回図書館総合展・学術情報オープンサミット2011	情報課長	発表者	『RFIDによる新たな図書館マネジメントの可能性』において、RFIDの活用事例発表	帝人ファイバー株式会社	不明名	全国	平成23年11月9日
25	ココロを軽くする女性学講座講師派遣	情報課専門職員	講師	情報を選ぶ力、発信する力	特定非営利活動法人男女共同参画おた	30名	全国	平成23年11月15日
26	室蘭市男女共生セミナー講演	理事長	講師	「もっと素敵にワーキングライフ～輝く女性の経営力」	室蘭市教育委員会	50名	北海道	平成23年11月19日
27	昭和女子大学公開講座	理事長	講師			不明名		平成23年11月24日
28	日本大学生産工学部 第3回男女共同参画意識改革講演会	理事長	講師	「工学教育協会および企業における女性エンジニア育成への取組み」	日本大学生産工学部男女共同参画委員会	不明名	全国	平成23年11月25日
29	香川県婦人団体連絡協議会60周年記念大会講師	客員研究員	講師	「生活の視点に立った地域づくりを結ぶ役割を～男女共同参画時代をつくる～」	香川県婦人団体連絡協議会	1500名	香川県	平成23年11月29日
30	中央大学講義	理事長	講師	ジェンダー政治論	中央大学 広岡教授	200名	中央大学学生	平成23年12月15日
31	デンソー技術会講演会	理事長	講師	「男女で共につくる働きやすい職場」	デンソー技術会	400名	愛知県	平成24年1月16日
32	平成23年度大垣市男女共同参画フォーラム基調講演	客員研究員	講師	「地域づくりは関係づくりから 男女共同参画時代をつくる」	大垣市	300名	岐阜県	平成24年1月28日
33	久喜市男女共同参画事業者セミナー	理事長	講師	「職場における男女共同参画について～男女がいきいきと活躍できる元気な事業所を目指して～」	久喜市	400名	久喜市	平成24年1月16日
34	平成23年度社会教育主事講習「B」の講師等派遣	研究国際室長	講師	男女共同参画社会の形成と社会教育	国立教育政策研究所	120名	全国	平成24年2月9日

2 各種委員会委員等

NO	委嘱内容	役職	依頼者	任期
1	日本教育情報学会理事	理事長	日本教育情報学会	平成23年7月1日～平成24年3月31日
2	全国生涯学習ネットワークフォーラム実行委員会委員	理事長	文部科学省	平成23年9月5日～平成24年3月31日
3	「超高齢化社会における生涯学習の在り方に関する検討会」委員	理事長	文部科学省	平成23年9月26日～平成24年3月31日
4	放送大学学園評議員会評議員	理事長	放送大学学園	平成23年10月1日～平成25年9月30日
5	埼玉県人権教育推進協議会	事業課長	埼玉県	平成22年7月9日～平成24年3月31日
6	嵐山町社会教育委員	事業課長	嵐山町	平成22年4月1日～平成24年3月31日
7	平成23年度(第8回)嵐山さくらまつり実行委員会委員	事業課専門職員	嵐山町商工会	平成23年10月31日～平成24年4月8日
8	嵐山まつり実行委員会委員	事業課事業主任	嵐山まつり実行委員会	平成22年7月1日～平成24年3月31日
9	埼玉県男女共同参画審議会委員	情報課長	埼玉県	平成22年7月1日～平成24年6月30日
10	「学校図書館の有効な活用に関する調査研究」事業委員	情報課専門職員	東京学芸大学	平成23年7月5日～平成24年3月31日
11	国際協力機構 課題別支援委員会(開発とジェンダー) 委員(統計・調査手法分野)	研究国際室専門職員	国際協力機構	平成22年10月1日～平成25年3月31日
12	国際協力機構 人身取引対策プロジェクトに係る国内支援委員	研究国際室専門職員	国際協力機構	平成22年6月1日～平成27年3月31日

平成 23 年度利用拡大戦略

I 基本方針

- 1 独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成 23～27 年度）に添い、平成 27 年度までに宿泊室利用率について 55%以上を達成することを目指す。
- 2 大学・企業との連携により、確実な利用につなげる。
- 3 全役職員が利用促進に取り組む。

II 重点的取組

1 重点訪問先

（1）新規訪問先

- 利用プランの提示等利用可能性を戦略的に再度検討した上で、大学、高校、企業、組合に対して、訪問活動を行う。
- 人的ネットワークを活用しつつ、積極的な利用の勧奨を行う。
- J-Winや連合など加盟団体を有する組織に対して利用の勧奨を行う。

（2）既存利用団体

- 以前利用があったが、現在利用のない団体に対して再度の利用を働きかける。
- 概ね 100 名以上の大規模利用団体（約 150 団体）に対し、訪問を行い、改善要望等の把握に努める。

2 利用案内送付先

- （1）これまで会館を利用していない小規模なボランティア団体のうち関東を中心に約 200 団体に利用案内を送付する。
- （2）本格的な日本家屋を有していることから、茶道、華道、書道、和楽器などの文化団体（文化庁登録の財団法人、社団法人 154 団体）や大学のクラブ活動に対し周知する。
- （3）会館役職員が講師となる他機関が実施する講演会やセミナーにおいて積極的な利用についての説明や利用案内の配布を実施する。

3 リニューアルについての広報

- （1）リニューアル後の快適な研修環境と夜間利用についてアピールするリーフレットを作成する。

4 プログラム開発

- （1）インターネットで提供する学習教材を作成するため、情報提供の内容を系統化し、教材として適切なテーマを精査する。

- (2) 大学等と連携した女性のキャリア形成など会館が開発したプログラムを活用した宿泊研修を会館で実施する。

5 既存プログラムの充実

交流学習会議、NWE C男女共同参画プログラム、男女共同参画交流特別交流週間（らんざん交流ウィーク）のプログラム内容の充実を図る。

6 ホームページの見直し

- (1) 個人及び団体向けのモデル利用プランを掲載し、魅力的なサイトとする。
- (2) 研修生の便宜を図るため会館周辺情報などを掲載する。

Ⅲ 利用拡大計画の着実な実施

- 1 これまでに実施した利用拡大方策を検証し、効果が高いものを利用拡大計画に反映させる。
- 2 利用拡大計画の着実な実施を確保するため、定期的に計画の実施状況を報告する。

平成23年3月31日

平成23年度広報実施計画

国立女性教育会館

I 基本方針

- 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の意義、事業の成果等並びに男女共同参画及び女性教育についての理解促進が図られるよう、関係者の協力を得つつ、国内外へ積極的に情報を発信する。
- 会館の第三期中期目標・中期計画（平成23年～27年度）の達成に向け、広報実施計画に即して、PDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルにより、効果的、効率的な広報の展開に努める。
- 会館内の緊密な連携を図り、迅速な広報の展開に努める。
- 広報活動の充実を図るため、プレスリリース、取材案内を積極的に行うなど、幅広いメディアを活用した広報に努める。
- 大学等の男女共同参画部局等への積極的な広報に努める。
- 職員の研修機会の充実を図り、全職員の広報力の向上に努める。
- 男女共同参画の視点を尊重した広報を展開するよう努める。

II 具体的取組

1 重点推進内容

1) 研修・交流事業の周知等

研修・交流事業については、要項及び研修プログラムの早期作成に努め、募集及び実施速報を各種広報ツールを活用し、記者會等へのプレスリリースに積極的に取り組むことにより、参加者の獲得・成果の普及に努める。

2) 大学等の男女共同参画部局等への積極的な広報

大学職員等を対象とした研修や女性教育情報センター所蔵図書のパッケージ貸出サービスについて、男女共同参画部局や図書館等へ積極的な広報を行う。

3) 調査研究成果の積極的な広報

「男女共同参画統計データブック2012」作成をはじめ、調査研究の成果について、積極的に広報を行う。

4) 女性情報ポータル及びデータベース

女性情報ポータルについて英語のトップページを作成し、会館が構築・提供してきた各種データベース類を更新、情報提供の充実を図る。

5) 女性アーカイブシステムの周知等

女性アーカイブセンター及び女性デジタルアーカイブシステムや展示について、ホームページやメールマガジン等を通じて積極的に広報に努め、広く活用を促す。

6) 会館利用の促進の周知等

中期計画における宿泊利用率を踏まえ、館内に設置した利用促進プロジェクトチームを中心に、会館の利用促進を図るための広報について検討を行い、新たな展開を図る。

2 広報活動環境の整備

1) 広報ツールの改善等

広報活動の効果を高めるため、会館のホームページやパンフレット、広報紙等について、改善を図る。

①ホームページ

- 館内にホームページ見直しプロジェクトチームを結成し、予算状況に応じてホームページの見直し・改訂を図る。
- タイムリーな情報発信ができるよう掲載の迅速化に努める。
- 海外向けの情報発信を強化するため、英語のホームページの充実に努める。

②パンフレット・リーフレット

- 既存のパンフレットについて、引き続き、より見やすいパンフレットを作成する。
- 海外向けの情報発信を強化するため、英語のパンフレットの充実について検討する。

③広報紙・メールマガジン等

- NWECC Newsletterの発行案内メール送信先の新たな開拓に努める。
- メールマガジンは、内容及び頻度について検討し、より多くの購読者の獲得に努める。
- 事業実施に関する報告書等を作成する。

④その他

- 広報グッズ及び記念品を配布する。
- 女性関連施設等の広報誌への会館関連記事掲載について働きかける。
- 近隣文化施設等で構成されている彩の国・文化の森連絡協議会や、埼玉県ものづくりスタンプラリーへ参加し、広報に努める。

2) デジタル情報の整備保存

広報活動をより効果的なものとするため、デジタル写真等を継続的に蓄積し、いつでも利用が可能となるように共有化を進める。

3) 広報課題への対応

会館広報についての意見・提案を取りまとめ今後の広報活動の改善に活かす。

3 職員の広報力の向上

1) 研修の実施

職員の広報活動の向上を図るための研修を、全職員を対象に実施に努める。

4 評価の実施

1) 自己点検・評価委員会における評価

自己点検・評価委員会において効果的、効率的な広報活動が実施されているかの検証を行う。

独立行政法人国立女性教育会館運営会議規程

平成13年 7 月30日理事長裁定
平成14年 4 月 1 日一部改正
平成14年11月 1 日一部改正
平成17年 4 月 1 日一部改正
平成20年10月 1 日一部改正

1 趣旨

独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務の遂行に関する重要事項について、連絡及び協議するため、会館に独立行政法人国立女性教育会館運営会議を（以下「運営会議」という。）を置く。

2 組織等

- （1）運営会議は、理事長、理事、事務局長、各課長及び研究国際室長をもって組織する。
- （2）理事長は、必要に応じ構成員以外の者を説明のために運営会議に出席させることができる。

3 開催日時

運営会議は、原則として毎週火曜日の午前10時00分から開催する。

4 運営会議の司会は、総務課長が行う。

5 庶務

運営会議の庶務は、総務課総務係において処理し、毎回議事録（要旨）を作成するものとする。

独立行政法人国立女性教育会館役員会の開催について

平成 14 年 4 月 1 日一部改正

平成 13 年 4 月 1 日理事長裁定

1 趣旨

独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務運営及び評価に関する重要事項を審議するため、会館に独立行政法人国立女性教育会館役員会（以下「役員会」という。）を開催する。

2 組織等

- （１）役員会は、理事長、理事及び監事をもって組織する。
- （２）理事長は、必要に応じ構成員以外の者を出席させることができる。
- （３）理事長（理事長に事故のあるときは理事）は、役員会を召集し、その議長となる。

3 会議の開催

役員会は、原則として毎年度偶数月に開催する。

4 庶務

役員会の庶務は、総務課において処理する。

5 この裁定は、平成 13 年 4 月 1 日から実施する。

独立行政法人国立女性教育会館運営委員会規程

(設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(協議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について協議し、理事長に助言を行う。

- 一 会館の事業運営に関する基本的な事項
- 二 その他会館の事業運営に関し必要な事項

(委員)

第3条 委員会は、会館の運営に関し広くかつ高い見識を有するもののうちから、理事長が委嘱をする20名以内の委員で構成する。

(委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は、2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に会長を置く。

2 会長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 会長は、委員会を招集し、その議長となる。

4 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名した委員が、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成13年7月1日から施行する。
- 2 この規程施行後最初及び会長が置かれていないときに招集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年8月1日から施行する。

独立行政法人国立女性教育会館運営委員会委員名簿(第5期)

〔五十音順(敬称略)〕

平成23年4月1日現在

	氏 名	現 職
1	ありかわ よしこ 蟻 川 芳 子	日本女子大学 学長・理事長
2	うちだ ようこ 内 田 洋 子	特定非営利活動法人全国女性会館協議会 理事／埼玉県男女共同参画推進センター 所長
3	えじり みほこ 江 尻 美 穂 子	国際婦人年連絡会 憲法委員会座長
4	おおしま くみこ 大 島 照 美 子	財団法人新潟県女性財団 理事長
5	おはら ゆみこ 小 原 由 美 子	独立行政法人国立公文書館 公文書専門官
6	くろだ かずお 黒 田 一 雄	早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 教授
7	さとう かずこ 佐 藤 和 子	特定非営利活動法人静岡県男女共同参画センター交流会議 代表理事
8	さとう みちあき 佐 藤 道 明	日本労働組合総連合会埼玉県連合会 事務局長
9	しばさき しんぞう 柴 崎 信 三	独立行政法人国民生活センター 参与／ジャーナリスト
10	たなか まさふみ 田 中 雅 文	日本女子大学 人間社会学部教育学科 教授
11	なかあぜ つやこ 中 畔 都 舍 子	全国地域婦人団体連絡協議会 会長
12	なかはし えみこ 中 橋 恵 美 子	特定非営利活動法人わははネット 理事長
13	のがみ たけとし 野 上 武 利	元 社団法人埼玉県経営者協会顧問
14	はにゅう さわこ 羽 入 佐 和 子	お茶の水女子大学 学長
15	まえじま とみお 前 島 富 雄	埼玉県教育委員会 教育長
16	むなかた みちこ 宗 像 道 子	社団法人共同通信社編集局 編集委員兼論説委員
※ 17	やざわ すみこ 矢 澤 澄 子	元 東京女子大学教授
18	わたなべ みえこ 渡 辺 三 枝 子	立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 特任教授

※印…会長

埼玉県から借り受けている土地面積の見直し



土地・施設に係る経費の削減

- ・敷地の見直し(草原運動場とテニスコートの一部について埼玉県に返却)
- ・土地借地面積を134,544㎡から98,240㎡に縮小→年間借料を1800万円に(約2400万円の削減)

平成23年度 人事交流、人事登用及び新規採用状況

(人)

理事長の交代		人事交流		職員採用	
退任	就任	転入	転出	採用	辞職
1	1	3	3	—	—

※ 理事長の交代は、平成23年6月30日付け退任(文部科学大臣承認)、平成23年7月1日付け新理事長就任(文部科学大臣任命)

※ 平成23年度の主な人事交流先は、文部科学省(1名)、千葉県(1名)、東京大学(1名)である。

平成23年度 国立女性教育会館 職員研修

<会館主催(1件)>

項番	主催団体等	研修名称	研修期間	会館参加人数	役職名
1	国立女性教育会館	平成23年度新任職員研修	4月7日及び8日	5	新任者

<館外>

<総務課・6件>

項番	主催団体等	研修名称	研修期間	会館参加人数	役職名
1	(財)日本人事行政研究所	勤務時間・休暇関係実務研修会	6月3日	2	総務係員
2	独立行政法人国立公文書館	平成23年度公文書管理研修Ⅰ(第1回)	7月15日	1	総務係長
3	(財)日本人事行政研究所	給与実務研修会(諸手当関係)	7月27日	1	総務係員
4	(財)日本人事行政研究所	給与実務研修会(人事院勧告)	10月14日	1	総務係員
5	(社)国立大学協会関東・甲信越地区支部及び東京地区支部	平成23年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー(人事・労務の部)	12月14日	1	総務係長
6	(財)日本人事行政研究所	給与実務研修会(給与実務の実例)	2月27日	1	総務係員

<事業課・1件>

項番	主催団体等	研修名称	研修期間	会館参加人数	役職名
1	(社)埼玉県経営者協会	第24回生き生き職場体験交流の集い	5月16日	1	専門職員心得

<情報課・1件>

項番	主催団体等	研修名称	研修期間	会館参加人数	役職名
1	東京大学	平成23年度東京大学係長級研修(初任者)	10月19日～21日	2	情報係長、専門職員

<研究国際室・2件>

項番	主催団体等	研修名称	研修期間	会館参加人数	役職名
1	独立行政法人工業所有権情報・研修館	平成23年度第2回知的財産権研修(初級)	7月11日～14日	1	研究国際係長
2	東京大学	平成23年度東京大学係長級研修(初任者)	10月19日～21日	1	研究国際係長

業務運営の効率化

区分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間	
	金額	比率	平成23年度	
			金額	比率
一般管理費	90,709	100%	74,583	82%
業務経費	393,484	100%	343,049	87%

決 算 報 告 書 経 年 比 較

(単位:円)

区 分	第10期 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)		第 11 期 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)	
	予算金額	決算金額	予算金額	決算金額
収入				
運営費交付金	589,907,000	589,907,000	561,918,000	561,918,000
施設整備費補助金	1,672,641,151	1,681,353,141	0	0
入場料等収入	102,020,000	78,133,171	116,925,000	84,295,542
受託収入	5,000,000	14,427,566	5,000,000	21,182,481
寄附金収入	0	1,211,329	0	8,014,595
消費税等還付税額	0	3,860,627		
計	2,369,568,151	2,368,892,834	683,843,000	675,410,618
支出				
業務経費	398,958,000	393,483,693	374,239,000	343,049,446
うち研修関係経費	334,965,000	279,407,501	273,194,000	245,867,384
うち調査・研究関係経費	16,998,000	10,947,585	26,197,000	16,400,412
うち情報関係経費	46,995,000	103,128,607	74,848,000	80,781,650
施設整備費	1,672,641,151	1,681,353,141	0	0
受託経費	5,000,000	14,427,566	5,000,000	21,182,481
一般管理費	292,969,000	275,713,390	304,604,000	259,851,346
うち人件費	198,864,000	185,004,497	198,524,000	176,155,529
計	2,369,568,151	2,364,977,790	683,843,000	624,083,273

※ 研修関係経費は、損益計算書上では、研修受入事業費及び交流事業費として表示されている。

人件費は、損益計算書上の各事業費に計上されているが、決算報告書上では全て一般管理費に含まれている。

① 貸借対照表経年比較

(単位:円)

区分	第10期 (平成23年3月31日)	第11期 (平成24年3月31日)
資産の部		
I 流動資産		
現金及び預金	170,188,480	113,375,022
未収入金	1,067,539,185	22,398,279
未収消費税等	31,513	
流動資産合計	1,237,759,178	135,773,301
II 固定資産		
1. 有形固定資産		
建物	3,779,320,169	3,769,399,069
建物減価償却累計額	△ 1,268,375,202	△ 1,409,596,126
計	2,510,944,967	2,359,802,943
構築物	331,631,880	330,756,880
構築物減価償却累計額	△ 232,913,780	△ 236,914,987
計	98,718,100	93,841,893
車両運搬具	798,000	1,596,000
車両運搬具減価償却累計額	△ 50,992	△ 161,475
計	747,008	1,434,525
工具器具備品	95,937,913	94,025,821
工具器具備品減価償却累計額	△ 37,887,644	△ 47,486,433
計	58,050,269	46,539,388
リース資産	53,562,571	53,562,571
リース減価償却累計額	△ 30,128,947	△ 43,519,590
計	23,433,624	10,042,981
土地	141,171,140	141,171,140
建物仮勘定		
有形固定資産合計	2,833,065,108	2,652,832,870
2. 無形固定資産		
ソフトウェア	1,483,620	1,945,485
リース資産	23,060,622	9,883,124
その他の無形固定資産	735,000	735,000
無形資産合計	25,279,242	12,563,609
固定資産合計	2,858,344,350	2,665,396,479
資産合計	4,096,103,528	2,801,169,780
負債の部		
I 流動負債		
運営費交付金債務	0	34,868,000
預り寄付金	5,839,717	12,089,128
業務未払金	1,191,978,626	76,784,706
リース債務	27,040,495	20,710,111
預り科学研究費補助金	1,941,393	1,023,910
その他流動負債	305,008	1,130,538
流動負債合計	1,227,105,239	146,606,393
II 固定負債		
資産見返負債		
資産見返運営費交付金	57,011,527	46,605,767
資産見返寄附金	199,295	0
資産見返物品受贈額	1,057,285	866,076
建設仮勘定見返施設費	0	0
計	58,268,107	47,471,843
リース債務	20,710,111	0
固定負債合計	78,978,218	47,471,843
負債合計	1,306,083,457	194,078,236
純資産の部		
I 資本金		
政府出資金	3,615,041,440	3,615,041,440
資本金合計	3,615,041,440	3,615,041,440
II 資本剰余金		
資本剰余金	634,493,849	623,697,749
損益外減価償却累計額	△ 1,495,953,292	△ 1,640,700,078
資本剰余金合計	△ 861,459,443	△ 1,017,002,329
III 利益剰余金		
積立金	20,463,452	0
当期未処分利益	15,974,622	9,052,433
(うち当期総利益)	15,974,622	9,052,433
当期未処理損失	0	0
(うち当期総損失)	0	0
利益剰余金合計	36,438,074	9,052,433
資本合計	2,790,020,071	2,607,091,544
負債資本合計	4,096,103,528	2,801,169,780

注記事項

運営費交付金から充当されるべき退職手当の当期末見積額は、

207,648,091

217,950,388

② 損益計算書経年比較

(単位:円)

区分	第10期	第11期
	(平成22年4月1日～平成23年3月31日)	(平成23年4月1日～平成24年3月31日)
経常費用		
業務費		
研修受入事業費		
給料手当	46,615,253	49,085,522
福利厚生費	5,378,698	6,252,754
借料及び損料	41,114,999	18,066,708
光熱水料	32,259,711	37,468,586
修繕費	813,753,868	20,216,575
業務委託費	125,362,281	115,481,208
減価償却費	10,549,928	11,560,080
その他	166,664,755	36,251,135
計	1,241,699,493	294,382,568
交流事業費		
給料手当	12,814,925	17,776,006
福利厚生費	1,478,649	2,264,395
旅費	1,064,370	2,007,840
修繕費	11,697,550	250,070
業務委託費	5,105,293	2,783,332
減価償却費	151,653	142,993
その他	7,725,167	4,824,781
計	40,037,607	30,049,417
調査研究事業費		
給料手当	30,082,214	24,142,597
福利厚生費	3,471,034	3,075,402
業務委託費	1,839,005	2,832,989
その他	8,342,732	10,492,021
計	43,734,985	40,543,009
情報事業費		
給料手当	30,766,339	34,210,304
福利厚生費	3,549,971	4,357,876
借料及び損料	1,271,067	810,815
修繕費	23,309,090	830,669
業務委託費	13,116,897	11,492,795
減価償却費	26,870,332	27,043,128
その他	37,498,888	36,249,000
計	136,382,584	114,994,587
受託事業費		
給料手当	0	0
福利厚生費	0	0
諸謝金	2,655,305	1,037,765
業務委託費	3,142,345	3,903,686
その他	8,629,916	16,241,030
計	14,427,566	21,182,481
一般管理費		
給料手当	103,773,947	88,681,116
福利厚生費	12,078,599	11,492,501
役員退職手当	0	9,113,300
減価償却費	147,193	256,145
備品消耗品費	3,604,488	2,070,624
その他	35,812,073	22,429,519
計	155,416,300	134,043,205
財務費用		
支払利息	1,490,470	849,857
経常費用合計	1,633,189,005	636,045,124
経常収益		
運営費交付金収益	579,152,567	525,261,430
資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金戻入	10,848,593	12,194,330
資産見返寄附金戻入	217,413	199,295
資産見返物品受贈額戻入	84,959	0
建設仮勘定見返施設費戻入	835,485	0
計	11,986,450	12,393,625
施設使用料収入	74,255,725	78,696,450
受託事業収入	14,427,566	21,182,481
その他事業収入	1,205,236	1,428,077
寄附金収益	1,425,752	1,964,479
施設費収益	960,177,494	
財務収益		
受取利息	54,284	80
雑益	2,617,926	4,170,935
経常収益合計	1,645,303,000	645,097,557
経常利益	12,113,995	9,052,433
臨時損失		
固定資産除却損	952,642	191,209
計	952,642	191,209
臨時利益		
資産見返運営費交付金戻入	509,006	0
資産見返物品受贈額戻入	443,636	191,209
消費税等還付税額	3,860,627	0
計	4,813,269	191,209
当期純利益	15,974,622	9,052,433
当期総利益	15,974,622	9,052,433

平成23年度予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	562
施設整備費補助金	—
入場料等収入	117
受託収入	5
計	684
支出	
業務経費	374
うち研修関係経費	273
うち調査・研究関係経費	26
うち情報関係経費	75
施設整備費	—
受託経費	5
一般管理費	305
計	684

[人件費の見積り]

平成23年度は180百万円を支出する。

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

平成23年度予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
費用の部	
経常費用	688
業務費	379
一般管理費	302
減価償却費	7
財務費用	
臨時損失	
収益の部	
運営費交付金収益	559
入場料等収入	117
受託収入	5
施設費収益	—
寄附金収益	
資産見返運営費交付金戻入	7
資産見返物品受贈額戻入	
純利益	
目的積立金取崩額	
総利益	

[注記]

当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

平成23年度予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
資金支出	
業務活動による支出	681
投資活動による支出	3
次期中期目標の期間への繰越金	—
資金収入	
業務活動による収入	
運営費交付金による収入	562
入場料等収入	117
受託収入	5
投資活動による収入	
施設費による収入	—
前期中期目標の期間よりの繰越金	—

運営費交付金債務

(単位:千円)

年度	金額	主な理由	備考
13年度	8,997	研究会の開催を14年度に繰越した事による開催費, 開催の遅れによる外国調査費, 国内予備調査費, アルバイト謝金及び翻訳代等	
14年度	1,179	アメリカ同時多発テロの影響により, 外国調査時期が年度末になったことからきた翻訳代, 国内調査費の日程変更による調査費等	
15年度	7,890	上記2ヶ年の日程の変更により翻訳事務が遅延した事による, 報告書作成に係る印刷・校正費	
16年度	2,228	退職手当に係る経費相当分	
17年度	0		
18年度	0		
19年度	0		
20年度	5,058	退職手当に係る経費相当分	
21年度	5,058	退職手当に係る経費相当分	
22年度	5,058	退職手当に係る経費相当分	
23年度	34,868	平成24年度施設改修工事に当てるため	

国立女性教育会館契約監視委員会規則

理 事 長 裁 定

平成 21 年 11 月 30 日

1 規則の目的

本規則は、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき、契約監視委員会（以下「委員会」という。）の設置等に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 委員会の所掌事務

国立女性教育会館において発注した物品、役務、建設工事及び設計・コンサルティング業務等に係る契約について、報告を受け、審査を行い、契約の適正化に関し、理事長に対して意見の具申を行う。

3 委員会の構成

- (1) 委員会は、監事 1 名以上及び外部有識者 2 名以上をもって組織する。
- (2) 委員は、監事及び物品・役務等に係る契約の過程及び内容等について学歴経験の有る者のうちから、文部科学大臣の了解を得た上で、理事長が委嘱する。委員の氏名及び職業は、公表するものとする。
- (3) 委員の任期は、1 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。委員は再任されることができる。
- (4) 委員会に、委員長及び委員長代理を置き、委員の互選により選任する。委員長は、委員会の議事を整理する。

4 会議の開催等

- (1) 委員会は、原則として、年 2 回会議を開催する。
- (2) 会議は、非公開とする。
- (3) 委員会の議事の概要及び意見具申の内容は、公表するものとする。

5 委員会の庶務

委員会の庶務は、総務課会計係において処理する。

6 その他

- (1) 委員は、自己又は 3 親等以内の親族の利害に関係のある事項については、その議事に加わることができない。
- (2) 委員は、委員会において知り得た秘密を他に漏らしてはならない。委員でなくなった後においても、同様とする。
- (3) 委員会に対して行う物品・役務等に係る契約の報告の様式は、別に定めるところによる。

独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて

〔平成 21 年 11 月 17 日〕
閣 議 決 定

独立行政法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 1 項に規定する独立行政法人をいう。以下同じ。）の契約については、原則として一般競争入札等（競争入札及び企画競争・公募をいい、競争性のない随意契約は含まない。以下同じ。）とすることとしているが、競争性のない随意契約に対する厳しい批判に加え、一般競争入札等に移行しても一者応札・応募となっており、実質的な競争性が確保されていないのではないかといった指摘も引き続き存在する。このため、競争性のない随意契約の見直しを更に徹底して行うとともに、一般競争入札等についても真に競争性が確保されているか、以下の取組を行うことにより、点検、見直しを行うこととする。

1. 点検・見直しを行うに当たっての主な観点

独立行政法人の契約について厳格に見直しが行われるよう、各独立行政法人及び各府省は、以下の観点等により点検し、見直しを行う。

- (1) 競争性のない随意契約を継続しているものについて、随意契約事由が妥当であるか、契約価格が他の取引実例等に照らして妥当となっているか。
- (2) 競争性のない随意契約から一般競争入札等への移行を予定しているものの前倒しが検討できないか。
- (3) 契約が一般競争入札等による場合であっても、真に競争性が確保されているといえるか（一者応札・応募となっている案件については、一者応札・応募の改善方策が適当か、国や他の法人の取組も参考に更に検証する。特に、仕様書の内容など具体的な条件の設定については、真に競争性を確保する観点から具体的かつゼロベースで検証を行う。）。

（注） 一者応札・応募の改善に向け、例えば、以下のような観点から十分な改善が行われているかを検証する。

- 仕様書内容の見直し
- 入札参加要件の緩和
- 公告期間の十分な確保
- 業務等準備期間の確保
- 契約情報提供の充実
- 電子入札システムの導入
- 一者応札・一者応募案件の事後点検体制の整備

2. 点検・監視体制と作業の手順

(1) 各独立行政法人における監視体制の整備と点検及び見直し

主務大臣は、各独立行政法人に対し、監事及び外部有識者によって構成する「契約監視委員会」を設置し、上記1.の観点に沿って契約の点検及び見直しを行い、その結果を主務省に提出するよう要請する。その際、「契約監視委員会」を構成する外部有識者を各独立行政法人が指名するにあたっては主務大臣の了解を得ることとし、また、「契約監視委員会」の審議概要を公表するよう要請する。

(2) 主務大臣による点検

主務大臣は、各独立行政法人の「契約監視委員会」で行われた点検及び見直しの結果について点検を行う。また、主務大臣はその点検結果を反映した見直しを行うよう各独立行政法人に要請する。

(3) 主務大臣から総務大臣への報告

主務大臣は、主務大臣による点検結果を反映した各独立行政法人における点検及び見直しの結果を総務大臣に報告する。各府省及び各法人は、総務大臣に報告した結果をウェブサイト公表することとし、総務省はそれらを取りまとめ、公表する。

3. 点検対象とスケジュール

(1) 計画的に独立行政法人の随意契約の見直しを行っていくため、主務大臣及び各法人は、20年度に締結した競争性のない随意契約及び一者応札・応募となった契約について、上記1.の観点に沿って点検、見直しを行い、各法人は新たな随意契約等見直し計画を策定する。また、20年度末時点で継続している19年度以前に締結された複数年契約についても同様の点検、見直しを行う。各府省及び各法人はこれらの結果を22年4月末日途に公表する。

(2) 3.(1)の作業と同時に、今回の点検、見直しの趣旨を速やかに反映するため、主務大臣及び各法人は、21年度末までに契約締結が予定されている調達案件についても、真に競争性を確保できるよう、新規案件を含めて1.の観点に沿って事前に点検し、各法人は点検結果を受けて見直しを行う。各府省及び各法人はその結果を22年4月末日途に公表する。

4. フォローアップ

主務大臣及び各法人（契約監視委員会）は、上記点検、見直し後においても、各法人において締結された契約についての改善状況をフォローアップし、毎年公表する。総務省は、その結果を取りまとめ、公表する。

独立行政法人国立女性教育会館監事監査実施基準

(趣旨)

第1 この基準は、独立行政法人国立女性教育会館監事監査規程第12条の規定に基づき、監査の実施に関し必要な事項を定める。

(監査計画)

第2 監査計画に記載する事項は、次の通りとする。

- (1) 監査の基本方針
- (2) 監査の重点項目
- (3) 監査の対象部門等
- (4) 監査の実施期間
- (5) 監査の方法

(監査事項)

第3 監査事項は、次のとおりとする。

- (1) 業務の監査
 - ① 関係法令及び規則等の実施状況並びに内規等の整備状況
 - ② 組織運営状況
 - ③ 人事管理状況
 - ④ 事業についての企画及び実施状況
- (2) 会計の監査
 - ① 決算（月次及び年次）の状況
 - ② 予算の執行及び資金運用の状況
 - ③ 収入及び支出の状況
 - ④ 固定資産の管理状況
 - ⑤ 契約の状況

(監査の手順等)

第4 監査手順はおおむね次のとおりとし、悉皆監査を原則とするが、事項の性質により合理的な方法によって抽出して実施することができる。

- (1) 監査対象部門の長からの概況聴取
- (2) 監査対象部門の担当者からの個別聴取
- (3) 帳簿その他証拠書類の原本確認
- (4) 書類と現物との照合確認
- (5) 現地の調査
- (6) 監査終了後の講評

2 監事は、必要があると認めるときは、随時、資料の作成を求めることができる。ただし、可能な限り既存資料の活用を図るように努めるものとする。

(監査記録)

第5 監査の事務補助に従事した職員は、監査終了後、監査結果の概要を記した監査記録を作成し、監事に提出するものとする。

(監査結果報告書)

第6 業務の監査及び会計の監査（年次監査）の監査結果報告書に記載する事項は、次のとおりとする。

- (1) 監査結果の概要
- (2) 是正又は改善を要する事項
- (3) その他必要と認められた事項

附 則

この基準は、平成14年3月1日から施行する。

独立行政法人国立女性教育会館監事監査規程

(趣旨)

第1条 独立行政法人通則法（平成11年法律第103号。以下「通則法」という。）第19条第4項及び第5項の規定に基づき監事が行う監査及び意見の提出は、この規程の定めるところによる。

(監査の対象)

第2条 監査は、独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務及び会計について行う。

(監査の目的)

第3条 監査は、会館の業務の合理的かつ効率的な運営を図るとともに会計経理の適正を期することを目的とする。

(監査の種類)

第4条 監査は、定期監査及び臨時監査とする。

- 2 前項の定期監査のうち、業務の監査は毎年度1回以上行い、会計の監査は四半期毎及び年度決算時に行う。
- 3 第1項の臨時監査は、監事が必要と認めた場合に行う。

(監査の方法)

第5条 監査は、書面監査及び実地監査により行う。

(監査計画)

第6条 監事は、毎年度監査計画を作成し、あらかじめ理事長に提出するものとする。ただし、必要に応じて行う臨時監査についてはこの限りでない。

(監査の事務補助)

第7条 監事は、総務課の職員に監査に関する事務を補助させることができる。

- 2 監事は、必要と認めるときは、理事長の承認を得て前項の職員以外に臨時に監査に関する事務を補助させることができる。

(役職員への質問等)

第8条 監事は役員及び職員に対し必要に応じて質問をし、又は説明若しくは資料の提出を求めることができる。

- 2 役員及び職員は、監事（監査の事務補助に従事する職員を含む。）が行う監査に協力しなければならない。

(監査結果報告書の作成等)

第9条 監事は、監査終了後、監査の結果に基づいて監査結果報告書を作成し、遅滞なく理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、監査の結果の報告に基づき改善すべき事項がある場合には、速やかに改善措置を講じ、その結果を監事に回答しなければならない。

(監事に意見を聴取する等の文書)

第10条 次の各号に掲げる文書は、あらかじめ監事の意見を聴かなければならない。

- 一 主務大臣に提出する認可又は承認の申請書その他の重要な文書
- 二 前号以外の官公庁に提出する重要な文書
- 三 契約に関する重要な文書
- 四 訴訟に関する重要な文書
- 五 その他業務に関する重要な文書

2 次の各号に掲げる文書は、監事に報告しなければならない。

- 一 主務大臣から発せられた認可又は承認の文書その他重要な文書
- 二 前号以外の官公庁から発せられた重要な文書
- 三 その他業務に関する重要な文書

(事故又は異例の事態の監事への報告)

第11条 業務上の事故又は異例の事態が発生したときは、職員は速やかにその旨を口頭又は文書で監事に報告しなければならない。

(監査実施基準)

第12条 監査の手続その他この規程の実施に関し必要な事項は、監事が理事長と協議のうえ別に定める。

附 則

この規程は、平成14年3月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

平成23年度監事監査計画

第1 監査の基本方針

独立行政法人国立女性教育会館監事監査規程（以下「監査規程」という。）第6条の規定に基づき定期監査（業務の監査及び会計の監査）を実施する。

なお、定期監査の実施に当たっては、監査規程及び独立行政法人国立女性教育会館監事監査実施基準の定めるところにより実施する。

また、監査に当たっては、ガバナンスの保持及び内部統制の充実など法人運営体制の充実について留意するものとする。

第2 定期監査の項目

（1）業務の監査

- ① 関係諸法令及び規則等の実施状況並びに内規等の整備状況
- ② 組織運営状況（内部統制の状況）
- ③ 人事管理状況（給与水準の状況）
- ④ 事業についての企画、実施及び自己評価の実施状況
- ⑤ 情報開示状況

（2）会計の監査

- ① 決算（年次及び月次）の状況
- ② 予算の執行及び資金運用の状況
- ③ 収入、支出の状況
- ④ 固定資産の管理状況
- ⑤ 入札・契約の状況（随意契約の適正化等）

第3 定期監査の対象部門等

- （1）業務の監査……総務課、事業課、情報課及び研究国際室
- （2）会計の監査……総務課

第4 定期監査の方法及び時期

- （1）業務の監査……年度終了後、書面監査、実地監査及びその他適当な方法により、決算監査に併せて行う。
- （2）会計の監査
 - ◆四半期監査……第1四半期分を9月、第2四半期分を12月、第3四半期分を3月に書面監査により実施し、第4四半期分については、決算監査と併せて年度終了後に実施する。
 - ◆決算監査……年度決算終了後速やかに、書面監査、実地監査及びその他適当な方法により実施する。

第5 総務課総務係の職員に監査に関する事務を補助させるものとする。